流山運動公園周辺地区
埋蔵文化財調査報告書９

― 流山市市野谷宮後遺跡（南側）―

令和６年３月

千葉県教育委員会

流山運動公園周辺地区
埋蔵文化財調査報告書 9

ながれやまし いちの や みやうしろいせき みなみがわ
— 流山市市野谷宮後遺跡（南側） —

序　文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第50集として、千葉県県土整備部による流山運動公園周辺地区土地区画整理事業に伴って実施した、流山市市野谷宮後遺跡（南側）の発掘調査報告書です。

これまでに行われた調査では、中・近世の土坑墓群や地下式坑など、地域の歴史を知る上で貴重な成果を数多く得ることができました。

刊行にあたり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和６年３月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長　　稲村　弥

凡　例

1　本書は、千葉県県土整備部による流山運動公園周辺地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書は、下記の遺跡を収録したものである。

市野谷宮後遺跡（南側）　　流山市市野谷字宮後206-13ほか　（遺跡コード220-025）

なお、本報告書では市野谷宮後遺跡の中央部を東西に走る道路で仕切られた南側地区を報告しており、調査地点では第２次調査地点（以下調査地点を（２）と略記）・（３）・（４）・（６）の一部・（７）の一部・(11)・(12)・(13)・(14)・(15)・(16) の各地点の調査成果を収録している。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、平成24年度までは公益財団法人千葉県教育振興財団が実施し、平成25年度からは千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。

4　調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第１章に掲載した。

5　本書の執筆は第２章・第５章第１節を主任上席文化財主事 田島　新が、第４章第２節２（３）・第５章第３節１を文化財主事 村松裕南が行い、それ以外は主任上席文化財主事 加納　実が行い、編集は加納が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで以下の機関及び方々からご指導、ご協力を得た。

千葉県県土整備部市街地整備課・千葉県県土整備部流山区画整理事務所・流山市教育委員会・公益財団法人千葉県教育振興財団、神野　信・千葉南菜子・津田芳男・渡辺　新

なお、人骨の分析に際し名古屋大学博物館の新美倫子先生にご教示いただきました。

7　本書で使用した地図の座標値は、日本測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。

8　本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第１・２図　流山市発行　１/2,500　流山市都市計画地図

第５図　参謀本部陸軍部測量局作成　1/20,000　迅速測図「流山村」

第６図　国土地理院発行　１:25,000「流山」(NI-54-25-1-2)・「松戸」(NI-54-25-2-1) 平成17年発行

9　図版１に掲載した遺跡周辺の航空写真は下記を使用した。

国土地理院発行1949年撮影（番号　UR522-CA-20、UR534№2-CB-119）

10　主な遺構・遺物の縮尺については、以下のような縮尺を原則とした。

遺構　土坑・井戸状遺構・地下式坑1/80　溝状遺構・柵列1/100

遺物　縄文土器1/3　土師器等1/4　礫石器1/4　剥片石器4/5　石製品1/3　土製品1/2

11　発掘調査段階で用いた標準的な遺構種別の記号は以下のとおりである。

SA：柵列　SD：溝状遺構　SK：土坑　SX：井戸状遺構・地下式坑

発掘調査段階の遺構名、報告書記載の遺構名、報告書で示した遺構種別の対照は第３表に示した。

なお、遺物への注記は発掘調査段階の遺構名を用いている。

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　１　調査の経緯と経過　……1
　　２　調査の方法と調査概要 ……4
　第２節　遺跡の位置と環境……4
　　１　遺跡の位置と地理的環境 ……4
　　２　周辺の遺跡と歴史的環境 ……8
第２章　旧石器時代の遺構と遺物……25
　第１節　概要……25
　第２節　基本土層……26
　第３節　遺構と遺物 ……26
　　１　第１文化層 ……26
　　２　第２文化層 ……29
　　３　その他の出土遺物 ……34
第３章　縄文時代の遺構と遺物……39
　第１節　概要……39
　第２節　遺構と遺物……39
　第３節　遺構外出土遺物……39
　　１　縄文土器 ……39
　　２　石器類 ……39
第４章　中・近世の遺構と遺物……43
　第１節　概要……43
　第２節　遺構と遺物……43
　　１　土坑・井戸状遺構・地下式坑 ……43
　　２　土坑墓 ……75
　　（１）資料提示方法 ……75
　　（２）遺構と人工遺物 ……77
　　（３）人骨 ……124
　　３　溝状遺構・柵列 ……153
　　（１）溝状遺構 ……153
　　（２）柵列 ……162
　　４　鉄器生産関連 ……163
　　（１）遺構 ……163
　　（２）遺物 ……166

5　遺構外出土遺物 …… 170
（1）陶磁器・土器等 ……170
（2）土製品等 ……177
（3）石器・石製品等 ……177
（4）金属製品等 ……177
（5）銭貨 ……177
第5章　総括……208
第1節　旧石器時代……208
第2節　縄文時代……208
第3節　中・近世……209
1　人骨 …… 209
2　鉄器生産 ……209
3　その他 ……213

挿図目次

第1図　流山運動公園周辺地区土地区画整理事業地内遺跡……2
第2図　市野谷宮後遺跡全体図と地形……5
第3図　上層確認調査トレンチ配置及び本調査範囲……6
第4図　下層確認調査グリッド配置及び本調査範囲……7
第5図　遺跡の立地と周辺の地形……9
第6図　遺跡の位置と周辺の遺跡……11
第7図　遺構全体図……22
第8図　遺跡分割図（1）M13・N13・N14・O14・P14・N15・O15 ……23
第9図　遺跡分割図（2）S13・R14・Q15・R15 ……24
第10図　下層全測図……25
第11図　下層基本土層図……26
第12図　第1ブロック器種別分布……27
第13図　第1ブロック石材別分布……27
第14図　第1ブロック出土遺物（1）……27
第15図　第1ブロック出土遺物（2）……28
第16図　第1ブロック出土遺物（3）……29
第17図　第2ブロック器種別分布……30
第18図　第2ブロック石材別分布……30
第19図　第2ブロック出土遺物……30
第20図　第3ブロック器種別分布……31
第21図　第3ブロック石材別分布……31
第22図　第3ブロック出土遺物……31
第23図　第4ブロック器種別分布……33
第24図　第4ブロック石材別分布……33
第25図　第4ブロック出土遺物（1）……33
第26図　第4ブロック出土遺物（2）……34
第27図　その他の出土遺物……34
第28図　(15) SK001 ……40
第29図　遺構外出土土器……40
第30図　遺構外出土石器（1）……41
第31図　遺構外出土石器（2）……42
第32図　（7）SK002・SK003・SK004・SK005・SK006 ……45
第33図　（7）SK007・SK009・SK010（1）……46
第34図　（7）SK010（2）……48
第35図　（7）SK010（3）……49
第36図　（7）SK011・SX001・SX002・SX003（1）‥50
第37図　（7）SX003（2）・SX004 ……52

第38図 (7)SX005・SX006・SX010・SX011……53
第39図 (11)SK2001・SK2002・SK2003 ……55
第40図 (11)SK2004・SK2005・SK2006 ……57
第41図 (11)SK2007・SK2008・SK2009・SK2010 ……59
第42図 (11)SK2011・SK2014 ……60
第43図 (11)SX2002……61
第44図 (11)SX2003(1)……62
第45図 (11)SX2003(2)……63
第46図 (11)SX2003(3)……64
第47図 (11)SX2003(4)……65
第48図 (12)SK001……66
第49図 (15)SK002・SK003・SK004 ……67
第50図 (15)SK005・SK006・SK007 ……69
第51図 (15)SK008……71
第52図 (15)SK009・SK010・SK011・SK012・SK013……72
第53図 (15)SK014・SK015・SK016 ……74
第54図 (16)SK001・SK002・SK014 ……75
第55図 (16)SK003・SK032 ……79
第56図 (16)SK004……80
第57図 (16)SK005A・SK005B・SK053(1)……81
第58図 (16)SK005A・SK005B・SK053(2)、(16)SK006……82
第59図 (16)SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051(1)……84
第60図 (16)SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051(2)……85
第61図 (16)SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051(3)……86
第62図 (16)SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051(4)……87
第63図 (16)SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051(5)……88
第64図 (16)SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051(6)……89
第65図 (16)SK010・SK011・SK020(1)……91
第66図 (16)SK010・SK011・SK020(2)……92
第67図 (16)SK027……93
第68図 (16)SK039……94
第69図 (16)SK047A・047B……95
第70図 (16)SK048・SK049・SK052(1)……96
第71図 (16)SK048・SK049・SK052(2)……97
第72図 (16)SK054・SK056 ……98
第73図 (16)SK055……99
第74図 (16)SK058……100
第75図 (16)SK062……100
第76図 (16)SK065……101
第77図 (16)土坑墓群(1)・(2)・(3)分割指示図……109
第78図 (16)土坑墓群(1)平面図 ……110
第79図 (16)土坑墓群(2)平面図 ……111
第80図 (16)土坑墓群(3)平面図 ……112
第81図 (16)土坑墓群(1)・(2)・(3)断面図(1)……113
第82図 (16)土坑墓群(1)・(2)・(3)断面図(2)……114
第83図 (16)土坑墓群(1)・(2)・(3)断面図(3)……115
第84図 (16)土坑墓群(1)・(2)・(3)断面図(4)・(16)SK015・SK018・SK021・SK023A・SK029・SK035・SK059A出土遺物……116
第85図 (16)SK008・SK015・SK017・SK018(1)……117
第86図 (16)SK018(2)・SK021・SK022・SK023A(1)……118
第87図 (16)SK023A(2)・SK023C・SK028A・SK028B・SK028C・SK029(1)……119

第88図　(16) SK029（2）・SK030・SK033・SK034 ……120
第89図　(16) SK035・SK036・SK037・SK042 ……121
第90図　(16) SK059A・SK061・SK063・SK064（1）……122
第91図　(16) SK064（2）……123
第92図　(16) SK028B個体別出土人骨 ……131
第93図　(16) SK055個体別出土人骨 ……139
第94図　(16) SK064個体別出土人骨 ……141
第95図　土坑墓頭位方向分布 ……152
第96図　歯冠計測値遺跡間比較（現代日本人男性を基準として）……152
第97図　歯冠計測値遺跡間比較（ペンローズ）…152
第98図　（7）SD003・SD006・SD007・SD008・SD009、(11) SD2002・SD2005（1）……154
第99図　（7）SD003・SD006・SD007・SD008・SD009、(11) SD2002・SD2005（2）……155
第100図　（7）SD010、(11) SD2003・SD2004 ……156
第101図　(11) SD2001 ……157
第102図　(12) SD001、(14) SD001・SD002 ……158
第103図　(15) SD001（1）……159
第104図　(15) SD001（2）……160
第105図　(15) SD001（3）……161
第106図　(15) SD002 ……161
第107図　(16) SD001 ……162
第108図　(15) SA001・SA002 ……162
第109図　(11) SK2012・SK2013 ……165
第110図　鉄器生産関連遺物（1）……167
第111図　鉄器生産関連遺物（2）……168
第112図　鉄器生産関連遺物点数分布 ……169
第113図　鉄器生産関連遺物点数内訳 ……169
第114図　遺構外出土陶磁器・土器等N13・O13・P13・L14・M14・N14 ……171
第115図　遺構外出土陶磁器・土器等O14・L15・N15（1）……172
第116図　遺構外出土陶磁器・土器等N15（2）……173
第117図　遺構外出土陶磁器・土器等N15（3）……174
第118図　遺構外出土陶磁器・土器等N15（4）……175
第119図　遺構外出土陶磁器・土器等N15（5）・O15 ……176
第120図　遺構外出土土製品O14・R14・N15・O15遺構外出土石器・石製品等O13・M14・N14 ……178
第121図　遺構外出土石器・石製品等O14・L15・N15（1）……179
第122図　遺構外出土石器・石製品等N15（2）・O15（1）……180
第123図　遺構外出土石器・石製品等O15（2）遺構外出土金属製品N14・O14・R15遺構外出土銭貨L14・N14・O14・R14・N15・Q15（1）……181
第124図　遺構外出土銭貨Q15（2）・R15 ……182
第125図　炉構造想定復元（(11) SK2014出土資料による）……210
第126図　炉構造想定復元（N14-19出土資料による）……212

表目次

第１表　市野谷宮後遺跡調査一覧……3
第２表　周辺遺跡一覧……12
第３表　市野谷宮後遺跡（南側）上層遺構一覧表……19
第４表　第１ブロック石器組成表……28
第５表　第２ブロック石器組成表……29
第６表　第３ブロック石器組成表……32
第７表　第４ブロック石器組成表……32
第８表　旧石器時代出土石器属性表……35
第９表　縄文時代石器観察表……42
第10表　中・近世人骨一覧表……144
第11表　頭蓋計測値一覧表……146
第12表　四肢骨計測値一覧表……146
第13表　歯冠計測値一覧表……147
第14表　歯式一覧表……149
第15表　各集団の歯冠計測値基礎統計表……152
第16表　中・近世陶磁器・土器等観察表……183
第17表　中・近世土製品等観察表……195
第18表　中・近世石器・石製品等観察表……195
第19表　中・近世金属製品等観察表……197
第20表　中・近世木製品等観察表……197
第21表　中・近世銭貨観察表……198
第22表　中・近世鉄器生産関連遺物観察表……203

図版目次

図版１　遺跡周辺航空写真（1949年撮影）
図版２　M13-36土層・S14-01土層・第１ブロック遺物出土状況・第２ブロック遺物出土状況・第３ブロック遺物出土状況・第４ブロック遺物出土状況
図版３　第１文化層　第１ブロック出土石器
図版４　第２文化層　第２ブロック出土石器・第２文化層　第３ブロック出土石器・第２文化層　第４ブロック出土石器・単独ブロック出土石器
図版５　(15) SK001・(7) SK002・SK003・SK004・SK005・SK006・SK007・SK009・SK010
図版６　(7) SK010・SX001・SX002・SX003・SX004・SX005・SX006・SX011
図版７　(11) SK2001・SK2002・SK2003・SK2005・SK2007・SK2008・SK2009
図版８　(11) SK2014・SX2002・SX2003・(12) SK001・(15) SK003・SK004・SK005
図版９　(15) SK006・SK007・SK008・SK009
図版10　(15) SK010・SK011・SK012・SK013・SK014
図版11　(15) SK015・SK016・(16) SK001・SK002・SK003・SK014・SK032
図版12　(16) SK003・SK004・SK005A・SK005B
図版13　(16) SK005A・SK006・SK007A・SK007B・SK024
図版14　(16) SK007B・SK008・SK009・SK019・SK034
図版15　(16) SK009・SK010・SK011・SK012・SK013・SK015・SK038・SK042
図版16　(16) SK015・SK017・SK018・SK020
図版17　(16) SK021・SK022・SK023A・SK023C・SK024・SK030・SK033・SK042
図版18　(16) SK025A・SK025B・SK026・SK027・SK028A・SK028B・SK028C・SK028D・SK029・SK031・SK035・SK036・SK040・SK050・SK051
図版19　(16) SK029・SK031・SK032
図版20　(16) SK033・SK037・SK038・SK039・SK040・SK042

図版21　(16) SK042・SK043・SK044・SK045・SK047A・SK047B・SK048・SK049
図版22　(16) SK048・SK049・SK050・SK053
図版23　(16) SK053・SK054・SK055
図版24　(16) SK055・SK056・SK058・SK059A・SK059B・SK061
図版25　(16) SK061・SK062・SK063・SK064・土坑墓群
図版26　(7) SD008・SD009・SD010
(11) SD2003・SD2004・(12) SD001・(14) SD001・(15) SD001・SA001
図版27　縄文時代土偶、中・近世陶磁器・土器等(1)
図版28　中・近世陶磁器・土器等(2)
図版29　中・近世陶磁器・土器等(3)
図版30　中・近世陶磁器・土器等(4)
図版31　中・近世陶磁器・土器等(5)
図版32　中・近世陶磁器・土器等(6)
図版33　中・近世陶磁器・土器等(7)
図版34　中・近世陶磁器・土器等(8)
図版35　中・近世陶磁器・土器等(9)
図版36　中・近世板碑類(1)
図版37　中・近世板碑類(2)
図版38　中・近世石臼・石塔類(1)
図版39　中・近世石臼・石塔類(2)、硯類
図版40　中・近世金属製品等、中・近世木製品等
図版41　中・近世銭貨(1)
図版42　中・近世銭貨(2)
図版43　中・近世銭貨(3)
図版44　中・近世銭貨(4)
図版45　中・近世銭貨(5)
図版46　中・近世銭貨(6)
図版47　中・近世銭貨(7)
図版48　中・近世銭貨(8)、銭貨と紐(1)
図版49　中・近世銭貨と紐(2)
図版50　中・近世人骨(1)(16) SK005A・SK022
図版51　中・近世人骨(2)(16) SK028B-1・SK031-1
図版52　中・近世人骨(3)(16) SK031-1・SK040-1
図版53　中・近世人骨(4)(16) SK042・SK050-1
図版54　中・近世人骨(5)(16) SK055-1
図版55　中・近世人骨(6)(16) SK055-2、中・近世鉄器生産関連遺物(1)
図版56　中・近世鉄器生産関連遺物(2)
図版57　中・近世鉄器生産関連遺物(3)、中・近世鉄器生産関連遺物接写

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

千葉県企業庁は、常磐新線（現・つくばエクスプレス）の建設に関連して流山運動公園周辺地区土地区画整理事業（以下、運動公園地区と略す）を計画し、事業実施に先立って「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書を千葉県教育委員会教育長あてに提出した。千葉県教育委員会は、事業予定地内に27か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が所在することを確認して、その旨回答した（第１図）。

その後、両者は事業予定地内の埋蔵文化財の取扱いについて慎重な協議を重ね、現状保存及び計画変更が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講じることとした。記録保存のための発掘調査は、財団法人千葉県文化財センター（現・公益財団法人千葉県教育振興財団）が実施することとなり、千葉県企業庁との間に委託契約が締結され、平成９年度から発掘調査が開始された（平成18年度から千葉県県土整備部が区画整理事業を引き継ぐ）。

市野谷宮後遺跡は流山市市野谷字宮後ほかに所在し、面積は約84,600㎡を測る（第２図）。このうち約90％にあたる76,986㎡について、平成９年度から令和２年度まで16次にわたって発掘調査を行ってきた。

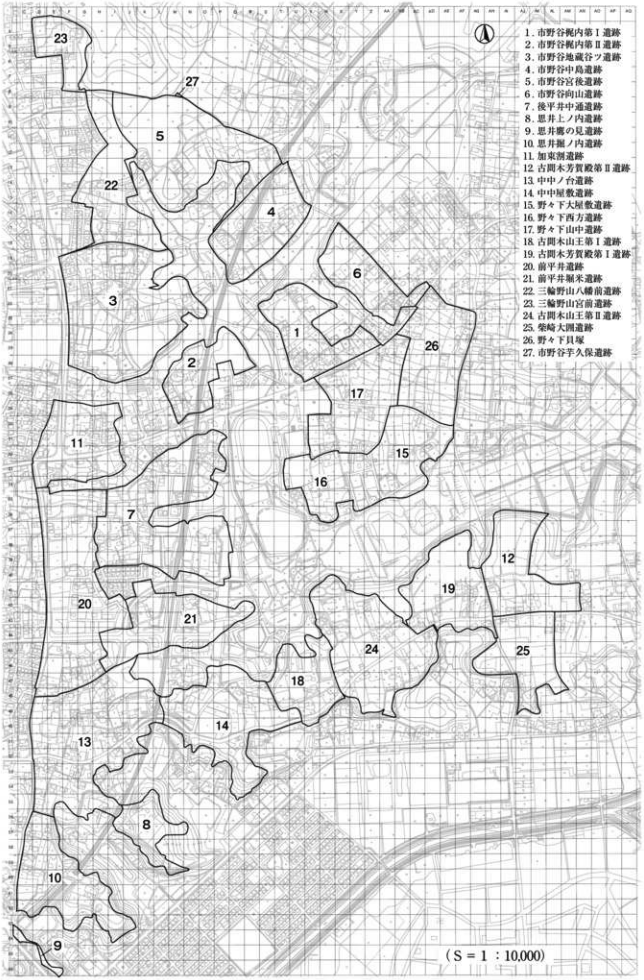
縄文時代以降の上層確認調査については、各調査区の対象面積に対し10％程度の確認トレンチを設定し、遺構の時期と広がりを確認した。その結果、７箇所の地点の計8,412㎡が本調査となった（第３図）。それ以外の調査区についてはトレンチの拡張等により確認調査の段階で遺構調査等を終了している。

旧石器時代の下層確認調査については、各調査区の対象面積に対し４％程度の確認グリッドを設定し、石器出土地点の層位と広がりを確認した。その結果、５か所の地点の計1,439㎡を本調査とした（第４図）。

今回報告書を作成するにあたり、市野谷宮後遺跡は北側と南側で様相が大きく異なり、南側は中・近世の遺構が多数検出され、整理にある程度の時間を要することが想定されたため、遺構の少ない北側を先行して令和４年度に報告し、本報告書では，市野谷宮後遺跡の南側について報告する。第２・３・４図の中央を東西に走る道路から概ね南側が今回の報告対象範囲である。報告する南側の各調査地点は、第２次調査地点（以下調査地点を（２）と略記）・（３）・（４）・（６）の一部・（７）の一部・(11)・(12)・(13)・(14)・(15)・(16)にあたっている。遺跡の発掘調査及び整理作業に関わった各年度の担当職員、作業内容等は第１表のとおりである。

事業地内における遺跡の調査成果としては、これまでに思井堀ノ内遺跡について、中世編[1]及び旧石器～奈良・平安時代編[2]の２冊の報告書が財団法人千葉県教育振興財団（現・公益財団法人千葉県教育振興財団）により刊行され、思井上ノ内遺跡[3]、中中屋敷遺跡[4]、前平井堀米遺跡[5]、後平井中通遺跡[6]、市野谷宮後遺跡北側と市野谷芋久保遺跡の旧石器時代編・縄文時代以降編[7]の報告書が千葉県教育委員会から刊行されている。本書はシリーズ９冊目となる。

整理作業は、平成21年度に公益財団法人千葉県教育振興財団が行い、さらに平成25年度から令和５年度まで千葉県教育庁教育振興部文化財課が引き継いで実施し、令和５年度に報告書刊行に至った。



第１図　流山運動公園周辺地区土地区画整理事業地内遺跡

第1表　市野谷宮後遺跡調査一覧

【市野谷宮後遺跡発掘調査】

調査次数	年度	事業名	調査期間	調査体制			担当者	対象面積(㎡)	確認調査(㎡) 上層 確認	上層	下層 確認	下層	対象	本調査(㎡) 上層	下層
(1)	平成10	千葉県企業庁埋蔵文化財調査地区土地区画整理事業	H10.12.1 ～H10.1.14	(財)千葉県文化財センター	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	酒井太郎 折原　繁	主任技師 都谷章雄・石井康彦	10,808	1,816	/	10,808	272	/	10,808	0	0
(2)	平成10	千葉県企業庁埋蔵文化財調査地区土地区画整理事業	H10.9.7 ～H10.10.2	(財)千葉県文化財センター	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	荒井　潤 鈴木栄明	要員　嘉　洋一	3,239	324	/	3,239	130	/	3,239	0	－
(3)	平成13	千葉県企業庁埋蔵文化財調査地区土地区画整理事業(その2)	H14.2.13 ～H14.3.13	(財)千葉県文化財センター	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	佐久間　豊 折原　繁	要員　鄭敏英司	5	－	/	5	0	/	5	5	0
(4)	平成14	千葉県企業庁埋蔵文化財調査地区土地区画整理事業(その3)	H14.12.16 ～H14.12.20	(財)千葉県文化財センター	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	麻木　勝 折原　浩	要員　鄭敏英司	273	36	/	273	12	/	273	0	0
(5)	平成14	千葉県企業庁埋蔵文化財調査地区土地区画整理事業	H19.1.22 ～H19.2.22	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	矢戸三男 田坂　浩	主席研究員兼調査員 高橋博文	15,827	1,706	/	15,827	237	/	15,827	0	0
(6)	平成19	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H19.8.1 ～H19.10.26	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	矢戸三男 及川唯一	主席研究員兼調査員 池田太郎	11,800	1,200	/	11,800	400	/	11,800	0	496
(7)	平成20	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託(その6)	H21.3.13 ～H21.3.27	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	大野正義 及川唯一	上席研究員 柴田徹司	19,079	1,910	/	19,079	－	/	－	－	－
(7)-2	平成20	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託(その6)	H21.4.6 ～H21.6.29	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	上席研究員兼調査員 岡田誠造 上席研究員 柴田徹司	－	－	/	－	412	/	19,079	3,043	0
(8)	平成21	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H21.7.1 ～H21.7.6	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	上席研究員兼調査員 岡田誠造	413	60	/	413	16	/	413	0	0
(9)	平成21	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H21.9.1 ～H21.9.29	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	上席研究員兼調査員 岡田誠造	2,454	252	/	2,454	84	/	2,454	0	0
(10)	平成21	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H21.10.1 ～H21.11.6	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	上席研究員兼調査員 岡田誠造	386	386	/	386	8	/	386	386	28
(11)	平成21	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託(その2)	H22.1.4 ～H22.3.25	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	上席研究員兼調査員 岡田誠造	2,697	376	/	2,697	12	/	2,697	1,954	0
(12)	平成22	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託(その3)	H25.2.4 ～H25.2.20	(財)千葉県教育振興財団	調査研究部長 調査2課	調査副長 調査員	関口達彦 椿本勝雄	主任上席文化財主事 鳴田浩司	535	84	/	535	20	/	535	0	100
(13)	平成26	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H26.1.8 ～H26.1.30	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	酒井保子 椙原孝之	上席文化財主事 鳴田浩司	610	64	/	610	20	/	610	0	230
(14)	平成26	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H26.10.1 ～H26.11.14	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	永田伸朗 椙原孝之	主任上席文化財主事 鳴田浩司	1,755	196	/	1,755	96	/	1,755	0	565
(15)	平成29	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H29.2.1 ～H29.3.10	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	永田伸朗 世井知二	文化財主事 川田航平	3,668	380	/	3,668	－	/	－	－	－
(16)	平成30	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H29.4.17 ～H29.5.30	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	椙原孝之 山田貴久	文化財主事 川田航平	－	－	/	－	76	/	3,668	2,660	48
(16)-2	平成31～令和1	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H31.1.29 ～R01.3.12	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	古泉弘志 山田貴久	上席文化財主事 世井知二	2,857	285	/	2,857	60	/	2,857	90	0
(16)-3	平成31～令和1	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H31.4.15 ～R1.5.30	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	大森けいず 大内千年	上席文化財主事 世井知二	－	－	/	－	－	/	－	210	－
合計									76,496	9,003	/	76,496	1,855	/	76,496	8,354	1,467

【市野谷芋久保遺跡発掘調査】

調査次数	年度	事業名	調査期間	調査体制			担当者	対象面積(㎡)	確認調査(㎡) 上層 確認	上層	下層 確認	下層	対象	本調査(㎡) 上層	下層
(14)	平成21	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H21.10.9 ～H21.11.13	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	上席研究員兼調査員 岡田誠造	125	125	/	125	12	/	125	125	0
合計									125	125	/	125	12	/	125	125	0

【整理作業】

遺跡名	年度	事業名	期間	調査体制			担当者	作業内容
市野谷宮後(1)～(16)-2	平成23	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H22.1.29 ～H22.3.31	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 市原調査員	及川唯一 椿本勝雄	－	水洗・注記
	平成28	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H29.4.17 ～H29.5.30	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	椙原孝之 山田貴久	－	水洗・注記
	平成28	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	H30.5.1 ～H30.5.31	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	古泉弘志 山田貴久	－	水洗・注記
	令和元	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R01.4.15 ～R1.5.30	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	大森けいず 大内千年	－	水洗・注記
	令和2	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R2.4.16 ～R2.5.31	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	田中文昭 大内千年	－	水洗・注記
	令和3	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R3.4.16 ～R3.7.15	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	田中文昭 吉野健一	主任上席文化財主事 安井健一 文化財主事 横田真名夏	記録整理～原稿執筆
	令和4	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R4.4.6 ～R5.3.10	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	金井一香 黒沢　浩	主任上席文化財主事 椙原孝之 加納　実 文化財主事 村松裕南	総合～報告書刊行
	令和5	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R5.4.10 ～R6.3.12	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	福村　弦 黒沢　浩	主任上席文化財主事 加納　実 大谷弘幸 文化財主事 倉本成美	実測～報告書刊行
市野谷芋久保遺跡	平成23	千葉県土整備部つくばエクスプレス沿線整備事業委託	H22.1.29 ～H22.3.31	(財)千葉県教育振興財団	市原調査事務所	調査副長 調査員	及川唯一 椿本勝雄	－	水洗・注記
	令和3	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R3.4.16 ～R3.7.15	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	田中文昭 吉野健一	主任上席文化財主事 安井健一 文化財主事 横田真名夏	記録整理～原稿執筆（縄文時代以降編）
	令和4	湖畔公園周辺地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	R4.5.1 ～R4.9.30	千葉県教育庁教育振興課文化財課	史跡調査班	調査副長 調査員	金井一香 黒沢　浩	主任上席文化財主事 椙原孝之 加納　実 文化財主事 村松裕南	編集～報告書刊行

2　調査の方法と調査概要

調査にあたっては、区画整理事業地内の遺跡を網羅するように、日本測地系に基づくグリッド設定を行っている。X＝－14,800m、Y＝＋7,600mを起点とする40m×40mの方眼を大グリッドとし、北から南へ01～67、西から東へA～Z及びAA～ANとし、大グリッドはアルファベットと数字の組み合わせにより「M13」「R15」のように表示する。今回報告する市野谷宮後遺跡（南側）は、大グリッドで示すとN11～S11、M12～T12、L13～T13、K14～S14、K15～O15、Q15、R15、L16、M16、N16、P16、Q16、P17グリッドの範囲にあたる。大グリッドの中は、更に4m×4mの小グリッドに100分割し、小グリッドは北西角から東へ00、01、02…、南へ00、10、20…とし、南東角を99とする。これにより、大グリッドとの組み合わせで、例えば「R15－20」などのように小地区名を表示している（第3・4図）。

第4章第2節2土坑墓群について、発掘調査段階で人骨出土状況の微細図作成の縮尺が1/5・1/10であったため、座標の記録が4m×4mの小グリッド（小地区名）では対応できないため、4m×4mの小グリッド（小地区名）をさらに2m×2mの小々グリッド（小々地区名）に分割し、それぞれの小々グリッドを北西角から時計回りにa.b.c.dと呼称した。これにより例えば「R15-20c」などの小々地区名で表示している。

発掘調査は平成9年度から開始し、令和元年度までの第16次調査地点の合計76,986㎡の調査が終了している。本書では各調査地点を第2次調査地点であれば（2）のように略記することとした。

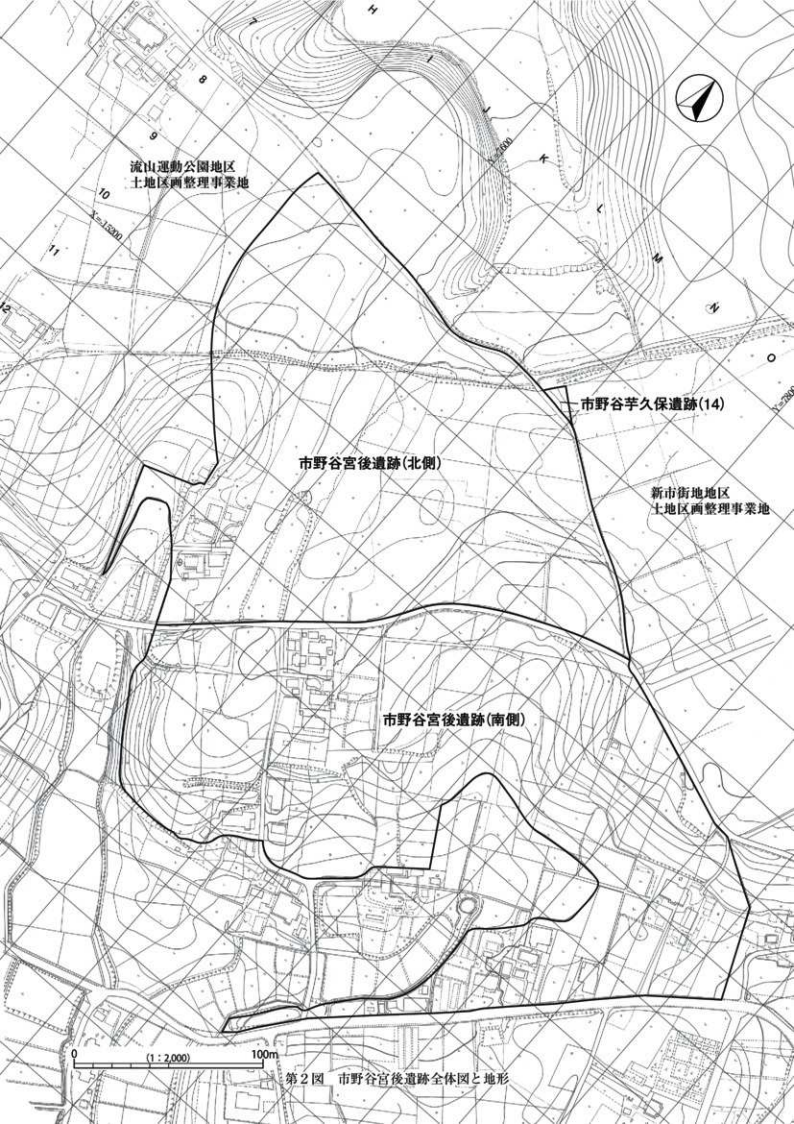
遺構名については、市野谷宮後遺跡（7）・(12)・(15)・(16）では遺構種別記号と3桁の数字とを組み合わせた遺構名を付している。市野谷宮後遺跡（11）では遺構種別記号と4桁の数字とを組み合わせた遺構名を付している。遺物への注記は調査時の遺構名で行い、基本的に調査時の番号を踏襲し、遺構種別記号の前に（　）で調査次の番号を付すことで区別することとした。なお、標準的な遺構種別記号は凡例に示したとおりである。また、調査時と本報告における遺構名対照表は第3表のとおりである。

調査の結果、市野谷宮後遺跡南側では旧石器時代の石器集中地点（ブロック）4か所、検出された縄文時代陥穴1基、中・近世土坑墓68基、土坑（井戸状遺構・地下式坑含む）50基、溝状遺構17条、欄列2条が検出された（第7～9図）

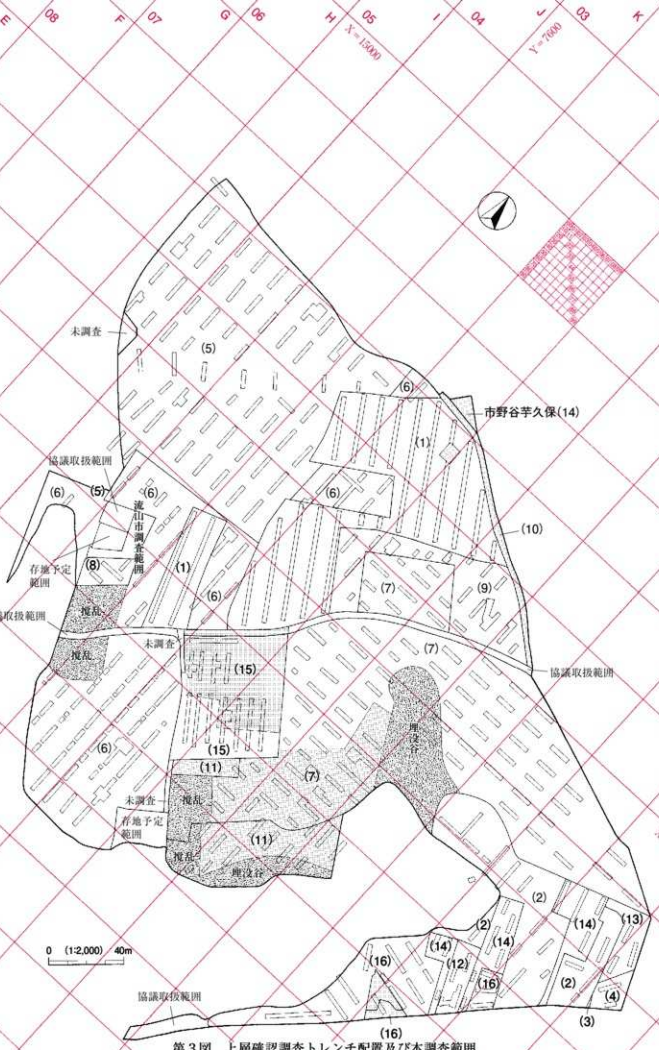
第2節　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地理的環境

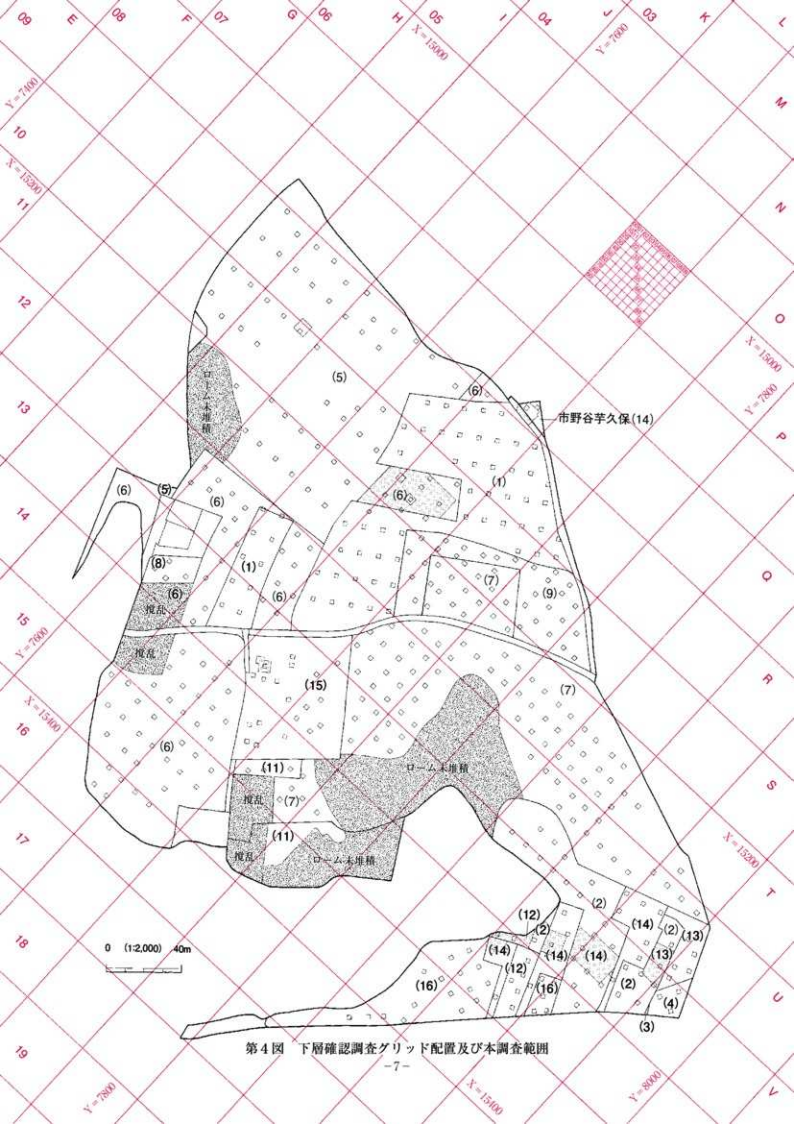
市野谷宮後遺跡（第6図　第6図50）が所在する流山市は、江戸川に沿って南北に長い市域を有しており、北側で野田市、東側で柏市、南側で松戸市と接している。遺跡はこの流山市の南西部、標高約23.5mの下総台地上に立地している。台地の西側直下には東京湾へ注ぐ江戸川が流れており、南側は松戸市との境をなす支流の坂川が流れている。遺跡の立地する台地は、東側の下総台地を開析して江戸川や坂川の流れる古東京湾沿岸に形成された広い低地へと半島状に突出す形状を呈しており、さらに両河川に注ぐ小支谷によって複雑に開析された舌状台地が連なっている。これらの舌状台地上はほぼ全域が理蔵文化財包蔵地であることが確認されており、市野谷宮後遺跡、市野谷芋久保遺跡は坂川の支流最奥部の舌状台地上に立地する。背面はやはり江戸川の支流が北から入り込んで開析谷を形成しており、当遺跡は西側の江戸川低地に面する舌状台地と、分水嶺近くの後背台地とをつなぐ尾根状にあると言ってもよい。遺跡の南側を流れる坂川についてみると、遺跡付近から南東へ約5.3㎞下り、さらに東流し、小支流を集めながら南流する。最後は西流して江戸川へと合流する小河川である。坂川低地はこの地域では最大規模の開析谷であり、東



第２図　市野谷宮後遺跡全体図と地形



第３図　上層確認調査トレンチ配置及び本調査範囲



第４図　下層確認調査グリッド配置及び本調査範囲

側に広がる下総台地へと複雑に深く入り込んでおり、遺跡の北東側約7.5kmにある手賀沼と、そこに注ぐ小河川に接するような地点にまで延びている。遺跡地東側と北側の台地へと入り込む坂川の支谷と、手賀沼の北西部へと注ぐ大堀川支谷との間は分水嶺をなし、その幅はわずかに300m ～ 500mである。手賀沼は利根川（古鬼怒川）、霞ヶ浦（香取海）を経て太平洋へと通じる水系にあり、その意味ではこの坂川は太平洋水系の手賀沼と東京湾を結ぶ水路のような位置にあると言える。

2　周辺の遺跡と歴史的環境

流山市は高度経済成長期から首都圏のベッドタウンとして開発が進められ、数多くの遺跡が調査されている。それらの調査歴を全て網羅すると膨大なものとなることから、ここでは運動公園の事業地とその周辺を中心に、代表的な調査成果を示してこの地域の歴史的環境を俯瞰したい（第６図　第２表）。ただし運動公園地区の発掘調査は未だ継続中であり未報告資料も多いため、公表されている成果に基づいてまとめることとしたい。

流山市内の旧石器時代の遺跡は近年、運動公園地区及び隣接する新市街地地区において著しく資料が増加している。思井堀ノ内遺跡（１）[12]、思井上ノ内遺跡（５）[13]、中中屋敷遺跡（29）[14]、前平井堀米遺跡（15）[15]、後平井中道遺跡（16）[16]、三輪野山北浦（旧三輪野山第Ⅱ）遺跡（56）[113・15]、西初石五丁目遺跡（63）[47・103・30・32・33]、市野谷入台遺跡（61）[78・103]、市野谷二反田遺跡（58）[62]、大久保遺跡（60）[102・32]、市野谷向山遺跡（52）[102・103・31・33]、東初石六丁目第Ⅰ遺跡（79）[102]、東初石六丁目第Ⅱ遺跡（77）[102]、市野谷中島遺跡（51）[103・31・32]、市野谷芋久保遺跡（57）[32]、市野谷立野遺跡（59）[30・31・32・33]、地図の外になるが十太夫第Ⅱ遺跡[102]、桐ケ谷新田第Ⅰ遺跡、中野久木遺跡、若葉台遺跡、桐ケ谷南割（上貝塚）遺跡などで石器群が検出されている。思井堀之内遺跡ではⅢ層からⅨ層にかけて11ブロック、思井上ノ内遺跡ではⅣ層からⅨ層にかけて３ブロック、中中屋敷遺跡ではⅢ層からⅩ層にかけて４ブロック、前平井堀米遺跡ではⅥ層からⅨ層にかけて２ブロック（内１ブロックは礫群）、後平井中道遺跡ではⅢ層からⅨ層にかけて５ブロック、三輪野山北浦遺跡ではⅢ層からⅦ層にかけて６ブロック、市野谷入台遺跡ではⅢ層からⅦ層にかけて26ブロック、市野谷二反田遺跡ではⅣ層からⅨ層にかけて12ブロック、西初石五丁目遺跡ではⅢ層からⅨ層にかけて６ブロック、大久保遺跡ではⅢ～Ⅳ層とⅨ層で44ブロック、市野谷向山遺跡ではⅣ層からⅨ層にかけて22ブロック、東初石六丁目第Ⅰ遺跡ではⅣ層からⅤ層にかけて３ブロック、東初石六丁目第Ⅱ遺跡ではⅣ層からⅤ層にかけて５ブロック、十太夫第Ⅱ遺跡ではⅤ層からⅥ層にかけて１ブロック、市野谷中島遺跡ではⅣ層からⅤ層にかけて１ブロック、市野谷芋久保遺跡ではⅢ層からⅩ層にかけて46ブロック、市野谷立野遺跡ではⅢ層からⅣ層にかけて５ブロックがそれぞれ調査されている。その他、上層遺構覆土中からの遺物出土事例は数多く報告されている。当地域の旧石器時代の特徴として北関東産の石材が多用される点が挙げられ、それは下総台地北西部という立地が大きく影響していると推測される。

流山市内の縄文時代の遺跡は極めて多い。草創期は遺構の検出事例はなく、長崎遺跡（116）[9]で有茎尖頭器の出土が報告されるなどごくわずかな遺物の出土しか確認されていないが、早期になると特に後半の条痕文期において遺構の検出事例が増え、遺物も多くの遺跡で出土するようになる。思井堀ノ内遺跡（１）[2-10]では野鳥式から鵜ガ島台式期を中心とする竪穴住居跡２軒、炉穴35基など、思井上ノ内遺跡（５）[3]では鵜ガ島台式を中心とする早期後葉の竪穴住居跡２軒、土坑２基、炉穴25基など、三輪野山第Ⅲ遺跡（55）[11]では鵜ガ島台式期の竪穴住居跡１軒と炉穴10基などが調査されている。炉穴の検出例は数多く、三輪野山道六神遺跡（53）[12-13-14-15]や大原神社遺跡（12）[16]、平和台遺跡（11）[17-18-19]、三輪野山八重塚第Ⅱ遺跡（42）

第5図　遺跡の立地と周辺の地形

[20]、三輪野山八重塚遺跡（43）[21-22-23-24-25-26-27]、加北谷津第Ⅱ遺跡（39）[28]、西平井二階畑遺跡（３）[29]、市野谷立野遺跡（59）[30-31-32-33]、名都借宮ノ脇遺跡（名都借第Ⅱ遺跡）（129）[34-35]などで報告されている。市野谷立野遺跡では同時期と思われる大規模な礫群が検出されている。これらの遺跡は野島式期から茅山下層式期を中心とし、茅山上層式以降の早期末になると遺跡数は急速に減少する。そうした中で中中屋敷遺跡（29）[4-36]では早期末から前期初頭を中心とする竪穴住居跡３軒、炉穴７基、土坑４基などが検出されているほか、三輪野山八重塚遺跡、三輪野山八重塚第Ⅱ遺跡で該期の遺物が出土している。前期は初頭の花積下層式期では遺跡数の少ない状況が続くが、坂川を隔てた対岸の松戸市幸田貝塚（83）[37]では花積下層式期から関山式期を中心とした多数の竪穴住居跡と大規模な貝層が形成されており、当地域における拠点的な集落である。流山市内では加町畑遺跡（26）[38-39-40-41-42-43]や下花輪荒井前（旧下花輪第Ⅱ）遺跡（69）[13-44-45-46]で関山式期の竪穴住居跡が少々検出されている程度であるが、黒浜式期に至ると多数の遺構が確認されている。竪穴住居跡の検出事例では、思井堀ノ内遺跡、後平井中通遺跡（16）[6]、市野谷芋久保遺跡[30-31-32]、市野谷向山遺跡（52）[30-31-32-33]、市野谷立野遺跡、西初石五丁目遺跡（63）[30-32-33-47]、三輪野山八幡前遺跡（旧下屋敷遺跡）（46）[14-15-48-49-50]、加北谷津第Ⅰ遺跡（40）[28]、加北谷津第Ⅱ遺跡、三輪野山八重塚遺跡、三輪野山北浦遺跡（56）[13-51]、三輪野山道六神遺跡、大畔西悂遺跡（65）[41-52]、三輪野山宮前遺跡（54）[14-15-44-53-54]などが挙げられる。三輪野山宮前遺跡では黒浜式から諸磯ｂ式ないしは浮島Ⅱ式までの竪穴住居跡のほか、完形に近い土器や玉類を伴う土坑群が検出されており、墓域と推測される。諸磯・浮島式期ではほかに長崎遺跡で貝層を伴う竪穴住居跡から良好な資料が出土しており、後平井中通遺跡、三輪野山宮前遺跡、三輪野山八幡前遺跡でも竪穴住居跡が検出されている。新市街地地区土地区画整理事業地内の調査でも同時期の遺構が検出されており、市野谷芋久保遺跡や市野谷立野遺跡、市野谷向山遺跡などで竪穴住居跡が確認されているが、内陸部に位置するためか全体に遺構数は少なく密度は希薄である。中期では前半の五領ヶ台式期から阿玉台・勝坂式期までは遺跡が少ないが、中葉から後半にかけて遺跡が増加する。野々下元木戸遺跡（119）[55-56-57-58]と向下遺跡（121）[58]は、包蔵地としては別々に扱われているが本来は同一の集落跡と考えられるもので、中期後半から後期前葉までの竪穴住居跡と土坑群、貝ブロックを伴うピットなどが検出されている。野々下長田遺跡（旧野々下第Ⅴ遺跡）（118）[59-60-61]では中期後葉の竪穴住居跡と埋設土器などが検出されている。名都借宮ノ脇遺跡では中期中葉の竪穴住居跡とフラスコ状土坑が検出されている。また地図の外になるが、中野久木谷頭遺跡では加曽利Ｅ式初頭から前半期にかけての大規模な環状集落が形成されている。一方で中期後葉以降になると、台地奥の分水嶺に近い地域で少数の竪穴住居跡もしくは土坑が散在する事例もみられ、十太夫第Ⅲ遺跡（80）[30-31-32]や大久保遺跡（60）[29-30]などが代表的である。中期末から後期初頭にかけては一時的な遺跡数の減少が認められるが、その中で市野谷向山遺跡はこの時期の集落が形成されており、運動公園地区側は現在も調査進行中であるが多くの成果が上がっている。市野谷二反田遺跡（58）[62]では称名寺式期を中心とする竪穴住居跡が13軒検出されているほか、大久保遺跡ではやはり称名寺式の埋設土器を伴う竪穴住居跡が検出されており、後期初頭は内陸部の遺跡で集落が営まれる傾向にある。後期前葉の堀之内１式以降になると遺跡数は再び増加する。思井上ノ内遺跡では堀之内１式から加曽利Ｂ１式にかけての竪穴住居跡11軒、土坑14基、貝ブロック８か所などのほか、人骨集積が検出されており、埋葬施設と考えられる。後平井中通遺跡は称名寺２式から堀之内１式を中心とする環状集落で、竪穴住居跡32軒、土坑200基以上が検出されている。江戸川と坂川に挟まれた台地の南端部には鰭ヶ崎（前ヶ崎）貝塚（10）[63]が存在する。1952年に酒詰仲男氏と岡田茂弘氏に率いられた学習院高等科

第６図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第２表　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代
1	恩井堀ノ内遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後)、古墳(中)、奈良・平安、中近世
2	西平井根廻遺跡	縄文、中世
3	西平井二階堂遺跡	縄文、中世
4	中中ノ台遺跡	平安、中近世
5	恩井上ノ内遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後)、古墳、奈良・平安、中近世
6	西平井大崎遺跡	縄文
7	恩井團の見遺跡	縄文(草・前)、古墳、近世
8	植ヶ崎塚の越遺跡 (三本松古墳)	古墳(後)
9	植ヶ崎塚の越台遺跡	古墳(後)
10	植ヶ崎貝塚	縄文(草・中・後)、平安
11	平和台遺跡	縄文(中)、古墳、平安、中近世
12	大原神社遺跡	縄文(草)、古墳(後)、平安
13	宮本遺跡	縄文(草)、平安
14	前平井遺跡	縄文(前・中)、平安
15	前平井塚原遺跡	古墳(後)、奈良・平安
16	後平井中通遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、奈良・平安、中近世
17	古間木山王第Ⅰ遺跡	縄文(前)、平安
18	古間木第Ⅰ屋	近世
19	古間木山王第Ⅱ遺跡	縄文、古墳(後)、奈良・平安
20	芝崎第２号墳遺跡	古墳
21	芝崎八幡遺跡	縄文(前・中)、古墳、平安
22	芝崎第１号墳遺跡	古墳
23	古間木芳賀殿第Ⅰ遺跡	縄文(前・中)、平安
24	古間木芳賀殿第Ⅱ遺跡	縄文(後)、平安
25	加村台遺跡・日本多聞寺屋敷	弥生(中)、古墳(後)、平安、近世
26	加村遺跡	
27	加沢宮第Ⅰ遺跡	縄文、古墳、奈良・平安
28	加東割遺跡	旧石器、縄文、平安
29	中中屋敷遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、奈良・平安、中近世
30	野々下西方遺跡	縄文(前)、中近世
31	野々下大加敷遺跡	縄文(前・中)
32	野々下山中遺跡	縄文(後)、平安
33	野々下貝塚	縄文(前)、平安
34	野々下根廻第Ⅰ遺跡	縄文(草・中・後・晩)
35	野々下根廻第Ⅱ遺跡	平安
36	野々下雑屋遺跡	縄文(後)、平安
37	古間木灰表木谷遺跡	縄文(後)、近世
38	古間木道田遺跡	縄文(草・前・後)
39	加北谷津第Ⅱ遺跡 (北谷津古墳)	縄文(後)
40	加北谷津第Ⅰ遺跡	旧石器、縄文、平安
41	加沢宮第Ⅱ遺跡	縄文、平安
42	三輪野山入重塚Ⅱ遺跡	縄文(草)、平安
43	三輪野山入重塚	縄文、古墳、平安
44	三輪野山低地遺跡	縄文(後・晩)
45	三輪野山貝塚	旧石器、縄文(前・中・後・晩)
46	三輪野山入幡前遺跡	縄文、平安、近世
47	市野谷地蔵谷ノ遺跡	古墳(後)、平安
48	市野谷視内第Ⅱ遺跡	縄文
49	市野谷視内第Ⅰ遺跡	縄文(前・中)、古墳(中・後)
50	市野谷宮後遺跡	縄文
51	市野谷中島遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、奈良・平安、近世
52	市野谷向山遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、古墳(中・後)、平安、中近世
53	三輪野山道六神遺跡	縄文、古墳、平安、中近世
54	三輪野山宮殿遺跡	縄文(前)、古墳(後)、平安、近世
55	三輪野山第Ⅱ遺跡	縄文、古墳(後)、平安、近世
56	三輪野山北浦遺跡	旧石器、縄文(前・後)、古墳、平安、近世
57	市野谷平久保遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、中近世
58	市野谷二反田遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、古墳(前・後)、奈良・平安、中近世
59	市野谷立野遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、古墳(後)、近世
60	入久保遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、奈良、近世
61	市野谷入台遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、古墳(前・中)、奈良、中近世
62	市野谷宮尻遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、古墳(前・後)、奈良・平安
63	西初石五丁目遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、弥生、古墳(前)、奈良・平安、近世
64	三輪野山向原台遺跡	縄文(前)、弥生、古墳(前)
65	大畔西割遺跡	縄文(草・中)、古墳(後)、平安
66	大畔中ノ割遺跡	縄文(草・前・中)、平安
67	花輪遺跡	中世
68	下花輪林下遺跡	縄文(後)、古墳(後)
69	下花輪荒井南遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後)、弥生、古墳、奈良・平安、中近世

番号	遺跡名	時代
70	下花輪西山遺跡	縄文、古墳、中世
71	下花輪荒井遺跡	縄文(中・後)、平安、近世
72	上貝塚大門遺跡	縄文(前・後)、平安
73	桐ヶ谷浅間後遺跡	旧石器、縄文(前・後)、平安
74	大畔台遺跡	縄文(前)、古墳、中世
75	西初石桜荘遺跡	縄文(前・中・後)、近世
76	花山東遺跡	旧石器、縄文、奈良・平安
77	東初石六丁目第Ⅱ遺跡	旧石器、縄文(前・後)、平安
78	十太夫第Ⅰ遺跡	縄文(草・前・中・後)、平安、近世
79	東初石六丁目第Ⅰ遺跡	旧石器、縄文(中・後・晩)、平安、近世
80	十太夫第Ⅱ遺跡	縄文(草・前・中・後・晩)、平安
81	諏訪神社遺跡	縄文(中)
82	駒木諏訪耀遺跡	縄文(前)
83	幸田貝塚	旧石器、縄文(前・中・後)、古墳
84	中芝遺跡	弥生(後)、古墳(前・中・後)
85	道六神遺跡	縄文(草・前・中・後)、弥生(後)、古墳(後)、奈良・平安
86	木戸口(中金)遺跡	縄文(後)、古墳(中)
87	中金杉台遺跡	縄文(後)
88	原の山遺跡	縄文(草・前)、弥生、古墳(中・後)、平安
89	殿平貫遺跡	縄文(後)
90	殿平貫向原遺跡	縄文(中)
91	東平貫遺跡	旧石器、縄文(前・中・後)、中世
92	殿平貫向山遺跡	旧石器、縄文(草・前)、古墳(前・中・後)
93	東平貫向台遺跡	古墳
94	小金遺跡 (大谷口小金城跡)	縄文、古墳、平安、中世
95	小金古墳群	古墳
96	西(小金)(北小金)遺跡	縄文(前・中・後)
97	塚外目遺跡	旧石器、縄文(前)
98	溜ノ上(溜の腦)遺跡	旧石器、縄文(草・前・中・後・晩)、古墳(前・中・後)
99	塚外(北小金駅付近)(東源寺)遺跡	縄文(前・後)
100	山王前遺跡	縄文(前・中)
101	熊ノ脇遺跡	縄文(草・前・中)
102	幸谷城跡	中世
103	鍋倉下遺跡	縄文(後)
104	後田遺跡	縄文(中・後)、平安、近世
105	馬橋城跡	中世
106	上野台(二ッ木向台Ⅱ)遺跡	弥生(後)
107	二ッ木向台(二ッ木)(二ッ木第２)遺跡	縄文(草・前・後)、弥生(後)、古墳(後)
108	勢至南遺跡	縄文(草・前)、古墳(後)
109	入遺跡	縄文(前)
110	富士見台(Ⅰ)遺跡	
111	長崎天形星遺跡	縄文(中)、古墳(中・後)
112	富士見台(Ⅱ)遺跡	縄文(中・後)
113	長崎玉斗代遺跡	縄文(中)
114	長崎寝釈	近世
115	長崎土枕側遺跡	縄文(前・中)、平安
116	長崎遺跡	縄文(草・前・中・後)
117	長崎金発院遺跡	古墳、平安
118	野々下長田遺跡	縄文(草・前・中・後)
119	野々下元木戸遺跡	縄文(中・後)、古墳(後)、平安
120	野々下土手内遺跡	縄文(中)
121	向下遺跡	縄文(中・後)、平安
122	前ヶ崎城跡	中世
123	前ヶ崎遺跡	縄文(前)
124	名都借城跡	中世
125	清掃院前遺跡	縄文(前)、平安、近世
126	惣原(Ⅰ)遺跡	縄文(中)、弥生、古墳
127	名都借惣福寺遺跡	縄文(前・中)、平安
128	名都借妙本遺跡	縄文(中)、平安
129	名都借宮ノ脇遺跡	縄文(中)
130	惣原(Ⅱ)遺跡	縄文(中)
131	根本内城跡	中近世
132	根本内遺跡	縄文(前・中・後)、中近世
133	行人台遺跡・行人台城跡	縄文(草・前・中)、古墳(中・後)、中世
134	久保平貫(殿平貫向山)遺跡	古墳
135	久保平貫台遺	古墳
136	二ッ木屈台遺跡	縄文(前)
137	仲通遺跡	旧石器、縄文(前・中)、古墳(中)
138	流山魂寺遺跡	弥良
139	上貝塚貝塚	旧石器、縄文(前・中・後・晩)、中近世
140	三輪野山野馬土手	近世
141	駒木野馬土手	近世
142	市野谷駒木野馬土手	近世
143	十太夫野馬土手	近世
144	大畔野馬土手	近世
145	市野谷・野々下野馬土手	近世
146	長崎一丁目野馬土手	近世
147	野々下野馬土手	近世

史学部が調査を実施し、堀之内式期から加曽利B式期にかけての遺構群が濃密に分布することが明らかになっている。古間木茱萸木谷遺跡（37）[64]では部分的な調査ではあるが後期の竪穴住居跡が検出され、集落の存在が想定される。三輪野山貝塚(45)[14-15-45-65-66]では後期から晩期にかけて100軒を超える竪穴住居跡、５箇所の貝層、20基余りの土坑墓群、晩期中葉と考えられる道路状遺構、水場遺構、埋葬人骨などが検出されているほか、環状に構築された竪穴住居跡をはじめとする遺構群に囲まれるように擂鉢状に削られた窪地が存在する。削られた土砂は周囲に盛り上げられたと考えられ、いわゆる環状盛土と中央窪地の関係をよく示す成果である。三輪野山貝塚に関連すると思われる遺構は周辺遺跡からも検出されており、東側の三輪野山八幡前遺跡では三輪野山貝塚の中央地と一体になっていると思われる窪地が続いていて、それを取り囲むように後期前葉から晩期前葉にかけての竪穴住居跡が多数検出されているほか、窪地から集落東側へ延びる道路状遺構が検出されている。三輪野山宮前遺跡などでも同時期の竪穴住居跡や掘立柱建物が検出されている。貝塚も多く形成され、三輪野山貝塚のほか、野々下貝塚（33）[67-68]、上貝塚貝塚（139）[13]、地図の外になるが上新宿貝塚は大規模な環状貝塚として知られている。いずれの貝塚も後期前葉の堀之内式期あたりから形成が開始され、晩期中頃まで存続するのが確認されているが、晩期終末頃は遺構・遺物ともほとんどみられなくなる。

弥生時代は遺跡の分布が希薄である。江戸川流域では三輪野山北浦遺跡で中期の須和田式土器が出土している。下花輪荒井前遺跡では宮の台式期の住居跡のほか、市内では唯一の事例である方形周溝墓が検出されている。加村台遺跡（25）[69-70-71-72-73-74-75]では中期から後期の竪穴住居跡のほか、環濠と推測されるV字溝が検出されている。坂川流域では対岸の松戸市内で中芝遺跡（84）、道六神遺跡（85）、原の山遺跡（88）があるだけで、本遺跡の周辺地域は全般的に弥生時代の遺跡の少ない地域として知られている。

これに対して、古墳時代に入ると遺跡数が大きく増加する。前期から中期にかけては、江戸川流域では三輪野山宮前遺跡、三輪野山第Ⅲ遺跡、三輪野山北浦遺跡、三輪野山道六神遺跡、大畔西割遺跡等が、また坂川流域では市野谷宮尻遺跡（62）[76]、市野谷入台遺跡（61）[77-78]、市野谷向山遺跡、野々下元木戸遺跡・向下遺跡等が各々集落群を形成する。三輪野山道六神遺跡では北陸系の土器が、三輪野山宮前遺跡では東海系の土器が出土しており、他地域との交流を示すものと言える。市野谷地区及び野々下地区は坂川流域では奥まった地で、手賀沼に注ぐ大堀川支谷との分水嶺に近い地域である。市野谷宮尻遺跡は３世紀中頃から始まる集落遺跡で、前期の竪穴住居跡が90軒検出され、そのうちの１軒から東日本で最も古い墨書土器が出土している。市野谷入台遺跡では前期から中期にかけての竪穴住居跡が35軒検出されているほか、小規模ながら石製模造品の製作跡も検出されており、江戸川流域では最古級に位置づけられる。同じく坂川水系の最奥部に位置する西初石五丁目遺跡では前期の竪穴住居跡が20軒検出されており、そのうち１軒から小形仿製鏡が出土している。野々下元木戸遺跡・向下遺跡からは前期の竪穴住居跡が19軒検出されている。西初石五丁目遺跡や野々下元木戸遺跡・向下遺跡の竪穴住居は比較的短期間の構築にとどまっており、開拓集落的な様相を呈している。中期は市野谷向山遺跡などで集落が形成されるものの、全体としては遺構数の減少が認められるが、後期になると集落規模は再度拡大し、遺跡も更に増加する。また三輪野山地区や市野谷地区以外にも分布域が広がり、江戸川に近接する加地区から平和台地区にかけては、加村台遺跡、加町畑遺跡、加北谷津第Ⅰ遺跡、同第Ⅱ遺跡、平和台遺跡等が顕著な集落遺跡群を形成する。とりわけ加町畑遺跡は後期の竪穴住居跡74軒が検出されており、拠点的集落の一つである。加村台遺跡は台地西端に位置し、やはり後期に多数の竪穴住居が構築される。太日川（現江戸川）を通じた河川交易の拠

点としての性格が想定される。一方古墳の分布は顕著ではないが、三輪野山地区に前期方墳の三輪野山向原古墳（64）[79-80]が、本遺跡の南約500mには前方後円墳の三本松古墳（８の鰭ヶ崎塚の越遺跡範囲内）[80]が、そして加地区に終末期古墳の北谷津古墳（39の加北谷津第Ⅱ遺跡範囲内）[80]が所在している。

奈良時代から平安時代になると遺跡は飛躍的に増大する。思井上ノ内遺跡や思井堀ノ内遺跡の所在する思井地区から前平井遺跡（14）や平和台遺跡、加町畑遺跡、三輪野山宮前遺跡の所在する前平井地区、平和台地区、加地区、三輪野山地区にかけては特に集落遺跡が集中している地域である。思井堀ノ内遺跡からは８世紀後半から10世紀初頭にかけての竪穴住居跡26軒、掘立柱建物跡６棟、土器焼成遺構や鍛冶遺構が検出されたほか、「庄」と記された墨書土器40点以上や緑釉陶器、灰釉陶器などが出土しており、当地における拠点集落であるとともに初期荘園であった可能性が強い。思井上ノ内遺跡からは８世紀前半から10世紀にかけての竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡10棟、土器焼成遺構４基などが検出され、現在も調査継続中である前平井遺跡は、これまでに70軒を超える竪穴住居跡が検出されている。前平井地区の北側は加地区となるが、ここは特に集落規模の拡大が目覚ましい。すでに古墳時代から多数の竪穴住居跡が展開しているが、奈良時代前半に一時的に減少するものの後半になって飛躍的に竪穴住居跡が増大する。加町畑遺跡では竪穴住居跡126軒、掘立柱建物跡17棟など多数の遺構が検出され、武蔵国から多数の土器が搬入されるなど、当地区の中心的な位置を占めていたと推測される。さらに目を北に転じると、三輪野山地区には三輪野山北浦遺跡（56）範囲内には式内社比定社の茂侶神社が存在するが、神社の南側に広がる三輪野山宮前遺跡では社殿から南へ約150mの地点で９世紀前半以前と考えられる掘立柱建物群が検出されたほか、近接する８世紀後半の竪穴住居跡からは巡方やガラス玉、耳環などが、９世紀初頭の竪穴住居跡からは下総国分寺と同笵の六葉宝相華文軒丸瓦が出土しており、三輪野山遺跡群の古代集落の中でも中心的な位置にあったと考えられる。神社の西側に当たる三輪野山北浦遺跡では、９世紀後半の竪穴住居跡から皇朝十二銭の一つである隆平永寶が出土している。神社の南西側に当たる三輪野山遺六神遺跡では、鍛冶遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。平和台地区には下総国分寺と同系瓦が出土する流山廃寺（138）[8]が、また鰭ヶ崎地区には鰭ヶ崎貝塚（10）範囲内の平安時代創建とされる東福寺が立地しているが、茂侶神社を含めたこれらの３寺社は、下総国府と常陸国府を結ぶ古代東海道ないしはその支路沿いに立地していたと考えられている。奈良・平安時代の集落も３寺社の間に集中しており、これらの遺跡群が古代葛飾郡桑原郷の中核をなす集落群であるとする指摘もされている[5]。一方でより東側の中地区や市野谷地区では、前平井堀米遺跡（15）[5]や市野谷中島遺跡（51）[30-31-32]、市野谷地蔵谷ツ遺跡（47）[82-83]などで集落が形成されるものの、規模は小さく短期間で終息する。坂川の上流域にあたる地区は遺構密度も相対的に低くなることから、古道とともに太日川を利用した水運も重要な役割を果たしていたと考えられる。

鎌倉時代以降の中・近世遺跡の多くが戦国期以降に位置付けられるもので、地下式坑や土坑墓、屋敷跡と考えられている台地整形区画等が検出されている。一方で鎌倉時代から室町時代前半の遺跡は千葉県内の他地域と同様少ない。そうした中で特筆されるのが思井堀ノ内遺跡[1-84-85]で、13世紀から15世紀にかけての掘立柱建物群、方形周溝区画墓、土坑群、地下式坑群が検出されている。特に方形周溝区画墓からは青磁椀・皿、白磁皿、和鏡、円形木製品、木櫛、菊花形皿などに加え、出土品としては他に例を見ない掛幅装絹本着色画が副葬された成人女性骨が出土している[86]。時期は13世紀後半から14世紀初頭と考えられ、被葬者は13世紀代に当地を支配していた地頭矢木式部太夫胤家の妻もしくは娘である可能性が指摘されている。掘立柱建物群も同時期と考えられ、矢木氏の居館であると推測される。市野谷入台遺跡では13世紀

台と考えられる方形竪穴建物群が検出されている。戦国期になると多くの城郭が築かれるようになる。江戸川流域では北方約2.3kmの花輪城跡（67）[85-87]、坂川対岸の東約1.7kmにある名都借城跡（124）[85-88-89]、約2.2kmの前ヶ崎城跡（122）[85]、南約1.7kmの松戸市小金城跡（94）[90]、があるが、これらは戦国期に小金域を本拠とした高城氏関係の城跡と考えられている。さらに本遺跡周辺をみると中中ノ台遺跡（4）、中中屋敷遺跡、前平井遺跡、前平井堀米遺跡、加東割遺跡（28）[91-92]、加町畑遺跡[85]、西平井根郷遺跡（2）[29-85]、西平井二階畑遺跡[85]、三輪野山宮前遺跡、三輪野山道六神遺跡（53）[85-93]、三輪野山第Ⅲ遺跡等から台地整形区画、地下式坑、土坑墓等が確認されており、思井地区から西平井、前平井地区、加地区、三輪野山地区が奈良・平安時代に引き続きこの地域の拠点となる位置を占めていたことが想定される。

近世になると下総台地には軍用馬育成のため、徳川幕府によって牧が設けられた。流山市周辺は小金牧の一つ、上野牧の範囲と重なっている。ただし運動公園地区はほとんどが牧の範囲の外になるため、遺構としては三輪野山野馬土手（140）[7]が存在する程度である。新市街地地区においては市野谷芋久保遺跡内で三輪野山野馬土手の続きが検出されているほか、駒木野馬土手（141）[94-95]、市野谷駒木野馬土手（142）[33-96-100]、十太夫野馬土手（143）[33-79-95-96-97-98-99]の調査が行われている。事業地外にはその他、大畔野馬土手（144）、市野谷・野々下野馬土手（145）、長崎一丁目野馬土手（146）、野々下野馬土手（147）[101]などが所在するが、これらの多くが牧の外縁部に構築されている。明治以降の農地開拓や軍用地造成、そして戦後の宅地開発によりこれらは大部分が姿を消し、市街地にこれらの土手がわずかに残されるのみとなっている。

注

1　（財）千葉県教育振興財団　2006『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書１－流山市思井堀ノ内遺跡（中世編）－』千葉県教育振興財団調査報告第549集

2　（財）千葉県教育振興財団　2010『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書２－流山市思井堀ノ内遺跡（旧石器～奈良・平安時代編）－』千葉県教育振興財団調査報告第635集

3　千葉県教育委員会　2016『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書３－流山市思井上ノ内遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第11集

4　千葉県教育委員会　2017『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書４－流山市中中屋敷遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第20集

5　千葉県教育委員会　2020『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書５－流山市前平井堀米遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第34集

6　千葉県教育委員会　2021『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書６－流山市後平井中通遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第37集

7　千葉県教育委員会　2022『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書７－流山市市野谷宮後遺跡（北側）・市野谷芋久保遺跡（14）（旧石器時代編）－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第41集
　千葉県教育委員会　2023『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書８－流山市市野谷宮後遺跡（北側）・三輪野山野馬土手・市野谷芋久保遺跡（14）（縄文時代以降編）－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第44集

8　（財）千葉県教育振興財団編　2006『県内遺跡詳細分布調査報告書　房総の近世牧跡』千葉県教育委員会

9　流山市遺跡調査会　1985『千葉県流山市長崎遺跡』

10　流山市教育委員会　2011『Ⅰ．思井堀ノ内遺跡Ⅱ地点』『平成21年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

11　流山市教育委員会　1988『千葉県流山市三輪野山第Ⅲ遺跡』

12　茂侶神社脇遺跡発掘調査団　1980『千葉県流山市茂侶神社脇遺跡』茂侶神社脇遺跡発掘調査団

13　（財）千葉県文化財センター　1996『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書－流山市南割遺跡・上貝塚第Ⅱ遺跡・上貝塚第Ⅰ遺跡・上貝塚貝塚・下花輪第Ⅲ遺跡・三輪野山第Ⅱ遺跡－』千葉県文化財センター調査報告

第276集

なお、この報告書に掲載されている三輪野山第Ⅱ遺跡の調査範囲は、現在の三輪野山北浦遺跡と三輪野山道六神遺跡の２遺跡にまたがっている。また、下花輪第Ⅲ遺跡は現在桐ヶ谷浅間後遺跡と呼称されている。

14 （財）千葉県文化財センター　2001『主要地方道松戸野田線住宅宅地関連埋蔵文化財調査報告書－流山市三輪野山貝塚・宮前・道六神・八幡前－』千葉県文化財センター調査報告第399集

15 流山市教育委員会　2015『流山市三輪野山遺跡群発掘調査概要報告書』

16 山武考古学研究所　1982『大原神社遺跡』

17 流山市教育委員会　1993『千葉県流山市平和台遺跡発掘調査概報』

18 流山市教育委員会　2002『Ⅴ．平和台遺跡」『平成12年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

19 流山市教育委員会　2003『Ⅰ．平和台遺跡（２）」『平成13年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

20 流山市教育委員会　1985『千葉県流山市三輪野山八重塚第Ⅱ遺跡』

21 三輪野山八重塚遺跡調査会　1982『千葉県流山市三輪野山八重塚遺跡』

22 流山市遺跡調査会　1985『千葉県流山市三輪野山八重塚遺跡Ｂ地点』

23 流山市教育委員会　1987『千葉県流山市三輪野山八重塚遺跡Ｃ地点』

24 流山市教育委員会　1991『Ⅲ．三輪野山八重塚遺跡Ｆ地点」『平成二年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

25 流山市教育委員会　1991『千葉県流山市三輪野山八重塚遺跡Ｅ地点』

26 流山市教育委員会　2002「Ⅰ．三輪野山八重塚遺跡Ⅰ・Ｊ地点」「平成12年度流山市市内遺跡発掘調査報告書」

27 （株）東京航業研究所　2015『流山市三輪野山八重塚遺跡Ｋ地点－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－』

28 流山市教育委員会　1989『加地区遺跡群Ⅰ』

29 流山市教育委員会・駒澤大学考古学研究室　2004『流山市西平井・赭ヶ崎地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ』

30 （公財）千葉県教育振興財団　2015『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書７－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡（上層）・市野谷向山遺跡（上層）・市野谷立野遺跡・大久保遺跡（上層）・西初石五丁目遺跡・東初石六丁目第Ⅰ遺跡（上層）・十太夫第Ⅰ遺跡・十太夫第Ⅲ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第735集

31 （公財）千葉県教育振興財団　2016『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書８－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・大久保遺跡（上層）・十太夫第Ⅲ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第748集

32 （公財）千葉県教育振興財団　2017『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書10－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島跡・市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・大久保遺跡（下層）・西初石五丁目遺跡・十太夫第Ⅲ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第769集

33 （公財）千葉県教育振興財団　2019『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書11－流山市市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・西初石五丁目遺跡・市野谷駒木野馬土手・十太夫野馬土手－』千葉県教育振興財団調査報告第779集

34 流山市教育委員会　1989『千葉県流山市名都借第Ⅱ遺跡発掘調査概報』

35 （有）勾玉工房Mogi　2015『流山市名都借宮ノ脇遺跡－特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－』

36 流山市教育委員会　1998「Ⅰ．中中屋敷遺跡」『平成９年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

37 古里節夫　2000「幸田貝塚」『千葉県の歴史　資料編　考古１（旧石器･縄文時代）』千葉県

なお、ここでは省略したが、この遺跡については主に松戸市教育委員会によって数多くの調査が行われ、概報も多数刊行されている。

38 流山市郷土資料館　1980『千葉県流山市加村台遺跡群－町畑遺跡発掘調査概報－』

39 流山市教育委員会　1991『加地区遺跡群Ⅱ』

40 流山市教育委員会　1994『加地区遺跡群Ⅲ』

41 流山市教育委員会　2000『加地区遺跡群Ⅳ』

42 流山市教育委員会　1998「Ⅱ．加町畑遺跡Ⅰ地点」『平成10年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

43 流山市教育委員会　2014「Ⅱ　加町畑遺跡Ｊ地点」『平成24年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

44 下津谷達男・瓦吹　堅　1973『流山市大畔台　下花輪第二遺跡調査概報』下花輪第二遺跡調査団

45 （財）千葉県教育振興財団　2010『流山市下花輪荒井前遺跡－高度浄水施設建設工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書－』千葉県教育振興財団調査報告第649集

46 （公財）千葉県教育振興財団　2021『流山市下花輪荒井前遺跡２－高度浄水施設建設工事関連埋蔵文化財発掘調査

報告書－』千葉県教育振興財団調査報告第786集
47 （財）千葉県教育振興財団　2008『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書２－流山市西初石五丁目遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第596集
48 下屋敷遺跡調査会・流山市教育委員会　1986『流山市下屋敷遺跡発掘調査報告書』
49 （財）千葉県文化財センター　2004『主要地方道松戸野田線住宅宅地関連埋蔵文化財調査報告書（２）－流山市三輪野山貝塚・三輪野山宮前遺跡・三輪野山八幡前遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第482集
50 流山市教育委員会　2012『Ⅰ．三輪野山八幡前遺跡Ａ地点11』『平成22年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
51 千葉県教育委員会　2018『流山市三輪野山北浦遺跡－県道越谷流山線事業埋蔵文化財発掘調査報告書－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第24集
52 流山市教育委員会　2003『Ⅰ．大畔西割遺跡』『平成14年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
53 流山市教育委員会　2011『Ⅱ．三輪野山宮前遺跡Ａ地点８』『平成21年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
54 流山市教育委員会　2012『Ⅲ．三輪野山宮前遺跡Ａ地点８－２』『平成22年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
55 流山市教育委員会　2007『Ⅳ．野々下元木戸遺跡』『平成18年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
56 （株）地域文化財コンサルタント　2009『流山市野々下元木戸遺跡（第３次調査）』
57 （株）東京航業研究所　2011『流山市野々下元木戸遺跡（第２次調査）』
58 流山市教育委員会　2012『向下遺跡　野々下元木戸遺跡（第４次調査）』
59 流山市教育委員会　1993『Ⅱ．野々下第Ⅴ遺跡』『平成４年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
60 流山市教育委員会　2020『Ⅲ.野々下長田遺跡（１次）』『平成30年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
61 流山市教育委員会　2021『Ⅰ.野々下長田遺跡（２次）』『令和元年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
62 （財）千葉県教育振興財団　2009『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書４－流山市市野谷二反田遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第629集
63 酒詰仲男・岡田茂弘他　刊行年不詳（1952～1953?）『千葉県前ヶ崎貝塚発掘調査報告』学習院高等科史学部
なお、この文献は正式に刊行されたものではなく、手書きの原稿と実測図、拓本などから構成されている。
64 流山市教育委員会　1997『Ⅱ．古間木栄萸水谷遺跡』『平成８年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
65 流山市教育委員会　2008『流山市三輪野山貝塚発掘調査概要報告書』
66 流山市教育委員会　2021『Ⅳ.三輪野山貝塚第14地点』『令和元年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
67 （財）千葉県文化財センター　1995『流山市野々下貝塚確認調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第274集
68 流山市教育委員会　2014『Ⅲ.野々下貝塚』『平成24年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
69 流山市教育委員会　1989『Ⅱ．加村台遺跡Ｄ地点』『昭和63年度流山市市内遺跡群発掘調査報告』
70 流山市教育委員会　1997『Ⅲ．加村台遺跡Ｆ地点』『平成８年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
71 流山市教育委員会　2000『Ⅰ．加村台遺跡Ｇ地点』『平成11年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
72 流山市教育委員会　2002『Ⅲ．加村台遺跡Ⅱ地点』『平成12年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
73 流山市教育委員会　2016『Ⅰ.加村台遺跡Ｊ・Ｋ地点』『平成26年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
74 大成エンジニアリング（株）　2017『千葉県流山市加村台遺跡Ｋ地点発掘調査報告書』
75 流山市教育委員会　2019『Ⅴ．加村台遺跡Ｌ地点』『平成29年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
76 （財）千葉県教育振興財団　2006『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書１－流山市市野谷宮尻遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第545集
77 流山市教育委員会　1996『Ⅳ．市野谷入台遺跡』『平成７年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』流山市教育委員会
78 （財）千葉県教育振興財団　2008『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書３－流山市市野谷入台遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第606集
79 流山市教育委員会　2008『流山市三輪野山向原古墳』
80 流山市教育委員会　2000『下総のはにわ』流山市立博物館
81 辻　史郎　1998『119　流山廃寺』『千葉県の歴史　資料編　考古３（奈良･平安時代）』千葉県
82 流山市教育委員会　1992『Ⅱ．市野谷地蔵谷津遺跡』『平成３年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
83 流山市教育委員会　1997『Ⅰ．市野谷地蔵谷ツ遺跡Ｂ地点』『平成８年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
84 流山市教育委員会　2007『Ⅴ．思井堀ノ内遺跡』『平成17年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
85 流山市教育委員会　2009『中世の流山を探る　附．流山市内板碑集成』流山市立博物館
86 大久保奈奈　2013『思井堀ノ内遺跡中世墓副葬品詳細調査報告』『研究紀要28』千葉県教育振興財団

87　流山市教育委員会　1996「Ⅲ．花輪城跡」『平成７年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
88　流山市教育委員会　2000「Ⅱ．名都借城跡」『平成11年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
89　流山市教育委員会　2014「Ⅰ.名都借城跡」『平成24年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』
90　遠山成一・笹生　衛　1998「73　小金城跡」「千葉県の歴史　資料編　中世Ⅰ（考古資料）」千葉県
91　（財）千葉県文化財センター　1997「流山市若宮第Ⅱ遺跡－都市計画道路３・３・２号線（新川南流山線）埋蔵文化財発掘調査報告書－」千葉県文化財センター調査報告第296集
なお、調査範囲は若宮第Ⅱ遺跡から加東割遺跡にまたがっており、中世遺構が検出された部分は加東割遺跡の範囲内に当たる。
92　（株）地域文化財研究所　2014「加東割遺跡　３次」
93　北澤　滋　1998「72　三輪野山遺跡群（三輪野山道六神遺跡Ｂ地点）」「千葉県の歴史　資料編　中世Ⅰ（考古資料）」千葉県
94　流山市教育委員会　2007「Ⅰ.駒木野馬土手」『平成18年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』流山市教育委員会
95　（公財）千葉県教育振興財団　2017「流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書９－流山市十太夫野馬土手、流山市・柏市市野谷駒木野馬土手、流山市駒木野馬土手－」千葉県教育振興財団調査報告第767集
96　流山市教育委員会　1988「Ⅰ.十太夫野馬土手」『昭和62年度流山市市内遺跡群発掘調査報告』
97　流山市教育委員会　2007「Ⅲ.十太夫野馬土手」「平成17年度流山市市内遺跡発掘調査報告書」
98　流山市教育委員会　2007「Ⅱ.十太夫野馬土手」「平成18年度流山市市内遺跡発掘調査報告書」
99　流山市教育委員会　2021「Ⅲ.十太夫野馬土手（7）」「令和元年度流山市市内遺跡発掘調査報告書」
100　流山市教育委員会　2021「Ⅴ.駒木中橋上遺跡　市野谷・駒木野馬土手」「令和元年度流山市市内遺跡発掘調査報告書」
101　流山市教育委員会　2010「Ⅲ.野々下元木戸遺跡（第６次）・野々下野馬土手」「平成20年度流山市市内遺跡発掘調査報告書」
102　（財）千葉県教育振興財団　2011「流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書５－流山市大久保遺跡（下層）・市野谷向山遺跡（下層）・東初石六丁目第Ⅰ遺跡（下層）・東初石六丁目第Ⅱ遺跡・十太夫第Ⅱ遺跡－」（財）千葉県教育振興財団
103　（公財）千葉県教育振興財団　2011「流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書６－流山市市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷入台遺跡・西初石五丁目遺跡－旧石器時代編」（公財）千葉県教育振興財団

上記以外の関連文献

（財）千葉県史料研究財団編　1997『千葉県の自然誌　本編２　千葉県の大地』千葉県
（財）千葉県文化財センター　1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－谷・上貝塚・若葉台・塚（１）・（２）・馬土手（１）・（２）・（３）－』千葉県文化財センター調査報告第113集
（財）千葉県文化財センター　1994『流山市上新宿貝塚発掘調査報告書』
千葉県教育委員会　1995『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅰ－旧下総国地域－』
流山市立博物館市史編さん係編　2001「流山市史　通史編Ⅰ」流山市教育委員会
流山市立博物館編　2015『ふるさと流山のあゆみ』流山市教育委員会

第３表　市野谷宮後遺跡（南側）上層遺構一覧表

調査次	調査年度	報告時遺構名	調査時遺構名	遺構種別	時期（土器類から）	時期（銭貨から）●	位　置	備　考
(7)	平成20･21	(7)SK002	SK002	土坑			N14-68	
(7)	平成20･21	(7)SK003	SK003	土坑			N14-48	
(7)	平成20･21	(7)SK004	SK004	土坑			N14-49	
(7)	平成20･21	(7)SK005	SK005	土坑	15C		O14-32	
(7)	平成20･21	(7)SK006	SK006	土坑	15C		O13-81	
(7)	平成20･21	(7)SK007	SK007	土坑			O14-21	
(7)	平成20･21	(7)SK009	SK009	井戸状遺構			O14-46	
(7)	平成20･21	(7)SK010	SK010	井戸状遺構	16C		O13-89	
(7)	平成20･21	(7)SK011	SK011	土坑			O14-08	
(7)	平成20･21	(7)SX001	SX001	地下式坑			N14-47	
(7)	平成20･21	(7)SX002	SX002	地下式坑			N14-56	
(7)	平成20･21	(7)SX003	SX003	地下式坑	中・近世		N14-65	
(7)	平成20･21	(7)SX004	SX004	土坑（井戸状遺構）			N14-18	
(7)	平成20･21	(7)SX005	SX005	土坑	16C		N14-98	
(7)	平成20･21	(7)SX006	SX006	土坑（井戸状遺構）			N14-49	
(7)	平成20･21	(7)SX010	SX010	土坑			O14-26	
(7)	平成20･21	(7)SX011	SX011	土坑			N14-29	
(11)	平成21	(11)SK2001	SK2001	地下式坑	15C		N14-54	
(11)	平成21	(11)SK2002	SK2002	地下式坑	17C初		N14-44	
(11)	平成21	(11)SK2003	SK2003	地下式坑			N14-55	
(11)	平成21	(11)SK2004	SK2004	井戸状遺構			N14-53	
(11)	平成21	(11)SK2005	SK2005	地下式坑	16C		N14-53	
(11)	平成21	(11)SK2006	SK2006	土坑			N14-64	
(11)	平成21	(11)SK2007	SK2007	地下式坑	17C		N14-55	
(11)	平成21	(11)SK2008	SK2008	土坑			O15-00	
(11)	平成21	(11)SK2009	SK2009	土坑	15C		O14-83	
(11)	平成21	(11)SK2010	SK2010	土坑	16C		O14-54	
(11)	平成21	(11)SK2011	SK2011	土坑			O14-74	
(11)	平成21	(11)SK2012	SK2012	土坑	16C		O14-65	
(11)	平成21	(11)SK2013	SK2013	土坑	16C末		O14-65	
(11)	平成21	(11)SK2014	SK2014	土坑	近世		O14-57	
(11)	平成21	(11)SX2002	SX2002	井戸状遺構？	近世		N15-08	
(11)	平成21	(11)SX2003	SX2003	井戸状遺構？	中・近世		N15-07	
(12)	平成24	(12)SK001	SK001	土坑			R14-68	
(15)	平成28･29	(15)SK001	SK001	陥穴	縄文後期		M13-45	
(15)	平成28･29	(15)SK002	SK002	陥穴			N13-30	
(15)	平成28･29	(15)SK003	SK003	地下式坑			M13-25	
(15)	平成28･29	(15)SK004	SK004	地下式坑			M13-72	
(15)	平成28･29	(15)SK005	SK005	地下式坑	中世		N13-82	
(15)	平成28･29	(15)SK006	SK006	地下式坑	16C		N14-01	
(15)	平成28･29	(15)SK007	SK007	地下式坑			N13-90	
(15)	平成28･29	(15)SK008	SK008	地下式坑	16C		M13-96	
(15)	平成28･29	(15)SK009	SK009	地下式坑			N13-70	
(15)	平成28･29	(15)SK010	SK010	地下式坑			N13-42	
(15)	平成28･29	(15)SK011	SK011	地下式坑			M13-23	
(15)	平成28･29	(15)SK012	SK012	地下式坑			N13-44	
(15)	平成28･29	(15)SK013	SK013	地下式坑			N13-74	
(15)	平成28･29	(15)SK014	SK014	地下式坑			N13-33	
(15)	平成28･29	(15)SK015	SK015	地下式坑	近世		M13-87	
(15)	平成28･29	(15)SK016	SK016	地下式坑			M13-84	
(16)	平成30･31・令和元	(16)SK001	SK001	土坑			Q15-47	
(16)	平成30･31・令和元	(16)SK002	SK002	土坑			Q15-57	
(16)	平成30･31・令和元	(16)SK003	SK003	土坑墓		北側掘込Ⅱ 南側掘込Ⅰ	R15-32	

調査次	調査年度	報告時遺構名	調査時遺構名	遺構種別	時期 (土器類から)	時期 (銘貨から)*	位　置	備　考
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK004	SK004	土坑墓			R15-22	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK005A	SK005A	土坑墓		Ⅱ	R15-40	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK005B	SK005B	土坑墓		Ⅲ	R15-40	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK006	SK006	土坑墓		Ⅳ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK007A	SK007A	土坑墓		Ⅱ	R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK007B	SK007B	土坑墓			R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK008	SK008	土坑墓		Ⅲ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK009	SK009	土坑墓			R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK010	SK010	土坑墓		Ⅲ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK011	SK011	土坑墓		Ⅲ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK012	SK012	土坑墓		Ⅲ	R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK013	SK013	土坑墓			R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK014	SK014	土坑	16C		R14-93	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK015	SK015	土坑墓	16C	Ⅱ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK017	SK017	土坑墓		Ⅰ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK018	SK018	土坑墓	16C	Ⅰ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK019	SK019	土坑墓			R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK020	SK020	土坑墓		Ⅲ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK021	SK021	土坑墓	16C	Ⅲ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK022	SK022	土坑墓		Ⅰ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK023A	SK023A	土坑墓		Ⅳ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK023B	SK023B	土坑墓			R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK023C	SK023C	土坑墓		Ⅲ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK024	SK024	土坑墓		Ⅱ　Ⅲ	R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK025A	SK025A	土坑墓	16C		R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK025B	SK025B	土坑墓		Ⅳ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK026	SK026	土坑墓		Ⅰ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK027	SK027	土坑墓		Ⅱ	R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK028A	SK028A	土坑墓		Ⅲ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK028B	SK028B	土坑墓		Ⅲ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK028C	SK028C	土坑墓		Ⅰ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK028D	SK028D	土坑墓			R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK029	SK029	土坑墓	中・近世	Ⅲ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK030	SK030	土坑墓		Ⅱ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK031	SK031	土坑墓	16C	Ⅳ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK032	SK032	土坑墓			R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK033	SK033	土坑墓		Ⅰ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK034	SK034	土坑墓		Ⅰ　Ⅲ	R15-22	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK035	SK035	土坑墓	16C	Ⅲ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK036	SK036	土坑墓		Ⅰ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK037	SK037	土坑墓		Ⅱ	R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK038	SK038	土坑墓			R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK039	SK039	土坑墓		Ⅱ	R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK040	SK040	土坑墓		Ⅳ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK042	SK042	土坑墓			R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK043	SK043	土坑墓			R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK044	SK044	土坑墓			R15-20	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK045	SK045	土坑墓			R15-22	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK046	SK046	土坑墓			R15-31	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK047A	SK047A	土坑墓			R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK047B	SK047B	土坑墓		Ⅲ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK048	SK048	土坑墓		Ⅲ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK049	SK049	土坑墓		Ⅲ	R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK050	SK050	土坑墓		Ⅰ	R15-32	
(16)	平成30･31･令和元	(16)SK051	SK051	土坑墓		Ⅲ	R15-32	

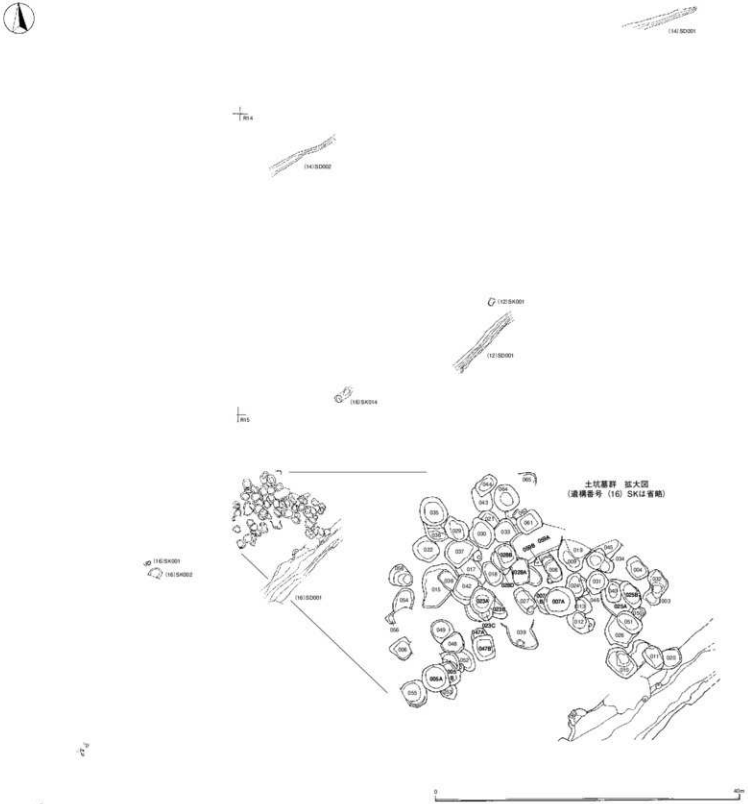
調査次	調査年度	報告時遺構名	調査時遺構名	遺構種別	時期（土器類から）	時期（銭貨から）＊	位　置	備　考
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK052	SK052	土坑墓			R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK053	SK053	土坑墓			R15-40	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK054	SK054	土坑墓			R15-30	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK055	SK055	土坑墓		Ⅲ　Ⅳ	R15-40	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK056	SK056	土坑墓			Q15-39	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK058	SK058	土坑墓			Q15-39	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK059A	SK059A	土坑墓		Ⅲ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK059B	SK059B	土坑墓			R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK061	SK061	土坑墓		Ⅲ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK062	SK062	土坑墓			R15-41	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK063	SK063	土坑墓		Ⅲ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK064	SK064	土坑墓		Ⅳ	R15-21	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SK065	SK065	土坑墓		Ⅲ	R15-11	
(7)	平成20･21	(7) SD003	SD003	溝状遺構			O14-24	
(7)	平成20･21	(7) SD004	SD004	溝状遺構			O14-21	
(7)	平成20･21	(7) SD006	SD006	溝状遺構			O14-68	
(7)	平成20･21	(7) SD007	SD007	溝状遺構			O14-67	
(7)	平成20･21	(7) SD008	SD008	溝状遺構			O14-89	
(7)	平成20･21	(7) SD009	SD009	溝状遺構			O14-89	
(7)	平成20･21	(7) SD010	SD010	溝状遺構	16C～17C初		O13-78	
(11)	平成21	(11) SD2001	SD2001	溝状遺構	中・近世		M14-99	
(11)	平成21	(11) SD2002	SD2002	溝状遺構	中・近世		O14-24	
(11)	平成21	(11) SD2003	SD2003	溝状遺構	16C		O14-19	
(11)	平成21	(11) SD2004	SD2004	溝状遺構			P13-90	
(11)	平成21	(11) SD2005	SD2005	溝状遺構			O14-90	
(12)	平成24	(12) SD001	SD001	溝状遺構			R14-68	
(14)	平成26	(14) SD001	SD001	溝状遺構			S13-65	
(14)	平成26	(14) SD002	未命名	溝状遺構			R14-03	
(15)	平成28･29	(15) SD001	SD001	溝状遺構	近世		M13-40	市野谷宮後遺跡（北側）報告書に掲載漏れであったため、本報告書において掲載
(15)	平成28･29	(15) SD002	SD002	溝状遺構	近世		N13-54	
(16)	平成30･31･令和元	(16) SD001	SD001	溝状遺構	近世		R15-34	
(15)	平成28･29	(15) SA001	SA001	柵列			N13-12	
(15)	平成28･29	(15) SA002	SA002	柵列			N13-39	

＊ 銭貨による時期の設定についての詳細は、第４章第２節２ 土坑墓群の冒頭に記した。

M13
N13
O13
M14
P14
Q14
R14
S14
N15
O15
P15
Q15
R15
S15
M13
N13
O13
N14
O14
PM
S14
N15
O15
R15
S15
0
1:800
40m

第7図　遺構全体図

第８図　遺跡分割図（１）　M13･N13･N14･O14･P14･N15･O15



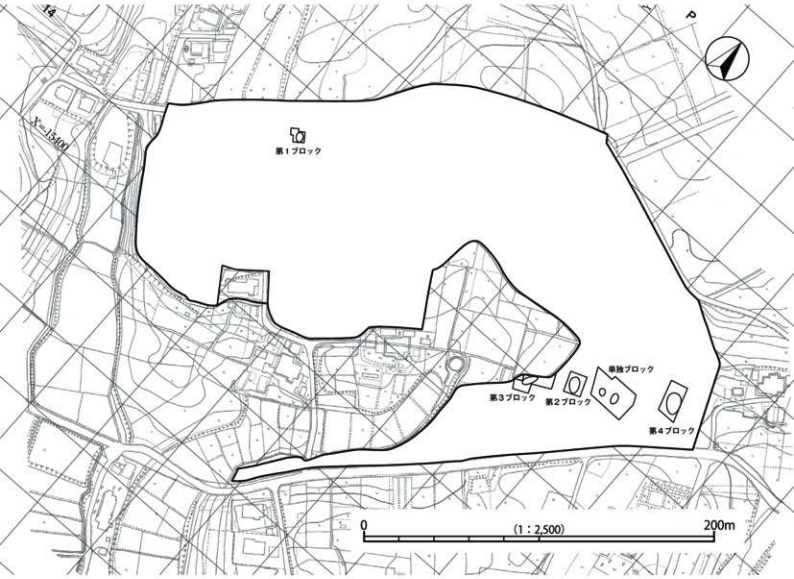
第９図　遺跡分割図（２）　S13･R14･Q15･R15

第２章　旧石器時代の遺構と遺物

第１節　概　要

市野谷宮後遺跡南側の旧石器時代の調査では、平成24年度～平成26年度および平成28年度・平成29年度に実施した５回の調査（市野谷宮後遺跡（12）～（15））において、４か所の石器集中地点（ブロック）が検出された（第10図・第11図）。

本遺跡で検出されたブロックは、出土層位に基づき、２枚の文化層に区分される。第１文化層は、Ⅶ～Ⅸ層を中心として遺物が出土し、第１ブロックが該当する。第２黒色帯の石器群である。第２文化層は、Ⅳ～Ⅴ層を中心として遺物が出土し、第２～４ブロックが該当する。礫群を主体とし、Ⅳ層下部の石器群と考えられる。



第10図　下層全測図

第２節　基本土層（第11図、図版2）

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は、西側および南側に向かって傾斜し、西側西部で一部ローム層が堆積していない場所やロームが変質化している場所があったが、概ね下総台地で広く観察される基本層序と共通している。以下に各層の概略について記す。

Ⅲ　層：暗褐色のローム層である。

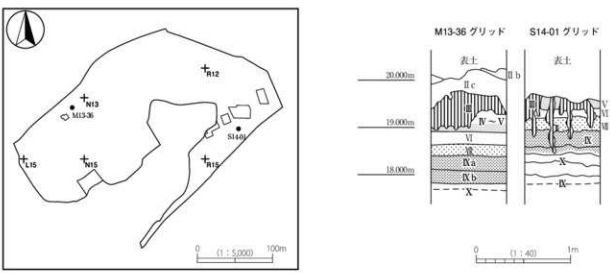
Ⅳ～Ⅴ層：硬質ローム層である。Ⅳ層に相当する部分は一部軟質化している。下部はⅤ層にあたり、立川ロームⅤ層の第１黒色帯に相当すると思われるが、上下の層より若干暗い色調を呈するのみで、不明瞭である。

Ⅵ　層：硬質ローム層である。黄褐色であり、ＡＴ（姶良丹沢火山灰）を含む層である。黒色スコリアが認められる。

Ⅶ　層：硬質ローム層である。黒色・橙色スコリアが認められる。色調はやや暗く暗褐色である。

Ⅸ　層：硬質ローム層である。暗い色調を呈し、しまりのある黒色土層である。黒色・赤色・橙色のスコリアが認められ、下部ほど多く含まれる。

Ⅹ　層：硬質ローム層である。粘性の強い灰暗褐土層であり、乳白色スコリアが認められる。



第11図　下層基本土層図

第３節　遺構と遺物

１　第１文化層

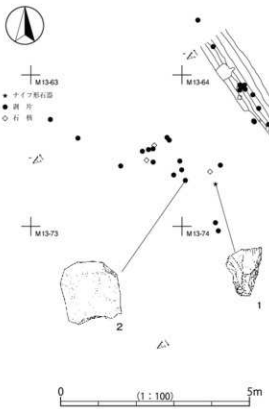
（１）第１ブロック（第12～16図、第４・８表、図版２・３）

概要　第１ブロックは、M13-63・64・74グリッドに位置する。石器群は６ｍ×２ｍほどの範囲から出土した。出土層位はⅦ～Ⅸ層である。

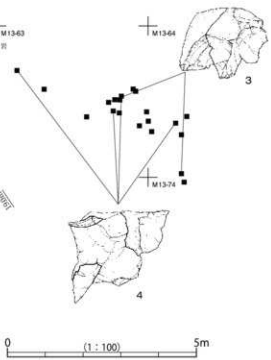
ブロックの内容は、ナイフ形石器１点、剥片16点、石核３点１個体で、計20点が出土した。石材はすべて頁岩である。

出土遺物　１は頁岩のナイフ形石器である。打面側を基部とし、縦長剥片の左側縁基部と右側縁に急角度

な調整加工が施されている。台形様石器としても良いかもしれない。２は頁岩の不定形な剥片で、表面はほぼ全面が自然面である。３（ａ・ｂ）は接合資料である。剥片２点が接合している。



第12図　第１ブロック器種別分布



第13図　第１ブロック石材別分布

第14図　第１ブロック出土遺物（１）

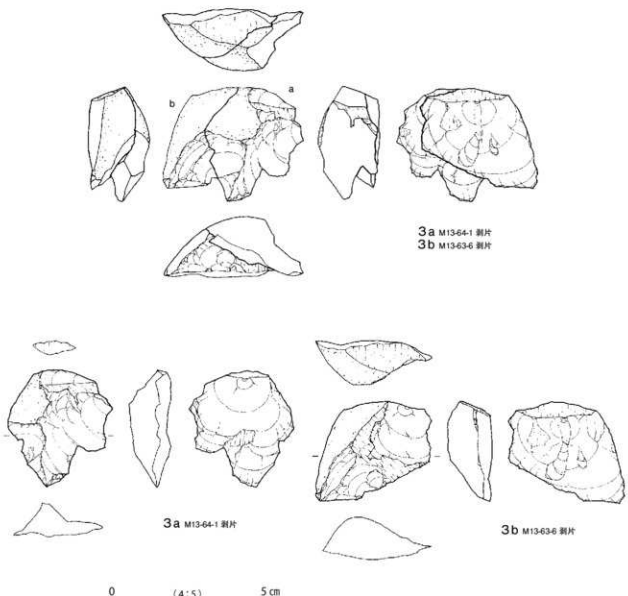
３ａ・３ｂは一部、自然面を残し、求心的な剥離痕が背面に見られる不定形な剥片である。

４（ａ～ｄ）は接合資料である。石核３点（１個体）と剥片１点が接合している。４ａ～４ｃは石核で、不定形な剥片４ｄが接合している。

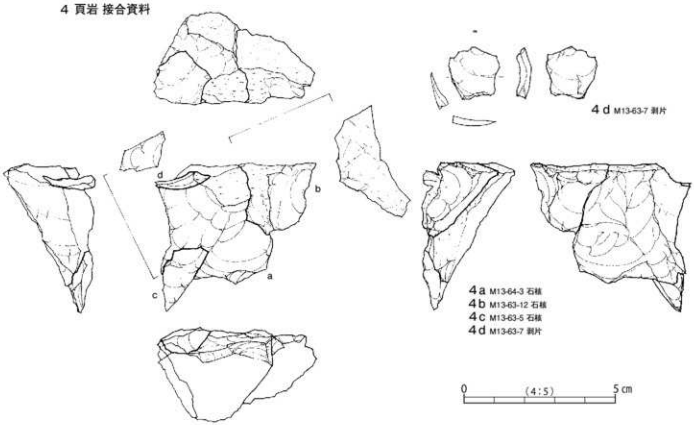
第４表　第１ブロック石器組成表

石材名/器種名	ナイフ形石器	石核	剥片	点数	重量（g）
頁岩	1	3(1)	16	20	121.8

３ 頁岩 接合資料



第15図　第１ブロック出土遺物（２）



第16図　第１ブロック出土遺物（３）

２　第２文化層

（1）第２ブロック（第17～19図、第５・８表、図版２・４）

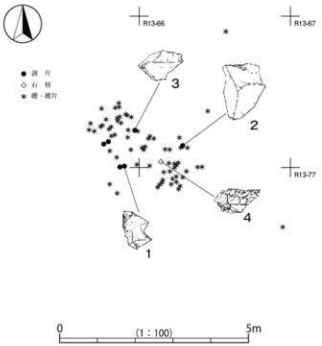
概要　第２ブロックは、R13-65・66・75・76グリッドに位置する。石器群は６ｍ×５ｍほどの範囲から出土したが、3点を除いて、３ｍ×２ｍに集中する。出土層位はⅣ～Ⅵ層で、主体はⅣ～Ⅴ層である。

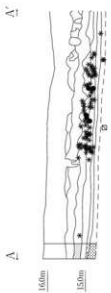
ブロックの内容は、剥片６点、石核１点、礫67点で、計74点が出土した。石器石材は黒曜石５点、頁岩２点である。礫石材はチャート10点（893.08ｇ）、ホルンフェルス１点（5.23ｇ）、安山岩２点（101.66ｇ）、砂岩13点（224.31ｇ）、流紋岩41点（1,014.95ｇ）である。

出土遺物　１は黒曜石の不定形な剥片である。２は頁岩の比較的縦長の剥片である。３は珪化度の高い頁岩の不定形な剥片である。４は黒曜石の石核である。素材の主要剥離面を打面として、小型で不定形な剥片を剥離している。

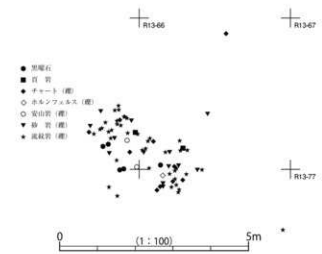
第５表　第２ブロック石器組成表

石材名/器種名	石核	剥片	点数	重量（g）	点数比	重量比
黒曜石	1	4	5	6.74	71.4%	56.3%
頁岩		2	2	5.25	28.6%	43.7%
合計	1	6	7	11.99	100.0%	100.0%

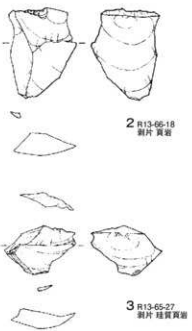


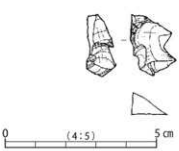


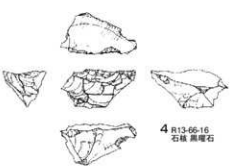
第17図　第２ブロック器種別分布



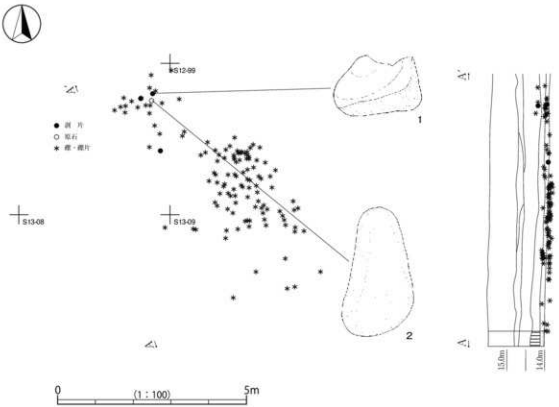
第18図　第２ブロック石材別分布



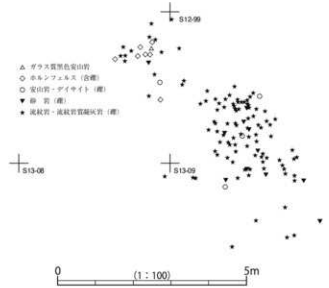




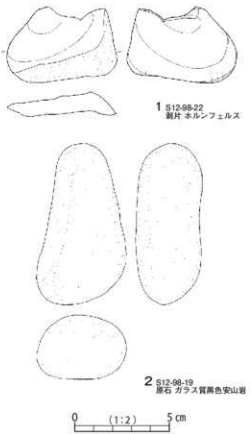
第19図　第２ブロック出土遺物



第20図　第３ブロック器種別分布



第21図　第３ブロック石材別分布



第22図　第３ブロック出土遺物

（2）第３ブロック（第20～22図、第６・８表、図版２・４）

概要　第３ブロックは、Ｓ12-98・99グリッド、Ｓ13-08・09グリッドに位置する。石器群は７ｍ×４ｍほどの範囲から出土した。出土層位はⅣ～Ⅴ層で、主体はⅤ層である。

ブロックの内容は、剥片３点、原石１点、礫132点で、計136点が出土した。石器石材はホルンフェルス３点、ガラス質黒色安山岩１点である。礫石材は安山岩・デイサイト２点（153.61ｇ）、ホルンフェルス４点（27.20ｇ）、砂岩14点（895.83ｇ）、流紋岩・流紋岩質凝灰岩112点（3,872.05ｇ）である。

出土遺物　１はホルンフェルスの横長剥片である。一部、表面に自然面が残っている。２はガラス質黒色頁岩の縦長の原石である。

第６表　第３ブロック石器組成表

石材名/器種名	剥片	原石	点数	重量（ｇ）	点数比	重量比
ホルンフェルス	3		3	60.09	75.0%	24.0%
ガラス質黒色安山岩		1	1	190.75	25.0%	76.0%
合計	3	1	4	250.84	100.0%	100.0%

（3）第４ブロック（第23～26図、第７・８表、図版２・４）

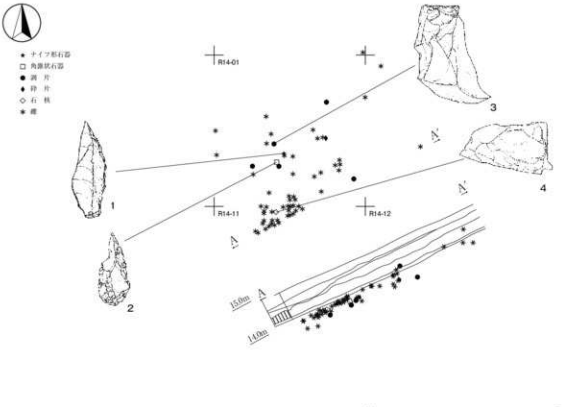
概要　第４ブロックは、Ｒ13-91グリッド、Ｒ14-01・02・11グリッドに位置する。石器群は６ｍ×４ｍほどの範囲から出土した。出土層位はⅣ～Ⅴ層である。

ブロックの内容は、ナイフ形石器１点、角錐状石器１点、剥片５点、砕片１点、石核１点、礫60点で、計69点が出土した。石器石材はガラス質黒色安山岩１点、ホルンフェルス１点、黒曜石２点、頁岩５点である。礫石材はチャート３点（206.74ｇ）、ホルンフェルス１点（1.43ｇ）、安山岩１点（333.25ｇ）、砂岩14点（510.01ｇ）、流紋岩・流紋岩質凝灰岩41点（4,282.53ｇ）である。

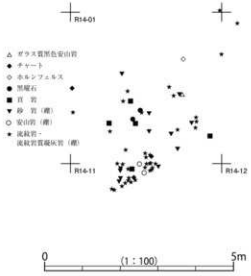
出土遺物　１は比較的良質な黒曜石の二側縁加工のナイフ形石器である。打面側を基部とし、石刃あるいは縦長剥片の左側縁基部と右側縁に急角度な調整加工、裏面基部に打面側と右側から裏面基部加工が施されている。形態や石材等から砂川期あるいはⅥ層下部～Ⅶ層に帰属する可能性があるが、出土位置および出土層位から第２文化層としておく。２は良質な黒曜石の角錐状石器である。打面側を先端とし、石刃あるいは縦長剥片の全周に急角度な鋸歯状の調整加工が施されている。３は比較的珪化度の高い頁岩の縦長剥片である。背面には、一部に自然面と打撃方向および同方向に直交する剥離面が見られる。頭部調整が顕著である。４は頁岩の石核である。比較的大型の剥片を素材とし、不定形な剥片を剥離している。

第７表　第４ブロック石器組成表

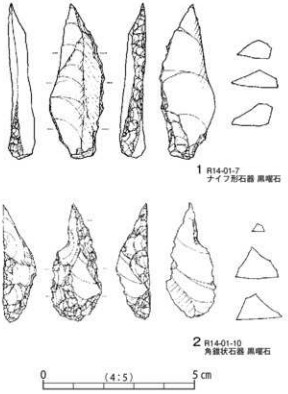
石材名/器種名	ナイフ形石器	角錐状石器	石核	剥片	砕片	点数	重量（ｇ）	点数比	重量比
黒曜石	1	1				2	9.31	22.3%	10.1%
ガラス質黒色安山岩					1	1	0.41	11.2%	0.5%
ホルンフェルス				1		1	12.44	11.2%	13.3%
頁岩			1	4		5	70.69	4.5%	76.1%
合計	1	1	1	5	1	9	92.85	100.0%	100.0%



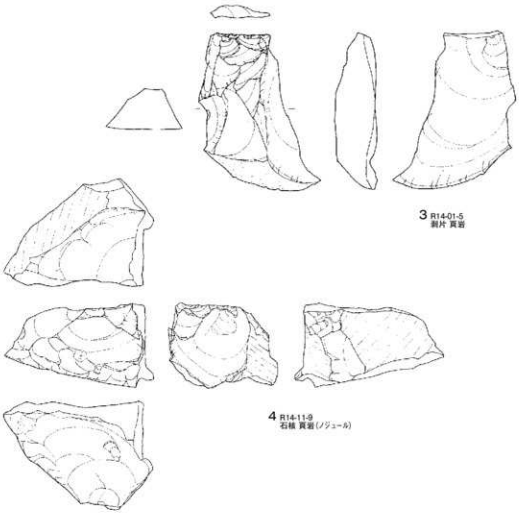
第23図　第４ブロック器種別分布



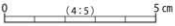
第24図　第４ブロック石材別分布



第25図　第４ブロック出土遺物（１）



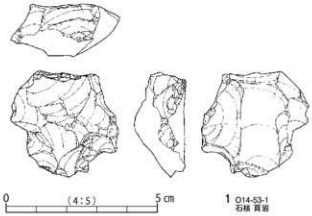
第26図　第４ブロック出土遺物（２）



３　その他の出土遺物（第27図、第８表、図版４）

概要　ブロックから出土した遺物のほか、単独で出土した遺物や上層確認の調査中に、旧石器時代に帰属する遺物が６点出土している。

出土遺物　１は良質な頁岩の石核である。両面で求心的な剥離により不定形な剥片を剥離している。



第27図　その他の出土遺物

第８表　旧石器時代出土石器属性表

調査次数	ブロック	挿図番号	グリッド	遺物番号	枝記	器種	接合	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	X	Y	Z
(15)	第１		W13-63	1		FL		頁岩	0.68	1.11	0.17	0.14	W12-64-7	7453.364	15175.763	19.701
(15)	第１		W13-63	2		FL		頁岩	3.89	4.17	1.49	13.39	W14-64-8	7453.495	15175.984	19.697
(15)	第１		W13-63	3		FL		頁岩	2.58	2.24	0.82	3.37	W14-64-9	7453.724	15175.938	19.414
(15)	第１		W13-63	4		FL		頁岩	0.97	1.66	0.23	0.3	W14-64-10	7454.340	15175.603	19.468
(15)	第１	第16図4 c	W13-63	5		CO		頁岩	1.63	2.42	0.75	1.68	W14-64-11	7454.134	15175.259	19.566
(15)	第１	第15図3 b	W13-63	6		FL		頁岩	5.14	3.21	1.42	15.77	W14-64-12	7453.985	15174.944	19.464
(15)	第１	第16図4 d	W13-63	7		CO		頁岩	1.7	1.67	0.37	1	W14-64-13	7453.750	15175.059	19.676
(15)	第１		W13-63	8		FL		頁岩	3.24	2.04	0.94	4.39	W14-64-14	7453.596	15174.366	19.481
(15)	第１		W13-63	9		FL		頁岩	2.8	1.8	0.53	2.54	W14-64-15	7454.334	15173.246	19.497
(15)	第１		W13-63	10		FL		頁岩	0.99	1.13	0.22	0.22	W14-64-16	7454.283	15175.649	19.421
(15)	第１		W13-63	11		FL		頁岩	3.58	3.37	0.77	7.94	W14-64-17	7454.054	15175.228	19.556
(15)	第１	第16図4 b	W13-63	12		FL		頁岩	3.25	2.9	1.38	8.51	W14-64-18	7454.818	15172.522	19.442
(15)	第１		W13-63	13		FL		頁岩	1.91	2.42	0.39	2.16	W14-64-19	7453.707	15175.231	19.325
(15)	第１		W13-63	14		FL		頁岩	1.97	2.17	0.51	1.32	W14-64-20	7454.034	15175.108	19.388
(15)	第１	第15図3 a	W13-64	1		FL		頁岩	3.82	3.53	1.34	11.05	W14-64-2	7452.104	15176.883	19.429
(15)	第１	第14図1	W13-64	2		KN		頁岩	2.65	1.94	0.84	4.02	W14-64-3	7453.125	15176.875	19.405
(15)	第１	第16図4 n	W13-64	3		CO		頁岩	3.81	4.44	2.27	33.05	W14-64-4	7453.444	15176.719	19.452
(15)	第１		W13-64	4		FL		頁岩	1.28	1.91	0.47	0.95	W14-64-5	7453.612	15176.999	19.444
(15)	第１	第14図2	W13-64	5		FL		頁岩	3.24	3.04	1.06	9.49	W14-64-6	7453.214	15176.097	19.442
(15)	第１		W13-74	1		FL		頁岩	1.92	0.88	0.45	0.51	W14-64-1	7451.897	15176.947	19.427
(14)	第２		R13-65	2		PF		安山岩				0.66		7452.078	15383.937	15.029
(14)	第２		R13-65	3		PF	2a	チャート				3.71		7452.476	15383.739	15.037
(14)	第２		R13-65	4		PF	2b	流紋岩				29.42		7452.265	15383.400	15.028
(14)	第２		R13-65	5		FL		黒曜石	1.62	1.19	0.54	0.67		7452.027	15383.606	14.971
(14)	第２	第19図1	R13-65	6		FL		黒曜石	2.15	1.57	0.91	1.62		7452.011	15383.487	14.968
(14)	第２		R13-65	7		PF		流紋岩				3.88		7452.954	15383.962	14.859
(14)	第２		R13-65	8		PF		流紋岩				6.49		7452.983	15383.700	14.991
(14)	第２		R13-65	9		PF		砂岩				6.95		7452.855	15383.338	14.929
(14)	第２		R13-65	10		FL		黒曜石	0.96	1.61	0.35	0.4		7452.686	15383.180	14.921
(14)	第２		R13-65	11		FL		黒曜石	1.79	1.28	0.87	1.43		7452.619	15383.056	14.796
(14)	第２		R13-65	12		PF		流紋岩				4.72		7452.957	15382.802	14.938
(14)	第２		R13-65	13		PF		砂岩				36.06		7453.166	15382.704	14.919
(14)	第２		R13-65	14		PF	2b	流紋岩				115.26		7453.112	15383.022	14.974
(14)	第２		R13-65	15		PF	2c	流紋岩				122.53		7453.068	15383.253	14.909
(14)	第２		R13-65	16		PF	2c	流紋岩				90.88		7453.297	15383.408	14.826
(14)	第２		R13-65	17		PF	2a	チャート				356.81		7453.328	15383.484	14.819
(14)	第２		R13-65	18		PF		流紋岩				11.28		7453.702	15383.430	14.838
(14)	第２		R13-65	19		PF		砂岩				5.35		7453.559	15382.996	14.761
(14)	第２		R13-65	20		PF		流紋岩				91.93		7453.372	15383.680	14.761
(14)	第２		R13-65	21	a	PF		流紋岩				89.37		7453.396	15383.629	14.821
(14)	第２		R13-65	21	b	PF		流紋岩				37.54		7453.396	15383.629	14.821
(14)	第２		R13-65	22		PF		流紋岩						7453.267	15383.112	14.734
(14)	第２		R13-65	23		PF		チャート				465.39		7453.000	15382.670	14.776
(14)	第２		R13-65	24		PF		安山岩				101		7452.792	15383.683	14.846
(14)	第２		R13-65	25		PF		砂岩				57.67		7452.444	15383.217	14.871
(14)	第２		R13-65	26		PF	2d	流紋岩				79.97		7452.835	15383.251	14.874
(14)	第２	第19図3	R13-65	27		FL		頁岩	1.57	2.47	0.54	1.59		7452.976	15383.894	14.801
(14)	第２		R13-65	28		PF	2d	流紋岩				41.12		7453.071	15382.964	14.787
(14)	第２		R13-65	29		PF	2d	流紋岩				49.07		7453.010	15383.195	14.821
(14)	第２		R13-65	30		PF	2c	流紋岩				10.07		7453.212	15383.425	14.729
(14)	第２		R13-65	31		PF		流紋岩				20.13		7453.183	15383.515	14.729
(14)	第２		R13-65	32		PF		砂岩				6.9		7453.573	15383.360	14.507
(14)	第２		R13-65	33		PF		砂岩				14.75		7453.321	15383.790	14.781
(14)	第２		R13-65	34		PF		流紋岩				19.36		7453.598	15383.462	14.501
(14)	第２		R13-66	2		PF		チャート				21.56		7455.593	15386.281	14.602
(14)	第２		R13-66	3		PF		砂岩				2.9		7453.489	15385.807	14.839
(14)	第２		R13-66	4		PF		流紋岩				4.67		7452.519	15385.276	14.989
(14)	第２		R13-66	5		PF		流紋岩				12.16		7452.519	15385.088	14.954
(14)	第２		R13-66	6		PF		流紋岩				8.96		7452.482	15384.676	14.948
(14)	第２		R13-66	7		PF		チャート				0.38		7452.766	15384.371	14.866
(14)	第２		R13-66	8		PF		流紋岩				17.93		7452.766	15384.232	15.091
(14)	第２		R13-66	9		PF		流紋岩				12.84		7452.061	15384.980	14.969
(14)	第２		R13-66	10		PF		砂岩				19.46		7452.117	15384.781	15.008
(14)	第２		R13-66	11		PF		砂岩				1.76		7452.472	15384.121	15.046
(14)	第２		R13-66	12		PF		流紋岩				11.92		7451.989	15384.930	15.049
(14)	第２		R13-66	13		PF		砂岩				14.74		7452.010	15385.546	15.131
(14)	第２		R13-66	14		PF		流紋岩				2.53		7452.042	15384.261	15.121
(14)	第２		R13-66	15		PF		流紋岩				11.96		7452.010	15385.656	15.116
(14)	第２	第19図4	R13-66	16		CO		黒曜石	1.47	2.51	1.11	2.62		7452.145	15384.561	14.499
(14)	第２		R13-66	17		PF		流紋岩				19.53		7452.781	15385.056	15.028
(14)	第２	第19図2	R13-66	18		FL		頁岩	3.17	2.31	0.87	3.46		7452.584	15385.144	14.877
(14)	第２		R13-66	19		PF		砂岩				33.06		7452.478	15384.801	14.901
(14)	第２		R13-66	20		PF		砂岩				23.19		7452.133	15385.031	14.896
(14)	第２		R13-66	21		PF		チャート				15.86		7452.097	15384.931	14.914
(14)	第２		R13-66	22		PF		流紋岩				1.57		7452.829	15384.283	14.771
(14)	第２		R13-66	23		PF		流紋岩				8.74		7452.530	15384.082	14.899

調査次数	ブロック	掘図番号	グリッド	遺物番号	枝記	器種	接合	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	X	Y	Z
(14)	第2		R13-66	24		PF		流紋岩				1.41		7452.555	15384.166	14.831
(14)	第2		R13-75	2		PF		流紋岩				15.23		7451.321	15383.415	14.971
(14)	第2		R13-75	3		PF		流紋岩				20.62		7451.560	15383.215	14.886
(14)	第2		R13-76	2		PF		流紋岩				4.24		7450.435	15387.795	15.176
(14)	第2		R13-76	3		PF		流紋岩				5.96		7451.614	15384.985	14.985
(14)	第2		R13-76	4		PF		流紋岩				4.08		7451.493	15385.063	15.183
(14)	第2		R13-76	5		PF		流紋岩				2.93		7451.558	15384.845	14.821
(14)	第2		R13-76	6		PF		砂岩				8.42		7451.565	15384.630	14.979
(14)	第2		R13-76	7		PF		チャート				13.96		7451.489	15384.481	14.931
(14)	第2		R13-76	8		PF		流紋岩				0.74		7451.894	15385.245	15.164
(14)	第2		R13-76	9		PF		チャート				6.13		7451.740	15385.146	14.869
(14)	第2		R13-76	10		PF		流紋岩				9.73		7451.761	15384.954	15.036
(14)	第2		R13-76	11		PF		砂岩				11.69		7451.658	15384.628	14.981
(14)	第2		R13-76	12		PF		チャート				2.81		7451.562	15384.540	14.901
(14)	第2		R13-76	13		PF		流紋岩				7.9		7451.426	15385.035	14.906
(14)	第2		R13-76	14		PF		ホルンフェルス				5.23		7451.865	15384.636	14.924
(14)	第2		R13-76	15		PF		チャート				6.47		7451.704	15384.879	14.793
(14)	第2		R13-76	16		PF		流紋岩				5.4		7451.896	15384.803	14.906
(2)	第3		S12-98	1		PF		流紋岩				99.85				13.98
(13)	第3		S12-98	2		PF		流紋岩				124.42		7483.683	15435.502	14.01
(13)	第3		S12-98	3		PF		流紋岩				28.84		7483.356	15435.453	13.962
(13)	第3		S12-98	4		PF	3a	流紋岩				5.97		7483.272	15435.611	14.187
(13)	第3		S12-98	5	a	FL		ホルンフェルス	1.93	3.06	0.96	3.99		7483.070	15435.218	14.185
(13)	第3		S12-98	5	b	PF		砂岩				0.58				14.185
(13)	第3		S12-98	6		PF		ホルンフェルス				4.53		7482.831	15435.146	14.256
(13)	第3		S12-98	7		PF	3a	流紋岩				12.14		7483.075	15434.760	13.973
(13)	第3		S12-98	8		PF		流紋岩				63.72		7482.839	15434.687	13.989
(13)	第3		S12-98	9		PF		ホルンフェルス				11.83		7482.749	15434.532	13.94
(13)	第3		S12-98	10		PF		ホルンフェルス				3.47		7482.886	15435.364	14.002
(13)	第3		S12-98	11		PF		ホルンフェルス				7.37		7482.878	15435.477	13.976
(13)	第3		S12-98	12		PF		砂岩				6.97		7482.676	15435.449	13.96
(13)	第3		S12-98	13		PF		流紋岩				3		7482.945	15435.781	14.047
(13)	第3		S12-98	14		PF	3b	流紋岩				87.44		7482.353	15435.696	13.886
(13)	第3		S12-98	16		PF	3b	流紋岩				3.96		7481.785	15435.444	13.908
(13)	第3		S12-98	17		FL		ホルンフェルス	4.79	4.10	1.47	25.96		7481.696	15435.746	13.895
(13)	第3		S12-98	18		PF		流紋岩				36.23		7482.869	15434.823	13.968
(13)	第3	第22図2	S12-98	19		GE		ガラス質黒色安山岩	8.96	4.66	3.45	190.75		7483.017	15435.507	13.966
(13)	第3		S12-98	20		PF		流紋岩				24.79		7482.987	15434.975	14.038
(13)	第3		S12-98	21		PF		流紋岩				41.91		7482.699	15434.812	13.912
(13)	第3	第22図1	S12-98	22		FL		ホルンフェルス	4.05	5.79	1.19	30.14		7483.204	15435.539	13.95
(13)	第3		S12-99	1	a, b (19, 98g)	PF		流紋岩				20.78				
(13)	第3		S12-99	3		PF		流紋岩				1.15		7483.054	15436.243	13.986
(13)	第3		S12-99	4		PF		流紋岩				9.03		7482.189	15436.364	13.956
(13)	第3		S12-99	38		PF		流紋岩				44.33		7482.079	15436.326	13.882
(13)	第3		S12-99	2		PF		流紋岩				2.31		7483.815	15436.038	14.211
(13)	第3		S12-99	5		PF		流紋岩				2.87		7481.921	15436.987	14.027
(13)	第3		S12-99	6		PF		流紋岩				9.86		7481.645	15436.935	13.999
(13)	第3		S12-99	7		PF		流紋岩				3.1		7481.117	15437.158	13.961
(13)	第3		S12-99	8		PF		流紋岩				2.84		7480.851	15437.247	14.042
(13)	第3		S12-99	9		PF	4a	流紋岩				58.26		7480.327	15437.196	13.92
(13)	第3		S12-99	10		PF		流紋岩				8.74		7480.042	15437.659	13.875
(13)	第3		S12-99	11		PF		流紋岩				8.4		7480.321	15437.733	13.883
(13)	第3		S12-99	12		PF		流紋岩				16.8		7480.565	15437.537	13.999
(13)	第3		S12-99	13		PF		流紋岩				11.57		7481.059	15437.524	13.905
(13)	第3		S12-99	14		PF		流紋岩				6.78		7480.719	15438.088	14.038
(13)	第3		S12-99	15		PF		流紋岩				29.57		7480.939	15438.045	13.978
(13)	第3		S12-99	16		PF		流紋岩				24.51		7481.456	15437.831	13.995
(13)	第3		S12-99	17		PF		流紋岩				5.02		7481.816	15437.577	13.994
(13)	第3		S12-99	18		PF		流紋岩				5.7		7482.040	15437.707	14.003
(13)	第3		S12-99	19		PF	4a	流紋岩				27.23		7481.779	15438.128	13.892
(13)	第3		S12-99	20		PF		安山岩				143.56		7481.778	15438.363	13.858
(13)	第3		S12-99	21		PF		流紋岩				15.28		7481.382	15438.502	13.896
(13)	第3		S12-99	22		PF		流紋岩				1.34		7481.017	15438.333	13.925
(13)	第3		S12-99	23		PF		流紋岩				18.28		7481.022	15438.645	13.9
(13)	第3		S12-99	24		PF		流紋岩				1.36		7480.725	15438.684	14.06
(13)	第3		S12-99	25		PF	4f	流紋岩				25.7		7480.154	15438.559	14.087
(13)	第3		S12-99	26		PF		流紋岩				9.41		7480.183	15438.416	13.886
(13)	第3		S12-99	27		PF		流紋岩				3.66		7480.094	15438.892	13.969
(13)	第3		S12-99	28		PF		流紋岩				21.89		7480.363	15439.242	14.028
(13)	第3		S12-99	29		PF	4b	流紋岩				22.35		7480.166	15439.358	14.063
(13)	第3		S12-99	30		PF		流紋岩質凝灰岩				1.39		7480.565	15437.322	13.923
(13)	第3		S12-99	31		PF		流紋岩				7.18		7481.182	15438.785	13.872
(13)	第3		S12-99	32		PF	4b	流紋岩				67.84		7480.047	15438.452	14.063
(13)	第3		S12-99	33		PF		流紋岩				3.19		7480.766	15438.275	13.909
(13)	第3		S12-99	34		PF		流紋岩				9.7		7480.131	15439.283	14.034
(13)	第3		S12-99	35		PF		流紋岩				64.59		7481.851	15438.197	13.867

調査次数	ブロック	掘図番号	グリッド	遺物番号	枝記	器種	接合	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	X	Y	Z
(13)	第3		S12-99	36		PF		流紋岩				4.13		7481.578	15437.682	13.909
(13)	第3		S12-99	37		PF		流紋岩				16.04		7480.502	15437.585	13.87
(13)	第3		S12-99	39		PF		流紋岩				11.18		7480.591	15438.300	13.876
(13)	第3		S12-99	40		PF	4c	砂岩				98.19		7480.962	15438.333	13.836
(13)	第3		S12-99	41		PF		流紋岩				4.95		7480.468	15438.045	13.855
(13)	第3		S12-99	42		PF	4d	流紋岩				72.83		7480.503	15437.720	13.825
(13)	第3		S12-99	43		PF		デイサイト				10.05		7480.734	15437.915	13.884
(13)	第3		S12-99	44		PF		砂岩				8.07		7481.487	15438.025	13.868
(13)	第3		S12-99	45		PF		流紋岩				13.48		7480.705	15437.194	13.87
(13)	第3		S12-99	46		PF		流紋岩				45.44		7480.892	15437.024	13.832
(13)	第3		S12-99	47		PF		砂岩				41.4		7480.810	15437.439	13.845
(13)	第3		S12-99	48		PF		流紋岩				2.95		7480.753	15437.408	13.857
(13)	第3		S12-99	49		PF		流紋岩				5.56		7480.238	15437.241	13.841
(13)	第3		S12-99	50		PF		流紋岩				28.09		7480.155	15437.520	13.891
(13)	第3		S12-99	51		PF		流紋岩				4.83		7480.020	15437.753	13.872
(13)	第3		S12-99	52		PF	4d	流紋岩				74.31		7480.212	15438.250	13.82
(13)	第3		S12-99	53		PF	4e	流紋岩質凝灰岩				68.95		7480.676	15437.680	13.84
(13)	第3		S12-99	54		PF		流紋岩				21.91		7481.537	15438.077	13.855
(13)	第3		S12-99	55		PF	4d	流紋岩				19.3		7480.261	15438.062	13.811
(13)	第3		S12-99	56		PF		流紋岩				9.1		7481.059	15437.198	13.831
(13)	第3		S12-99	57		PF		砂岩				92.81		7481.103	15437.635	13.82
(13)	第3		S12-99	58		PF	4e	流紋岩質凝灰岩				15.28		7481.139	15438.298	13.963
(13)	第3		S12-99	59		PF		流紋岩				9.81		7481.407	15437.357	13.848
(13)	第3		S12-99	60		PF	4c	砂岩				32.75		7480.320	15438.684	13.822
(13)	第3		S12-99	61		PF		流紋岩質凝灰岩				4.24		7481.724	15437.857	13.873
(13)	第3		S12-99	62		PF		砂岩				0.94		7480.596	15437.497	13.856
(13)	第3		S12-99	63		PF	4g	流紋岩				271.28		7480.769	15438.009	13.762
(13)	第3		S12-99	64		PF		流紋岩質凝灰岩				141.47		7480.612	15437.725	13.817
(13)	第3		S12-99	65	a	PF		流紋岩				62.69		7480.946	15437.583	13.815
(13)	第3		S12-99	66		PF		流紋岩				2.21		7481.467	15437.706	13.845
(13)	第3		S12-99	67		PF		流紋岩				17.87		7481.581	15436.806	13.824
(13)	第3		S12-99	68		PF		流紋岩				0.51		7481.254	15438.203	19.844
(13)	第3		S12-99	69		PF		流紋岩				76.36		7481.477	15438.068	13.818
(13)	第3		S12-99	70		PF		流紋岩				21.4				13.792
(13)	第3		S12-99	71		PF		流紋岩				63.21		7481.419	15437.243	13.817
(13)	第3		S12-99	72		PF		砂岩				449.29		7480.916	15438.098	13.763
(13)	第3		S12-99	73		PF		流紋岩				12.96		7481.066	15437.722	13.819
(13)	第3		S12-99	74		PF		流紋岩				183.09		7481.625	15437.962	13.818
(13)	第3		S12-99	75		PF		流紋岩				7.86		7480.774	15437.881	13.806
(13)	第3		S12-99	76		PF		流紋岩				112.27		7481.673	15438.039	13.815
(13)	第3		S12-99	77		PF		砂岩				110.35		7481.125	15437.941	13.797
(13)	第3		S12-99	78		PF		流紋岩				198.71		7481.694	15437.786	13.824
(13)	第3		S12-99	79		PF		流紋岩				8.4		7481.625	15437.858	13.822
(13)	第3		S12-99	80		PF		流紋岩				40.79		7481.587	15437.289	13.815
(13)	第3		S12-99	81		PF		流紋岩				0.97		7480.960	15438.407	13.81
(13)	第3		S12-99	82		PF	4e	流紋岩質凝灰岩				27.63		7481.194	15438.048	13.765
(13)	第3		S12-99	83		PF		流紋岩				459.92		7481.587	15438.034	13.75
(13)	第3		S12-99	84		PF		流紋岩				67.52		7481.399	15437.746	13.764
(13)	第3		S12-99	85	a, b (952.40g)	PF	4a	流紋岩				77.18		7481.518	15437.686	13.765
(13)	第3		S12-99	86		PF		流紋岩				28.99		7481.443	15438.290	13.766
(13)	第3		S12-99	87		PF		流紋岩				6.73		7481.103	15438.565	13.799
(13)	第3		S12-99	88		PF		流紋岩				41.81		7481.713	15437.468	13.802
(13)	第3		S12-99	89		PF		流紋岩質凝灰岩				253.97		7481.620	15437.793	13.768
(13)	第3		S12-99	90		PF		流紋岩				46.22		7481.497	15437.438	13.787
(13)	第3		S13-98	2		PF		流紋岩				5.76		7479.661	15435.871	13.88
(13)	第3		S13-99	2		PF		流紋岩				71.38		7479.615	15436.684	13.861
(13)	第3		S13-99	6		PF		流紋岩				2.96		7477.811	15437.658	13.976
(13)	第3		S13-99	7		PF		流紋岩				2.42		7478.501	15438.269	14.062
(13)	第3		S13-99	10		PF		砂岩				4.4		7479.566	15437.476	14.09
(13)	第3		S13-99	11		PF		流紋岩				6.88		7479.617	15437.784	14.1
(13)	第3		S13-99	12		PF		流紋岩				2.04		7479.833	15437.981	14.009
(13)	第3		S13-99	13		PF		砂岩				3.63		7479.724	15438.529	14.018
(13)	第3		S13-99	14		PF		流紋岩質凝灰岩				166.28		7479.732	15439.047	13.81
(13)	第3		S13-99	15		PF		流紋岩質凝灰岩				6.62		7479.554	15439.295	13.827
(13)	第3		S13-99	16		PF		砂岩				22.99		7479.575	15439.527	13.806
(13)	第3		S13-99	17		PF		砂岩				2.31		7478.502	15439.965	13.876
(13)	第3		S13-99	18		PF	4g	流紋岩				30.2		7478.847	15439.041	13.812
(13)	第3		S13-99	19		PF	4f	流紋岩				21.05		7478.111	15439.290	13.873
(13)	第3		S13-99	20		PF		流紋岩				4.76		7478.055	15439.093	13.937
(13)	第3		S13-99	21		PF		流紋岩				11.18		7479.633	15436.614	13.855
(13)	第3		S13-99	22		PF		流紋岩				4.86		7479.692	15438.077	13.93
(13)	第3		S13-99	23		PF		流紋岩				40.09		7479.678	15439.296	13.823
(13)	第3		S13-99	24		PF	4h	流紋岩				124.48				13.818
(13)	第3		S13-99	25		PF	4h	流紋岩				69.56		7479.859	15439.016	13.815
(13)	第3		S13-99	26		PF		流紋岩				20.65		7479.969	15438.971	13.806
(13)	第3		S13-99	27		PF		砂岩				22.09		7479.856	15438.049	13.816
(13)	第3		S13-99	28		PF		流紋岩				5		7479.846	15438.112	13.817
(13)	第3		S13-99	29		PF		流紋岩				15.69		7479.873	15438.490	13.809

調査次数	ブロック	挿図番号	グリッド	遺物番号	枝記	器種	接合	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	X	Y	Z
(2)	第4		R13-91	1		PF		流紋岩				287.38				13.745
(2)	第4		R14-01	1		PF		流紋岩				62.93				13.89
(12)	第4		R14-01	2		PF		砂岩				32.44		-15321.64	7885.379	13.597
(12)	第4		R14-01	3		PF	5c	流紋岩				16.83		-15322.09	7885.517	13.734
(12)	第4		R14-01	4		PF		流紋岩				51.83		-15322.36	7885.397	13.698
(12)	第4	第26図3	R14-01	5		FL		頁岩	5.19	3.67	1.32	20.88		-15322.37	7885.596	13.711
(12)	第4	第25図1	R14-01	7		KN		黒曜石	5.11	1.94	0.87	5.19		-15322.61	7885.854	13.756
(12)	第4		R14-01	8		PF		流紋岩				6.35		-15322.67	7885.875	13.768
(12)	第4		R14-01	9		PF		砂岩				10.21		-15322.69	7886.097	13.881
(12)	第4	第25図2	R14-01	10		KP?		黒曜石	3.83	1.68	1.08	4.12		-15322.85	7885.663	13.776
(12)	第4		R14-01	11		PF		砂岩				19.71		-15323.16	7886.087	13.74
(12)	第4		R14-01	12		FL		頁岩	1.65	2.05	0.99	2.77		-15322.95	7885.02	13.694
(12)	第4		R14-01	13		PF		流紋岩				4.01		-15323.17	7885.042	13.81
(12)	第4		R14-01	14		PF	5a	流紋岩				63.77		-15323.66	7885.466	13.769
(12)	第4		R14-01	15		PF		砂岩				36.02		-15323.23	7886.665	13.849
(12)	第4		R14-01	16		PF		流紋岩質凝灰岩				227.36		-15323.13	7886.833	13.736
(12)	第4		R14-01	17		PF		流紋岩				200.07		-15323.06	7887.312	13.842
(12)	第4		R14-01	18		PF	5b	砂岩				31.04		-15322.93	7887.206	13.918
(12)	第4		R14-01	19		PF		流紋岩				9.52		-15322.82	7887.345	13.907
(12)	第4		R14-01	20		PF		流紋岩				2.8		-15322.22	7886.736	13.632
(12)	第4		R14-01	21		PF	5b	砂岩				34.62		-15322.2	7886.885	13.665
(12)	第4		R14-01	22		PF		流紋岩				5.72		-15322	7886.612	13.556
(12)	第4		R14-01	23		CH		ガラス質黒色安山岩				0.41		-15322.21	7886.971	13.666
(12)	第4		R14-01	24		PF		砂岩				3.8		-15321.45	7887.045	13.726
(12)	第4		R14-01	25		FL		ホルンフェルス	3.52	2.24	1.96	12.44		-15321.26	7886.974	13.502
(12)	第4		R14-01	26		PF		チャート				129.22		-15322.02	7884.043	13.564
(12)	第4		R14-01	27		PF	5c	流紋岩				217.34		-15322.66	7884.068	13.65
(12)	第4		R14-01	28		PF		流紋岩				179.58		-15322.83	7887.341	13.826
(12)	第4		R14-01	29		FL		頁岩	1.32	1.91	0.44	0.93		-15322.95	7885.727	13.64
(12)	第4		R14-01	30		PF	5d	流紋岩				45.16		-15323.76	7886.108	13.8
(12)	第4		R14-01	31		PF		流紋岩				142.54		-15323.84	7886.014	13.827
(12)	第4		R14-01	32		PF	5d	流紋岩				31.05		-15323.75	7885.988	13.803
(12)	第4		R14-01	33		PF		チャート				17.42		-15323.84	7886.152	13.825
(12)	第4		R14-01	34		PF		砂岩				33.89		-15323.63	7886.833	13.883
(12)	第4		R14-01	35		FL		頁岩	2.77	1.01	2.20	4.29		-15323.29	7887.699	13.962
(14)	第4		R14-01	36		PF		流紋岩				79.39				13.946
(14)	第4		R14-01	37		PF		流紋岩				377.14				13.965
(12)	第4		R14-02	2		PF		砂岩				21.06		-15322.42	7889.451	14.054
(12)	第4		R14-02	3		PF		流紋岩				122.76		-15320.3	7888.403	13.623
(12)	第4		R14-11	2	a	PF		流紋岩				29.55				13.872
(12)	第4		R14-11	2	b	PF		流紋岩				18.09		-15324.69	7885.101	13.872
(12)	第4		R14-11	3		PF		砂岩				16.59		-15324.49	7885.393	13.919
(12)	第4		R14-11	4		PF		流紋岩				13.24		-15324.4	7885.549	13.936
(12)	第4		R14-11	5		PF		砂岩				14.1		-15324.4	7885.414	13.839
(12)	第4		R14-11	6		PF		砂岩				36.57		-15324.21	7885.324	13.83
(12)	第4		R14-11	7		PF		流紋岩				20.81		-15324.01	7885.241	13.85
(12)	第4		R14-11	8		PF	5d	流紋岩				129.04		-15324.19	7885.558	13.85
(12)	第4	第26図4	R14-11	9		CO		頁岩				41.82	ノジュール	-15324.18	7885.642	13.84
(12)	第4		R14-11	10		PF		流紋岩				35.08		-15324.03	7885.367	13.816
(12)	第4		R14-11	11		PF		流紋岩				25.55		-15324.45	7885.716	13.886
(12)	第4		R14-11	12		PF		チャート				60.1		-15324.39	7885.68	13.877
(12)	第4		R14-11	13		PF	5a	流紋岩				381.07		-15324.03	7885.828	13.865
(12)	第4		R14-11	14		PF		流紋岩				127.96		-15324.01	7886.244	13.929
(12)	第4		R14-11	15		PF		流紋岩				58.73		-15324.01	7885.996	13.845
(12)	第4		R14-11	16		PF		流紋岩				10.49		-15324.04	7886.102	13.901
(12)	第4		R14-11	17		PF		安山岩				333.25		-15324.29	7885.986	13.89
(12)	第4		R14-11	18		PF		流紋岩				135.35		-15324.1	7886.176	13.895
(12)	第4		R14-11	19		PF		砂岩				44.67		-15324.1	7885.33	13.773
(12)	第4		R14-11	20		PF		流紋岩				128.55		-15324.43	7885.521	13.852
(12)	第4		R14-11	21		PF		流紋岩				96.83		-15324.58	7885.364	13.876
(12)	第4		R14-11	22		PF		流紋岩				14.39		-15324.71	7885.162	13.874
(12)	第4		R14-11	23		PF		流紋岩				49.52		-15324.48	7885.463	13.833
(12)	第4		R14-11	24		PF		流紋岩				169.27		-15324.15	7886.068	13.866
(12)	第4		R14-11	25		PF		砂岩				175.29		-15324.08	7886.335	13.91
(12)	第4		R14-11	26		PF		流紋岩				72.83		-15324.02	7886.134	13.872
(12)	第4		R14-11	27		PF		流紋岩				32.44		-15324.12	7886.139	13.88
(12)	第4		R14-11	28		PF		流紋岩				27.08		-15324.15	7886.076	13.875
(12)	第4		R14-11	29		PF		流紋岩				162.75		-15324.81	7885.607	13.925
(14)	第4		R14-11	30		PF		ホルンフェルス				1.43				13.875
(2)	ブロック外		S12-99	1	b	PF		安山岩				20.02				
(7)	ブロック外		O13-88	1		FL		頁岩	2.80	1.57	0.54	1.36				
(14)	ブロック外		S13-43	2		PF		流紋岩				98.06				14.146
(7)	ブロック外	第27図1	O14-53	1		CO		頁岩	3.57	3.58	1.65	18.97				
(2)	ブロック外		9806T	2		FL		ガラス質黒色安山岩	4.24	3.82	1.38	18.67				
(16)	ブロック外		プレ1	2		FL		ガラス質黒色安山岩				10.33				

第３章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　概　要

市野谷宮後遺跡（南側）からは縄文時代に属する可能性のある陥穴１基のみが検出されている。遺構外からは少量であるものの縄文土器片や縄文時代に属すると考えられる石器類が出土しているにすぎず、この様相は、市野谷宮後遺跡（北側）においても同様である。市野谷宮後遺跡全体において縄文時代における土地利用が積極的ではなかったことがうかがえる。

第２節　遺構と遺物

(15) SK001（M13-45）（第28図　図版５・27）

旧石器時代の確認調査中に発見された土坑で、上端は楕円形、下端は楕円形を呈する陥穴である。上端の最大径約90cm、下端の長軸長約100cm・短軸長約70cmで、深度約190cmである。底面から約40cm以上の部分から壁が広がっている。覆土は自然堆積と考えられる。

プラン中央部の覆土中位からは、後期後半に属するみみずく土偶の左足（第28図１）が出土していることから、縄文時代後期後半以降の遺構であると判断し、本章で取り扱うこととした。

第３節　遺構外出土遺物

１　縄文土器（第29図）

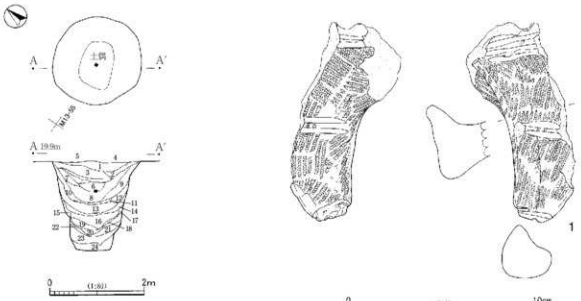
市野谷宮後遺跡（南側）の遺構外からは、前期後半から晩期前半にかけての土器片が少量出土している（中・近世の遺構出土含む）。ここでは1/3縮尺において細別土器型式が判別できる土器片を図示する。

１～３は中期後半加曽利E式土器で、１はその前半、２は前半から後半にかけて、３は後半に該当する。１の隆帯は粗雑な調整である。３の隆帯両脇のナゾリ調整は反復され、凹線風の効果を醸し出している。４～６は堀之内１式土器で、５・６は堀之内２式にくだる可能性がある。５は金魚鉢形の鉢形土器の括れ部の破片で、斜方向の沈線は意匠ではなく、意匠外の充填沈線である。７は堀之内２式土器で、金魚鉢形の鉢形土器の括れ部の破片であるが、括れの弱い個体であると考えられる。

２　石器類（第30・31図　第９表）

全体の形状等をうかがうことのできる石器類18点を図示した。詳細は観察表にゆずる。

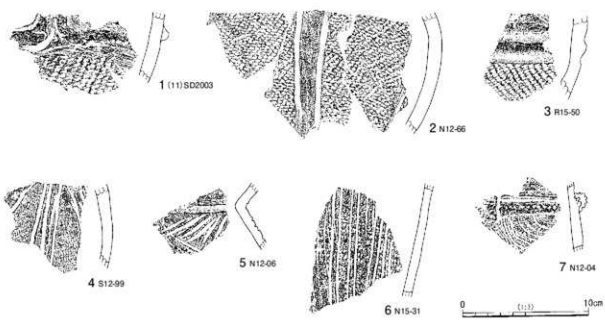
第30図９裏面には強いミガキが、両側面には弱いタタキが認められる。10表裏面には弱いタタキが認められる。これら９・10の使用痕は縄文時代のものではなく、後世のものであろう。11側縁には弱いタタキが認められる。12は表裏面及び側縁に弱いタタキが認められる。第31図１の表裏面にはミガキが認められる。２表面左半にはミガキが認められる。３は上下破面以外の全面にミガキが認められる。４は表裏方向からの強いタタキによるクボミが貫通している。実測面（破片下端中央やや左側）では斜方向の強いタタキによるクボミであることから、貫通（穿孔）が実測面にはあらわれない。５表面右半は、剥離というよりもタタキに近い印象である。６表面中央の凹部はミガキによるもので裏面全面はミガキにより平坦化している。



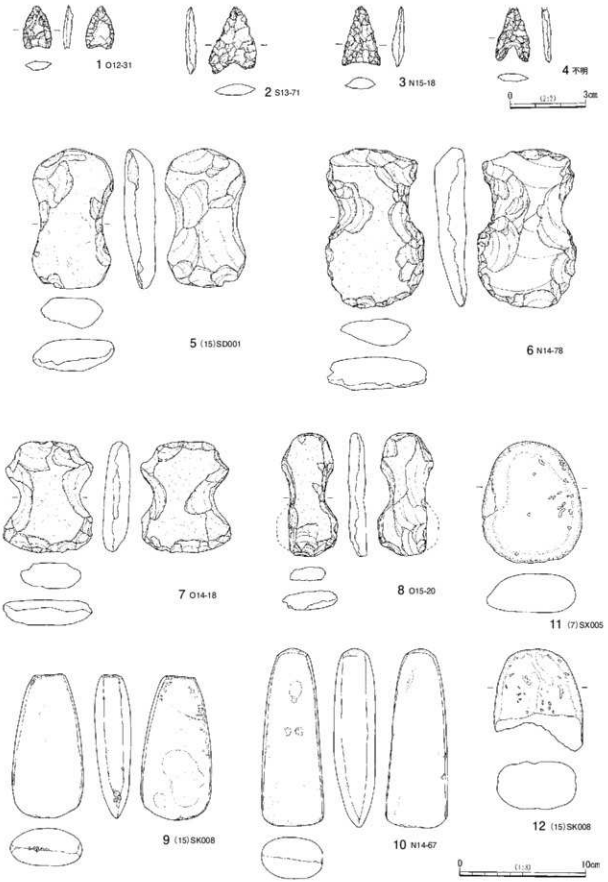
(15) SK001

1 にぶい橙色土　ローム粒・炭化物少　表面の硬化あり
2 黒褐色土　ローム粒少　しまりなし
3 褐色土　ローム粒・炭化物少　しまりなし
4 褐色土　ローム粒　炭化物少　しまりなし
5 黒褐色土　ローム粒少　しまりなし
6 黒褐色土　ローム粒　ローム塊少　しまりなし
7 黒褐色土　ローム粒少　しまりなし
8 黒褐色土　ローム粒多　ローム塊・炭化物・焼土粒少　しまりなし
9 暗褐色土　ローム粒・炭化物・焼土粒少　しまりなし
10 暗褐色土　ローム粒・炭化物・黒色粒少　しまりなし
11 黒褐色土　ローム粒　ローム塊・炭化物少　しまりあり
12 褐色土　ローム塊多　ローム粒　炭化物少、しまりなし　壁崩落土
13 暗褐色土　ローム塊多　ローム粒　炭化物少　しまりあり
14 黒褐色土　ローム粒少　しまり・粘性あり
15 極暗褐色土　ローム粒・ローム塊　壁の崩落土
16 褐色土　ローム粒・ローム塊多　黒色粒少　粘質土　しまりあり　壁崩落土
17 極暗褐色土　ローム粒・ローム塊　崩落土
18 黒褐色土　ローム粒・炭化物少　しまりあり　粘質土
19 暗褐色土　ローム粒・ローム塊　炭化物少　しまりあり　粘質土
20 黒褐色土　ローム粒・ローム塊　しまりあり　粘質土
21 黒褐色土　ローム粒・ローム塊少　しまりあり　粘質土
22 黒褐色土　ローム粒、ローム塊少　しまりあり　粘質土
23 極暗褐色土　ローム粒、ローム塊多　しまりあり　粘質土
24 黒褐色土　ローム粒、ローム塊多　しまりあり　粘質土

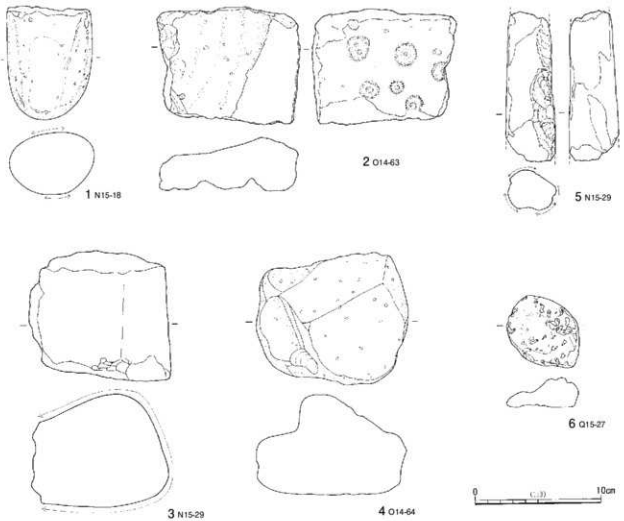
第28図　(15) SK001



第29図　遺構外出土土器



第30図　遺構外出土石器（1）



第31図　遺構外出土石器（2）

第９表　縄文時代石器観察表

挿図番号	出土地点	遺物番号	器　種	石　材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
第30図-1	012-31	1	石鏃	黒曜石	1.7	1.1	0.4	0.65
第30図-2	S13-71	1	石鏃	チャート	2.7	1.9	0.5	0.45
第30図-3	N15-18	1	石鏃	チャート	2.4	1.5	0.5	0.50
第30図-4	不明	不明	石鏃	黒曜石	2.1	1.4	0.3	0.32
第30図-5	(15)SD001	1	打製石斧	粘板岩	11.0	6.4	2.4	2.38
第30図-6	N14-78	1	打製石斧	流紋岩	12.8	7.7	2.4	2.42
第30図-7	014-18	1	打製石斧	頁岩	8.8	7.0	2.0	1.96
第30図-8	015-20	5	打製石斧	ホルンフェルス	9.8	4.1	1.3	1.27
第30図-9	(15)SK008	1	磨製石斧	凝灰岩	11.3	5.6	3.1	338.86
第30図-10	N14-67	1	磨製石斧	砂岩	14.1	4.9	3.2	387.92
第30図-11	(7)SX005	1	円礫製加工具(敲石)	安山岩	9.6	7.9	3.1	319.02
第30図-12	(15)SK008	1	円礫製加工具(敲石)	安山岩	8.1	7.1	3.8	253.39
第31図-1	N15-18	47	円礫製加工具(敲石)	安山岩?	9.0	6.8	4.9	494.04
第31図-2	014-63	1	石皿	安山岩	9.2	11.3	4.3	564.36
第31図-3	N15-29	45	石皿	安山岩	9.9	10.9	8.9	1771.34
第31図-4	014-64	1	不明	安山岩	16.3	11.9	7.9	1063.43
第31図-5	N15-29	67	石棒	緑泥片岩	11.8	3.9	3.2	227.18
第31図-6	Q15-27(T6)	2	研磨具もしくは研磨剤	軽石	5.8	5.8	2.3	19.57

第４章　中・近世の遺構と遺物

第１節　概要

ここでは、中・近世に設営されたと考えられる遺構とそこからの出土遺物を示す。厳密には、出土遺物のない遺構や、出土遺物が小片であることにより時期決定に困難がつきまとう遺構もあるが、これらについても市野谷宮後遺跡（南側）から検出された遺構の大半が中･近世に設営されたものである事実に鑑み、便宜的に本章で扱うこととする。さて、本遺跡（南側）からは、中・近世として取り扱う遺構としては、土坑20基･土坑（井戸状遺構の可能性のあるもの）２基･井戸状遺構３基･井戸状遺構の可能性のあるもの２基･地下式坑22基･陥穴1基･溝状遺構18条･欄列２条が認められる。ほか、R15-20 ～ 22、R15-30 ～ 32、R15-40･41グリッドに集中する土坑墓68基が認められる。

なお、遺構種別の曖昧な土坑･井戸状遺構･地下式坑とは異なり、人骨を伴う土坑群である“土坑墓”については、別途の項目立てのもと、報告しておきたい。

また、鉄器生産関連遺物が出土した土坑や集中地点等については、“鉄器生産関連”として別途の項目立てのもと、報告しておきたい。

銭貨の掲載順序は、遺構ごとに初鋳年を古い方から配列した。なお、遺物の詳細は、遺物観察表（第16表～第22表）にゆずりたい。

第２節　遺構と遺物

１　土坑・井戸状遺構・地下式坑

本書冒頭の凡例に示したとおり、発掘調査段階では遺構の種別に応じ、SA：欄列　SD：溝状遺構　SK：土坑　SX：地下式坑･井戸状遺構、との記号を付すことを原則とした。ただし、発掘調査の期間は断続的に13年間にもおよび、この間の発掘調査担当職員も複数人におよぶことから、遺構種別の把握（記号の使い分け）に不統一がある。具体的には、掘込み上半部が削平されたと考えられる小規模な地下式坑や、井戸状遺構の可能性があるものの湧水のため底面まで完掘することができなかった深度の卓越する土坑については、一般的な土坑との明確な区別がなされないまま、もしくはできないまま、土坑として遺構種別の記号を付したものがある。

したがって本章では、遺構を、“土坑・井戸状遺構・地下式坑”として個別の項目立てとはせず、一括して取り扱うこととする。ただし、調査段階での認識を示すために調査段階での遺構種別の記号を報告書では踏襲し、調査地点ごと、記号ごとの順に掲載することとしたい。図の縮尺について、土坑･井戸状遺構･地下式坑については1/80を基本としている。

（7）SK002（N14-68）（第32図　図版５）

３基の浅い土坑とピットを調査段階ではSK002と捉えた。

西側の長楕円形の掘込みは、長軸長約200cm・短軸長約110cm・深度約20cmであり、掘込みはしっかりとしており、壁は直に立ち上がる。底面は比較的平坦である。北西側のピットが本跡に伴うか否かは判然としない。

東側の概方形の掘込みは、長軸長約210cm・最大短軸長約160cm・深度約15cmであり、漸移層中に掘

り込まれた壁は明瞭に捉えられたとは言い難い。南西側の壁の立ち上がりは確認できなかった。

東側の概方形の掘込み内の概三角形の掘込みは、長軸長約130cm・最大短軸長約100cm・SK002全体の確認面からの深度は約30cmである。しっかりとした掘込みとは捉え難い。

なお、３基の掘込みの新旧関係は不明で、いずれも出土遺物はない。

（7）SK003（N14-48）（第32図　図版５）

底面形から推定されるプランは長方形で、長軸長約200cm・推定短軸長約70cm・深度約60cmの土坑であり、堀込みはしっかりとしている。南東側は崩壊･流出していることから壁は明瞭ではないが、５cm～10cm程度のなだらかな比高差（壁）を確認することができた。底面は平坦であるが若干の凹凸がある。出土遺物はない。

（7）SK004（N14-49）（第32図　図版５）

木根により北東側は崩壊し、南東側は流出している。底面形から推察されるプランは、楕円形というよりも方形もしくは長方形であろう。推定軸長は最低約180cm・深度は約20cmの土坑である。壁の大半は木根により不明瞭であり、しっかりとした掘込みであったとは判断できない。底面は平坦であるが若干の凹凸がある。出土遺物はない。

（7）SK005（O14-32）（第32図　図版５・27）

概ね円形を呈する土坑で、長軸長約160cm・短軸長約140cm・深度約30cmである。掘込みはしっかりしているが、壁の立上りは、西半においては垂直に立ち上がる部分があるが、東半においてはなだらかに立ち上がる部分がある。底面全体は一律に平坦ではなく、東半において起伏が認められる部分があり、底面は円形を呈していない。

出土遺物には、第32図１天目茶碗、２砥石がある。

（7）SK006（O13-81）（第32図　図版５・27）

楕円形を呈する土坑で、長軸長約270cm・短軸長約220cm・深度は最大で約50cmであり、テラス状を呈しながら緩やかに立ち上がる南側での深度は約30cmである。掘込みは比較的しっかりとしており、壁の立ち上がりも明瞭である。底面はやや凹凸が認められる。

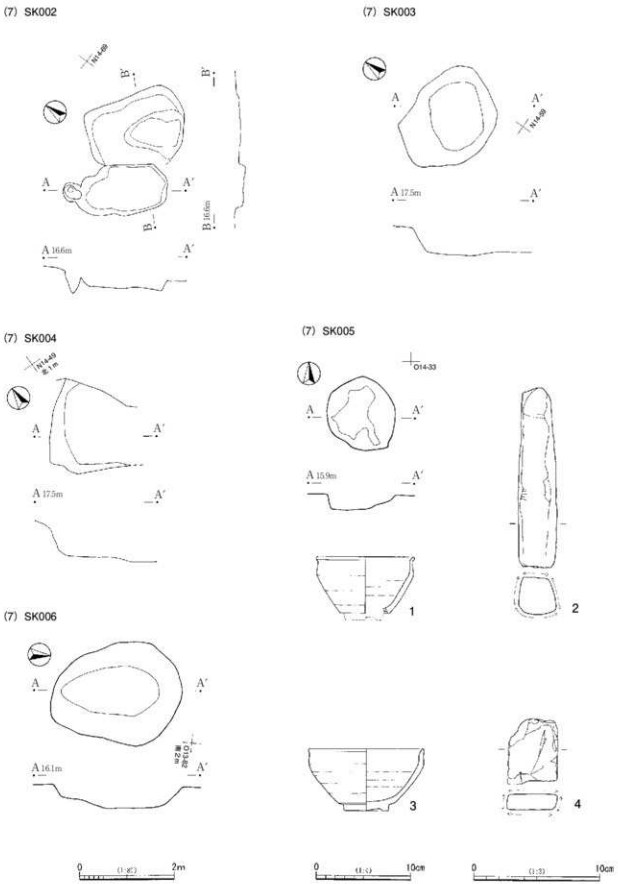
出土遺物には、第32図３天目茶碗、４砥石がある。

（7）SK007（O14-21）（第33図　図版５）

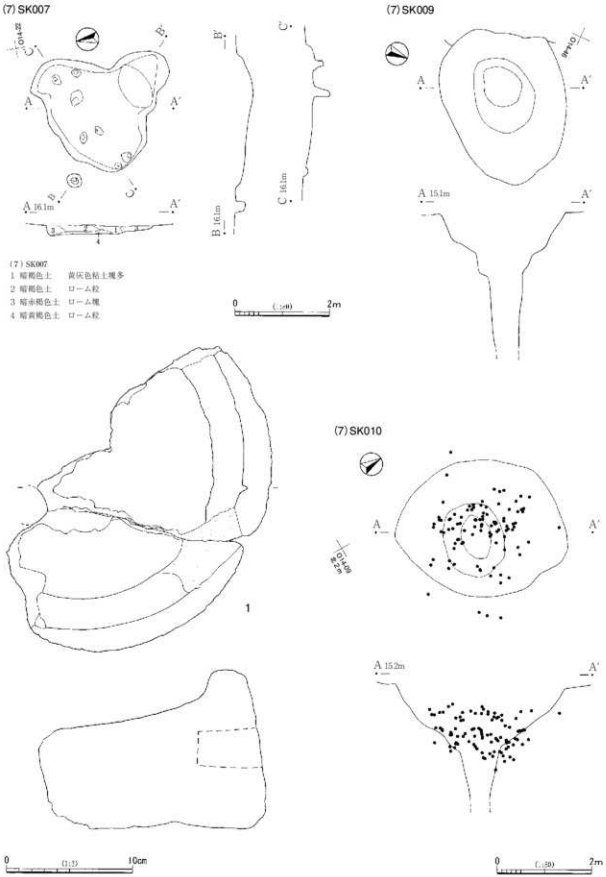
大形の楕円形の掘込みと、不整円形の小形の掘込みとからなる。本来は２基の土坑であった可能性もある。大形の楕円形の掘込みは、長軸長約280cm・推定短軸長約170cm・深度約30cmであり、堀込みはしっかりとしたものではなく壁は不明瞭であるが、明瞭に立ち上がる部分がある。底面は概ね平坦である。不整円形の小形の掘込みは、推定軸長約130cm・深度10～20cmであり、壁はなだらかに立ち上がるが、木根の影響が大きく、不明瞭であると言わざるを得ない。底面に７基のピットが認められるが、土坑周辺城に複数のピットが認められることから、底面のピットはこれらと同様の可能性があり、土坑に伴うとは断定し難い。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（7）SK009（O14-46）（第33図　図版５・38）

上部の楕円形の掘込みと、下半の円筒状の掘込みからなる井戸状の遺構で、西側は撹乱により立ち上りが崩壊している。確認面から10cm程度以下の地山は粘土層となる。上部の楕円形の掘込みは、長軸長約340cm・短軸長約260cm・深度は南西側で最大約90cm、北東側で最大約140cmである。下半の円筒状の掘



第32図　(7) SK002・SK003・SK004・SK005・SK006



第33図　（7）SK007・SK009・SK010（1）

込みは、上端では長軸長約160cm・短軸長約130cm、以下は径約80cm円形の掘込みとなる。上部の掘込みの覆土は、灰白色粘土・黄白色粘土・暗赤褐色粘土を主体とする層である。深度の卓越した円筒状の掘込みは、安全上の配慮から完掘することはできなかった。

出土遺物には、覆土上部の楕円形の掘込みから出土した第33図１石臼がある。

（7）SK010（O13-89）（第33・34・35図　図版５・６・27・36）

遺構検出当初は深度約100cmに満たない長方形の土坑として調査を開始したが、調査の結果、上部の楕円形の掘込みと、下半の円筒状の掘込みからなる井戸状の遺構であった。南西部の壁は木根により壊されている。上部の楕円形の掘込みは、長軸長約360cm・短軸長約290cm・深度約140cmで、下半の円筒状の掘込みは、長軸長約90cm、短軸長約60cmで、安全上の配慮から完掘することはできなかった。円筒状の掘込みより上部の掘込みの覆土はレンズ状に３層が堆積をしており、上層から、黄褐色粘質土を含む暗褐色土層、ボソボソした硬い土質で赤褐色粘質土を含む黒褐色土層、粘性の強い暗赤褐色土である。出土遺物は多く、上部の楕円形の掘込み下半から下部の円筒状の掘込み上端部に集中している。遺物についてはドットで示しておいた。

出土遺物には、第34図１・２志野、３古瀬戸の縁釉小皿、４～９在地産内耳土器の焙烙、10・11瀬戸・美濃の摺鉢、12転用砥石、13瓦、第35図１～９転用砥石、１・２は板碑の転用砥石がある。

（7）SK011（O14-08）（第36図）

長軸長約150cm・短軸長約120cm・深度約60cmであり、しっかりとした掘込みの土坑で、底面は擂鉢状にやや丸みを帯びる。覆土はいずれも粘土もしくは粘質土を含む。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（7）SX001（N14-47）（第36図　図版６・40）

東側の竪坑部と西側の主体部からなる地下式坑である。竪坑と横坑を併せた長軸長（E-W）約230cm・短軸長（S-N）（主体部）約180cm・深度約140cmで、竪坑底面と横坑底面の深度に差はない。掘込み底面付近の地山は灰白色粘土層である。底面は踏み固められてはいない。

出土遺物には、覆土最上層から出土した第36図１鎌がある。

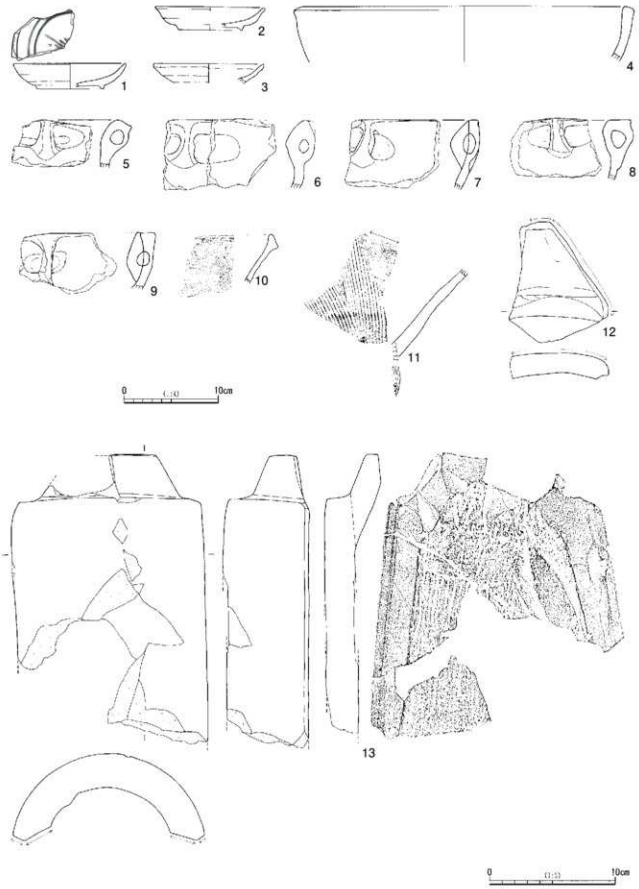
（7）SX002（N14-56）（第36図　図版６）

底面形が長方形を呈する地下式坑と捉えた遺構で、底面南西隅のSK001に接する部分が竪坑であったと考えられる。主体部の長軸長は約270cm・確認面からの深度は約70cmである。なお、本跡の掘込みの深度は浅く、天井部の存在を想定すると、当該レベルの地山はハードローム層とは異なり脆弱であることから、天上の存在を想定しがたい。よって、典型的な地下式坑であるとは断定できない。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

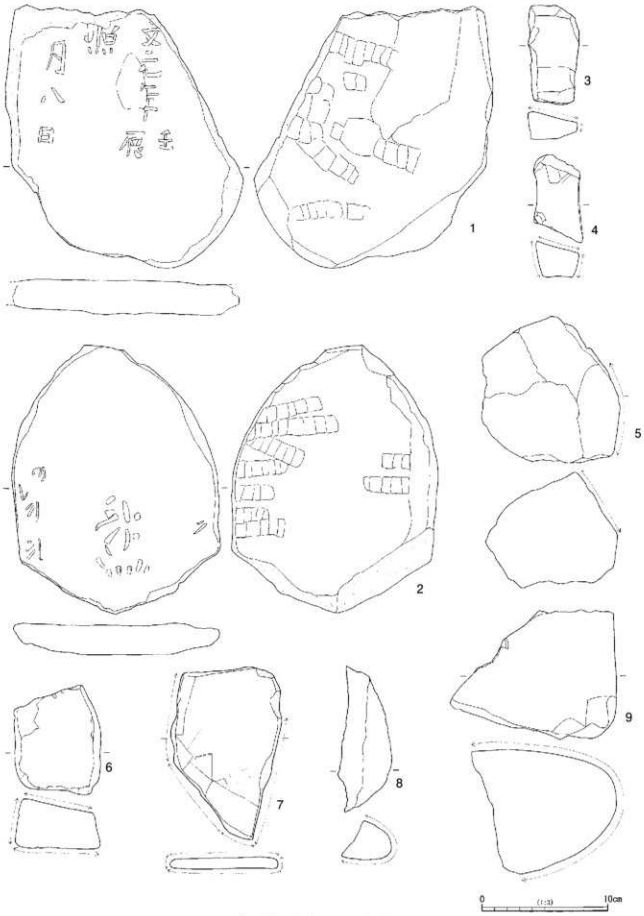
（7）SX003（N14-65）（第36・37図　図版６・27・28・39）

底面形が楕円形を呈する地下式坑で、長軸長約340cm・短軸長約300cm・深度約190cmである。壁面上半の地山は乾燥した段階で崩落するローム層であることから、崩落が進行し、原型を留めていないと判断できる。底面から60cm～70cmまでの壁面の地山は青灰色砂質土で湧水が認められる。

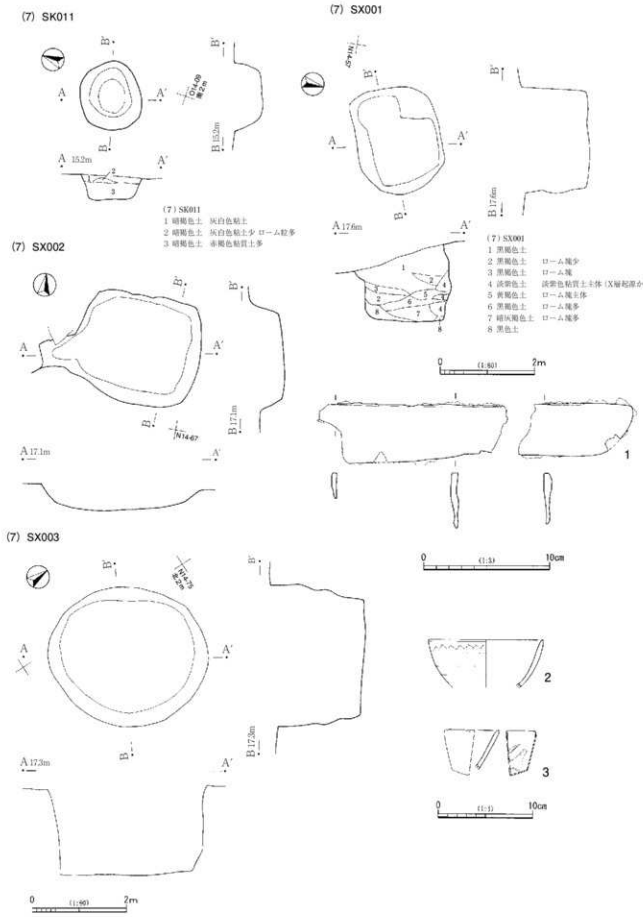
出土遺物には、第36図２瀬戸・美濃の碗、３龍泉窯系の碗、第37図１・２瀬戸・美濃の摺鉢、３常滑の甕、４・５在地産内耳土器の鍋、６・７カワラケ、８石臼、９・10板碑の転用砥石、11硯がある。



第34図　（7）SK010（2）



第35図　（7）SK010（3）



第36図　（7）SK011・SX001・SX002・SX003（1）

(7) SX004 (N14-18) (第37図　図版6)

溝状遺構 (7) SD003の壁面に掘り込まれた土坑もしくは井戸状遺構であろう。長軸長約120cm・短軸長約100cm・深度は約250cmである。遺構底面付近では湧水が認められる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(7) SX005 (N14-98) (第38図　図版6・27)

緩斜面の底面部に設営された楕円形の土坑で、推定長軸長最大約350cm・短軸長約290cm・深度約90cmであり、北側には深度10cmに満たない不整形のテラス状の掘込みが認められるが、本跡に伴うか否かは不明である。遺構南東部側は大きな木根により壊されている。底面から約40cmまでは湧水が認められる。

出土遺物には、第38図1志野、2天目茶碗、3灰碗、4～6瀬戸・美濃摺鉢、7在地産土器摺鉢、8在地産内耳鍋、9・10転用砥石がある。

(7) SX006 (N14-49) (第38図　図版6)

溝状遺構 (7) SD003内に掘り込まれた土坑もしくは井戸状遺構であろう。上部の楕円形の掘込みと、下部の概円形の掘込みとからなる。上部の掘込みは長軸長約180cm・短軸長約130cm・深度約70cm、下部の掘込みは長軸長110約cm・短軸長約90cm・深度約100cmである。全体の深度は約170cmであり、壁面は粘性の強い土質のため湧水が認められる。出土遺物はない。

(7) SX010 (O14-26) (第38図)

上端・中端・下端ともに円形を呈する土坑で、中端・下端はオーバーハングする。上端径約80cm・中端径約100cm・下端系約90cmで、深度は約40cmである。確認面付近では厚さ10cm程度の灰白色粘土層をドーナツ状に確認することができる。オーバーハングが認められることから、天井部を有するような貯蔵施設の可能性がある。

出土遺物には、第38図11砥石がある。

(7) SX011 (N14-29) (第38図　図版6)

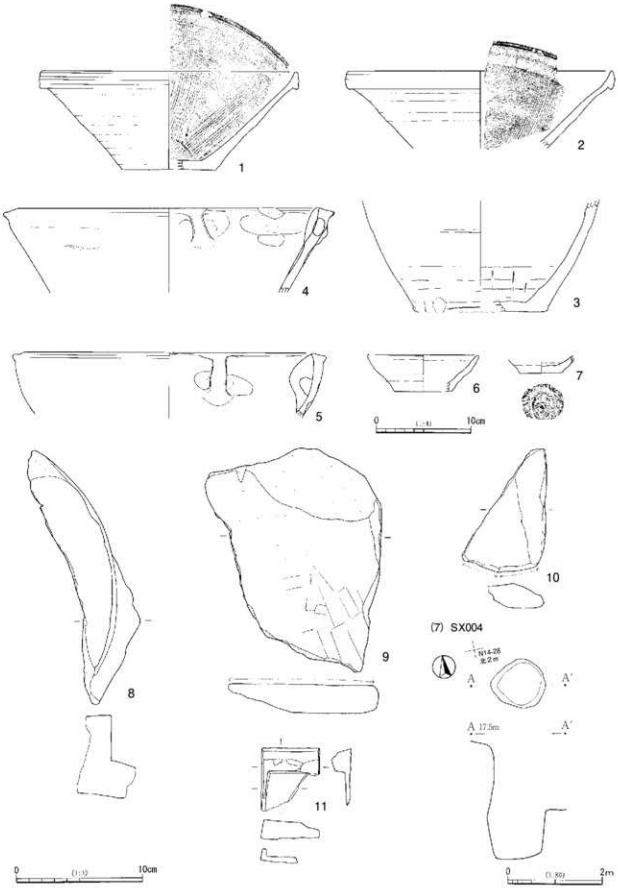
溝状遺構 (7) SD003の壁面に掘り込まれた土坑で、径約90cm・深度約150cmである。井戸状遺構もしくは水溜まりを意図した遺構であろうか。壁面は粘性の強い土質のため湧水が認められる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(11) SK2001 (N14-54) (第39図　図版7)

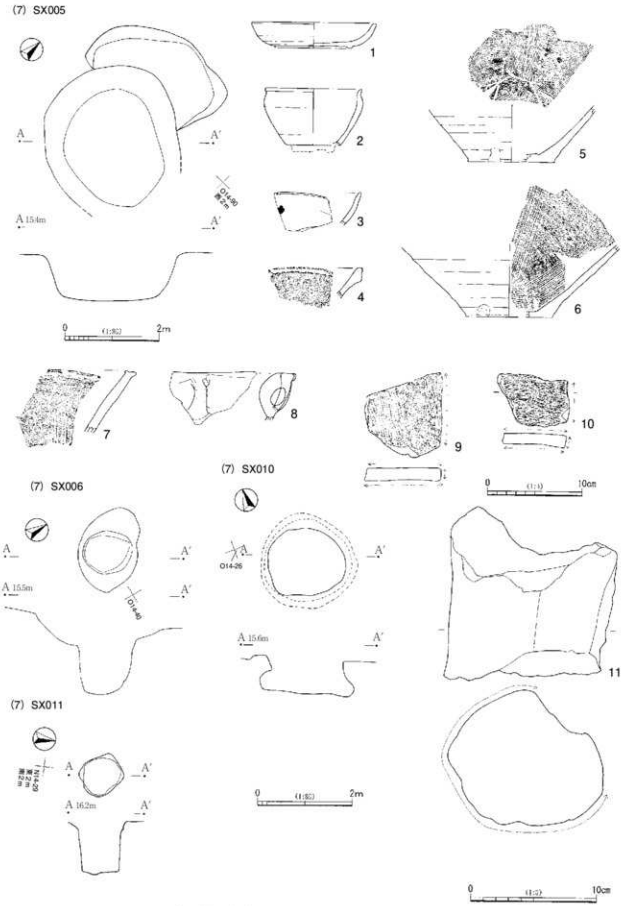
底面形が長方形を呈する地下式坑で、底面の長軸長約320cm・短軸長約210cm、全体の深度約80cmである。確認面でのプランも長方形である。底面は平坦でよく踏み固められている。地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。竪坑は南辺に設けられ、確認面から約20cmの部分にテラスを設けるようなかたちで作出される。覆土はローム粒・ローム塊の混入が比較的少ない土層で、概ね締まりに欠けるものである。底面南西角には、深度約15cmのピットが南西側へ真横方向にオーバーハングするように掘り込まれている。土坑北西部に隣接するように深度35cm程度のピットがあるが、本跡に伴うか否かは不明である。土層断面図からの情報量は乏しいが、ピットは本跡より新しい設営である可能性が高い。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(11) SK2002 (N14-44) (第39図　図版7)

調査区境界で検出された、底面形が長方形を呈する地下式坑で、底面の長軸長約290cm・短軸長約220cm、全体の深度約110cmである。確認面でのプランも概ね長方形である。底面は平坦でよく踏み固め



第37図　（7）SX003（2）・SX004



第38図　(7) SX005・SX006・SX010・SX011

られている。底面東端には、長軸長約90cm、短軸長約40cm、深度約40cmの長方形の掘込みを有する。覆土は、下半にローム粒・ローム塊を多く含む。

出土遺物には、第39図１在地産内耳土器鍋がある。

(11) ＳＫ2003（N14-55）（第39図　図版７・27）

底面形が概ね長方形を呈する地下式坑で、底面の長軸長約290cm・短軸長約170cm・深度約110cmである。底面は平坦でよく踏み固められている。底面北東隅付近には、底面より約40cm程度深い柱穴状の掘込みが認められ、柱穴状の掘込み底面は北西方向にオーバーハングしている。

竪坑は南東側に約150cmの長さで突出し、幅は約110cmである。確認面から約20cmには狭いテラスが作出され、確認面から約40cmには明瞭に平坦な広いテラスが作出される。竪坑基部西側には、長方形の掘込みと同程度の深度である。長軸長約160cm・短軸長約90cmの不整形の掘込みが認められる。竪坑基部東側には、長軸長約110cm・短軸長約60cmの楕円形の掘込みが認められる。この楕円形の掘込みの深度は、長方形の掘込み底面より若干深い。

覆土はローム粒･ローム塊を多く含む土層が主体で、竪坑方向からの流入が認められる。

出土遺物には、第39図２鉄絵皿がある。

(11) SK2004（N14-53）（第40図）

円形の柱穴状の掘込みで、概円形のプランを呈する。径約90 ～ 100cmである。安全面を考慮し、深度約300cmの段階で覆土の掘削を中止した。よって、覆土下半の土層は観察することができなかった。深度から井戸状の遺構であると推察できよう。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(11) SK2005（N14-53）（第40図　図版７・27）

底面形が長方形を呈する地下式坑で、調査区境界部で検出した。底面の長軸長約300cm・短軸長約210cm、全体の深度約130cmである。底面は平坦でよく踏み固められている。地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。

竪坑は確認面から約100cmの部分に比較的平坦なテラスを設けるようなかたちで作出される。軸長約130cm、深度約90cmである。大形の竪坑である。

出土遺物には、第40図１灰釉皿、２転用円盤、３砥石がある。

(11) SK2006（N14-64）（第40図）

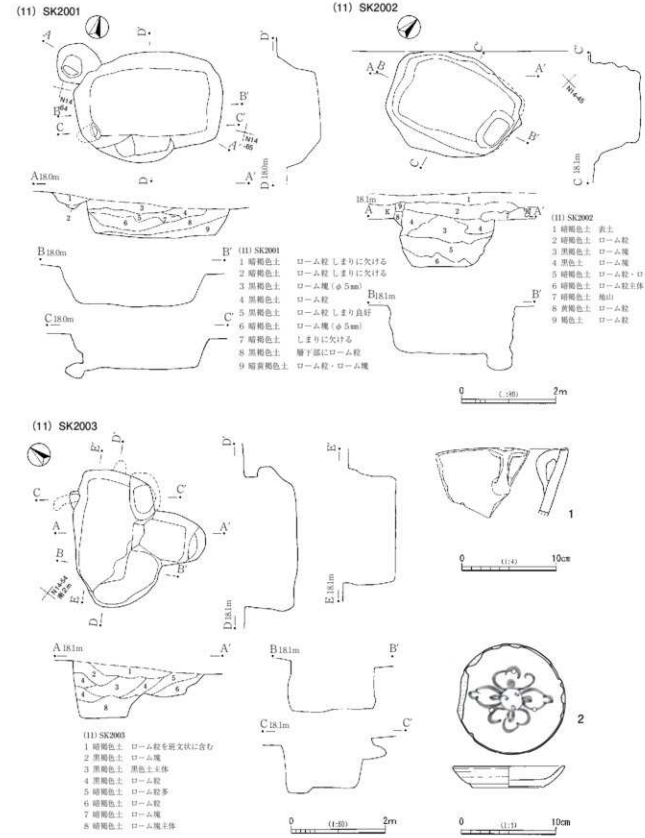
調査区境界付近に設営された隅丸長方形の土坑で、長軸長約190cm・短軸長約80cm・深度約290cmで、底面は２基の掘込みからなるような堀方を呈している。

覆土はローム塊を細かく砕いたような土層が主体で、特徴的である。地山掘削に係る安全面を考慮し、深度約200cmの段階で覆土の掘削を中止した。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(11) ＳＫ2007（N14-55）（第41図　図版７・27）

調査区境界部で検出された底面形が長方形を呈すると考えられる地下式坑で、残存する底面の長軸長約480cm・短軸長約240cm、全体の深度約110cmである。底面北東端に概円形の浅い落込みが認められるが、本跡に伴うか否かは不明である。竪坑は確認できない。覆土は上層から、ローム塊を含む暗褐色土、ローム塊を含む黒褐色土、粘性の強い黒褐色土層である。

出土遺物には、第41図１灰釉段皿、２瀬戸・美濃皿がある。



第39図　(11) SK2001・SK2002・SK2003

(11) SK2008 (O15-00) (第41図　図版７)

不整方形を呈する浅い土坑であるが、底面形は整った長方形を呈していることから、上端、特に南側の緩やかな傾斜の壁面は後世に崩壊した可能性がある。軸長は約150cm・深度約30cmである。北側隅は柱穴状に突出するかたちの掘込みが認められる。壁の掘込みはしっかりとしており、底面も比較的平坦である。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(11) SK2009 (O14-83) (第41図　図版７・27・39)

プランは概円形を呈し、断面形はボウル状を呈する土坑である。径約300～320cm・深度約110cmである。地山の灰白色から黄褐色粘質土に掘り込まれており、掘込みはしっかりとしている。

出土遺物には、第41図３古瀬戸花瓶、４在地産坏、５は硯、６砥石、７転用土錘、８転用円盤がある。

(11) SK2010 (O14-54) (第41図)

(11) SD2002をきるかたちで設営された概円形の土坑で、断面形はボウル状を呈する。(11) SD2002との新旧関係は土層断面で確認できているわけではない。径約130～170cm・深度約70cmである。

出土遺物には、第41図９在地産内耳土器焙烙がある。

(11) SK2011 (O14-74) (第42図　図版41)

不整円形を呈する土坑で、径約190～200cm・深度約20cmであり、掘込み底面の南西側は20cm程度凹む。北東部の壁はオーバーハングしている部分がある。

出土遺物には、銭貨１枚（第42図１）がある。

(11) SK2014 (O14-57) (第42図　図版８・27・28)

楕円形の土坑で、長軸長約140cm・推定短軸長約120cm・深度約70cmで、壁は斜めに立ち上がる。

出土遺物には、第42図２青白磁大皿、３折縁皿、４瀬戸・美濃摺鉢、５～16カワラケ、17在地産土器摺鉢、18砥石、19転用円盤がある。

(11) SX2002 (N15-08) (第43図　図版８・28・38)

井戸状遺構と思われ、不整円形の上部の掘込みと、隅丸方形の下半の掘込みとからなり、下半の掘込みが井戸の本体の筒状の掘込みとなる。筒状の掘込みは長軸長約160cm・短軸長約140cm・深度約180cmである。

土層断面の観察から、井戸の構築は、上部を不整円形に掘り込み、その内部に、粘質土やローム粒を含む淡黄灰色土と、ローム質の暗褐色土を互層に充填し、その後、筒状の井戸本体を掘り込んでいると考えられる。なお、筒状の掘込み上半の覆土は互層由来の土層で、下半は青灰色シルト質土である。

出土遺物には、第43図１瀬戸・美濃摺鉢、２・３在地産内耳土器焙烙、４石臼、５砥石である。４は掘込み底面からの出土である。

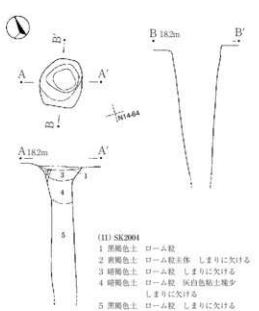
(11) SX2003 (N15-07) (第44・45・46・47図　図版８・36・37・40)

井戸状遺構と思われ、土層観察から (11) SX2002より新しいものと考えられる。(11) SX2002の掘込み壁面において、本跡の上端・下端を確認することができたため、全測図上では両遺構の上端・下端が交差した図となっている。不整円形の上部の掘込みと、楕円形の下半の掘込みとからなり、下半の掘込みが井戸の本体の筒状の掘込みとなる。筒状の掘込みは長軸長約130cm・短軸長約110cm・深度約220cmである。

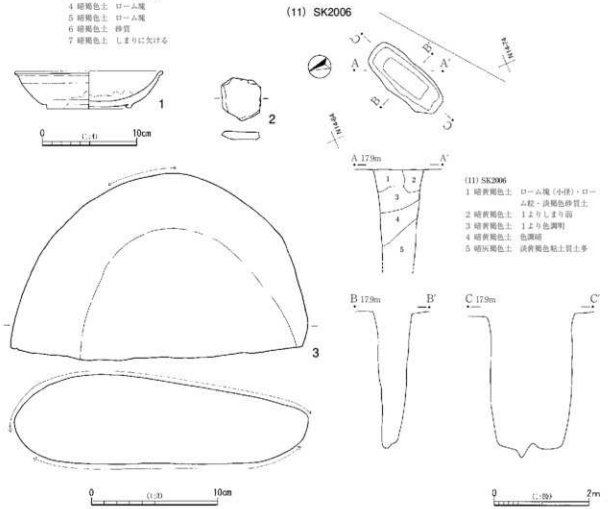
出土遺物には、第44図１瀬戸・美濃の摺鉢、２常滑の片口鉢、３在地産土器摺鉢、４丸瓦、第45図１、第46図１・２、第47図１板碑、第47図２は木製品ゲタ、３板状木製品、４両端部に加工痕のある棒状の木

(11) SK2005

(11) SK2004



(11) SK2006



第40図　(11) SK2004・SK2005・SK2006

製品がある。

(12) SK001（R14-68）（第48図　図版８・41・48）

長方形を呈する土坑で、長軸長約110cm・短軸長約70cm・深度約20cmである。覆土はローム粒・ローム塊主体の単一土層で、底面は凹凸が目立つ。銭貨６枚が出土している点等から、土坑墓と考えられる。

出土遺物には、銭貨６枚（第48図１～６　紹定通寶・皇宋通寶・熙寧元寶・開元通寶・朝鮮通寶）がある。

(15) SK002（N13-30）（第49図）

隅丸方形を呈する陥穴で、長軸長約140cm・短軸長約110cmである。深度は200cmを超えるが、発掘調査の安全を考慮し、200cmをこえる深度の覆土の掘削は行わなかった。

中・近世に属する柵列（（15）SA001）のピットを壊して設営されていることから、本跡の設営時期も中・近世と考えられる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(15) SK003（M13-25）（第49図　図版８）

複室構造を呈する地下式坑である。北側主体部は、長軸長約240cm・短軸長約120cm・深度約150cmである。底面はほぼ平坦でよく踏み固められており、北端部は東西方向にオーバーハングする。奥壁部には掘削時の工具痕が認められる。確認面でのプランは長楕円形であるが、底面形は長方形を呈する。地山ハードロームレベル以下の壁は比較的垂直に掘り込まれている。

南側主体部は、長軸長約230cm・短軸長約130cm・深度約150cmで、底面は中央から南端に向けてやや深度が浅くなり、よく踏み固められている。南端部東側はオーバーハングする。確認面でのプランは長楕円形であるが、底面形は長方形を呈する。地山ハードロームレベル以下の壁は比較的垂直に掘り込まれている。

南北両主体部の接続部分には、底面形が円形を呈する入口部（竪坑）が認められる。底面径約80cmで、主体部からの深度は約20cmである。入口部の覆土上層部には山砂の堆積が認められる。上部構造の崩壊と考えられる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

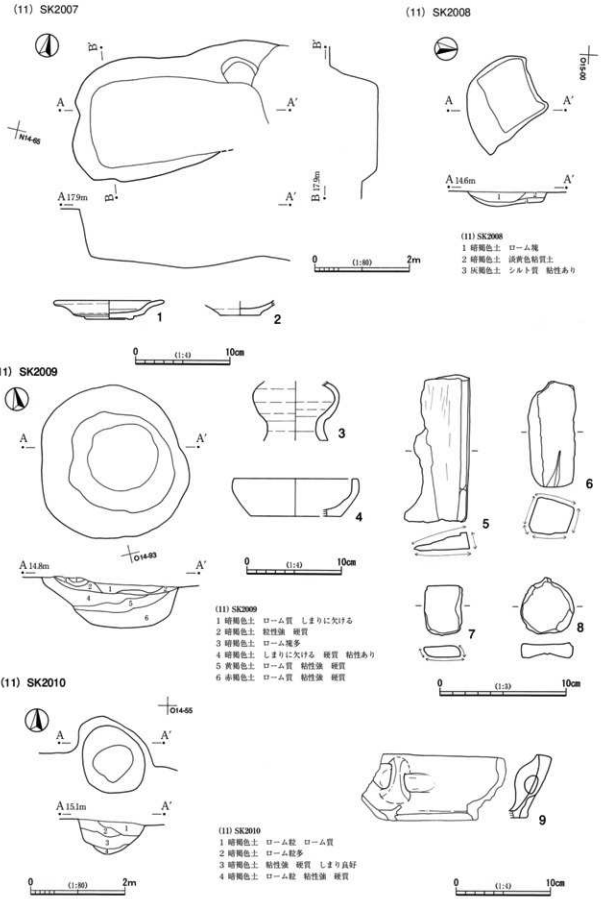
(15) SK004（M13-72）（第49図　図版８）

調査区境界に隣接する長方形を呈する地下式坑で、南東部長辺の中央に竪坑が設けられる。竪坑は確認面から約80cmの部分にテラスを設けるようなかたちで作出される。主体部は長軸長約330cm・短軸長約220cm・深度約150cmである。確認面のプランは隅丸気味であるが、底面形は長方形を呈する。底面はよく踏み固められている。全周にわたりオーバーハングする。覆土は底面から一定程度までは人為的堆積と考えられ、底面からやや浮いたレベルから馬の歯が出土していることから、覆土下部の人為的堆積は馬の埋葬に関わるものと推察することができる。出土遺物のうち人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

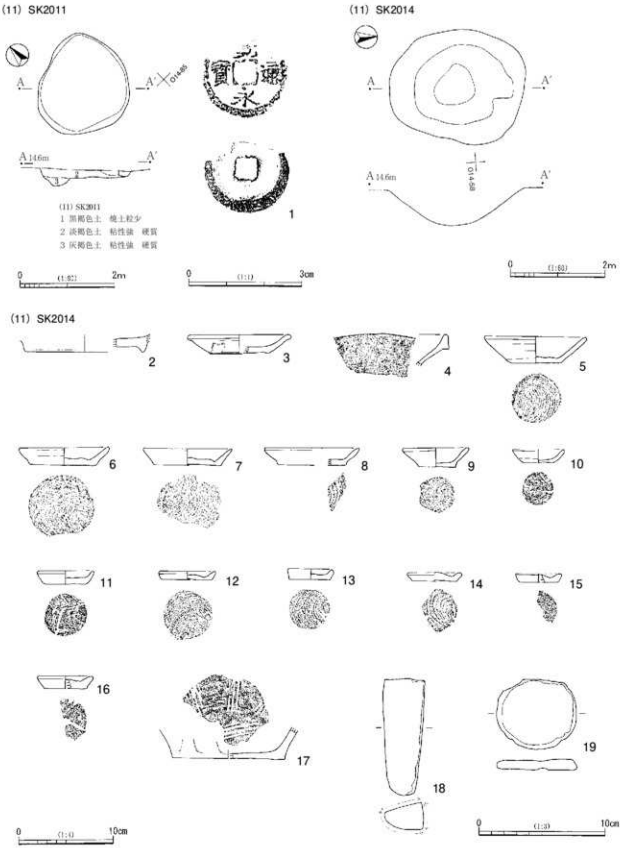
(15) SK005（N13-82）（第50図　図版８・28）

隅丸の不整長方形を呈する地下式坑で、長軸長約380cm・短軸長220約cm・深度約120cmである。確認面において歪な長方形を呈しているが、底面形は概長方形を基本とし、南西側の副軸幅が広がり、Ｌ字状を呈する。北東部分のみオーバーハングする。

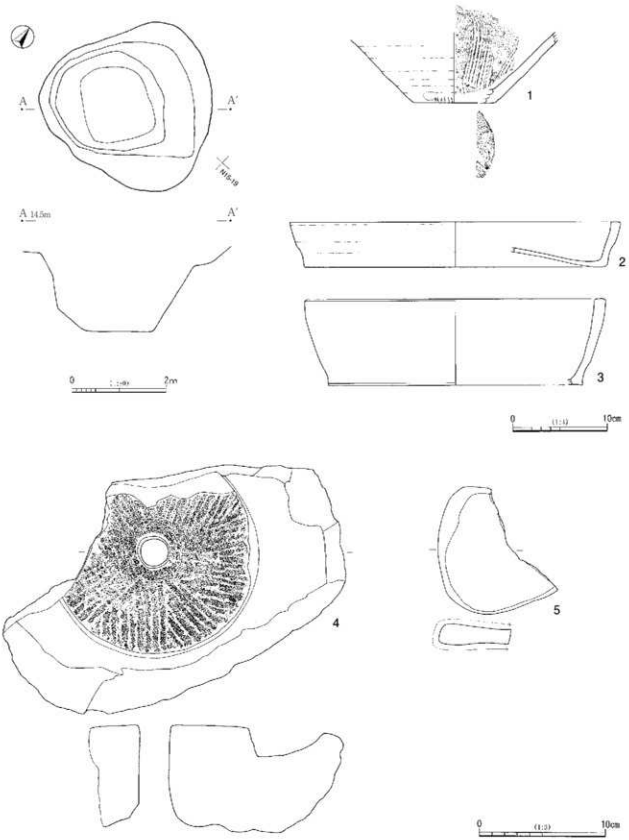
北側長辺の中央部には、壁下半に造出（削出）による突出部（間仕切り）が作出されている。この突出部の反対側にも、壁の上下全体にわたって造出（削出）による突出部（間仕切り）が認められるが、平面図ではわかりづらいが、北側のものとは異なり、突出部が二個一対のような状況を呈する。竪坑を構成する部



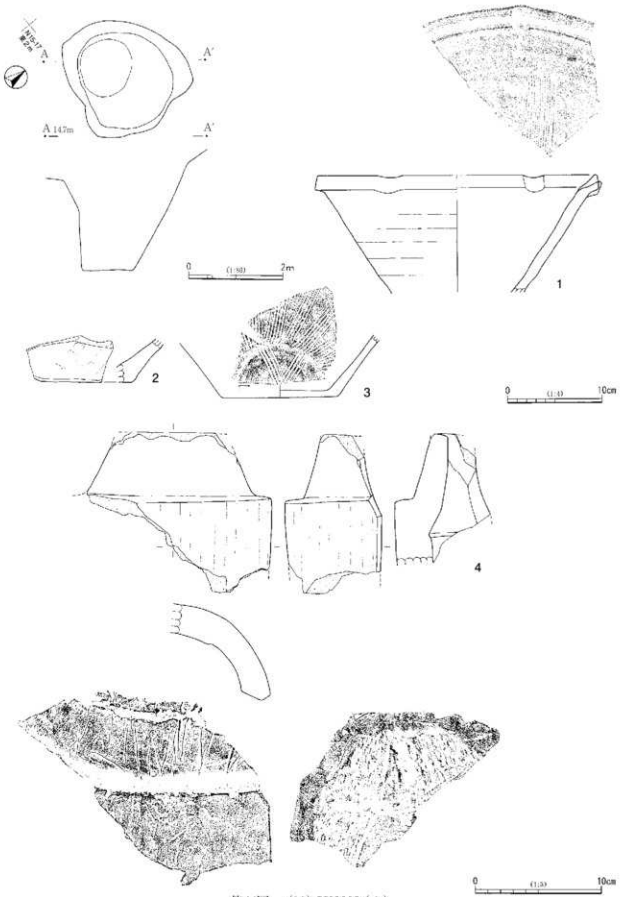
第41図 (11) SK2007・SK2008・SK2009・SK2010



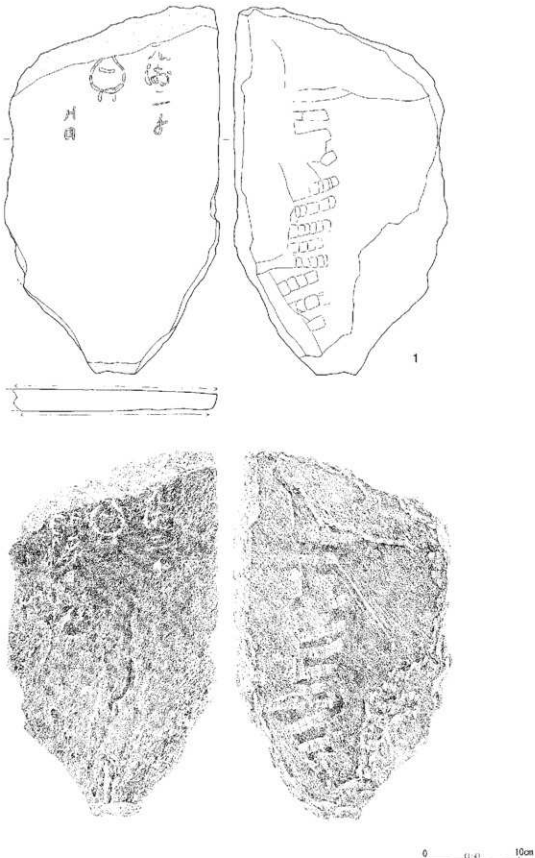
第42図 (11) SK2011・SK2014



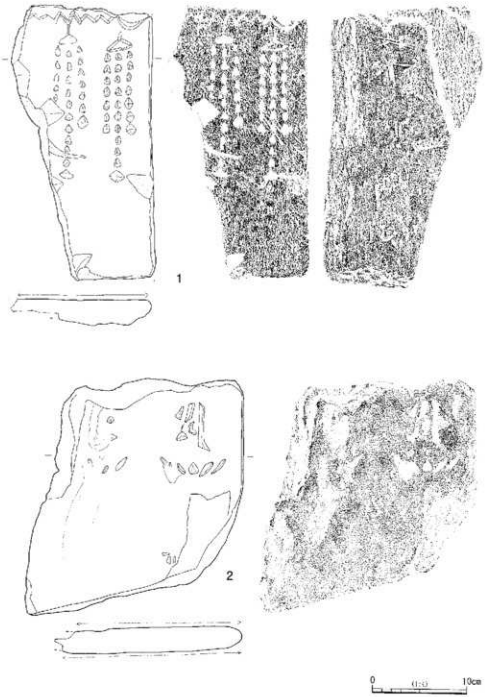
第43図　(11) SX2002



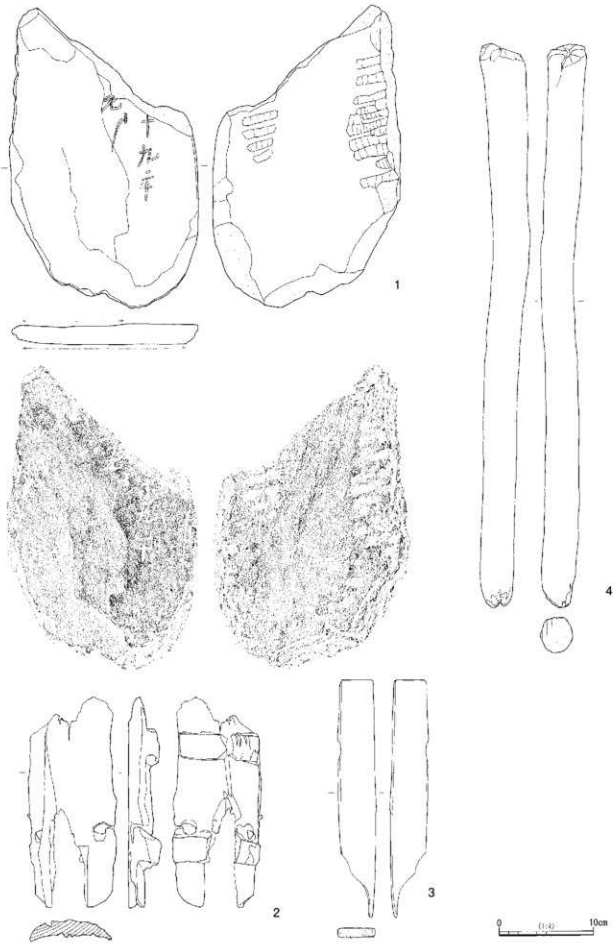
第44図　(11) SX2003 (1)



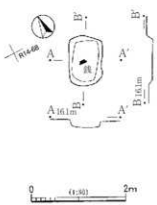
第45図　(11) SX2003 (2)

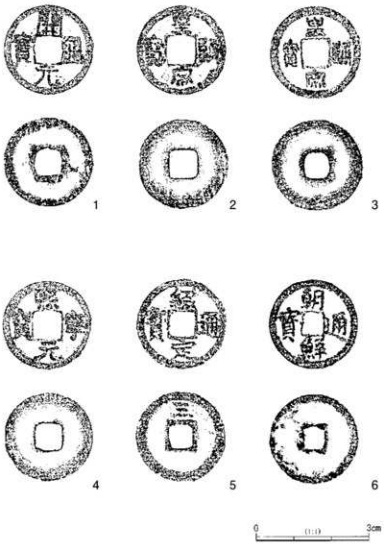


第46図　(11) SX2003 (3)



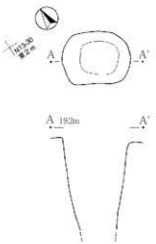
第47図　(11) SX2003 (4)



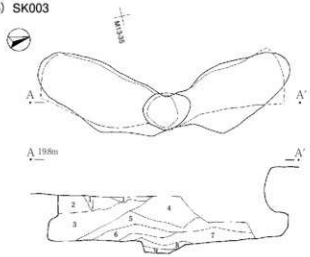


第48図　(12) SK001

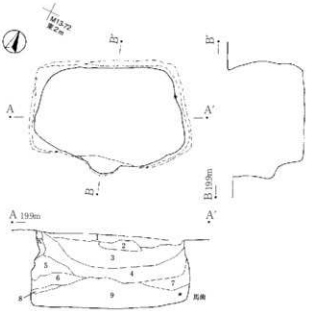
(15) SK002



(15) SK003



(15) SK004



(15) SK003
1 ローム粒（天井か）
2 ローム粒（天井崩落土）
3 暗褐色土　根粒　しまり弱　粘性あり（天井崩落土）
4 白砂
5 黒褐色土　根粒　しまり弱　粘性強
6 黒褐色土　細粒・根粒の黒褐色土　炭化物微量　しまり・粘性あり
7 黒褐色土　細粒・根粒の黒褐色土　炭化物少　粘性強
8 黒褐色土　根粒の黒褐色土　ローム粒多　しまり強　粘性あり
9 黒褐色土　細粒の黒褐色土　しまり極強　粘性強

(15) SK004
1 黒褐色土　ローム粒・焼土粒少　炭化物粒　しまりあり
2 黄褐色土　ローム塊多　しまりあり
3 黒褐色土　ローム粒・ローム塊少　しまり弱
4 黒褐色土　橙色スコリア微量　ローム粒混状に少　しまり弱
5 黒褐色土　細粒・根粒
6 にぶい黄褐色土　ローム粒少
7 にぶい黄褐色土　ローム粒少
8 黒褐色土　ローム塊微量　根粒
9 暗褐色土　ローム粒少　ローム塊（φ 1 ～ 10cm）多

0　(1:30)　2m

第49図　(15) SK002・SK003・SK004

位であろう。

底面はよく踏み固められている。周溝の深さは5cmに満たない部分がほとんどである。覆土は地山のローム粒・ローム塊を多く含まない表土層由来のものが主体で、自然堆積と考えられる。

出土遺物には、第50図1青磁稜花皿、2青磁端反碗、3在地産土器摺鉢がある。

(15) SK006 (N14-01)(第50図　図版9・28)

長方形を呈する地下式坑で、長軸長約350cm・短軸長約160cm・深度約110cmである。

東側長辺には竪坑の痕跡が認められ、壁中位にテラス状の部位が認められる。竪坑部位の底面のみに、溝状の落ち込みが掘り込まれる。竪坑が設けられる東長辺を除き、オーバーハングする。底面はよく踏み固められている。覆土は、竪坑部分からのローム粒・ローム塊主体の土層の流入が明瞭である。

出土遺物には、第50図4～7カワラケがある。

(15) SK007 (N13-90)(第50図　図版9)

長楕円形を呈する地下式坑で、長軸長約330cm・短軸長約190cm・深度約140cmである。底面形は長方形を呈し、地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。東側長辺中央には竪坑の痕跡が認められる。平面形V字状に縦方向に掘り込まれた壁の中位にはテラスが設けられ、テラスから奥側に向かって3箇所の小さな掘込みが認められる。四辺全周にわたりオーバーハングする。覆土は、竪坑部位の反対方向からのローム粒･ローム塊主体の土層の流入が認められる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(15) SK008 (M13-96)(第51図　図版9・28)

長方形を呈する地下式坑で、長軸長約270cm・短軸長約180cm・深度約110cmである。底面形は長楕円形で、底面は踏み固められている。地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。南側長辺中央の壁面には、竪坑を構成する楕円形の掘込みが認められ、下端はテラス状を呈する。竪坑部を除く全周がオーバーハングする。覆土はローム粒･ローム塊に乏しく、覆土上部と中位から土器片の出土が多い。

出土遺物には、第51図1瀬戸・美濃摺鉢、2・3在地産土器摺鉢、4在地産内耳土器、5在地産内耳土器焙烙、6在地産内耳土器鍋、7～11カワラケ、12砥石、13・14転用砥石がある。

(15) SK009 (N13-70)(第52図　図版9)

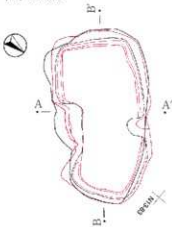
長楕円形を呈する地下式坑で、長軸長約320cm・短軸長約240cm・深度約140cmである。底面は長方形で、オーバーハングする部分はほとんどない。東側長辺に、確認面から約40cmの部分にテラスを設けるようなかたちで竪坑が作出される。竪坑の規模は、他の地下式坑に比して大きい。覆土上半にはローム粒･ローム塊を主体とした土層が顕著である。

出土遺物には、第52図1転用砥石がある。

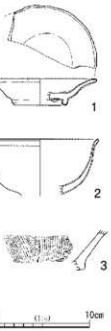
(15) SK010 (N13-42)(第52図　図版10)

楕円形を呈する地下式坑で、長軸長約240cm・短軸長約200cm・深度約60cmである。確認面でのプランは楕円形であるが、底面形は隅丸方形である。底面は平坦でよく踏み固められている。竪坑は確認面から約30cmの部分にテラスを設けるようなかたちで作出される。覆土は竪坑方向(南側)からローム粒･ローム塊を主体とした土層が流入している。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

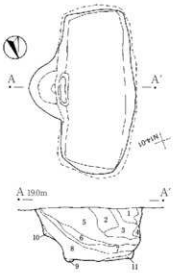
(15) SK005



(15) SK005
1 褐色土　しまり・粘性なし
2 暗褐色土　ローム粒　しまり・粘性なし
3 黒褐色土　ローム粒・ローム塊　しまり・粘性なし
4 黒褐色土　ローム塊多　しまり・粘性あり
5 黒褐色土　ローム粒多　しまりあり　粘性なし
6 褐色土　壁崩落土

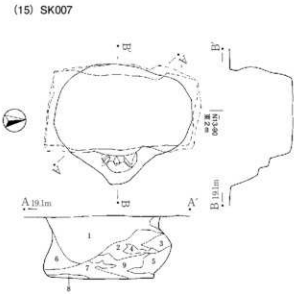


(15) SK006



(15) SK006
1 暗褐色土　ローム粒・ローム塊少　しまり弱
2 暗褐色土　ローム粒少　しまり弱
3 黒褐色土　ローム粒少
4 黒褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり弱　壁崩落土
5 褐色土　ローム粒少　ローム塊多　粘土質　しまり強　入口からの流れ込み
6 黒褐色土　ローム塊少　しまりあり
7 にぶい黄褐色土　ローム塊多量　粘質土
8 黒褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり強
9 黒褐色土　ローム粒少　しまり強
10 暗褐色土　粘質　しまり強　壁崩落土
11 褐色土　ローム塊主体　しまり強　壁崩落土

(15) SK007



(15) SK007
1 黒褐色土　ローム粒　しまりに欠ける
2 黒褐色土　ローム粒　しまりあり
3 暗褐色土　ローム粒・ローム塊　しまりあり
4 褐色土　ローム粒主体　しまりあり
5 暗褐色土　ローム塊多　しまり・粘性あり
6 黒褐色土　ローム粒少　しまり・粘性弱多
7 黒褐色土　ローム塊多　しまり・粘性強
8 暗褐色土　ローム塊主体　しまり　粘性強
9 褐色土　ローム粒主体　しまりあり　崩落土か

第50図　(15) SK005・SK006・SK007

(15) SK011（M13-23）（第52図　図版10）

長楕円形を呈する地下式坑で、長軸長220約cm・短軸長約130cm・深度約200cmである。確認面でのプランは長楕円形であるが、中端及び底面形は長方形である。形態から陥穴と考えられる。南東端のピットが本跡に伴うか否かは不明である。出土遺物はない。

(15) SK012（N13-44）（第52図　図版10）

歪んだ円形を呈する地下式坑で、軸長約300cm・深度約140cmである。確認面でのプランは歪んだ円形であるが、中端・底面形は方形である。底面は平坦でよく踏み固められている。底面南辺を除き深度数センチメートルの周溝が巡っている。底面南東端には深度５cm弱のピットが穿たれている。地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。竪坑は確認面から約50cmの部分にテラスを設けるようなかたちで作出される。テラス北西端には10cm強の深度のピットが穿たれている。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(15) SK013（N13-74）（第52図　図版10）

歪んだ長方形を呈する地下式坑で、長軸長約240cm・短軸長約180cm・深度約70cmである。底面は平坦でよく踏み固められ、深度数センチメートルの周溝が巡っている。底面北西端は周溝から壁面コーナーに連なるように浅い掘込みが設けられている。竪坑の痕跡は確認できなかった。覆土上半はローム粒・ローム塊を主体とした崩落土が主体となる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(15) SK014（N13-33）（第53図　図版10）

歪んだ長方形を呈する地下式坑で、長軸長約300cm・短軸長約240cm・深度約120cmである。確認面でのプランは歪んだ長方形であるが、底面形は長方形である。底面は平坦でよく踏み固められている。底面北西端には深度５cm強のピットが穿たれる。地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。竪坑は確認できなかったが、上端東辺の外側に歪んだ部分が竪坑の痕跡の可能性がある。覆土はローム粒・ローム塊の混入が少ない土層が主体である。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

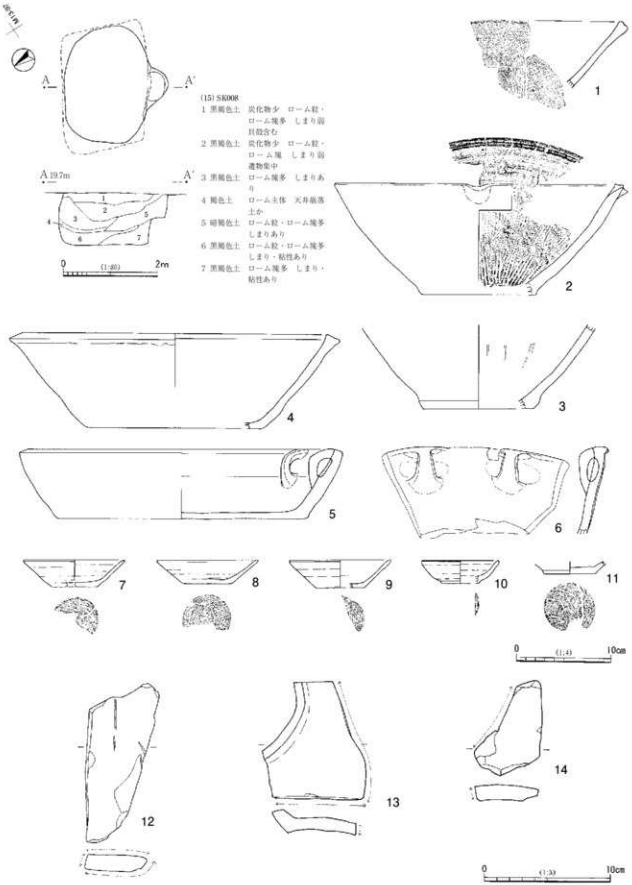
(15) SK015（M13-87）（第53図　図版11・28）

底面形が長方形を呈する地下式坑で、底面の長軸長約330cm・短軸長約240cm、全体の深度約160cmである。確認面でのプランは西半が楕円形、東半は方形である。中端はオーバーハングする。底面は平坦でよく踏み固められている。底面南西角には深度５cm程度の小ピットが穿たれる。地山ハードロームレベル以下の壁は垂直に掘り込まれている。竪坑は底面から約15cmの部分から確認面にかけて、奥行の狭いテラス３段を設けるようなかたちで作出される。覆土は竪坑部からローム粒を主体とした土層が斜方向に流入する。

出土遺物には、第53図１古瀬戸緑釉小皿がある。

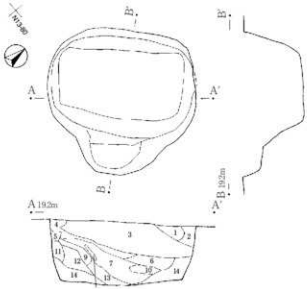
(15) SK016（M13-84）（第53図　図版11）

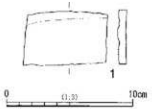
底面形が概ね長方形を呈する地下式坑で、底面の長軸長約230cm・短軸長約160cm、全体の深度約180cmである。遺構検出段階の上端は長楕円形であり、天井部をよく残しているが、調査の進捗に伴い天井部を除去した。中端はオーバーハングする。底面は平坦でよく踏み固められている。竪坑は確認面から約60cmの部分にテラスを設けるようなかたちで作出される。底面形は竪坑に連動するかたちで南西側に突出する。覆土は３層を除きローム粒・ローム塊を主体とする崩壊土層が主体で、竪坑部分からの流入を確認することができる。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。



第51図　(15) SK008

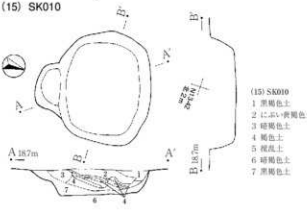
(15) SK009





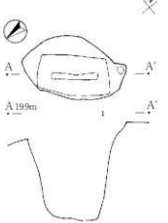
(15) SK009
1 黒褐色土　ローム粒　しまりなし
2 褐色土　ローム質　壁・天井崩落か
3 暗褐色土　粘土質　しまりに欠ける
4 黒褐色土　ローム粒・ローム塊少　しまり弱
5 褐色土　ローム塊多　崩落土
6 黒褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまりあり
7 暗褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまりあり
8 褐色土　ローム粒主体
9 黒褐色土　ローム粒少　しまり弱
10 黒褐色土　ローム塊少　しまり強
11 黒褐色土　ローム粒・ローム塊少　しまりあり
12 暗褐色土　ローム塊多　しまり強
13 暗褐色土　粘性あり
14 黒褐色土　ローム粒・ローム塊　しまりに欠ける　粘性あり

(15) SK010

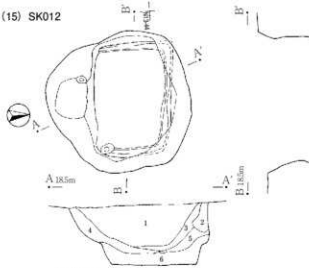


(15) SK010
1 黒褐色土　ローム粒少　しまりなし
2 にぶい黄褐色土　粘質　しまりあり
3 暗褐色土　ローム　粒・ローム塊　しまりなし
4 褐色土　ローム塊主体　しまりなし
5 混乱土
6 暗褐色土　ローム塊少　粘質土　しまりあり
7 黒褐色土　ローム粒少　しまりあり　入口からの流れ込み

(15) SK011

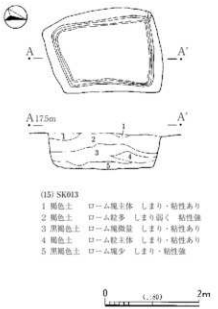


(15) SK012



(15) SK012
1 暗褐色土　ローム粒少　しまりなし
2 暗褐色土　ローム塊多　壁・天井の崩落土
3 黒褐色土　ローム粒・赤色粒微量　しまり弱
4 黒褐色土　ローム粒少　しまり弱
5 暗褐色土　ローム粒少　しまり弱
6 暗褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり・粘性あり

(15) SK013



(15) SK013
1 褐色土　ローム塊主体　しまり・粘性あり
2 褐色土　ローム粒多　しまり弱く　粘性強
3 黒褐色土　ローム塊微量　しまり・粘性あり
4 褐色土　ローム粒主体　しまり・粘性あり
5 黒褐色土　ローム塊少　しまり・粘性強

第52図　(15) SK009・SK010・SK011・SK012・SK013

(16) SK001 (Q15-47) (第54図　図版11)

２基の柱穴状の掘込みからなる。西側の掘込みは概円形で、推定径約50cm・深度約70cmであり、東側の掘込みは楕円形で、長軸長約60cm・短軸長約40cm・深度約60cmである。土層観察から東側の掘込みの方が新しい。共に暗褐色土中に掘り込まれているが、底面は地山の白灰色･灰黄色粘質土の面である。出土遺物はない。

(16) SK002 (Q15-57) (第54図　図版11)

確認トレンチ内で検出されたため南側の一部は調査しなかった。楕円形を呈し断面は皿状を呈する浅い掘込みで、短軸長約150cm・深度約20cmである。出土遺物はない。

(16) SK014 (R14-93) (第54図　図版11・28)

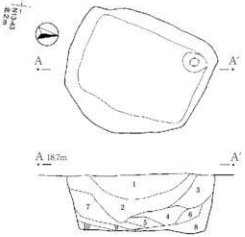
調査開始当初は、確認面付近の覆土上層部から近現代の釘・鉄製品が出土したことから、近現代の遺構もしくは撹乱の可能性を考えていたが、覆土中から備前系の皿や骨（破片）が出土したことから、近世の遺構と判断した。

長楕円形の底面形の長軸長約220cm・短軸長約90cm、最大深度約130cmである。２か所の開口部が認められ、開口部間は天井部が残るが、北東部の開口部は撹乱の可能性がある。

底面は南西から北東方向に低く傾斜する。比較的平坦で締まっている。壁は直に立上るが、北東側は長軸方向にオーバーハングする。覆土は暗褐色土を主体にローム塊を多く含む水平堆積のもので、ローム塊の混入度から４層程度に分層できた。ローム塊の混入が多いものの、比較的締まりの良好な覆土である。

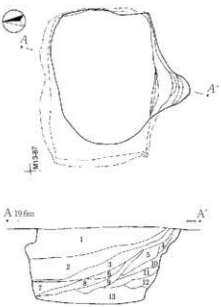
出土遺物としては、第54図１備前系磁器の皿、２砥石がある。

(15) SK014



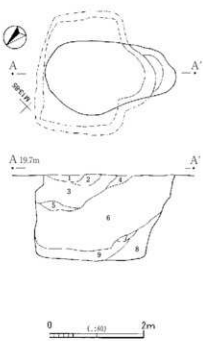
(15) SK014
1 黒褐色土　ローム粒少　しまりなし
2 黒褐色土　ローム粒少　しまりなし
3 暗褐色土　ローム塊　壁・天井の崩落土　しまりなし
4 黒褐色土　ローム粒・ローム塊少　しまり弱い
5 暗褐色土　ローム粒・ローム塊多量　しまり強　粘性あり
6 暗褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり強い
7 暗褐色土　ローム粒・ローム塊主体　崩落土？
8 にぶい黄褐色土　ローム塊多　しまり・粘性強
9 黒褐色土　ローム塊多　しまり・粘性強
10 暗褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり・粘性強

(15) SK015

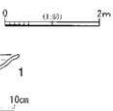


(15) SK015
1 暗褐色土　ローム粒少　しまり弱
2 黒褐色土　ローム塊少　しまり弱
3 褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり弱
4 黒褐色土　ローム粒少　しまり弱
5 黒褐色土　ローム粒少　しまり弱
6 暗褐色土　しまり強　粘性あり
7 黒褐色土　黒色粒・ローム塊少　しまり強　粘性あり
8 黒褐色土　黒色粒・赤色粒・ローム粒少　しまり強　粘性あり
9 黒褐色土　ローム粒多　しまりあり
10 暗褐色土　ローム塊多　崩落土？
11 黒褐色土　黒色粒少　ローム粒・ローム塊多　しまりあり
12 暗褐色土　ローム粒少　しまり強
13 黒褐色土　ローム粒・ローム塊多　しまり強　粘性あり

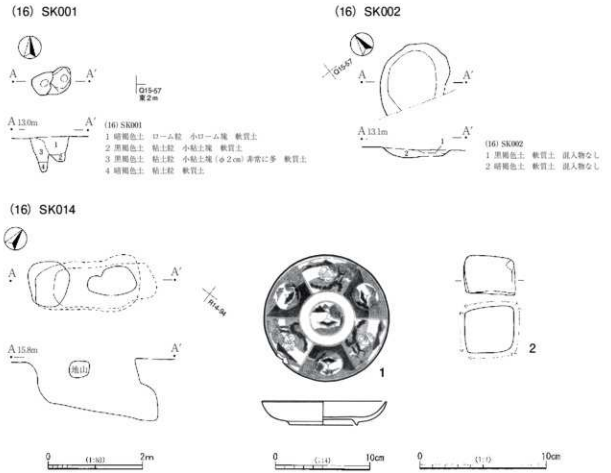
(15) SK016



(15) SK016
1 黒褐色土　ローム粒少　しまりあり
2 暗褐色土　ローム塊少
3 黒褐色土　ローム塊多　しまりあり
4 暗褐色土　ローム粒少　しまりなし
5 褐色土　ローム粒主体　粘性あり
6 暗褐色土　粘性あり　流入土
7 黒褐色土　ローム塊多
8 褐色土　ローム粒主体　しまり・粘性あり
9 暗褐色土　ローム塊多　しまり・粘性あり



第53図　(15) SK014・SK015・SK016



第54図　(16) SK001・SK002・SK014

2　土坑墓

(1) 資料提示方法

R15-20 ～ 22、R15-30 ～ 32、R15-40･41グリッドに集中する68基の土坑については、人骨を伴うものが多いことから、これらを土坑墓と捉えて報告する。厳密には人骨を伴わない土坑も存在するが、時間的経過による人骨の腐植や、新規の土坑墓の設営（重複）に伴う除去･破壊等の理由により人骨が滅失した可能性も考えられることから、ここではこれら68基の土坑を土坑墓として捉えて報告する。なお、土坑墓群分布域内の存在する人骨の埋納に不適な小規模な掘込みについては、発掘調査の段階で土坑番号を付与せずピットとしており、この認識は整理作業段階においても引き継いでいる。

表土除去後に土坑群を確認した段階では土坑相互の重複が激しく、これに伴う人骨にも重複が多く認められた。このため遺構確認の段階では、人骨群の個体の区別（どの骨が１個体分なのか）等、土坑掘込みと人骨との関係を識別することは困難であった。また人骨の出土量が多いことから、土層断面に人骨が引っかかる例が多く、土層断面観察による土坑の新旧関係の見極めが極めて困難であった。よって、新規の土坑墓の設営に伴うような不自然な人骨の欠如（滅失）や、掘込み底面のレベル差（深い方が新しいとの前提）をもって新旧関係を類推せざるを得なかったものがある。さらに、土坑の重複が激しいことから、ローム層等の地山で壁面を検出できるものは多くなかった。このため完掘後において、隣接する土坑墓の調査に

伴い、壁面を再精査する必要が生じる機会が多く、当初の撮影写真と最終的な平面図の規模や形状に齟齬が生じているものがある。

人骨以外の銭貨・土器等の出土遺物において、土坑墓の重複が激しいため、隣接する土坑のどちらに属するものか断定し得なかったものが多い。報告に際しては、調査段階で当該遺物が所属すると判断した遺構番号を、原則として受け継いでいる。現実に、単独の土坑墓から出土した遺物として実測・撮影により調査を終えた後に、壁面のシミ状の部分を念のため掘り進めたところ、別の土坑墓が確認でき、この土坑墓の推定プラン範囲内に、当初の土坑墓から出土した遺物がおさまることとなり、結果として、遺物がどちらの土坑墓に属するか判別し得ない状況が多く生じている。よって報告に際しては、重複する土坑については、同一の挿図内で遺物の出土状況と併せて図示することとした。ただし、繰り返しになるが、調査段階で当該遺物が所属すると判断した遺構番号を、原則として受け継いでいる。

遺物出土状況図・人骨出土状況図は、現地において遣り方で実測した微細図、人骨の上部にメッシュ枠を設置し写真撮影を行った画像の出力紙などをもとに合成したもので、より下の層から出土した遺物・人骨は図上にあらわれないことを原則としている。

現地での実測における人骨の表現は、大きく分けて３種がある。これは、①微細図によるもの、②ドットによるもの、③破線による骨の範囲の記載である。報告に際しては現地での表現をほぼ踏襲している。なお、平面図における出土遺物の凡例は、下記のとおりである。

土器	●もしくは微細図
土製品	■
金属製品	△もしくは微細図
銭	▲
石・礫	○
石器・石製品	□
歯	＊
骨	☆
おはじき	◎
板碑	●

骨粉範囲もしくは遺存状況が悪いことから形状を判別し得ない人骨　----（破線）

図の縮尺について、土坑・井戸状遺構・地下式坑については1/80を基本としているが、土坑墓群については人骨の表現に鑑み、1/20を基本とした。

銭貨の掲載順序は、遺構ごとに初鋳年を古い方から配列した。なお、人工遺物の詳細は、遺物観察表（第16表～第22表）にゆずりたい。

土坑墓群から出土した銭貨は、主に宋銭・永楽通宝・寛永通宝である。これらは各土坑墓においておおむね以下のような組合せを示して出土している。

宋銭のみ

宋銭+永楽通宝

永楽通宝のみ

寛永通宝のみ

これらの組合せは、「宋銭のみ」の古い段階から、新しい段階の「寛永通宝のみ」にいたるまでの時間的な流れを示していると考えられる。その時間幅は、中世から江戸時代と捉えることができる。

ここでは土坑墓群の設営時期を推し量る手がかりとして、上記の組合せを時間的に、

Ⅰ期：宋銭のみ

Ⅱ期：宋銭+永楽通宝

Ⅲ期：永楽通宝のみ

Ⅳ期：寛永通宝のみ

と分類し、市野谷宮後遺跡（南側）上層遺構一覧（第３表）に記載した。

あくまでも土坑墓の設営時期の目安として見ていただきたい。

なお上限の中世については、出土土器類から概ね15世紀と考えられる。下限については、出土土器類から概ね18世紀と考えられる。

（２）遺構と人工遺物

(16) SK003・SK032

(16) SK003（R15-32）（第55図　図版11・12・41）

長楕円形のプランで、坑底面の状況から北側と南側の２基の掘込みからなると考えられる。南北合わせた全体の規模は長軸長約110cm・短軸長約70cmで、深度は北側の掘込みが約50cm、南側の掘込みが約40cmである。南北の両掘込み共に、壁は比較的直に立ち上がり、底面はやや凹凸がある。後述する（16）SK032を含め、土層断面等の観察により新旧関係が捉えられているわけではない。南側の上端は攪乱により壊されている。

南側の掘込みからは銭貨１～６が出土している。これらは宋銭に限定される。北側の掘込みからは銭貨７～12が出土している。これらは宋銭と永楽通宝からなる。

(16) SK032（R15-32）（第55図　図版11・19）

長楕円形のプランで、長軸長約100cm・短軸長約70cm･深度約40cmで、壁は比較的直に立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

底面北西部で頭骨の一部が検出されるが、これに伴う四肢骨は（16）SK003北側掘込みの設営により除去されている可能性もあろう。銭貨13～18が出土している。これらは永楽通宝に限定される。

(16) SK004（R15-22）（第56図　図版12・37）

隅丸長方形のプランで、長軸長約100cm・短軸長約80cm・深度約50cmで、北西部でやや深くなる。底面は水平に仕上げられており、壁は下半ではやや湾曲気味で、以上は比較的直に立ち上がるが、北西部の壁はやや斜めに立ち上がる。

土層断面観察後に改めて遺構精査を行ったことにより、完掘後の深度は土層断面の観察時より深くなっているが、断面観察段階での記録をそのまま掲載している。

出土人工遺物には１板碑がある。

(16) SK005A・SK005B・SK053

(16) SK005A（R15-40）（第57図　図版12・13・41）

円形に近い楕円形プランで、長軸長約130cm・短軸長約120cm・深度約120cmの筒型の断面で、底面は水平・平滑に仕上げられている。壁面は、坑底から20cm程度までは湾曲気味であるが、以上は直に立ち

上がる。遺構確認面での覆土観察から、(16) SK005Aは (16) SK005B・SK053を壊すかたちで設営されている。

出土人工遺物には銭貨6枚（第57図1～6）がある。

(16) SK005B（R15-40）（第58図　図版12・41）

方形プランで、軸長約110cm・深度約90cmで、底面は水平・平滑に仕上げられており、壁は直に立ち上がる。遺構確認面での覆土観察から、(16) SK005Bは (16) SK005Aに壊されるかたちで設営されている。

本跡北東側には、概円形もしくは楕円形の掘込みが確認されている。遺物等が出土していないことから、調査段階では遺構番号を付与していないので、この把握を整理段階でも踏襲している。深度約20cmで、底面は平滑に仕上げられているが、全体として南側に向けて傾斜している。なお、確認面での状況から、この掘込みは (16) SK005Bに壊されていることが確認されている。

出土人工遺物には銭貨6枚がある。この銭貨6枚（第58図1～6）は6枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版48）。

(16) SK053（R15-40）（第57図　図版22・23）

長楕円形の可能性の高いプランで、(16) SK005に壊される。短軸長約70cm・深度約90cmである。底面の断面形態は摺鉢状で、壁面はオーバーハングしながら立ち上がる。覆土は暗褐色土に若干のローム粒を含むもので、粘性があり締まっている。遺構確認面での覆土観察から (16) SK053は (16) SK005Aに壊されるかたちで設営されている。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK006（R15-30）（第58図　図版13・41）

歪んだ方形を呈するプランで、南側コーナーは隅丸となる。軸長90cm、深度約20cmである。東側の一部は現代の排水管の埋設溝により壊されている。

出土人工遺物には銭貨7枚がある。

(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051

(16) SK007A（R15-31）（第59～62図　図版13・40・41・42）

円形に近いプランで、径約130～140cm、深度約90cmである。底面の断面形はやや丸底ないし摺鉢状を呈するが、平滑に仕上げられている。壁も丁寧に仕上げられ、ほぼ直に立ち上がる。

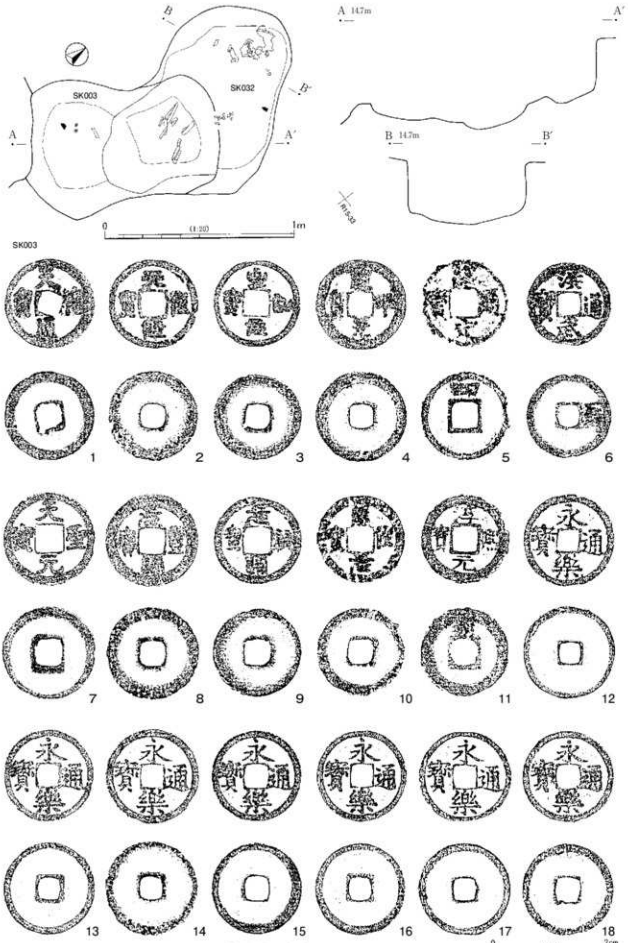
出土人工遺物には、第61図1キセル、2キセルの柄がある。銭貨7枚の出土（第62図1～7）があるが、うち1枚の永楽通宝はバラバラの状態で出土し図示不能であった。銭貨のうち6枚（第62図1～6）は6枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版48）。

(16) SK007B（R15-31）（第59・60図　図版13・14）

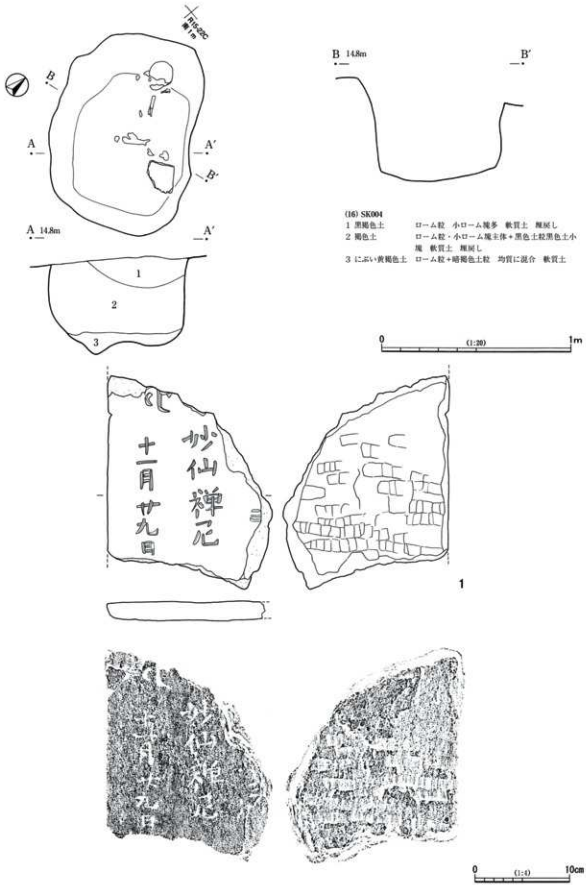
(16) SK007Aに壊され全体のプランは不明である。残存する長軸長約110cm・短軸長約80cm・深度約50cmである。底面の断面形は摺鉢状で、壁はやや湾曲しながら立ち上がる。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK012（R15-31）（第59・60・62図　図版15・42）

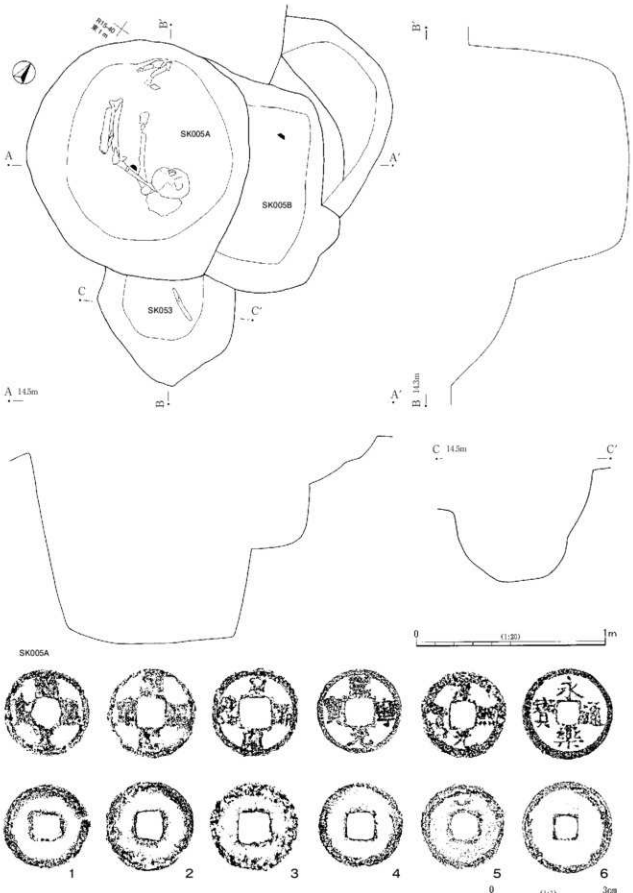
長楕円形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約80cm・深度約50cmである。底面形は円形に近いことから、長楕円形のプランは不安定である。南東部壁面には柱穴状の掘込みが認められるが、本跡に伴うか否かは不明である。(16) SK007に切られる様相を呈するが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。



第55図　(16) SK003・SK032

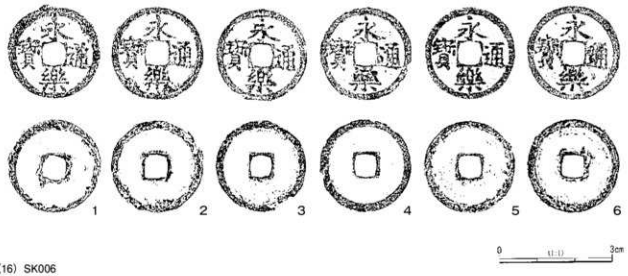


第56図　(16) SK004

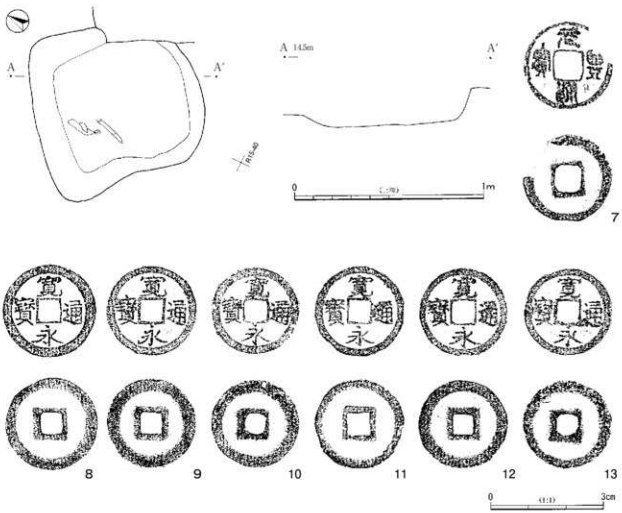


第57図　(16) SK005A・SK005B・SK053 (1)

SK005B



(16) SK006



第58図　(16) SK005A・SK005B・SK053（2）、(16) SK006

銭貨６枚が出土している。

(16) SK013（R15-31）（第59・60図　図版15）

楕円形のプランと考えられるが、(16) SK007A・SK012との重複により、プランは不鮮明で、土層断面観察等による新旧関係も不明である。長軸長約80cm・短軸長約70cm・深度約40cmである。底面形は円形に近いことから、楕円形のプランは不安定である。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK024（R15-31）（第59・60・62・63図　図版13・17・42）

楕円形のプランを呈し、長軸長約110cm・短軸長約70cm・深度約50cmである。(16) SK007Aに切られ、(16) SK046を切るかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。

出土人工遺物には銭貨12枚（第62図14～24、第63図）がある。

(16) SK025A（R15-32）（第59～61図　図版18）

不整円形もしくは長楕円形のプランで、推定長軸長約200cm・短軸長約150cm・深度約40cmである。本跡は (16) SK026を壊すかたちで設営され、SK025B・SK040・SK050に壊されるかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。

出土人工遺物には、第61図３カワラケがある。

(16) SK025B（R15-32）（第59～61図・63図　図版18・40・42）

長楕円形のプランで、東北側の底面は僅かにオーバーハングする。長軸長約130cm・短軸長約70cm・深度約110cmである。(16) SK040・(16) SK050を壊すかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。ただし、(16) SK050出土と考えられる一連の人骨が (16) SK025Bのプラン上に分布していることから、(16) SK025Bを壊すかたちで (16) SK050が設営されている可能性が高い。

出土人工遺物には、第61図４隅金具、５カギ状鉄製品で、銭貨６枚（第63図２～７）がある。

(16) SK026（R15-32）（第59～61図・63図　図版18・40・42）

楕円形のプランと考えられ、短軸長約140cm・深度約40cmである。底面は平坦で、壁は比較的直に立ち上がる。(16) SK025A・(16) SK051に壊されるかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。

出土人工遺物には、第61図６丸掛金のほか、銭貨５枚（第63図８～12）がある。

(16) SK031（R15-32）（第59～61図・63・64図　図版18・19・29・42）

円形のプランを呈し、径約100～110cm、深度約80cmである。(16) SK025A・(16) SK040を壊すかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。

出土人工遺物には、第61図７カワラケのほか、銭６枚（第63図13～18）がある。この銭貨６枚（第65図１～６）は６枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版49）。

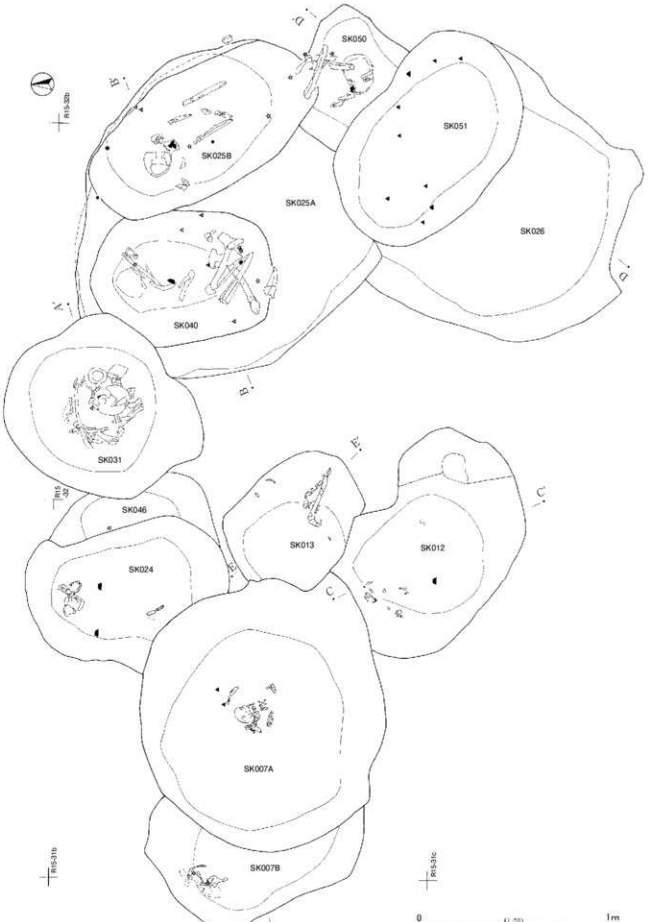
(16) SK040（R15-32）（第59～61図・63図　図版18・20・40・42）

楕円形のプランで、長軸長約100cm・短軸長約70cm･深度約40cmである。(16) SK025B・(16) SK040に壊されるかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。

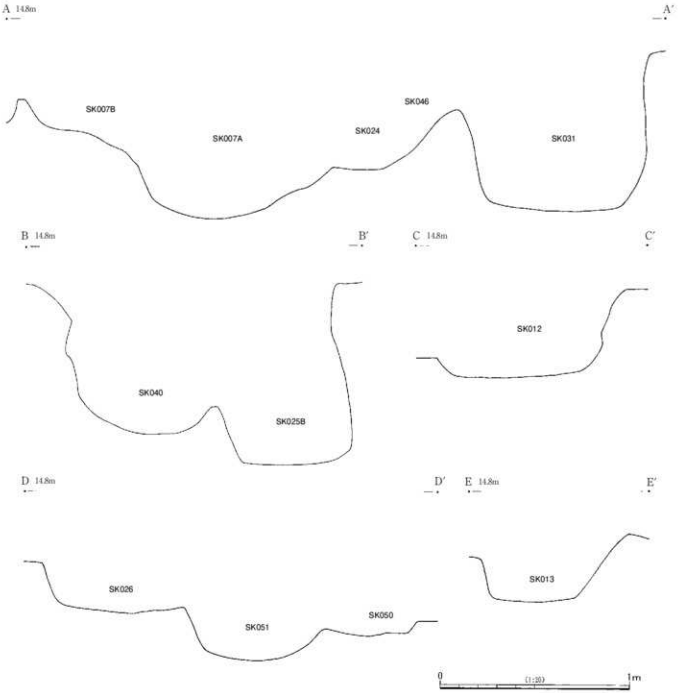
出土人工遺物には、第61図８・９丸掛金のほか、銭貨７枚（第63図19～24、第64図１）がある。

(16) SK046（R15-31）（第59・60図）

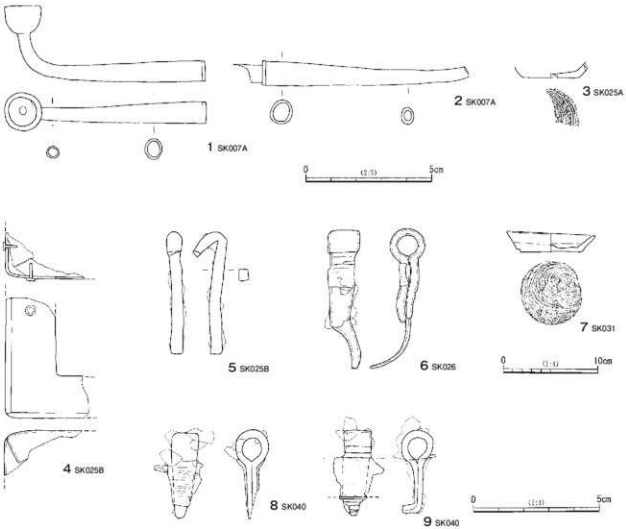
(16) SK024･(16) SK031に壊されるかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不



第59図　(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051（1）

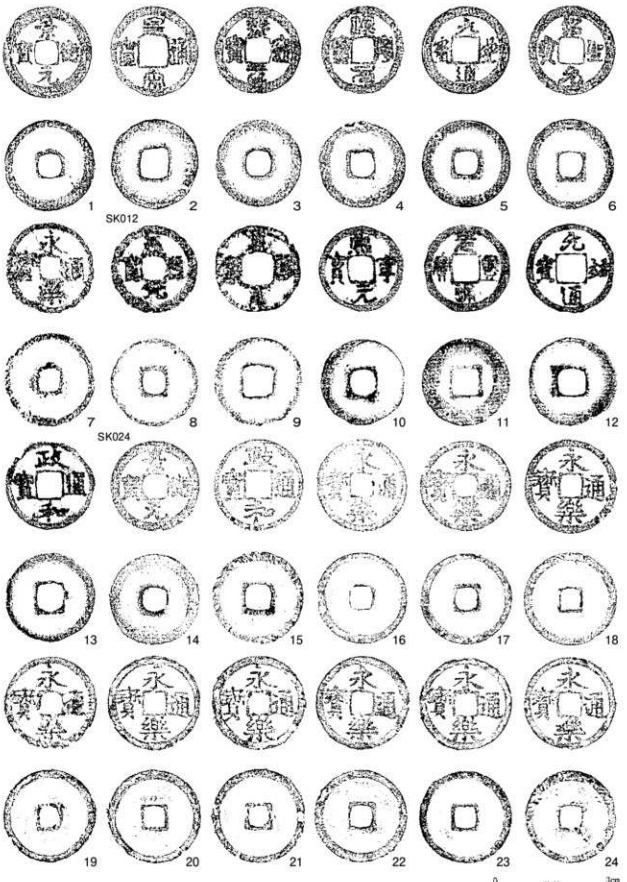


第60図　(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051（2）

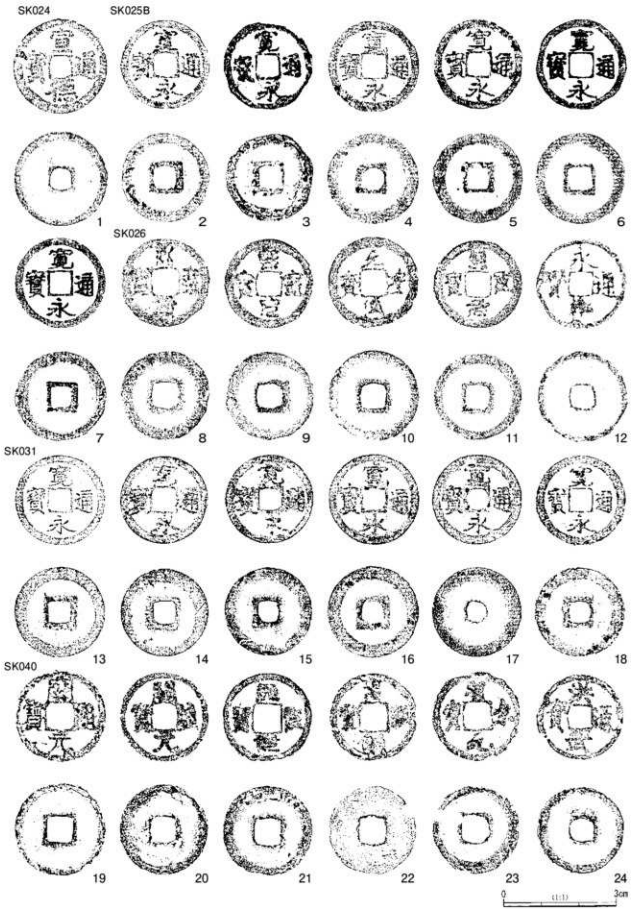


第61図　(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A
・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051（3）

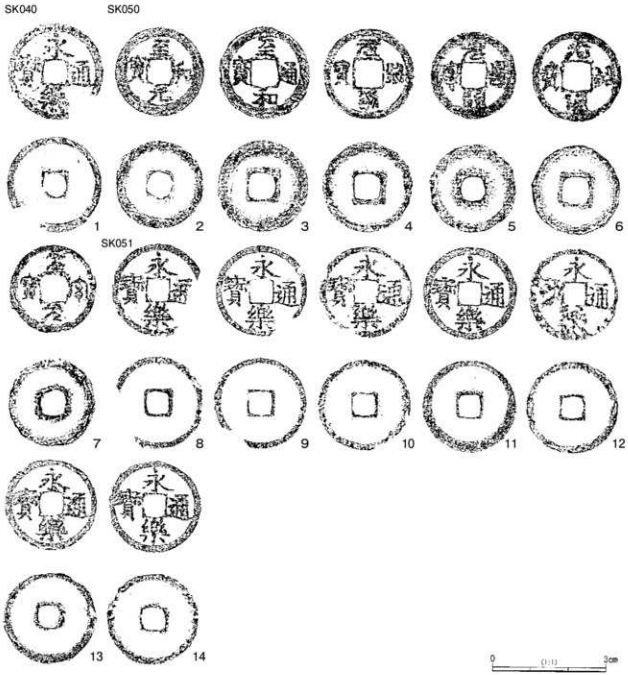
SK007A



第62図　(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051（4）



第63図　(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051 (5)



第64図　(16) SK007A・SK007B・SK012・SK013・SK024・SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK046・SK050・SK051（6）

明である。残存する範囲から、南北方向に長軸を有する楕円形のプランを考えることができよう。長軸長約90cm・深度約50cmである。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK050（R15-32）（第59・60・64図　図版18・22・42・43）

(16) SK025B・(16) SK051との重複により平面形は不確定であるが、北東部にコーナー状のプランが認められることから、方形系のプランであった可能性を指摘し得よう。現存する軸長（幅）は60～70cmである。底面はやや平坦で、壁は直ではなくボウル状に立ち上がる。

(16) SK051に壊されるかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。(16) SK050出土と考えられる一連の人骨が (16) SK025Bのプラン上に分布していることから、(16) SK025Bを壊すかたちで (16) SK050が設営されている可能性が高い。

出土人工遺物には銭貨6枚（第64図2～7）がある。

(16) SK051（R15-32）（第59・60・64図　図版18・43）

長楕円形のプランを呈する。長軸長約120cm・短軸長約80cm・深度約50cmである。(16) SK025A・SK026・SK050を壊すかたちで設営されているが、土層断面観察等による新旧関係は不明である。掘込みの断面形態はボウル状を呈する。

出土人工遺物には銭貨7枚（第64図8～14）がある。

(16) SK010・SK011・SK020

(16) SK010（R15-32）（第65・66図　図版15・43）

概隅丸方形のプランで、長軸長約110cm・短軸長約100cm・深度約30cmである。掘込み内には、長軸長約70cm・短軸長約60cm・概隅丸方形プラン底面からの深度約10cmの不整楕円形の掘込みが認められる。これらふたつの掘込みは新旧関係を有する可能性はあるものの、明らかにすることはできなかった。壁の掘込みはしっかりとはしていない。底面はやや丸底気味で凹凸がある。

なお、本跡と後述する (16) SK011との間に、長軸長約100cm以上・短軸長最大約100cm・(16) SK010確認面からの深度約20cmの不整形の掘込みが確認されているが、発掘調査の段階で遺構番号が付与されておらず、遺物も出土していないことから、整理段階で特段の措置は講じていない。この掘込みと、(16) SK011・SK012との新旧関係は明確ではないが、(16) SK011出土人骨が本跡によって壊されたような状況ではないことから、本跡は (16) SK011よりも古い設営と考えられる。

出土人工遺物には銭貨12枚（第65図1～6・第66図1～6）がある。出土銭貨は、永楽通宝6枚の組合せが3組出土していることから、本来は複数基の土坑墓の重複があった可能性がある。第66図1～6は、6枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版49）。

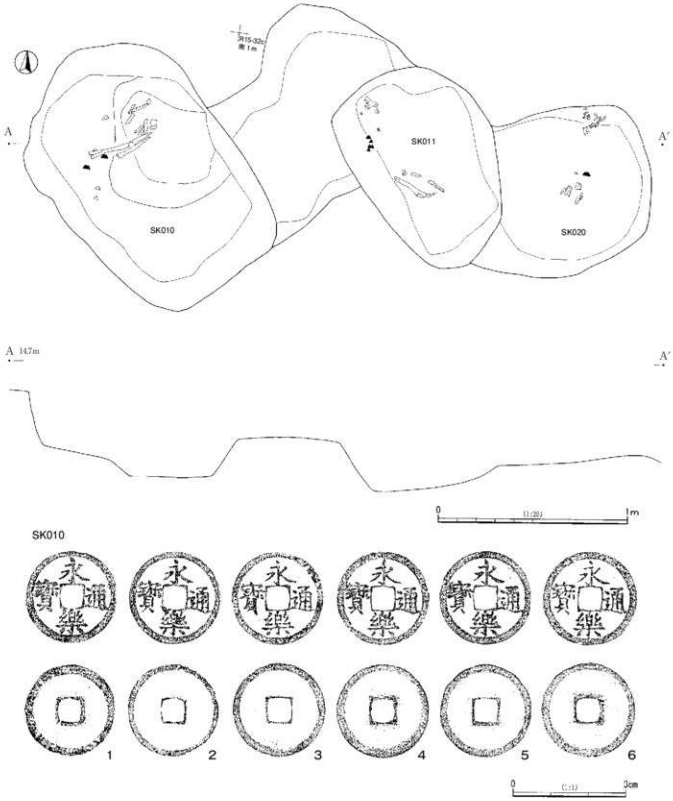
(16) SK011（R15-32）（第65・66図　図版15・43）

不整長楕円形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約80cm・(16) SK010確認面からの深度約50cmである。壁の掘込みはしっかりとはしていない。底面はやや丸底気味で凹凸がある。(16) SK020を壊すかたちで設営されているが、土層断面の観察による新旧関係が把握できているわけではない。

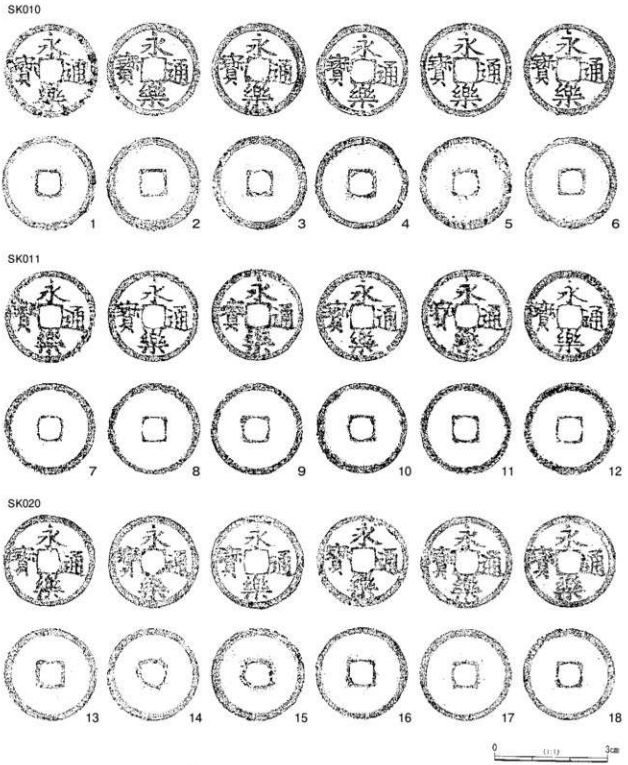
出土人工遺物には銭貨6枚（第66図7～12）がある。

(16) SK020（R15-32）（第65・66図　図版16・43）

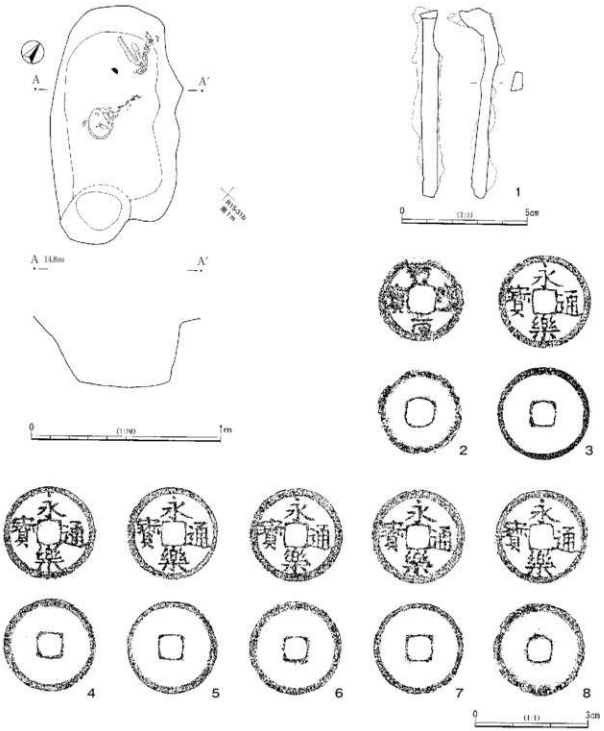
隅丸方形のプランで、軸長約90cm・(16) SK010確認面からの深度約40cmである。壁の立上りは直ではあるが、漸移層からソフトローム層中に設営されていることから、しっかりとした掘込みではない。底面



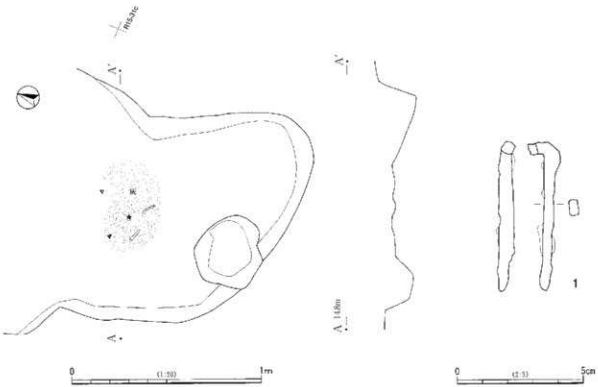
第65図　(16) SK010・SK011・SK020 (1)



第66図　(16) SK010・SK011・SK020 (2)



第67図　(16) SK027



第68図　(16) SK039

は平坦ではあるが、平滑ではない。(16) SK011を壊すかたちで設営されているが、土層断面の観察による新旧関係が把握できているわけではない。

出土人工遺物には銭貨6枚（第66図13～18）がある。

(16) SK027（R15-31）（第67図　図版18・40・43）

方形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約70cm・深度約40cmである。底面形は確認面プランよりきっちりと方形を呈している印象を受ける。壁は直に立ち上り、掘込みはしっかりとしている。底面は平坦で平滑化されている。南端の柱穴状の掘込みが本跡に伴うか否か不明である。

出土人工遺物には、1カギ状鉄製品（フック）のほか、銭貨7枚（2～8）がある。

(16) SK039（R15-31）（第68図　図版20・40）

撹乱により全体の1/2程度が壊されている。調査段階の所見では、南辺と東辺の壁のみが残存しているとされている。短軸長約100cm・深度約20cmである。壁の掘込みは不明瞭で、調査段階の所見では、写真にあらわれる東端の溝状の落込みと西側の不整形の落込みは撹乱とされている。厚さ3cm～5cmの灰の堆積範囲が認められ、灰中には炭化物を含むが焼土は含まない。

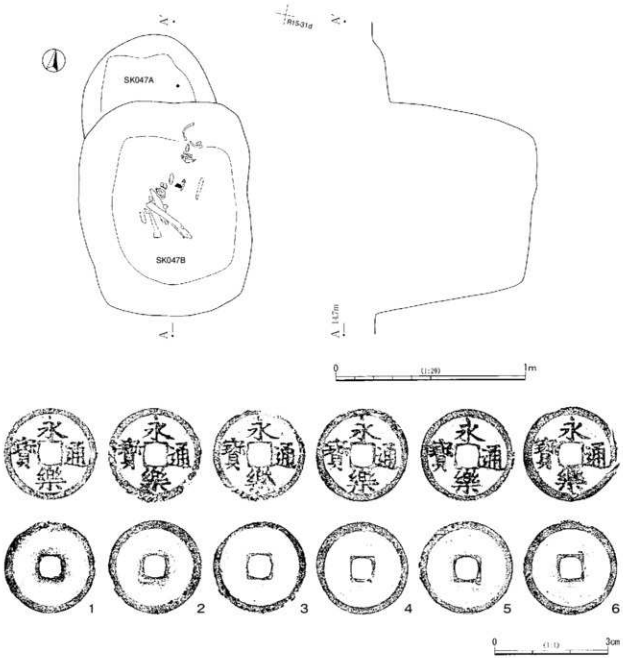
出土人工遺物には、1棒状鉄製品がある。

(16) SK047A・SK047B

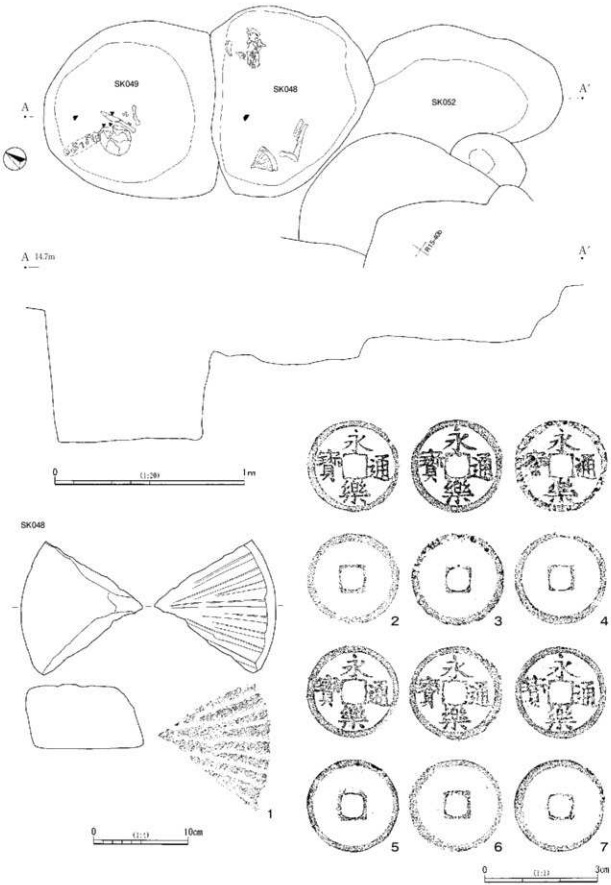
(16) SK047A（R15-30）（第69図　図版21）

楕円形と考えられるプランで、短軸長約70cm・深度約20cmである。底面は平坦ではなく、北壁から(16) SK048Bに向かって緩やかに深くなる。掘込みは浅いものの、壁はしっかりと掘り込まれている。調査段階での所見では、(16) SK047Bよりも (16) SK047Aの方が新しい設営であるとされている。

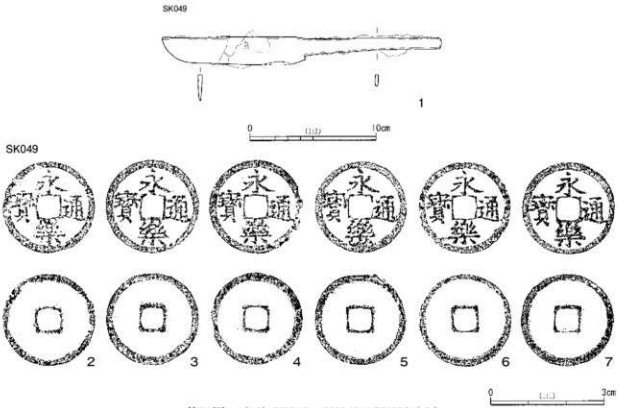
人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。



第69図　(16) SK047A・SK047B



第70図　(16) SK048・SK049・SK052 (1)



第71図　(16) SK048・SK049・SK052 (2)

(16) SK047B (R15-30) (第69図　図版21・43)

隅丸長方形に近いプランで、長軸長約110cm・短軸長約90cm・深度約90cmである。底面形はより方形に近い印象を受ける。底面は平坦で、掘込みはしっかりとしている。調査段階での所見では、(16) SK047Bよりも (16) SK047Aの方が新しい設営であるとされている。

出土人工遺物には銭貨6枚 (第69図1～6) がある。この銭貨6枚は6枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる (図版49)。

(16) SK048・SK049・SK052

(16) SK048 (R15-30) (第70図　図版21・22・38・43・44)

(16) SK049に壊されるかたちで設営されているため、平面形は不明であるが、概円形のプランであったと推察できる。軸長約100cm・深度約20cmである。底面は摺鉢状を呈し、緩やかな凹凸がある。残存する北東側の壁はしっかりとし、直に立ち上がる。

出土人工遺物には、1石臼のほか銭貨6枚 (第70図2～7) がある。

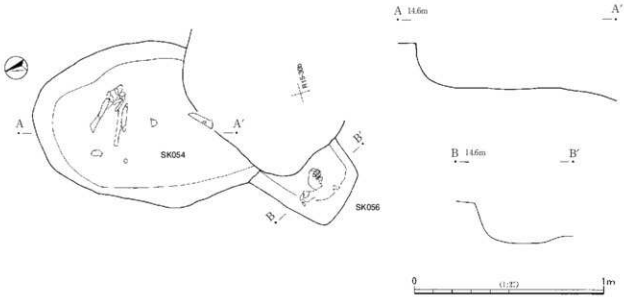
(16) SK049 (R15-30) (第70・71図　図版21・22・40・44)

概円形の掘込みで、軸長約90cm・深度約70cmである。底面は平滑に仕上げられ、壁は直に立ち上がる。調査段階の所見では、本調査区の土坑墓群の中で、本跡が最も丁寧なつくりであるとされ、本跡は (16) SK048より新しいとしている。

出土人工遺物には、第71図1刀子のほか銭貨6枚 (第71図2～7) がある。

(16) SK052 (R15-30) (第70図)

楕円形の可能性の高いプランで、残存軸長約110cm・深度約30cmである。底面は平滑に仕上げられて



第72図　(16) SK054・SK056

いるが、南側に向けて深度はやや低くなる。壁は直に立ち上がる。調査段階での所見では、全体的な掘り方や仕上げ方について、(16) SK038に類似していると捉えている。

本跡南西側には楕円形のピットが確認されている。長軸長約40cm・短軸長約30cm・深度約20cmである。遺物等が出土していないことから、調査段階では遺構番号を付与していないので、この把握を整理段階でも踏襲している。人工遺物の出土はない。

(16) SK054・SK056

(16) SK054 (R15-30) (第72図　図版23)

不整長楕円形のプランで、短軸長約90cm・深度約20cmである。南側は現代の排水管の埋設溝によって壊される。一瞥すると (16) SK056を壊して設営しているように観察できるが、土層断面等による新旧関係は不明である。底面はほぼ平滑で、壁はオーバーハングしながら立ち上がる。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

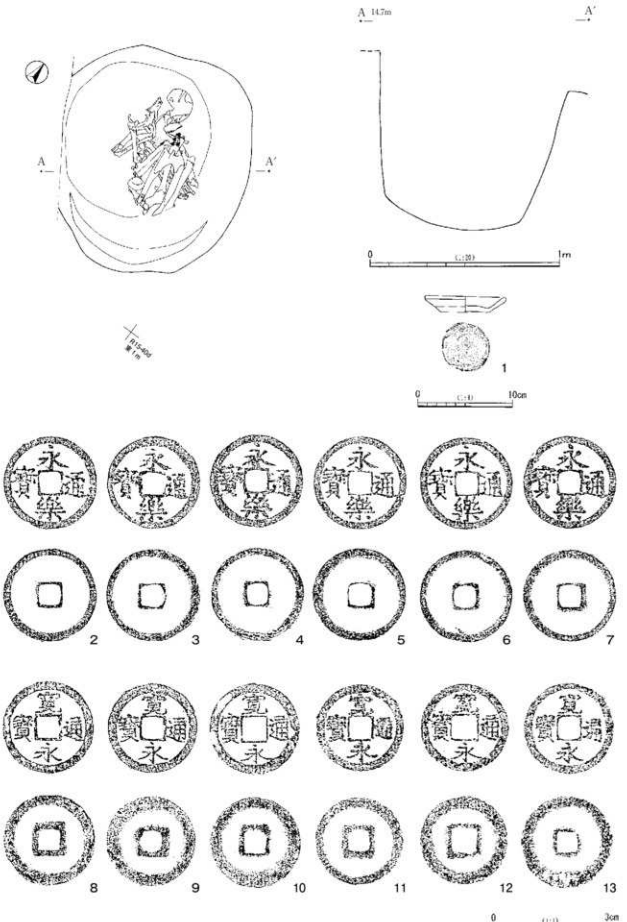
(16) SK056 (Q15-39) (第72図　図版24)

隅丸方形もしくは隅丸長方形のプランで、短軸長約50cm・深度約20cmで、東側は現代の排水管の埋設溝によって壊される。一瞥すると (16) SK054に壊されているように観察できるが、土層断面等による新旧関係は不明である。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

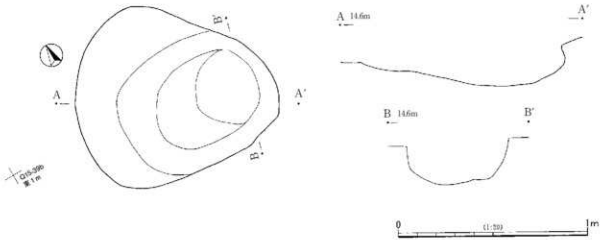
(16) SK055 (R15-40) (第73図　図版23・24・29・44)

円形のプランで、径約110～120cm・深度約60cmである。長軸方向南東側には、確認面から約20cmの深さでテラスが設けられている。壁は直に立ち上がるというよりはやや外反気味に立ち上がる。掘込みはしっかりとしている。

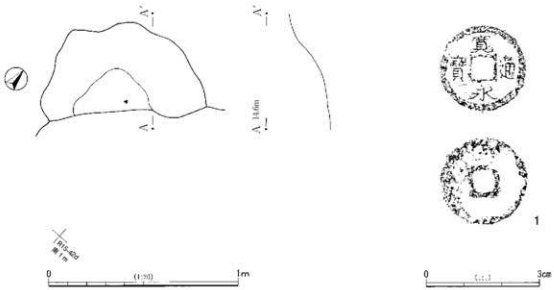
出土人工遺物には１カワラケのほか、銭貨12枚 (第73図２～13) がある。出土銭貨は、永楽通宝と寛永通宝の組合せが２組出土していることから、本来は複数基の土坑墓の重複があった可能性がある。



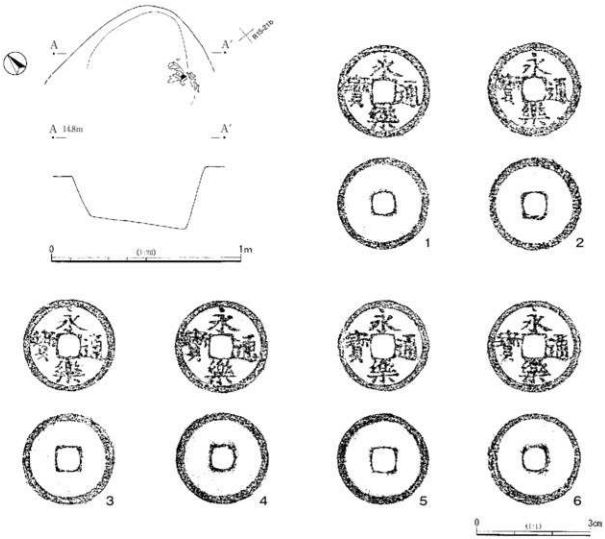
第73図　(16) SK055



第74図　(16) SK058



第75図　(16) SK062



第76図　(16) SK065

なお、本跡出土人骨については、解剖学的見地から１・２号人骨の２個体として分離･把握することができたことから、これらについて後述する（３）人骨において図示（第93図）する。

(16) SK058（Q15-39）（第74図　図版24）

不整円形のプランで、長軸長約110cm・短軸長約90cm･深度約30cmである。断面形態は浅い摺鉢状を呈し、東側の坑底は平坦である。壁の東側から南側はオーバーハングしながら立ち上がる。壁の北側から西側はなだらかに立ち上がるが、この部分は覆土と地山の区別が困難であったことから、堀り過ぎた可能性も捨てきれない。

人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK062（R15-41）（第75図　図版25･44）

円形もしくは楕円形と考えられるプランであるが、(16) SD001によって半分以上が壊されているので詳細は不明である。径約90cm・深度約20cmである。掘込みはしっかりしたものではなく、底面は凹凸が目立つ。壁はなだらかに立ち上がる。

出土人工遺物には銭貨１枚（第75図１）がある。

(16) SK065（R15-11）（第76図　図版44）

楕円形プランの端部の残存と思われ、深度約30cmである。残存する壁はなだらかに立ち上がる。

出土人工遺物には銭貨６枚（第76図１～６）がある。

(16) SK008・SK009・SK015・SK017・SK018・SK019・SK021・SK022・SK023A・SK023B・SK023C・SK028A・SK028B・SK028C・SK028D・SK029・SK030・SK033・SK034・SK035・SK036・SK037・SK038・SK042・SK043・SK044・SK045・SK059A・SK059B・SK061・SK063・SK064（第77図）

(16) SK008（R15-21）（第80・81・85図　図版14・44）

隅丸長方形のプランを呈する。長軸長約130cm・短軸長約60cm・深度約100cmである。厳密には、南側の深度約100cmの掘込みと、この掘込みに壊される深度約50cmの北側の掘込みとの、２基の重複の可能性もあるが判然としない。南側の掘込みの底面は概ね平坦で、壁はほぼ直に立ち上がる。北側の掘込みは長軸方向に15cm程度オーバーハングするが、南側の掘込みと接する部分も、東西両方向に５cm程度オーバーハングする。

南側の掘込みの北端から頭骨が出土している。出土レベルは坑底面付近ではなく、北側の掘込みの底面より若干下のレベルである。

出土人工遺物には銭貨６枚（第85図１～６）がある。

(16) SK009（R15-21）（第80・81図　図版14・15）

長楕円形のプランを呈する。長軸長約140cm・短軸長約80cm・深度約60cmである。掘込みはしっかりとしており、壁の南東側・南西側は比較的直に立ち上がり、それ以外の部分はなだらかに立ち上がる。底面は平坦である。暗褐色の覆土は､ローム粒･ローム塊（φ約50mm）を多く含むしまりの欠けるものであった。

(16) SK019に壊されるかたちで完掘したものの、土層断面の観察による新旧関係が把握できているわけではない。ただし、(16) SK019に属する土壌化の進行した脆弱な骨片の範囲が (16) SK009推定範囲内におよんでいることから、(16) SK009は (16) SK019より古いものと判断できる。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK015 (R15-30) (第79・81・84・85図　図版15・16・28・44)

不整三角形のプランで、長軸長約220cm・短軸長約150cm・深度約30cmである。壁は直に立ち上がっているが、漸移層からソフトローム層上面に設けられていることから、明確に捉えられているわけではない。底面は比較的平坦であるが、(16) SK038に近づくにつれて深くなっている。

遺物はプラン南西域を除く範囲から出土しており、土壌化（脆弱化）の進行した頭骨や四肢を確認することができ、歯については散乱している状況を確認することができた。遺構検出面から覆土中位にかけて集中している。(16) SK038との新旧関係については土層断面等の観察から明確ではない。ただし本跡の遺物のまとまりが (16) SK038の設営によって乱されているような状況ではないこと、本跡出土の骨の分布が (16) SK038のプラン上にもおよんでいることから、(16) SK038が本跡を壊して設営されている可能性は低いと考えられる。

出土人工遺物には第84図１・２カワラケのほか、銭貨10枚（第85図７～16）がある。

(16) SK017 (R15-20) (第79・81・85図　図版16・44・45)

長楕円形と考えられるプランで、長軸長約160cm・短軸長約100cm・深度約30cmである。壁は漸移層中に設けられていることから明確に捉えられているわけではない。底面は凹凸がありやや丸底状である。(16) SK037・(16) SK042に壊されるかたちであるが、土層断面の観察による新旧関係が把握できているわけではない。

なお北東側に接する楕円形のピットは、規模から土坑墓とは考えがたく、出土遺物が認められないことから、調査段階では未命名となっている。長軸長約50cm (16) 短軸長約40cm (16) 深度約20cmである。

出土人工遺物には銭貨６枚（第85図17～22）がある。

(16) SK018 (R15-20) (第79・81・84・85・86図　図版16・29・45)

長楕円形のプランで、長軸長約110cm・短軸長約80cm・深度約30cmである。壁はほぼ直に立ち上り、掘込みは比較的しっかりとしている。底面は平坦である。(16) SK028Dに壊されるかたちであるが、土層断面の観察による新旧関係が把握できているわけではない。

出土人工遺物には、第84図３カワラケのほか、銭貨６枚（第85図23・24、第86図１～４）がある。

(16) SK019 (R15-21) (第80・81図　図版14)

隅丸方形のプランを呈すると考えられる。本跡北半は撹乱によって壊されている。(16) SK009を壊すかたちで設営されている。北半は撹乱により壊されている。推定短軸長約90cm・深度約70cmである。調査段階では本跡より古い (16) SK009と同時に掘り進めたため壁の大半は確認できなかった。なお、(16) SK019に属する土壌化の進行した脆弱な骨片の範囲が (16) SK009推定範囲内におよんでいることから、(16) SK009は (16) SK019より古いものと判断できる。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK021 (R15-20) (第78・81・84・86図　図版17・29・45)

方形のプランと考えられ、深度は約30cmである。壁は比較的直に立ち上り、底面は平坦である。完掘状況から、(16) SK030・(16) SK033に壊されるかたちとなっているが、土層断面の観察等から新旧関係が明らかになっているわけではない。

東方向から撮影した出土状況垂直写真に写る頭骨は、(16) SK021プラン内で (16) SK030に接する部分から出土したものである。南方向から撮影した出土状況垂直写真に写る頭骨は、(16) SK033南西端から出土

したものであるが、発掘調査の段階では（16）SK021出土として調査を行っている。

なお、この南方向から撮影した出土状況垂直写真の南側に写る四肢骨は、調査段階では（16）SK021出土とは認識せず、（16）SK028B出土と認識している。

出土人工遺物には第84図４カワラケがある。このほか銭貨13枚（第86図５～17）があることから、本来は複数基の土坑墓の重複があった可能性がある。銭貨のうち６枚（第86図12～17）は６枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版49）。

（16）SK022（R15-20）（第79・81・86図　図版17・45）

楕円形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約110cm・深度約50cmである。底面は平坦ではなく、西から東に向けて低くなり、東端では壁がオーバーハングする。壁の掘込みは比較的しっかりとしており、なだらかに立ち上がる。覆土は暗褐色土を主体にローム粒･ローム塊を含み、しまりにやや欠けるものである。

出土人工遺物には銭貨６枚（第86図18～23）がある。

（16）SK023A（R15-30）（第79・82・84・86・87図　図版17・45）

概円形のプランで、径約120cm･深度約140cmである。底面形はより円形に近い。壁の掘込みは非常にしっかりとしており、底面は平坦である。なお本跡南西側、（16）SK023C西側に設営されている概円形と考えられる掘込みについては、発掘調査段階では未命名となっている。深度は10cm前後であり、出土遺物は認められないことから、未命名のまま掲載する。

出土人工遺物には、（16）SK023一括出土遺物として第84図５砥石のほか、（16）SK023A出土の銭貨６枚（第86図24、第87図１～５）がある。

（16）SK023B（R15-31）（第79図・82）

不整長楕円形と想定できるプランで、推定短軸長約60cm・深度約20cmである。調査段階での所見は（16）SK023Aに壊されるというものであった。底面は（16）SK023A側から南東の壁に向けて緩やかに立ち上がり、その傾斜のまま壁の立ち上がりに連なる。壁の掘込みはしっかりとしていない。底面は凹凸が目立つ。

人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（16）SK023C（R15-30）（第79・87図　図版17・45）

楕円形と考えられるプランで、推定径約60cm・深度約60cmである。調査段階での所見は（16）SK023Aに壊されるというものであった。掘込みはしっかりとしており、底面は比較的平坦である。

出土人工遺物には銭貨２枚（第87図６・７）がある。

（16）SK028A（R15-21）（第80・82・87図　図版18・45）

遺構検出面において、遺存状態が良好な人骨群と不整形の掘込みを確認したことから、（16）SK028として調査を開始し、調査の進捗に伴い、４基の掘込みを認識できたことから、各掘込みにA・B・C・Dの枝番を付与した。

長方形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約80cm・深度約50cmである。壁は概ね直に立ち上り、掘込みはしっかりとしている。底面は平坦ではなく、北半は南半に比べ10cm程度低いが、平面図上に表現できるような深度の変換点は確認できない。完掘状況から、（16）SK028Cを壊し、（16）SK028B・Dに壊される状況を観察できるが、土層断面観察等により新旧関係が明らかになっているわけではない。

出土人工遺物には銭貨３枚（第87図８・９・10）がある。

(16) SK028B (R15-21) (第79・82・87図　図版18・45)

不整隅丸方形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約80cm・深度約50cmである。壁はややオーバーハング気味に湾曲して立ち上がり、掘込みはしっかりとしている。底面は平坦ではなく、僅かに丸底状を呈する。

(16) SK021南方向から撮影した出土状況垂直写真の南側に写る四肢骨は、調査段階では (16) SK021出土とは認識せず、(16) SK028B出土と認識している。なお、本跡出土人骨については、解剖学的見地から1・2・3号人骨の3個体として分離・把握することができたことから、これらについて後述する (3) 人骨において図示 (第92図) する。

出土人工遺物には銭貨7枚 (第87図11 ～ 17) がある。

(16) SK028C (R15-21) (第80・82・87図　図版18・45・46)

長楕円形のプランで、推定長軸長約110cm・短軸長約70cm・深度約40cmである。壁はほぼ直に立ち上り、掘込みはしっかりとしている。平坦ではなく、僅かに丸底状を呈する。

出土人工遺物には銭貨2枚 (第87図18・19) がある。

(16) SK028D (R15-21) (第79・82図　図版18)

長楕円形のプランで、長軸長約110cm・短軸長約80cm・深度約20cmである。壁はほぼ直に立ち上り、掘込みはしっかりとしている。底面は平坦である。

完掘状況から、(16) SK028Bに壊される状況を観察できるが、土層断面観察等により新旧関係が明らかになっているわけではない。ただしSK028B出土人骨が一定のまとまりをもって出土し、その範囲は (16) SK028Dの推定範囲外を含んでいることから、(16) SK028Dを壊すかたちで (16) SK028Bが設営されたと考えることができよう。人工遺物はない。

(16) SK029 (R15-20) (第78・82・84・87・88図　図版18・19・29・46)

楕円形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約100cm・深度約50cmである。壁は直に立ち上り、底面は平坦である。

出土人工遺物には第84図6カワラケのほか、銭貨6枚 (第87図20 ～ 24・第88図1) がある。この銭貨6枚は6枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる (図版49)。

(16) SK030 (R15-20) (第78・82・88図　図版17・46)

楕円形で北側がやや突出するプランである。長軸長約150cm・短軸長約110cm・深度約40cmである。底面は、北東半においては平坦であるが、南西半においては丸底状になり、深度は前者において約20cm、後者において約40cmである。また、壁は前者においては概ね直に立ち上り、後者においては湾曲気味に立ち上がる。このことから本跡は2基の重複であった可能性も捨てきれない。

出土人工遺物には銭貨6枚 (第88図2 ～ 7) がある。

(16) SK033 (R15-21) (第78・82・88図　図版17・20・46)

方形のプランと考えられ、軸長約100cm程度で、深度約40cmである。底面には僅かな凹凸がある。壁は概ね直に立ち上がるが、南西部のみ壁を明瞭に確認することはできなかった。

なお、(16) SK021南方向から撮影した出土状況垂直写真に写る頭骨は、(16) SK033南西端から出土したものであるが、発掘調査の段階では (16) SK021出土として調査を行っている。

出土人工遺物には銭貨6枚 (第88図8 ～ 13) がある。

(16) SK034 (R15-22) (第80・83・88図　図版14・46)

長楕円形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約80cm・深度約50cmである。概円形を呈する２基の掘込みからなる可能性もある。この場合、北西側の掘込みの方が10cm弱深い。(16) SK045を壊すようなかたちであるが、土層断面観察等により新旧関係が明らかになっているわけではない。

出土人工遺物には銭貨11枚（第88図14～24）がある。出土銭貨は、宋銭や永楽通宝の組合せが複数出土していることから、本来は複数基の土坑墓の重複があった可能性がある。

(16) SK035 (R15-20) (第78・83・84・89図　図版18・29・46)

楕円形のプランで、長軸長約130cm・短軸長約120cm・深度約60cmである。底面はやや丸底気味で凹凸がある。掘込みはしっかりとしており、壁は直に立ち上がる。(16) SK036を壊すかたちで設営されるが、土層断面観察等により明らかになっているわけではない。

出土人工遺物には第84図７・８カワラケのほか、銭貨６枚（第89図１～６）がある。

(16) SK036 (R15-20) (第78・83・89図　図版18・46)

長楕円形プランと考えられ、短軸長約100cm・深度約60cmである。底面は中央に向けて段差を有しながら深度が浅くなる範囲がある。本跡に伴う段差であるのか、複数の土坑墓の重複の痕跡なのかは判然としない。壁は直に立ち上がり、掘込みはしっかりとしている。

出土人工遺物には銭貨６枚（第89図７～12）がある。

(16) SK037 (R15-20) (第79・83・89図　図版20・46)

歪んだ楕円形のプランで、長軸（S-N）長約150cm・短軸（E-W）長約120cm・深度約40cmである。壁は漸移層中に設けられていることから明確ではないものの、北東部側では緩やかに立ち上がり、それ以外の部分では比較的直に立ち上がる。底面はやや丸底状である。(16) SK017との新旧関係は明確ではないが、(16) SK017推定プラン内に (16) SK037の人骨が認められることから、(16) SK017を壊すかたちで本跡が設けられたと考えることができよう。

出土人工遺物には銭貨６枚（第89図13～18）がある。

(16) SK038 (R15-30) (第79・81・83図　図版15・20)

長楕円形のプランと考えられ、推定長軸長約110cm・推定短軸長約70cm・深度約50cmである。(16) SK015の完掘後の坑底面で確認された土坑で、坑底面からの深度は10cm前後である。本跡に伴う人骨の大半は (16) SK015の設営により壊されたものと考えることができる。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(16) SK042 (R15-30) (第79・83・89図　図版15・17・20・21・47)

概正方形のプランで、長軸長約130cm・短軸長約120cm・深度約40cmである。壁はほぼ直に立ち上がっており、底面は平坦である。(16) SK038を壊し、(16) SK023Aに壊されるかたちで設営されているが、土層断面観察等により明らかになっているわけではない。

出土人工遺物には銭貨６枚（第89図19～24）がある。

(16) SK043 (R15-20) (第78図　図版21)

隅丸方形のプランで、長軸長約100cm・短軸長約70cm・深度約40cmである。底面はやや丸底状を呈し、北東半の方が10cm程度深い。壁の掘込みはしっかりとしていない。

なお、(16) SK043の西側壁面から頭骨が出土しているように図示しているが、この頭骨下端は (16)

SK043検出面以上のレベルから出土していることから、調査段階では後述する（16）SK044に伴うものと認識した。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（16）SK044（R15-20）（第78・83図　図版21）

遺構検出面において人骨が出土したことから精査を重ねた結果、遺構検出面がほぼ坑底面付近であると判断し、この土坑と人骨をもって（16）SK044と認識した。破線で示した本跡の範囲は、周囲と違和感があると現場で把握した坑底面と考えられる範囲である。坑底面の推定長軸長約120cm・推定短軸長約80cmである。

なお本跡出土とした頭骨は、（16）SK043のプラン内から出土しているが、頭骨下端は（16）SK043検出面以上のレベルにあることから、調査段階では（16）SK044に伴うものと認識した。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（16）SK045（R15-22）（第80・83図　図版21）

長楕円形と思われるプランで、北西半は攪乱によって壊されている。長軸長約120cm・深度約20cmである。掘込みはしっかりとしていない。（16）SK034に壊されるようなかたちであるが、土層断面等により新旧関係が明らかになっているわけではない。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（16）SK059A（R15-21）（第80・84・90図　図版24・40・47）

長方形を呈する大形の掘込みで、長軸長約220cm・短軸長約130cm・深度約40cmである。多くの土坑墓との重複により明瞭に壁が残っている部分が少ないことから、壁の掘込みはしっかりとはしていない印象を受ける。なお、重複する土坑墓との新旧関係については、土層断面等の観察から明らかになってはいない。

底面は概ね平坦であるが、底面東半は西半に比べ10cm弱ほど浅く、発掘調査段階では、この東半部分については（16）SK060として遺物を取り上げたが、平面図作成段階で（16）SK060を明確に捉えることはできなかった。なお、（16）SK060として取り上げた遺物はいずれも小片で図示できるものはなかった。ともあれ、本跡が２基の土坑墓の重複である可能性があることについて明記しておきたい。

本跡北西端コーナー部分の壁面部から、骨粉と銭が出土しているが、これらが本跡に伴うという確証はない。（16）SK033に伴う可能性や、すでに崩壊してしまった土坑墓由来の可能性を指摘しておきたい。

出土人工遺物としては第84図９キセルのほか、銭貨６枚（第90図１～６）が出土している。この銭貨６枚は６枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版49）。

（16）SK059B（R15-21）（第80図　図版24）

（16）SK059Aに接するピット状の掘込みである。不整形のプランで径約30cm・深度約50cmである。形態・規模から土坑墓とは捉えられないが、骨片が出土していることから土坑墓の残存である可能性や、ピットへの土坑墓覆土の崩壊・流入を想定しておきたい。人工遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

（16）SK061（R15-21）（第80・84・90図　図版24・25・47）

隅丸方形のプランで、底面形は正方形に近い。上端での長軸長約110cm・短軸長約80cm・深度約60cmである。壁は直に立ち上り、掘込みは極めてしっかりとしている。（16）K063を壊すかたちで設営されているが、土層断面等の観察により新旧関係が捉えられているわけではない。

出土人工遺物には銭貨６枚（第90図７～12）がある。

(16) SK063（R15-21）（第80・90図　図版25・47）

方形もしくは隅丸方形プランの掘込みのコーナー部分のみが残存するもので、深度約20cmである。本跡の壁面端部上からは人骨・銭貨が出土しているが、壁面上から出土は不自然であることから、本跡西側に認められる深度約20cmの落込み（発掘調査段階での番号付与無し）に伴う可能性も指摘しておきたい。

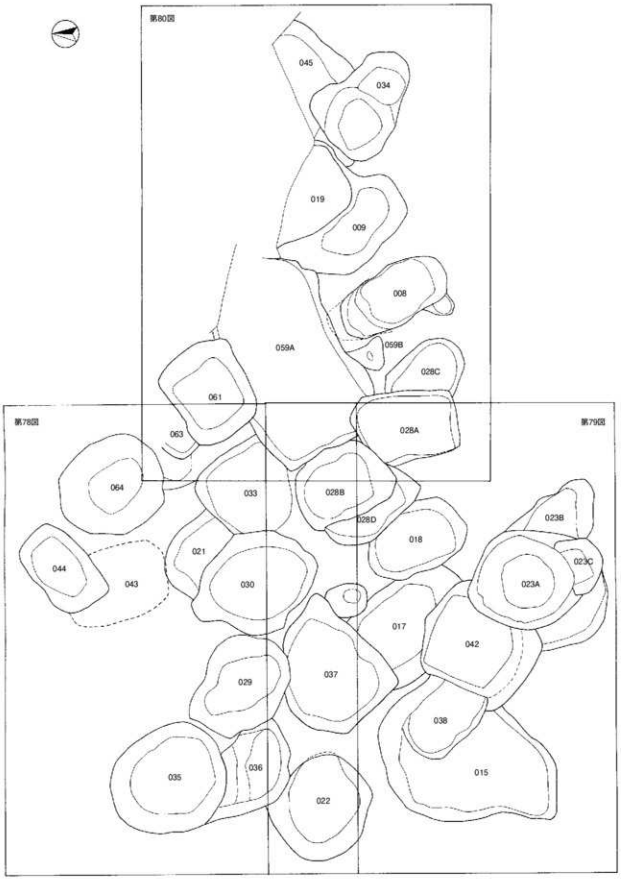
出土人工遺物には銭貨６枚（第90図13～18）がある。

(16) SK064（R15-21）（第78・84・90・91図　図版25・47）

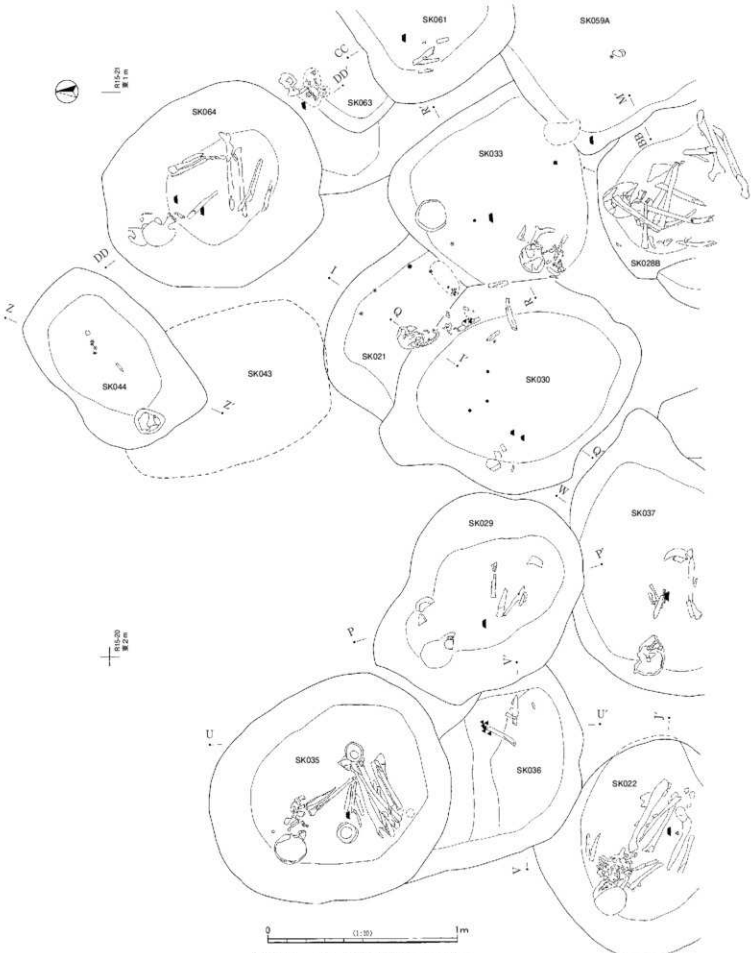
楕円形のプランで、長軸長約120cm・短軸長約100cm・深度約100cmである。掘込みはしっかりとしており、壁は湾曲しながら直に立ち上がる。

なお、本跡出土人骨については、解剖学的見地から１・２号人骨の２個体として分離･把握することができたことから、これらについて後述する（３）人骨において図示（第94図）する。

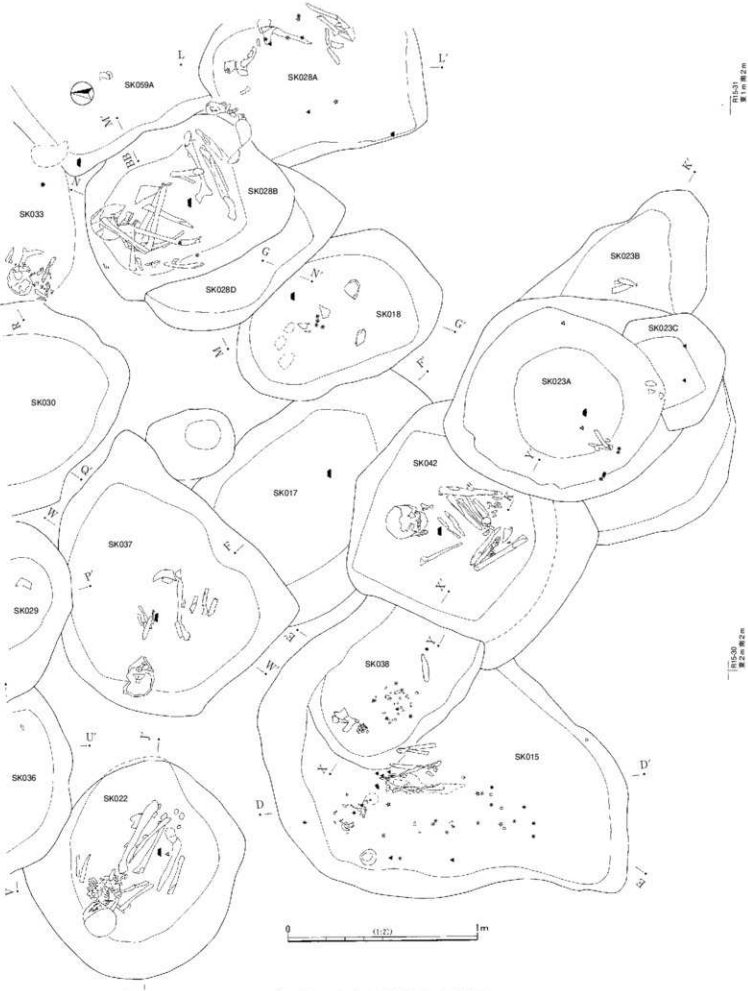
出土人工遺物には銭貨12枚（第90図19～24・第91図１～６）がある。このうち銭貨６枚（第90図24・第91図１～５）は６枚一組として紐でまとめられていた痕跡がうかがえる（図版49）。



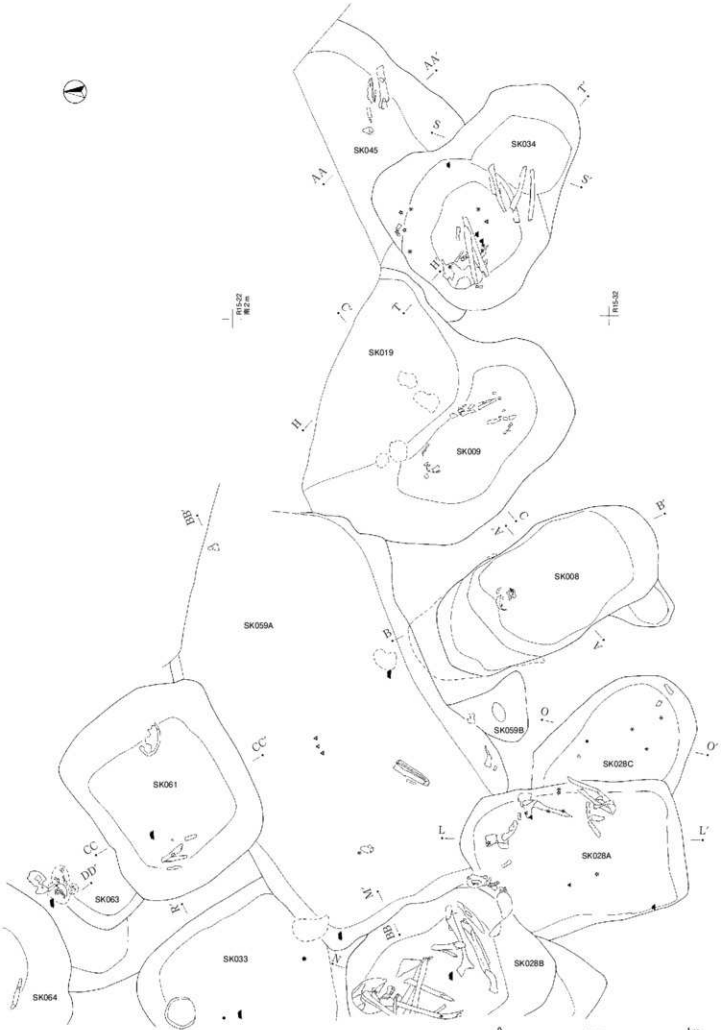
第77図　(16) 土坑墓群 (1)・(2)・(3) 分割指示図



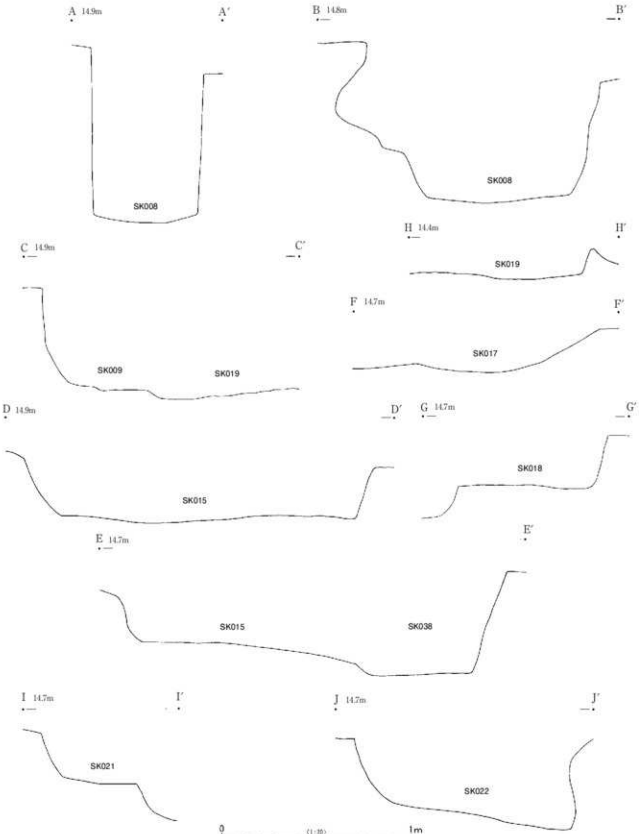
第78図　(16) 土坑墓群 (1) 平面図



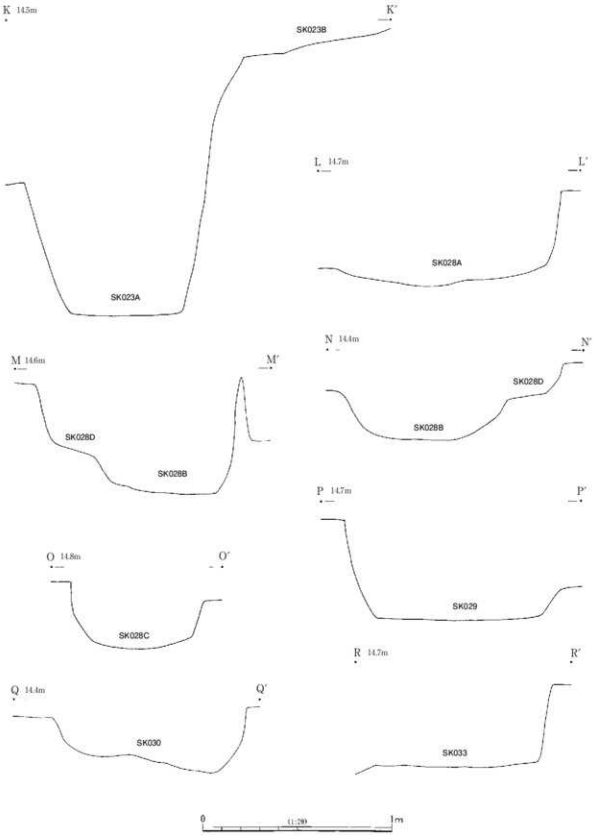
第79図　(16) 土坑墓群 (2) 平面図



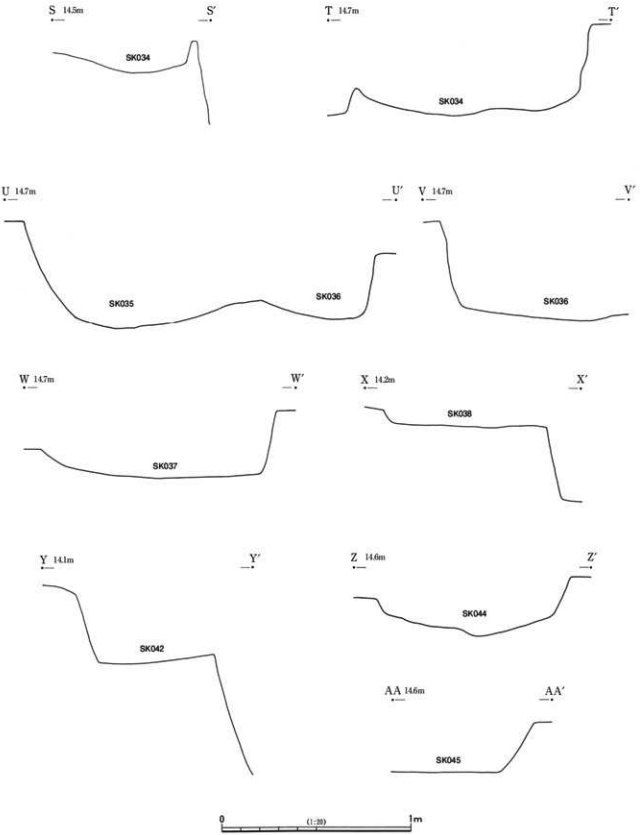
第80図　(16) 土坑墓群（3）平面図



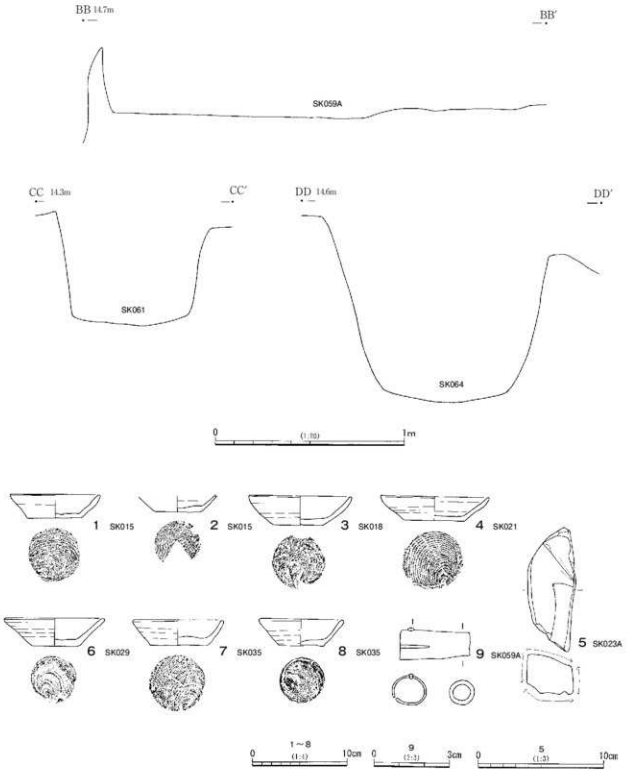
第81図　(16) 土坑墓群(1)・(2)・(3)断面図(1)



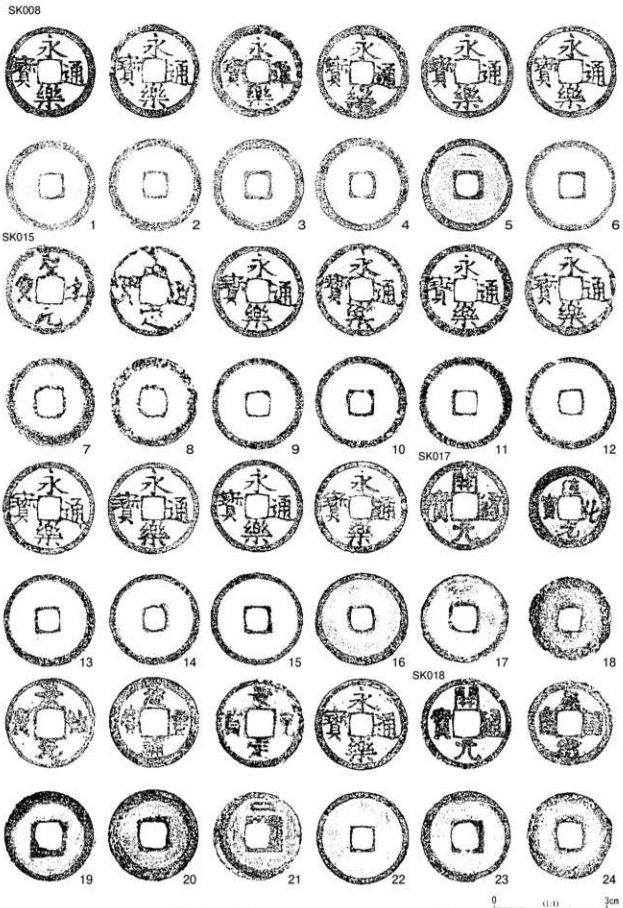
第82図　(16) 土坑墓群（1）・（2）・（3）断面図（2）



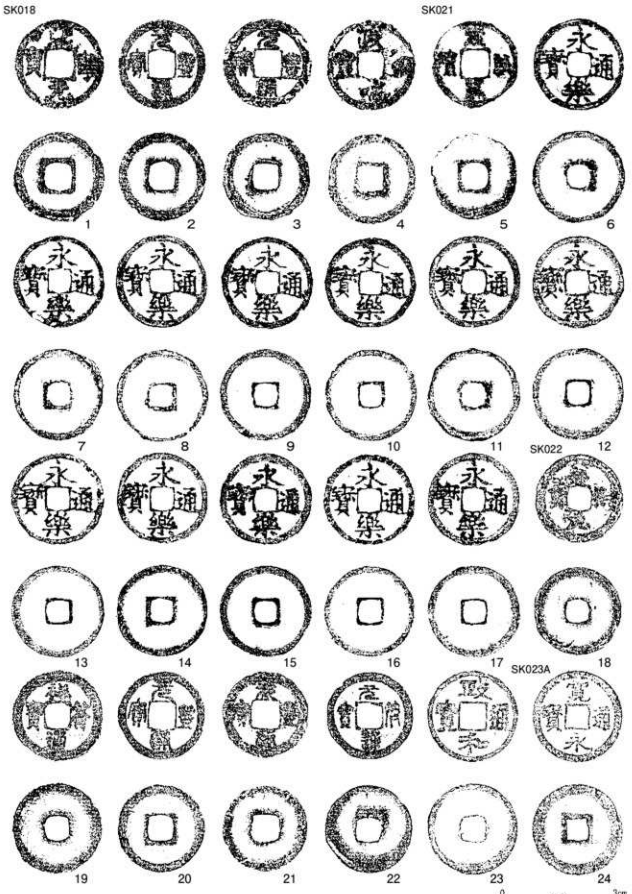
第83図　(16) 土坑墓群(1)・(2)・(3)断面図(3)



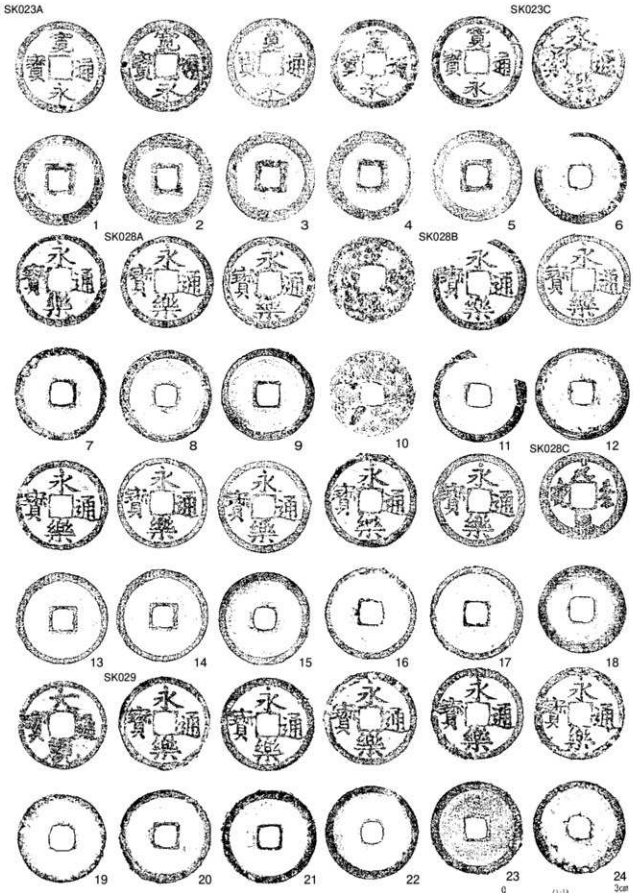
第84図　(16) 土坑墓群（1）・（2）・（3）断面図（4）、
(16) SK015・SK018・SK021・SK023A・SK029・SK035・SK059A出土遺物



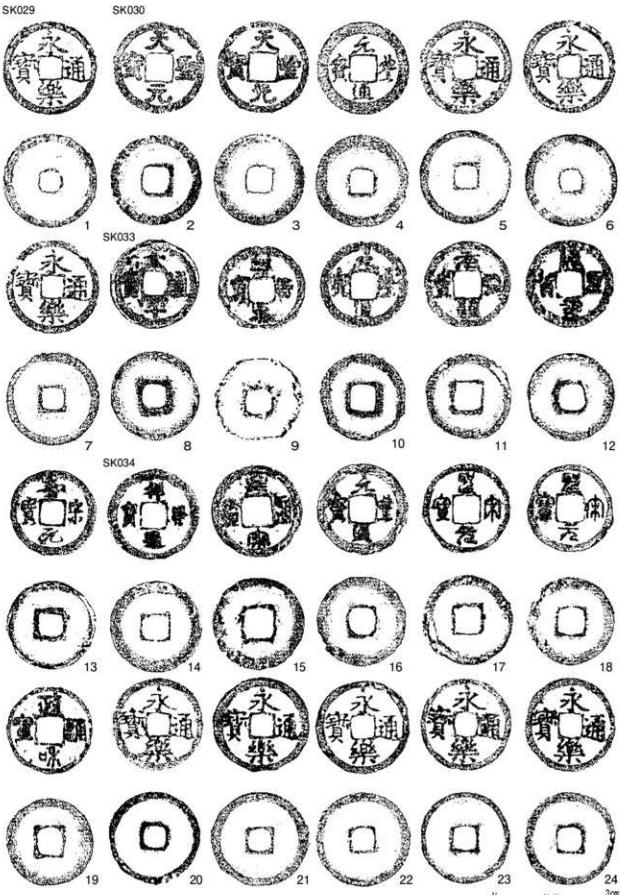
第85図　(16) SK008･SK015･SK017･SK018 (1)



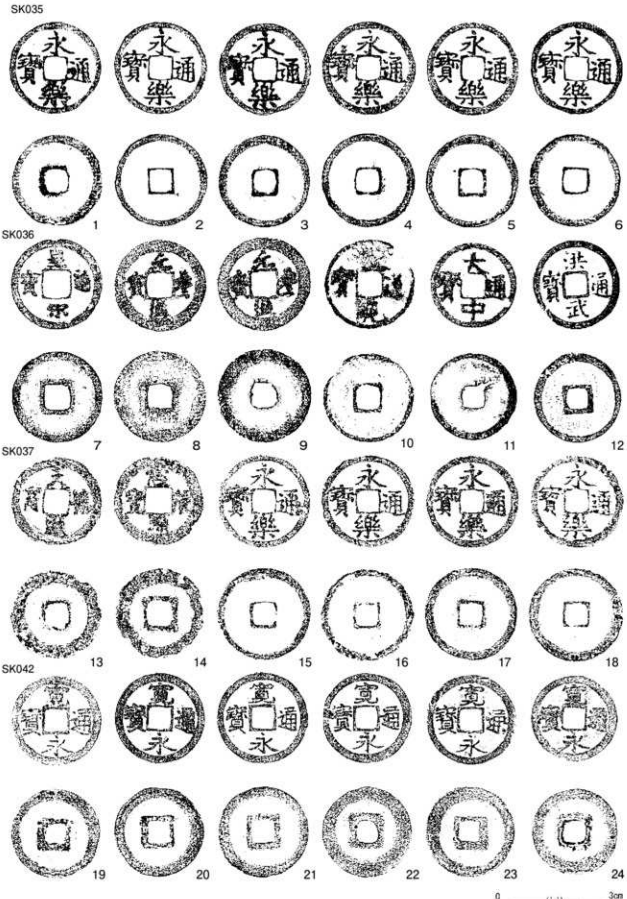
第86図　(16) SK018 (2)・SK021・SK022・SK023A (1)



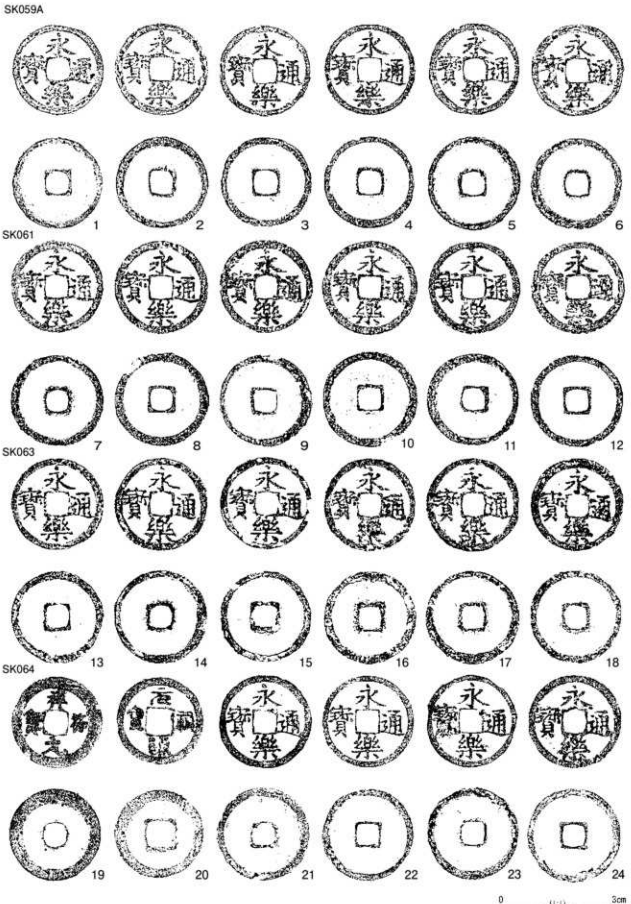
第87図　(16) SK023A（2）・SK023C・SK028A・SK028B・SK028C・SK029（1）



第88図　(16) SK029 (2) ・SK030・SK033・SK034

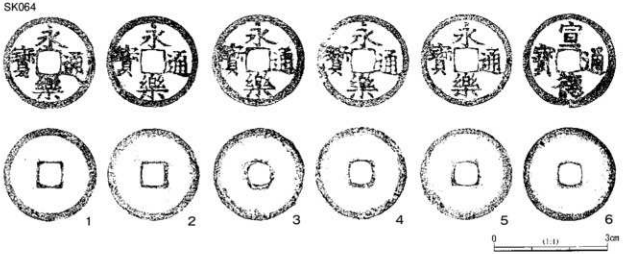


第89図　(16) SK035･SK036･SK037･SK042



第90図　(16) SK059A・SK061・SK063・SK064 (1)

SK064



第91図　(16) SK064 (2)

（3）人骨

はじめに

千葉県流山市市野谷宮後遺跡の中・近世の土坑墓より、単体埋葬を中心に82体の埋葬人骨が出土した。全体的に保存状態が悪いため性別の判明した個体は少なく、男性10体、女性12体、性別不明成人40体、未成人14体、性別年齢不明人骨６体が出土している。年齢は壮年が多く老年個体は少ない。

千葉県では、これまでに70以上の遺跡から多数の中・近世の人骨が出土し、資料の蓄積がなされている過程であるが、千葉県北西部でまとまった中・近世人骨の出土例は少なく、本報告はそうした状況に資料を追加できるものである。以下に出土状況と形態学的所見を述べる。

資料と方法

全体的に骨の遺存状況は悪く、断片化したものが多い。出土資料は取り上げた後、竹串や刷毛などでクリーニングしセメダインを用いて接合を行った。

年齢査定について、未成年を対象とした歯の萌出段階によるものはSmith（1991）、成人以降を対象とした歯の咬耗度によるものはMiles（1962）、寛骨耳状面の加齢変化によるものはLovejoy et al（1985）に従った。歯の咬耗度の分類はBroca（1879）に準じた。年齢表記は馬場ほか（1998）に従い、胎児（出生前）、新生児（１ヶ月未満）、乳児（１歳未満）、幼児（１～５歳）、小児（６～15歳）、成年（16～20歳）、壮年（21～39歳）、熟年（40～59歳）、老年（60歳以上）とした。性別は、基本的に寛骨形態から決定したが、寛骨の残りが悪く頭蓋形態や四肢骨形態から判断した場合は可能性の示唆にとどめた。頭蓋と四肢骨の計測は馬場（1991）、歯は藤田（1949）に従った。

出土人骨は第10表に一覧を示し、各種計測値および歯式は第11・12・13・14表に掲載した。同一の墓坑から２個体以上の人骨が出土する場合、個体番号には枝番号を付して区別した。

(16) SK003（第55図）

２体分の人骨が出土している。(16) SK003は２基の掘り込みからなる土抗墓であるが、記録に失敗しており、１号人骨と２号人骨のどちらが各掘り込みに埋葬されたか判然としない。両個体とも埋葬姿勢は不明である。なお、(16) SK003号人骨に伴うものとして銭貨が検出されているが、その後の調査により (16) SK032に副葬されたものの可能性もあり、どちらの個体の副葬品かは不明である。

・(16) SK003-１号人骨（図版12）

上下顎歯が残存する。咬耗度はBroca1～2度で壮年だろう。上顎切歯はシャベル状である。上顎左第２大臼歯には舌側面に第５咬頭が生じるカラベリー結節がみられる。性別は不明である。

・(16) SK003-２号人骨（図版12）

上下顎歯が残存する。咬耗度はBroca1～2度で軽い。性別不明の壮年個体である。

・(16) SK003-１号または２号人骨

どちらの個体のものか不明の右錐体、上顎骨片、大腿骨骨片、左右脛骨骨幹が残存する。

(16) SK004（第56図）

頭位方向は西、顔面は右を向く。取り上げ時の記録に失敗しており、埋葬姿勢は判然としないが土坑の規模や頭蓋の検出位置から仰臥ないし横臥の屈葬であった可能性が高い。下顎骨と大腿骨の一部にもや状の黒ずみがみられることから、骨体が硬質化せず軟部組織を焼く程度に被熱したとみられる。下肢骨付近に礫が配置されているが副葬品か不明である。

・(16) SK004号人骨（図版12）

頭蓋は、前頭骨、側頭骨、頭頂骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨が断片的に残存する。上下顎歯の一部に歯石が付着する。下顎左第1小臼歯の咬合面中央にφ1mmの齲蝕がみられる。切歯はシャベル状ではない。他に腰椎片１個、左右大腿骨骨幹、右寛骨臼部分、肋骨片が残存する。矢状縫合は外・内板ともに未閉鎖で壮年前半と考えられる。下顎骨のオトガイがやや強く発達し、下顎体の前下縁形状は２点が張り出すような鈍角で男性的な印象である。

(16) SK005A（第57図）

頭位方向は東。上肢骨の残りは悪いが、下肢骨の遺存状態は比較的良好である。解剖学的位置を保ち立膝が左右に開いた状態で検出されたため、埋葬姿勢は仰臥または横臥による立膝の座葬と考えられる。左胸部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK005A号人骨（図版13・50）

頭蓋は、顔面頭蓋を除いて遺存状態が良好である。前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨が残存する。３主縫合は外・内板ともに完全癒合している。眉弓はBrocaⅢ度で中程度に隆起する。外後頭隆起はBrocaⅢ度で中程度に発達する。下顎右第１大臼歯の歯槽が完全閉鎖し、右の第２小臼歯と第２大臼歯の歯槽が吸収途中である。歯の咬耗度はBroca２度。四肢骨は、左橈骨、左右大腿骨、左右脛骨、左腓骨の骨幹が残存する。大腿骨の粗線は中程度に発達する。右に比べて左大腿骨骨幹が太い。右脛骨のヒラメ筋付着部の発達は強い。頭蓋の縫合閉鎖状況から老年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK006（第58図）

成人の左右大腿骨が南側に近位部を配して南北軸方向に揃って検出された。他に左右の鎖骨が出土しているが、出土位置は不明である。下肢骨については原位置を保っていると考えられるが、埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK006号人骨（図版13）

左側頭骨片、左鎖骨、左右大腿骨骨幹と右寛骨の一部が出土した。大腿骨粗線の発達はとても弱い。寛骨は、寛骨臼の一部と大坐骨切痕が残存するが、性別は判定できない。骨体はしっかりとしており、成人と考えられる。

(16) SK007A（第59図）

１体分の人骨が出土している。円形土坑の中央部に骨が集中して出土していることから、早桶を用いた座葬の可能性が高い。銭貨とキセルが出土しているが、副葬位置は不明である。

・(16) SK007A号人骨（図版13）

頭蓋は、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、頬骨、下顎骨が断片的に遺存する。冠状縫合は、外・内板ともに未閉鎖である。眉弓はBroca Ⅰ度で発達しない。下顎骨は左第１切歯から第２小臼歯まで損失し不明だが、それ以外は右側犬歯を除き全て歯槽閉鎖している。歯の咬耗度はBroca２度。眉弓の発達が弱く女性の可能性が高い。頭蓋縫合の癒合状況から壮年と考えられる。

(16) SK007B（第59図）

成人と乳児の２体分が出土している。両個体とも体肢骨は出土せず、(16) SK007Aに墓坑が壊された際に損失したと考えられる。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK007B-１号人骨（図版14）

左右錐体を含む側頭骨、後頭骨、下顎骨のほか、第１頸椎が残存する。後頭骨の外後頭隆起はBroca Ⅱ度であまり発達しない。下顎骨は右側の犬歯から第３大臼歯部分まで残存し、第１大臼歯歯槽は閉鎖、第２大臼歯歯槽は閉鎖途中である。犬歯と第１小臼歯は歯槽解放しており、死後脱落している。第２小臼歯はBroca ４度で歯頸部まで達する咬耗がみられ、壮年～熟年と考えられる。性別は不明である。

・(16) SK007B-２号人骨

上顎右側第１乳臼歯のみ残存する。歯冠が完成直後であることから、生後５か月ほどの乳児と考えられる。性別は不明である。

(16) SK008（第80図）

成人１体分が出土している。頭位方向は北西で、顔面は左を向く。土坑形状と頭蓋の位置から、屈葬の可能性が高い。

・(16) SK008号人骨（図版14）

頭蓋は、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、前頭骨、蝶形骨、下顎骨が残存する。右側の卵円孔と棘孔は独立する。矢状縫合とラムダ縫合は外･内板ともに未癒合である。他に第１頸椎と右脛骨片が残存している。歯の咬耗度はBroca １～２度で軽度。右第１切歯はシャベル状である。第３大臼歯が萌出済みで頭蓋縫合が未癒合のため、壮年前半と考えられる。性別は不明である。

(16) SK009（第80図）

成人男性１体分の骨片が出土している。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK009号人骨（図版14・15）

右錐体、後頭骨、左大腿骨が残存している。外後頭隆起はBrocaⅣ度でよく発達している。大腿骨粗線は柱状に強く発達し成人の男性である可能性が高い。

(16) SK010（第65図）

壮年の成人骨１体分が出土している。埋葬姿勢は不明。銭貨が副葬されている。

・(16) SK010号人骨（図版15）

頭蓋は、左右錐体を含む側頭骨と上顎骨、下顎骨が断片的に残存している。他には、右上腕骨骨幹、右大腿骨骨幹、脛骨骨幹、左の寛骨臼片、肋骨片が遺存している。上腕骨と大腿骨表面に被熱したことによるもや状の黒ずみがみられる。骨体は全体的に華奢で上腕骨の三角筋線の発達はとても弱く女性的である。歯の咬耗度はBroca２度で、切歯はシャベル状である。下顎の右第１・２切歯歯槽部は完全閉鎖している。歯の咬耗程度から壮年と考えられる。

(16) SK011（第65図）

性別不明の成人骨１体分が出土している。頭位方向は北西。右上肢骨は体側に沿って伸展し、右側大腿骨と隣り合っており、埋葬姿勢は土坑の大きさから仰臥または横臥の屈葬と思われる。胸部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK011号人骨（図版15）

左下顎関節窩部分を含む頭蓋骨片と、右上腕骨遠位部と右尺骨近位端、右大腿骨骨幹、右下顎第１小臼歯が出土した。大腿骨後面の粗線はやや発達している。右第１小臼歯の咬耗度はBroca２度。歯の咬耗度と四肢骨筋付着部の発達度から成人と考えられる。性別は不明である。

(16) SK012（第59図）

成人骨１体分が出土している。頭位方向は北。埋葬姿勢は不明である。銭貨が副葬されている。

・(16) SK012号人骨

左右の錐体、上顎骨、下顎骨、歯が遺存している。歯の咬耗度はBroca１～２度で比較的軽度。左側第２大臼歯の頬側近心咬頭部分で歯頸線に達するφ５㎜の齲蝕がみられる。右側上顎第３大臼歯が萌出済みであることから壮年前半と考えられる。性別は不明である。

(16) SK013（第59図）

性別不明の１体分の人骨が出土しているが、遺存状況が悪く埋葬姿勢等は不明である。

・(16) SK013号人骨（図版15）

右寛骨の寛骨臼部分、大坐骨切痕の一部、右大腿骨骨頭と骨幹が遺存している。大腿骨粗線の発達は少し弱い。大坐骨切痕は、断片的であるため性別の判定はできなかった。粗線の発達程度から成年～壮年と考えられる。

(16) SK015（第79図）

少なくとも７体分の人骨が出土している。１体分の全身骨の上部より、６体分の歯が散乱状態で検出されている。１号人骨は、解剖学的位置を保ち、頭位方向を北にした座葬と考えられる。胸部または下腹部に銭貨が副葬されている。上部より検出された６体分の歯は後世の攪乱を受けて散乱している。土坑一括で取り上げられた骨の中に焼けて白色硬質化した頭蓋骨片が少量みられることから、一部の個体は火葬されたと考えられる。

・(16) SK015-１号人骨（図版16）

頭骨は、頭頂骨、左右錐体を含む側頭骨、上顎骨、下顎骨が遺存する。歯の咬耗度はおおむねBroca１～２度だが、左側上顎第１大臼歯のみ歯頸部まで咬耗しておりBroca４度である。上顎切歯のみシャベル状を呈する。左側上顎第１小臼歯の咬合面にφ２㎜の齲蝕がみられる。体肢骨は、右上腕骨骨幹、左右橈骨骨幹、右寛骨臼の一部、左右大腿骨骨幹、左右不明脛骨片が出土しているが、土圧で歪んでいる。大腿骨粗線は中程度に発達する。歯の咬耗度から壮年だろう。性別は不明である。

・(16) SK015-２号人骨（図版16）

左右錐体と歯が遺存している。下顎左側第１大臼歯の歯根が形成開始直後のため年齢は３才程度の幼児と考えられる。性別は不明である。

・(16) SK015-３号人骨（図版16）

左右錐体と歯が遺存している。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽く、年齢は成年～壮年と考えられる。性別は不明である。

・(16) SK015-４号人骨（図版16）

左右錐体と乳歯と永久歯が遺存している。永久歯は未咬耗で、切歯はシャベル状である。下顎第２大臼歯の歯根が形成開始直後であることから６才前後の小児と推定される。性別は不明である。

・(16) SK015-５号人骨（図版16）

乳歯と永久歯が残存している。上顎右側乳犬歯の歯冠が1/3程度形成完了していることから２才前後の幼児と考えられる。性別は不明である。

・(16) SK015-６号人骨（図版16）

左右の下顎第２乳臼歯の咬耗度がSK015-５に近似し２才前後の幼児だろう。性別は不明である。

・(16) SK015-７号人骨（図版16）

乳歯と永久歯が残存している。切歯はシャベル状である。上顎左第２大臼歯の歯冠が1/3程度形成完了していることから２才前後の幼児と考えられる。性別は不明である。

他に、歯冠が形成途中の下顎の左右第１・２小臼歯、左側下顎犬歯、右側下顎第１・２乳臼歯が出土している。これらの未成年の歯が、２・４～７号人骨のいずれに帰属するのか或いは別個体のものかは不明である。

(16) SK018（第79図）

性別不明の成人骨１体分が出土した。土坑北西側に頭蓋骨が散乱状態で検出されているが、埋葬姿勢等は不明である。土坑内には銭貨が副葬されている。

・(16) SK018号人骨

左側頭骨の錐体と外耳道周辺部のほか、遊離歯が出土している。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。第３大臼歯が萌出済みで咬耗が軽いため壮年前半だろう。性別は不明である。

(16) SK019（第80図）

成人２体分の人骨が出土している。遺存状態が悪く埋葬姿勢等は不明である。

・(16) SK019-１号人骨（図版14）

左錐体と左右不明の脛骨骨片が遺存している。錐体の大きさから成人だろう。性別は不明である。

・(16) SK019-２号人骨（図版14）

左錐体の一部と肋骨片が遺存している。骨質から成人と考えられる。性別は不明である。

(16) SK020（第65図）

性別不明成人骨１体分の頭蓋骨と下肢骨骨片が出土した。土坑の大きさと頭蓋と下肢骨の出土位置から頭位方向を北にした屈葬の可能性が高い。下腹部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK020号人骨（図版16）

頭蓋は、左右の錐体と外耳道周辺部、前頭骨の右側眼窩周辺の一部、左右鼻骨、上顎骨の前頭突起部分が残存している。歯の咬耗度はBroca２～４度で咬耗が進んでいる。切歯はシャベル状である。下顎右側第１大臼歯は遠心側半分が齲蝕で溶けている。ほかに、左右不明の大腿骨と脛骨の骨片が残存する。咬耗の程度から熟年～老年個体と考えられる。性別は不明である。

(16) SK021（第78図）

成人骨と幼児骨の２体分が出土している。成人骨の右側に幼児の歯がまとまって出土している。出土状況写真からの推定となるが、成人骨は頭位方向を北にした屈葬と考えられ、下腹部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK021-１号人骨

左右の錐体と遊離歯が残存している。永久歯と乳歯があり、永久歯はわずかに咬耗している。上顎左第１切歯はシャベル状である。第１大臼歯の歯根が1/2～2/3程度形成完了していることから６才前後の小児と考えられる。性別は不明である。

・(16) SK021－2号人骨（図版17）

頭蓋は前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、下顎骨が残存する。外後頭隆起はBrocaⅡ度であまり発達しない。乳様突起は大きく男性的である。下顎体は歯槽膿漏で退縮し低くなっている。矢状縫合内板の1割程度が癒合している。冠状縫合とラムダ縫合は外・内板とも未癒合である。下顎骨の右側第2大臼歯の歯槽部分は骨吸収し歯槽閉鎖途中である。ほかに、左側尺骨、左側大腿骨、右側脛骨の骨幹、胸椎1個、肋骨片が残存している。頭蓋縫合の閉鎖状況から壮年後半～熟年前半だろう。乳様突起の大きさから男性と考えられる。

(16) SK022（第79図）

1体分の成人骨が出土している。頭位方向は北西で、顔面は右を向いた仰臥屈葬である。上肢は強く屈曲し両手を胸に置き、下肢は強く屈曲し膝を右に倒している。下腹部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK022号人骨（図版17・50）

頭蓋は前頭骨、頭頂骨、側頭骨、蝶形骨、上顎骨、下顎骨が断片的に出土している。乳様突起は小さく女性的である。歯の咬耗度はBroca 1 ～ 2 度で軽度。上顎切歯はシャベル状である。四肢骨は、左右上腕骨、左尺骨、右の尺骨または橈骨、左右大腿骨、左右脛骨、左腓骨が残存するがすべて骨端を欠いている。大腿骨粗線と脛骨ヒラメ筋線の発達はとても弱い。体幹骨は、左右の鎖骨と肩甲骨肩峰基部、第1頸椎～第7頸椎、胸椎片3個、腰椎片3個、手（指骨3個）、左距骨、左踵骨、足の基節骨2個、肋骨、左右寛骨の大坐骨切痕と耳状面の一部が残存している。寛骨耳状面はPhase 2で壮年前半と考えられる。

乳様突起が小さく、四肢骨の筋付着部の発達が弱く女性の可能性が高い。

(16) SK023A（第79図）

成人と幼児の2体分の骨が出土しているが、両個体とも後世に攪乱され解剖学的位置を保たない。これらの2体が合葬であったかは分からない。また、土坑内から副葬品と考えられる銭貨と鉄製品の小破片が出土しているがどちらの個体のものかは不明である。

・(16) SK023A－1号人骨（図版17）

左側第2乳臼歯と永久歯が出土している。永久歯の咬耗はBroca 1 度でわずか。シャベル状切歯である。右側上顎小臼歯の歯冠1/2が形成完了し、第1大臼歯の歯根が発生直後であることから、4～5才の幼児と考えられる。性別は不明である。

・(16) SK023A－2号人骨（図版17）

少量の頭蓋骨片と遊離歯が出土している。歯の咬耗度はBroca 1 ～ 2 度で軽い。ほかに、左右不明の大腿骨骨幹と肋骨片が残存する。歯の咬耗度から壮年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK023B（第79図）

1体分の成人骨が出土している。遺存状態が悪く埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK023B号人骨

左上腕骨骨片と肋骨片が残存している。骨体の太さから成人と考えられる。性別は不明である。

(16) SK024（第59図）

1体分の成人骨が出土している。頭位方向は北。体肢骨の遺存状態が悪く埋葬姿勢は不明である。胸部付近に銭貨が副葬されている。

・(16) SK024号人骨（図版17）

頭蓋は、左右錐体を含む側頭骨、上顎骨の眼窩下縁部分、下顎骨、四肢骨骨片がわずかに残存する。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽く、切歯はシャベル状である。第３大臼歯が萌出し、咬耗が軽度であることから年齢は壮年前半と考えられる。性別は不明である。

(16) SK025A（第59図）

１体分の下肢骨が解剖学的位置を保って出土した。出土写真から右足を強く屈曲した仰臥もしくは横臥の屈葬だろう。頭位方向は不明。土坑内から板碑が出土している。

・(16) SK025A号人骨

歯の咬耗度はBroca２度で軽度である。左右大腿骨、右脛骨、右腓骨の骨幹が残存し、大腿骨粗線はやや強く発達する。歯の咬耗度から成人だろう。性別は不明である。

(16) SK025B（第59図）

１体分の成人骨が出土している。解剖学的位置を保ち、頭位方向は北西である。下肢骨は強く屈曲した伏臥屈葬と考えられる。胸部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK025B号人骨（図版18）

頭蓋は、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨が残存する。乳様突起は小さく女性的である。外後頭隆起はBrocaⅡ度でやや弱い。冠状縫合内板は５割癒合、矢状縫合内板は７～８割癒合、外板は５割癒合している。ラムダ縫合は外･内板ともに未癒合である。下顎の左右犬歯、右側第２小臼歯、右側第１大臼歯の歯槽部は歯槽膿漏による骨吸収が起きクレーター状に陥没している。また、下顎切歯歯槽部も浅く凹み歯槽閉鎖が進んでいる。右側上顎犬歯の咬頭近心側に歯頸線に達するφ５㎜の齲蝕がみられる。歯の咬耗度はBroca２～４度で左側に比して右側の咬耗度が強く、日常的に右側の歯を酷使していたと考えられる。切歯はシャベル状である。ほかに、右上腕骨、左右大腿骨、左右不明脛骨が残存し、大腿骨粗線はやや発達する。頭蓋縫合の癒合状況と歯の咬耗度から、年齢は熟年と考えられる。性別は、乳様突起が小さく女性の可能性が高い。

(16) SK026（第59図）

骨片がわずかに出土した。埋葬姿勢等は不明である。

・(16) SK026号人骨

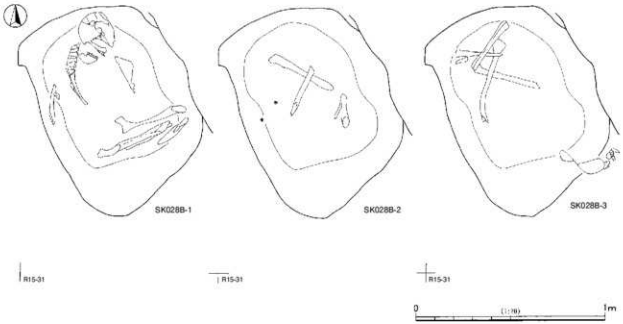
部位不明の骨片がわずかに残存している。性別・年齢ともに不明である。

(16) SK027（第67図）

１体分の成人骨が出土している。解剖学的位置を保ち、頭位方向は北で右足は強く屈曲している。左側を下にした横臥屈葬だろう。下腹部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK027号人骨（図版18）

頭蓋は、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、蝶形骨、右頬骨、右鼻骨、上顎骨、下顎骨が残存している。顔面頭蓋は左側の眼窩周縁部の残りが良い。外後頭隆起はBrocaⅡ度で発達が弱い。矢状縫合は内板５割、外板２割程が癒合している。ラムダ縫合では内板４割、外板２割程が癒合している。歯の咬耗度はBroca２～３度だが、左側上顎第２切歯と左側下顎第１切歯のみ舌側に歯頸線に達するほど咬耗している。上顎中切歯はシャベル状である。ほかに、左右大腿骨、右脛骨、左腓骨の骨幹、第１・２頸椎、頸椎の椎弓１個と椎体３個が残存する。大腿骨粗線は中程度に発達する。頭蓋縫合の癒合状況と歯の咬



第92図　(16) SK028B個体別出土人骨

耗度から壮年後半～熟年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK028A（第80図）

成人１体分の人骨が出土している。歯が土坑全体に散っており一部の骨は後世に攪乱されたとみられる。頭蓋骨が比較的まとまって土坑北西側に位置しており、頭位方向は北西だろう。また、上肢骨もまとまりをもって位置しており、原位置から大きくは動いていないとみられる。下肢骨の出土位置と墓坑規模から下肢を屈曲した仰臥もしくは横臥の屈葬だろう。四肢骨骨片の一部に被熱による軽度の硬化がみられ、軟部組織を燃やす程度の焼成が行われた可能性がある。銭貨が墓坑全体に散らばっているが副葬時の位置は不明である。

・(16) SK028A号人骨（図版18）

頭蓋は、前頭骨片、左右錐体、左右下顎の筋突起下部が残存する。冠状縫合は外・内板ともに未癒合である。歯の咬耗度はBroca １～２度で軽度。左側上顎第２小臼歯の近心面の歯頸部にφ６㎜の齲蝕がみられる。体肢骨は、左肩甲骨の烏口突起片と関節窩から肩峰、左上腕骨片、左右不明尺骨片、左右大腿骨骨幹、左右脛骨骨幹が残存する。大腿骨粗線は中程度に発達する。大腿骨の一部は被熱してやや硬化している。咬耗度から年齢は壮年だろう。性別は不明である。

(16) SK028B（第79・92図）

３体分の人骨が出土し、最も下位から出土した (16) SK028B－１号人骨は原位置を保ち、頭位方向は北西で顔面は左を向いている。頭蓋から連なる椎体の状況から下肢骨を強く屈曲した横臥屈葬だろう。下腹部に銭貨が副葬されている。また、全身にかけて炭様の黒点やもや状の黒ずみがみられることから、骨体が硬化しない程度に被熱しており火葬されたと考えられる。(16) SK028B－１号人骨の上部から出土した (16) SK028B－２号人骨は、後世に攪乱され原位置を保たない下肢骨が出土している。最上位から出土し

た（16）SK028Ｂ－３号人骨は解剖学的位置を保つ下肢骨が出土している。北東側を向いた胡坐をかくような姿勢の座葬と考えられる。頭蓋骨が東方向のやや離れた地点で検出されており、埋葬後の腐食の過程で頭蓋が移動しているとみられる。これら３体は、各埋葬姿勢や２体目の個体が攪乱されていることから同時期のものではなく時間をおいて埋葬されたと考えられる。

・（16）SK028Ｂ－１号人骨（図版51）

顔面頭蓋の右側を除いて頭蓋の残りは比較的良い。前頭骨は眉弓部分を欠く左半部分、頭頂骨、左右錐体を含む側頭骨、後頭骨、蝶形骨、鋤骨、上顎骨、左頬骨、右側筋突起部分を欠く下顎骨が残存する。卵円孔・棘孔は左右とも独立している。乳様突起は大きく男性的である。外後頭隆起はBrocaⅣ度でよく発達している。冠状縫合は内板９割・外板５割が閉鎖、矢状縫合は外・内板とも完全閉鎖、ラムダ縫合は内板９割・外板８割が閉鎖している。歯の咬耗度はBroca２～４度。上顎切歯はシャベル状を呈する。右上顎第１大臼歯の頬側に歯根に達する齲蝕がみられる。四肢骨は、右上腕骨と左右脛骨の骨幹、左右大腿骨の近位端から骨幹が残存する。大腿骨粗線は柱状に強く発達。脛骨ヒラメ筋線は中程度に発達する。体幹骨は、左右の肩甲骨関節面と肩峰基部、左鎖骨骨幹、第１～７頸椎、第１～４胸椎と椎弓１個、左寛骨臼片、肋骨片が残る。第２～４胸椎は、カーテン状に椎体の左前縁部分が上下に骨増殖し、伸びた骨棘が上下の椎体と癒合している。頭蓋縫合の閉鎖状況や歯の咬耗度、椎骨の加齢による変形性脊椎症の発生程度から年齢は老年と考えられる。頭蓋形態と大腿骨粗線の発達程度から男性だろう。

・（16）SK028Ｂ－２号人骨（図版18）

左右大腿骨骨幹、左右不明脛骨片が残る。大腿骨粗線は柱状に強く発達し、太く波状にうねっている。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。右側下顎第１大臼歯の第５咬頭に齲蝕がみられる。粗線の発達度から性別は男性の可能性が高く、歯の咬耗度から年齢は壮年だろう。

・（16）SK028Ｂ－３号人骨（図版18）

頭蓋は、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、上顎骨、下顎骨が断片的に残存する。縫合は全て未閉鎖である。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。左上顎第２切歯のみシャベル状である。右上顎犬歯から第２小臼歯に歯石が付着する。四肢骨は、左右の大腿骨と脛骨の骨幹が残存している。大腿骨の粗線はやや強く発達する。脛骨のヒラメ筋線は盛り上がり強く発達する。筋付着部の発達は強い傾向にあるが四肢骨骨体は華奢である。歯の咬耗度から壮年前半だろう。性別は不明である。

（16）SK028Ｃ（第80図）

成人１体分が出土している。墓坑南東角から頭蓋骨と歯がまとまって出土しており頭位方向は南東の可能性がある。墓坑内から土器とおはじきが出土しているが副葬品かは不明である。

・（16）SK028Ｃ号人骨（図版18）

左右錐体と頭蓋骨片がわずかに残存する。歯はすべて遊離し、咬耗度はBroca１～２度で軽い。切歯はシャベル状である。歯の咬耗度から年齢は壮年前半だろう。性別は不明である。

（16）SK029（第78図）

成人１体分の骨が出土している。頭蓋と下肢骨は原位置を保っている。頭位方向は北西で、右側を下にして顔面を南に向ける。上肢骨の姿勢は不明だが、下肢骨は強く屈曲している。仰臥または横臥の屈葬だろう。胸部に銭貨が副葬されているほか、左肩周辺から土器が出土しているが副葬品かは不明である。

・(16) SK029号人骨（図版19）

頭蓋は、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、右頬骨、蝶形骨が残存している。下側になっていた右側の残りが比較的良い。３主縫合は全て未閉鎖である。歯の咬耗度はBroca１～３でやや咬耗が進んでいる。左下顎第２大臼歯にφ７㎜の齲蝕がみられる。左下顎第１大臼歯の近心咬頭が歯頸部まで咬耗している。他に、右肩甲骨肩峰基部、左右大腿骨骨片、左右不明の脛骨と腓骨骨片が残存している。頭蓋縫合の閉鎖状況から年齢は壮年だろう。性別は不明である。

(16) SK030（第78図）

頭蓋骨片と歯が出土している。埋葬姿勢は不明である。墓坑内から副葬された銭貨が出土している。

・(16) SK030号人骨

左錐体と外耳道周縁部、右錐体、上顎骨片、歯が残存する。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。切歯はシャベル状である。右側上顎第２小臼歯の歯冠近心面にφ１㎜、第１大臼歯の歯冠遠心面にφ３㎜の齲蝕がみられる。歯の咬耗度から年齢は壮年前半だろう。性別は不明である。

(16) SK031（第59図）

成人女性１体分と性別不明成人の歯が出土している。１号人骨の上肢の状況は不明だが、下肢骨は立膝、頭位は西で顔面を北に向けた座葬だろう。土坑中央で原位置を保ってまとまっている状況から早桶による埋葬と考えられる。下腹部に銭貨と金属製品の小破片が副葬されている。この女性の左寛骨付近から別個体の左側下顎犬歯が出土したが、埋葬姿勢は不明である。１号人骨が埋葬された後、２号人骨の歯が混入したと考えられる。

・(16) SK031-１号人骨（図版19・51・52）

頭蓋は、顔面頭蓋を除きおおむね残る。外後頭隆起はBroca Ⅰ度で弱い。冠状縫合は外・内板で未閉鎖、矢状縫合の内板は９割閉鎖し外板は４割閉鎖、ラムダ縫合は内板が８割閉鎖し外板は４割閉鎖している。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。上顎切歯はシャベル状である。右側第２切歯、左上顎第３大臼歯、　右側下顎第２大臼歯、左下顎第３大臼歯に齲蝕がみられる。四肢骨は、左上腕骨骨幹から遠位端、左橈骨の近位端から骨幹、左尺骨骨幹、手（基節骨４個、中節骨２個、中手骨骨幹１個）、右大腿骨骨幹、左大腿骨近位端から骨幹、右脛骨骨幹から遠位端、左脛骨と左右腓骨の骨幹、左足（距骨、踵骨、第３・４中足骨）、右足（立方骨、舟状骨、第１～３楔状骨、第１・３・４中足骨）が残存する。大腿骨粗線はやや強く発達し、脛骨ヒラメ筋線の発達は弱い。体幹骨は、右鎖骨近位端、第１・２頸椎、胸椎椎弓１個、腰椎椎体１個、腰椎椎弓３個、左右寛骨、肋骨片が残存する。寛骨耳状面はPhase２で、耳状面前溝に妊娠痕を有する。頭蓋縫合と歯の咬耗から年齢は壮年後半だろう。性別は寛骨大坐骨切痕形状から女性である。

・(16) SK031-２号人骨

左側下顎犬歯のみ出土した。歯の咬耗度はBroca２度で成人と考えられる。性別は不明である。

(16) SK032（第55図）

成人男性１体分の頭蓋骨と下肢骨片がわずかに出土している。頭蓋が土坑北角にまとまって出土していることから頭位は北西の可能性が高いが、埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK032号人骨（図版19）

頭蓋は、前頭骨の眉間部分、左右鼻骨、左右上顎骨前頭突起、左錐体と下顎窩、右錐体と外耳道周縁　部、

左頭頂骨の３主縫合部分、下顎骨が残存する。歯の咬耗度はBroca２～４度で咬耗が進んでいる。ほかに、左脛骨骨幹が遺存する。鼻の立ち上りは非常に弱くのっぺりした顔立ちである。下顎骨前下縁形状から男性の可能性が高い。年齢は歯の咬耗度から熟年だろう。

(16) SK033（第78図）

２体分の成人骨が出土した。上部より出土した１号人骨の埋葬姿勢は不明である。下部より出土した２号人骨の頭位方向は頭蓋の出土位置から北と推定されるが、埋葬姿勢は不明である。土坑中央部から副葬された銭貨が出土しているがどちらの個体に伴うものかは判然としない。

・(16) SK033-１号人骨（図版20）

頭蓋は、前頭骨、側頭骨、後頭骨、蝶形骨、鼻骨、上顎骨、下顎骨が残存している。他に、第１頸椎、第２頸椎と頸椎椎弓が３個、左手の有頭骨と第１中手骨、左右不明の中手骨と基節骨が各１個残存する。鼻の立ち上りは弱く近世人的である。眉弓はBrocaⅡ度であまり発達せず女性的である。左側蝶形骨の卵円孔と棘孔は独立している。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。左側上顎第１大臼歯の舌側咬頭が歯頸部まで咬耗している。左側上顎第２小臼歯、第１大臼歯、右側下顎第１・２大臼歯の歯根歯頸部が齲蝕でφ２～５㎜程度溶けている。上顎切歯はシャベル状を呈する。体肢骨は、左側鎖骨、左右上腕骨骨幹、左肩甲骨肩峰基部が残る。眉弓が発達せず女性の可能性がある。歯の咬耗度から壮年だろう。

・(16) SK033-２号人骨（図版20）

頭蓋は、頭頂骨、後頭骨、左右の錐体、左外耳道周縁部、蝶形骨、下顎骨左筋突起下部から関節突起骨頭部分が残存する。蝶形骨左側の卵円孔と棘孔は独立している。他に左橈骨骨幹と腰椎が１個残存する。骨質から成人とみられる。性別は不明である。

(16) SK034（第80図）

２体分の成人骨が重なって出土した。１号人骨は解剖学的位置を保ち、頭位方向は北西で、右側を下にして顔面を南に向ける。上肢骨は不明だが、下肢骨は強く屈曲した仰臥または横臥の屈葬だろう。胸部に銭貨と金属製品の小破片が副葬されている。１号人骨の頭蓋の上に重なるように２号人骨の下肢骨が出土し、北東に少し離れた位置からわずかな頭蓋骨片と歯が出土しているが後世に攪乱され埋葬姿勢は不明である。２体の検出レベルは異なり、合葬ではなく違う時期に重なって墓坑が作られたと考えられる。

・(16) SK034-１号人骨

頭蓋は、わずかな脳頭蓋骨片と鼻骨から眉弓周辺の前頭骨、左右錐体、上顎骨の前頭突起と歯槽部片、下顎骨の右側筋突起と下顎体が残存する。眉弓はBrocaⅠ度で隆起しない。冠状縫合は外・内板ともに未閉鎖である。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽く、切歯はシャベル状を呈する。上顎切歯に歯石が付着する。歯の咬耗度から年齢は壮年前半だろう。性別は頭蓋形態と骨体の薄さから女性の可能性が高い。

・(16) SK034-２号人骨

左錐体と下顎骨オトガイ部、左右大腿骨骨幹、足（中足骨遠位端１個、中節骨１個）が残存する。歯の咬耗度はBroca２度でやや咬耗している。右下顎第１小臼歯に歯頸線に達するφ３㎜の齲蝕がある。下顎歯槽部は歯槽膿漏による骨吸収と歯槽閉鎖がみられる。切歯はシャベル状である。大腿骨粗線は中程度に発達している。歯の咬耗度から年齢は壮年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK035（第78図）

成人１体分のほかに別の成人の歯が混在し２体分の人骨が出土している。１号人骨の頭位方向は北西で、顔面は南を向き右側を下にしている。上肢骨と下肢骨は強く屈曲しており、右側を下にした横臥屈葬である。また、左手部分に銭貨が副葬され、手と腰部分に土器が配置されている。ほかに、別個体の遊離歯が１号人骨の下肢骨の上部から出土している。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK035－１号人骨

頭蓋は、前頭骨、頭頂骨、左右錐体を含む側頭骨、後頭骨、右頬骨、下顎骨が残存する。冠状縫合の外・内板は未閉鎖、矢状縫合は外・内板で完全閉鎖である。歯の咬耗度はBroca２～４度でやや重い。上顎第２切歯はシャベル状である。四肢骨は、左右上腕骨骨幹、右尺骨近位端と左尺骨片、左右橈骨片、左右大腿骨近位端から骨幹、右脛骨骨幹と遠位端片、左脛骨と左右腓骨の骨幹が残存する。三角筋線の発達は弱い。粗線とヒラメ筋線は中程度に発達する。体幹骨は、右肩甲骨肩峰基部、左鎖骨近位端、右寛骨耳状面、左右寛骨大坐骨切痕と寛骨臼の一部、脊椎（第２頸椎、頸椎１個、頸椎片１個、胸椎１個、胸椎片４個、腰椎片２個、仙椎片）、肋骨片が遺存する。歯の咬耗度から年齢は熟年だろう。大坐骨切痕破片から女性の可能性が高い。

・(16) SK035－２号人骨

下顎右側第１小臼歯と第１大臼歯が出土している。第1大臼歯の咬合面中央にφ５㎜の齲蝕がある。咬耗度はBroca１度で、わずかであり、年齢は成年から壮年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK036（第78図）

１体分の未成人骨が出土している。土坑西側に下肢骨がまとまって出土し解剖学的位置を保っているようだが、そのほかの部位が損失しており埋葬姿勢は不明である。下肢骨に近接して銭貨が６枚出土している。

・(16) SK036号人骨

歯、左右大腿骨骨幹、左脛骨片が残存する。乳歯と永久歯があり、上下顎第１大臼歯の歯根が1/4程度形成完了し、上顎犬歯と下顎の第１小臼歯の歯冠が完成直前のため４～５才の幼児と考えられる。性別は不明。

(16) SK037（第79図）

熟年女性のほかに乳児の歯が混在し２体分の人骨が出土している。熟年女性は、解剖学的位置を保ち、頭位方向は西で、頭蓋は右側を下にして顔面は南を向く。上肢骨・下肢骨ともに強く屈曲し、右側を下にした横臥屈葬である。胸部に銭貨が副葬されている。土坑一括で１才前後の乳児の遊離歯があるが、熟年女性との関係は不明である。

・(16) SK037－１号人骨

頭蓋は、地面に接していた右側の残りが比較的良い。前頭骨、頭頂骨、側頭骨、錐体、蝶形骨、上顎骨、下顎骨が断片的に残存する。右側側頭骨の乳様突起がおおむね残存し、小さく女性的である。左右蝶形骨の卵円孔・棘孔は独立している。歯の咬耗度は左右上顎と右側下顎第２大臼歯はBroca１度で軽く、その他はBroca２～３度でやや咬耗が進んでいる。左側上顎第１大臼歯は歯頸線に達する重度の咬耗がみられる。上顎切歯は舌側の咬耗が激しくシャベル状かどうか不明で、下顎切歯はシャベル状ではない。四肢骨は、左橈骨、左尺骨、左右大腿骨、左脛骨骨幹と右大腿骨遠位端の一部が残存する。左

側大腿骨の粗線は少し強く発達している。他に第２頸椎、腰椎１個、左寛骨の大坐骨切痕の一部が残存する。歯の咬耗度から年齢は熟年だろう。性別は乳様突起の大きさから女性の可能性が高い。

・(16) SK037-２号人骨

乳歯と歯冠形成途中の永久歯が残っている。犬歯歯冠が1/3形成、第１大臼歯歯冠が1/2形成完了していることから年齢は１才の幼児と考えられる。性別は不明である。

(16) SK038（第79図）

性別不明の成人１体分の骨が出土している。歯の植立した下顎骨と下肢骨の検出位置から解剖学的な位置を保っていると考えられ、頭位方向は北西だろう。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK038号人骨（図版20）

咬合した状態の上顎歯と下顎歯のほか、土圧で変形した脛骨骨片がわずかに残存している。歯の咬耗度はBroca２度でやや咬耗が進んでいる。左側下顎第１大臼歯のみ歯頸線に達する重度の咬耗がみられる。切歯はシャベル状を呈さない。第３大臼歯は遺存していないが、左側下顎第２大臼歯の遠心面に隣接面摩耗がみられることから萌出済みである。歯の咬耗度から年齢は熟年だろう。性別は不明である。

(16) SK039（第68図）

成人の尺骨破片のみ出土している。埋葬姿勢等は不明である。銭貨が副葬されている。

・(16) SK039号人骨

左右不明の尺骨破片が残存する。骨質はしっかりとしており成人だろう。性別は不明である。

(16) SK040（第59図）

２体分の人骨が出土している。壮年女性の下部より16歳程度の成年骨が出土している。成年個体の埋葬姿勢は不明。壮年女性は原位置を保ち、頭位方向は北で頭蓋の右側を下側にしている。上肢骨・下肢骨ともに強く屈曲し、右側を下にした横臥屈葬である。壮年女性の胸部と下腹部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK040-１号人骨（図版18・20・52）

頭蓋は頭蓋底の一部、右側頬骨から側頭骨の一部、左頭頂骨後頭側を除いておおむね残存している。眉弓はBrocaⅡ度であまり発達しない。左側の乳様突起は小さく女性的である。外後頭隆起はBrocaⅡ度であまり発達しない。左蝶形骨の卵円孔・棘孔は独立している。下顎骨は右側関節突起と下顎体が残存している。眼窩は中眼窩、鼻腔は中鼻型である。３主縫合はすべて閉鎖しない。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。上顎切歯はシャベル状を呈する。

四肢骨は、左右上腕骨と右橈骨骨幹、右大腿骨近位端から骨幹、左大腿骨骨幹、左脛骨骨幹、左腓骨骨幹、右の脛骨と腓骨の細片が残存する。上腕骨の三角筋粗面と大腿骨粗線は中程度に発達する。脛骨のヒラメ筋線の発達は少し強い。ほかに、左右鎖骨骨幹、右側肩甲骨肩峰基部、第１頸椎、第２頸椎、胸椎片１個、左右不明中手骨３個、左右寛骨が残存する。寛骨の大坐骨切痕は鈍角で女性的である。左寛骨の耳状面はPhase２で20～29歳程度とみられる。年齢は、頭蓋縫合が未閉鎖、第３大臼歯が萌出済みで歯の咬耗度が軽度のほか、寛骨耳状面形状から壮年前半だろう。性別は寛骨形態から女性である。

・(16) SK040-２号人骨

左鎖体、上顎骨と下顎骨骨片、歯、右側橈骨骨幹が残存する。歯は全体的に大きく頑丈である。咬耗度はBroca１度で、左右の下顎第1大臼歯のみBroca２度である。第３大臼歯は未萌出で、歯根の3/4が形成完了しており16才程度と推定される。性別は不明である。

(16) SK042（第79図）

壮年後半～熟年女性が１体出土している。原位置を保ち、頭位方向は北で左側を下側にする。右腕は胸前で屈曲し、左腕は下腹部の上で軽く曲げる。下肢骨は強く屈曲し、立膝だったものが右側に傾いて倒れており仰臥立膝葬である。胸部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK042号人骨（図版20・21・53）

頭蓋は右側が比較的良く残る。顔面頭蓋は、左頬骨や右眼窩上縁部などの眼窩周辺部と上顎骨歯槽部が残存している。右側乳様突起は細長く女性的な印象である。外後頭隆起はBrocaⅡ度であまり発達しない。冠状縫合は内板が８割閉鎖し外板は未閉鎖、矢状縫合は外・内板ともにほぼ閉鎖、ラムダ縫合は内板で８割閉鎖し外板は２割程度閉鎖している。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽度であるが、左右上顎第１大臼歯や下顎切歯で歯槽閉鎖し、左上顎第２切歯は歯槽閉鎖直前であるなど、比較的若い段階で歯抜け状態となり強く咬合せず咬耗が進まなかったと考えられる。切歯はシャベル状を呈する。四肢骨は、左右の上腕骨、尺骨、橈骨、大腿骨、脛骨、腓骨の骨幹が残存する。粗線とヒラメ筋線の発達は弱い。ほかに左肩甲骨肩峰基部が遺存する。年齢は、頭蓋縫合がやや閉鎖していることから壮年後半～熟年と考えられる。性別は、頭蓋形態と四肢骨の筋付着部の発達が悪いことから女性の可能性が高い。

(16) SK044（第78図）

土坑底面付近で検出された幼児骨と覆土上方から出土した個体の２体が出土している。２体とも埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK044-１号人骨

右側錐体、乳歯と永久歯が残存している。上顎切歯はシャベル状である。右側上下顎第１大臼歯の歯根が１㎜形成され、上下顎犬歯の歯冠が3/4形成完了しており、３～４才の幼児と推定される。性別は不明である。

・(16) SK044-２号人骨（図版21）

わずかな頭蓋骨片が残存する。性別や年齢は不明である。

(16) SK045（第80図）

１体の成人骨が出土している。埋葬姿勢等は不明である。

・(16) SK045号人骨（図版21）

左の大腿骨と腓骨の骨幹、肋骨片が残存する。骨質がしっかりし、大腿骨骨幹が太く成人に達している。性別は不明である。

(16) SK047Ｂ（第69図）

１体の成人骨が出土している。頭位方向は北で、上肢骨は不明だが、下肢骨は強く屈曲している。仰臥または横臥の屈葬だろう。胸部周辺に銭貨が副葬されている。

・(16) SK047Ｂ号人骨（図版21）

遺存状況は悪い。左錐体、左上顎骨歯槽部と右側下顎体の一部が残存する。歯の咬耗度はBroca２～３度で、右上顎第２・３大臼歯の咬耗は軽度だが、左上顎第１大臼歯は歯頸線に達する。一部の歯の歯根や歯冠に齲蝕がみられる。切歯はシャベル状を呈さない。他に左大腿骨骨片、右脛骨骨幹から遠位端が残存する。歯の咬耗度から年齢は老年だろう。性別は不明である。

(16) SK048（第70図）

１体の成人骨が出土している。土坑北側で頭蓋骨、南側で下肢骨が出土したため原位置を保つと考えられる。頭位方向は北で右側を下にする。大腿骨が土坑縁に近いため仰臥または横臥の屈葬だろう。横臥屈葬の場合、上肢を屈曲した手が配置されていたと思われる位置で副葬品の銭貨が出土している。

・(16) SK048号人骨（図版22）

全体的に遺存状況は悪いが、頭蓋は地面に接している右側の残りが比較的良い。前頭骨の一部、左右錐体と右側頭骨の外耳道周縁部、蝶形骨左側卵円孔部分、上顎骨の口蓋突起、下顎体、左右不明大腿骨骨幹が残存する。歯の咬耗度はBroca１～２でやや咬耗が進んでいる。左第１大臼歯の近心根歯頸部と右下顎第２大臼歯近心根歯頸部にφ３㎜の齲蝕がみられる。切歯はシャベル状を呈する。大腿骨粗線の発達は弱い。歯の咬耗度から年齢は壮年だろう。性別は不明である。

(16) SK049（第70図）

成人１体分の頭蓋と歯が土坑底に散乱した状態で出土した。土坑形状から早桶による座葬と考えられる。頭蓋周辺から銭貨が検出されたが、本来の副葬位置は不明である。

・(16) SK049号人骨（図版22）

右側側頭骨の外耳道上縁部、左右錐体、右側頭頂骨、右側犬歯から第１大臼歯部分の下顎体が残る。歯の咬耗度は１～２度で軽い。右上顎犬歯と第１大臼歯の歯根に歯槽膿漏による吸収がみられる。一部の歯に歯石がみられる。上顎切歯はシャベル状である。年齢は歯の咬耗から壮年だろう。性別は不明である。

(16) SK050（第59図）

１体分の成人骨の中に別個体の歯が混在して出土した。後世の攪乱により成人の頭蓋周辺に四肢骨が散乱し、埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK050-１号人骨（図版22・53）

頭蓋は右側の保存状態が比較的良く、脳頭蓋は前頭骨、頭頂骨、右側頭骨が残り、顔面頭蓋は前頭突起下部から右側頬骨にかけて残り、ほかに左頬骨片が出土している。下顎骨は下顎歯槽部と右側筋突起と関節突起の一部が残る。冠状縫合は外・内板ともに未閉鎖、矢状縫合の外板は未閉鎖で内板は４割閉鎖している。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽い。上顎切歯はシャベル状である。右第１肋骨片、右の上腕骨と尺骨骨幹、左大腿骨骨幹が残存する。年齢は、頭蓋縫合の一部が癒合していることから壮年後半だろう。性別は不明である。

・(16) SK050-２号人骨

左側下顎第２小臼歯のみ残る。咬耗度はBroca１度で軽い。性別・年齢とも不明である。

(16) SK053（第57図）

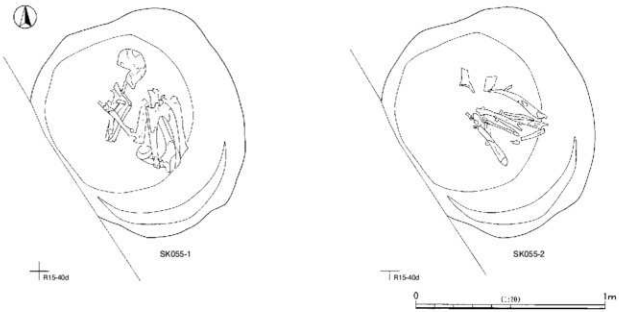
成人の四肢骨のみ出土している。墓坑が他の遺構に壊され大部分を損失しており埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK053号人骨

左脛骨の骨幹のみ残る。骨幹の太さから成人に達していると考えられる。性別は不明である。

(16) SK054（第72図）

成人の四肢骨１体分が出土している。上肢骨は不明だが、下肢骨は右足を下側にして両足が上下に重なっている。両足を強く屈曲した横臥屈葬で、四肢骨の位置から頭位方向は南東だろう。



第93図　(16) SK055個体別出土人骨

・(16) SK054号人骨

左右不明尺骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右不明腓骨の骨幹が残存する。大腿骨粗線は良く発達し、男性の可能性が高い。

(16) SK055（第73・93図）

２体分の男性人骨が上下に重なり出土した。(16) SK055-２号人骨の頭蓋部分を削平して (16) SK055-１号人骨が埋葬されている。２体は合葬ではなく時間を同じ場所に墓坑が形成されている。(16) SK055-１号人骨の頭位方向は北で左側を下にしている。上肢・下肢ともに強く屈曲し、左側を下にした横臥屈葬である。右手部分に銭貨が副葬されている。(16) SK055-１号人骨の直下より頭蓋を欠く (16) SK055-２号人骨が出土している。体肢骨は解剖学的位置を保ち、北側を背にした正座による座葬である。四肢骨に接して北西側に銭貨が出土しているが、下腹部に副葬されたものが遺体が朽ちる過程で移動したと考えられる。

・(16) SK055-１号人骨（図版23・54）

遺存状況は比較的良い。前頭骨、頭頂骨、左右錐体を含む側頭骨、後頭骨、鼻骨、上顎骨、下顎骨、蝶形骨左翼棘孔部分が残存する。ラムダ縫合の外板は未閉鎖、内板は９割閉鎖している。眉弓はBroca Ⅳでよく発達する。眉間から鼻骨にかけて鼻の立上りは強く立体的である。歯の咬耗度はBroca２度で軽い。切歯はシャベル状である。下顎骨歯槽部は歯が抜け落ちて閉鎖し下顎体が低く退縮している。左側大腿骨最大長は396㎜で、推定身長は152.5㎝となり関東近世の男性平均157.1㎝に比べて低身長である。上腕骨三角筋線と大腿骨粗線の発達は弱く、脛骨ヒラメ筋線は中程度の発達である。眉弓がよく発達することから男性の可能性が高く、歯の咬耗度と頭蓋縫合の閉鎖状況から熟年だろう。

・(16) SK055-２号人骨（図版23・55）

左右の上腕骨と橈骨骨幹、左尺骨近位端から骨幹、右尺骨骨幹から遠位端、左大腿骨骨幹、左右脛骨

骨幹、左腓骨骨幹が残存している。大腿骨粗線は柱状を呈しよく発達している。脛骨ヒラメ筋線の発達も強い。筋付着部の発達状況から男性の可能性が高く、歯の咬耗度から年齢は熟年だろう。

(16) SK056（第72図）

1体分の成人の頭蓋骨片と歯が出土した。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK056号人骨（図版24）

(16) SK057に大きく削平され、体部は失われている。左右錐体、上顎右歯槽部、下顎骨右側の下顎体から筋突起までが残存する。歯の咬耗度はBroca 1 ～ 3度で中程度であり、年齢は壮年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK057（調査中に攪乱と判明）

小児の上顎右側第2乳臼歯の歯冠のみ出土している。

・(16) SK057号人骨

右側上顎第2乳臼歯の歯冠とわずかな骨片が残存している。象牙質に達しない程度の咬耗がみられることから2～6才程度の幼児または小児と考えられる。性別は不明である。

(16) SK059A（第80図）

成人1体分の骨が後世に攪乱を受け散乱した状態で出土した。

・(16) SK059A号人骨（図版24）

頭蓋骨片と遊離した左上顎第2小臼歯と第1大臼歯、左右不明大腿骨破片が残存する。歯の咬耗度はBroca 1 ～ 2度で軽い。歯の咬耗状況から壮年と考えられる。性別は不明である。

(16) SK059B（第80図）

性別年齢不明の四肢骨片が出土している。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK059B号人骨

部位不明の四肢骨骨片が残存するのみである。性別・年齢ともに不明である。

(16) SK060（調査中に (16) SK059A東半と判明）

性別年齢不明の少量の頭蓋骨片が出土している。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK060号人骨

部位不明の頭蓋骨片がわずかに残存するのみである。性別・年齢ともに不明である。

(16) SK061（第80図）

後世に攪乱され散乱した成人1体分の骨片がわずかに出土にしている。

・(16) SK061号人骨（図版25）

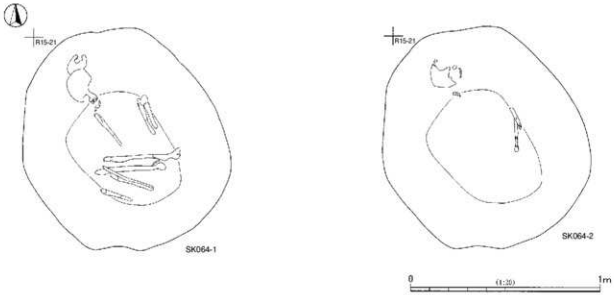
右側頭骨の鱗部片、右錐体、左鎖骨骨幹、肋骨片が残存する。錐体の大きさから成人に達していると考えられる。性別は不明である。

(16) SK063（第80図）

成人1体分の頭蓋骨と歯が右側を下にして出土した。体肢骨は (16) SK061に大きく壊され埋葬姿勢は不明だが、上下顎が連合状態で検出されており、原位置を保つとすれば、頭位方向は北西の可能性が高い。銭貨が出土しているが副葬位置は不明である。

・(16) SK063号人骨（図版25）

頭蓋骨のみ残存する。右側頭骨の乳様突起の一部、下顎関節窩部分、蝶形骨右側棘孔部分、下顎骨右



第94図　(16) SK064個体別出土人骨

側筋突起下部、遊離歯が残存する。上顎の左右中切歯はシャベル状を呈する。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽度であり、第３大臼歯は萌出済みであることから年齢は壮年前半と考えられる。性別は不明である。

(16) SK064 (第78・94図)

熟年男性と壮年女性の２体分の骨が出土した。壮年女性の埋葬後、時間を置いて熟年男性が埋葬された際に乱され埋葬姿勢は不明である。熟年男性の頭位方向は北西で、上肢・下肢ともに強く屈曲し、右側を下にした横臥屈葬である。胸部に銭貨が副葬されている。

・(16) SK064-１号人骨 (図版25)

頭蓋は右側の遺存状況が比較的良い。頭頂骨、右側頭骨、後頭骨、前頭骨、左右鼻骨、上顎骨、下顎骨が残存する。鼻の立上りは土圧で変形し観察できない。冠状縫合の外板は４割閉鎖し内板は完全閉鎖している。矢状縫合の外板は８割閉鎖し内板は完全閉鎖、ラムダ縫合の外板は５割閉鎖し、内板は完全閉鎖している。眉弓はBrocaⅢ～Ⅳでよく発達し、外後頭隆起はBrocaⅢで中程度に発達している。歯の咬耗度はBroca２～４度で咬耗が進んでいる。上顎切歯はシャベル状を呈する。一部で歯槽が閉鎖している。ほかに左右上腕骨骨幹、右大腿骨骨幹と遠位端の一部、左の大腿骨と腓骨骨幹、右肩甲骨肩峰基部が残る。大腿骨粗線がやや強く発達する。年齢は頭蓋縫合閉鎖状況から熟年だろう。性別は頭蓋形態から男性の可能性が高い。

・(16) SK064-２号人骨 (図版25)

後頭骨と頭頂骨、左右側頭骨の外耳道周辺部、下顎骨左側下顎体の一部が残る。外後頭隆起はBrocaⅠ度で発達しない。矢状縫合とラムダ縫合は外・内板ともに未閉鎖である。歯の咬耗度はBroca２度でやや咬耗する。四肢骨は左上腕骨骨幹、左橈骨骨幹が残存する。上腕骨と橈骨は被熱しており硬質化しひどく湾曲している。橈骨は全体的に被熱による黒ずみと黒点（φ１㎜）が多数みられる。年齢は歯の咬耗が軽く、頭蓋縫合が未閉鎖であることから壮年前半だろう。性別は外後頭隆起の発達が悪く女性の可能性が高い。

(16) SK065（第76図）

わずかな骨片が出土した。埋葬姿勢は不明である。

・(16) SK065号人骨

頭蓋骨片と四肢骨骨片が少量残存している。性別や年齢は不明である。

(16) SD001

一括で取り上げられた性別年齢不明の人骨片がわずかに出土している。

遺構外出土

確認調査中にQ15－09ほかから少なくとも４体、R15-03から１体分の人骨が出土した。一括で取り上げられているため各個体の埋葬姿勢等は不明である。周辺の調査状況から中・近世に属すると思われる。

・Q15-09ほか-１号人骨

頭蓋骨片、下顎の一部、下顎歯、右大腿骨骨幹が残存する。大腿骨粗線は、柱状に強く発達し、男性の可能性が高い。歯の咬耗度はBroca１～２度で軽度である。下顎歯槽部は歯槽膿漏による吸収がみられることから壮年～熟年と考えられる。

・Q15-09ほか-２号人骨

左右錐体と遊離歯が残存する。切歯はシャベル状。歯の咬耗度はBroca１～２度で比較的軽く、壮年前半と考えられる。性別は不明である。

・Q15-09ほか-３号人骨

左錐体、右大腿骨骨幹が残存する。大腿骨粗線はやや発達し骨体も太く頑丈であり、男性の可能性が高く、成人と思われる。

・Q15-09ほか-４号人骨

左右錐体が残存する。骨体の緻密さから成人と考えられる。性別は不明。

・R15-03北側拡張区出土人骨

左右不明の上腕骨と腓骨骨幹、肋骨骨片が残存している。四肢骨の太さから成人と考えられる。性別は不明である。

まとめ

今回の調査により、中世～近世の土坑墓から82体の人骨が出土した。男性、女性、未成人骨ともに出土数に差は無く地域共同の集団墓地だったことがうかがえる。年齢構成は、全体の１割強が未成人であり、その内１～５歳の幼児が大半で乳児の死亡率は高くなく、離乳後に亡くなる子供が多かったようだ。また、成人では全体の４割が壮年で、熟年が１割、老年個体はわずかであり、中・近世に一般的な平均寿命と同様であった。歯の咬耗度はBroca２～３度が最も多く、年齢相応であった。

四肢骨最大長を計測できた(16) SK055-１号男性人骨は、身長推定式（藤井1960）によると152.5cmとなり、関東近世人の男性平均値157.1cm（平本1972）に比べてかなり低身長である。

顔面形態を復元することが出来た(16) SK040-１号人骨では、中眼窩・中鼻型で中・近世人に一般的な特徴を持っている。歯の計測値から男女混合による集団間比較を行った結果、市野谷宮後遺跡出土人骨は県内出土の中・近世集団と大きな差はなく中・近世に平均的な集団である。

参考文献

梶ヶ谷真里・馬場悠男、2002、「前畑遺跡出土人骨および歯」『千葉東金道路（第二期）埋蔵文化財調査報告書９　東金市前畑遺跡・羽戸遺跡』千葉県文化財センター調査報告　第478集、pp. 443-450、財団法人千葉県文化財センター。

馬場悠男、1991、『人体計測法』人類学講座　別巻１、雄山閣。

馬場悠男ほか、1998、『考古学と人類学』考古学と自然科学１、同成社。

平本嘉助、1972、「縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的変化」『人類学雑誌』第80巻第３号、pp.221-236、日本人類学会。

藤井　明、1960、「四肢長骨の長さと身長との関係に就いて」『順天堂大学体育学部紀要』第３号、pp.49－61、順天堂大学体育学部紀要編集委員会。

藤田恒太朗、1949、「歯の計測規準について」「人類学雑誌」61（１）、pp. 27-32、日本人類学会。

加藤久雄・松村博文、2013、「歯冠計測値からみた下太田貝塚出土縄文人の血縁関係の推定」「下太田貝塚－かんがい排水事業（排水対策特別型）新治地区埋蔵文化財調査業務－（分析編）」財団法人総南文化財センター調査報告　第50集、pp. 183-199、千葉県茂原土地改良事務所、茂原市、総南文化財センター。

溝口優司、1996、「北大堀遺跡出土人骨について」「一般国道296号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書１　酒々井町本佐倉北大堀遺跡」千葉県文化財センター調査報告　第278集、pp. 175-292、財団法人千葉県文化財センター。

Broca,P., 1879. Instructions relatives à l'étude anthropologique du système dentaire. Bull. Soc. Anthropol. Paris., 2, Paris, 128-152.

Lovejoy,C.O.,Meindle,R.S.,Pryzbeck,T.R.,and Mensforth,R.P., 1985. Chronological metamorphosis of the auricular surface of thei ilium:A new method for the determination of adult skeletal age of death. American journal of the physical Anthropology 68:15-28.

Matsumura H., 1995. A Microevolutional History. National Science Museum monographs, 9: 1-130.

Miles,A.E.W., 1962. Assessment of the Ages of a Population of Anglo-Saxons from Their Dentitions. Proceedings of the Royal Sociiety of Medicine,55:881-886.

Smith,B.H., 1991. Standards of human tooth formation and dental age assessment. Advances in Dental Anthropology. New York, 143-168.

第10表　中･近世人骨一覧表

人骨番号	性別	年　齢	頭位方向	埋葬姿勢	副葬品	備　考
Q15-09ほか－1	男性？	壮年～熟年	－	－	－	
Q15-09ほか－2	不明	壮年前半	－	－	－	
Q15-09ほか－3	男性？	成人	－	－	－	
Q15-09ほか－4	不明	成人	－	－	－	
R15-03	不明	成人	－	－	－	
SD001	不明	不明	－	－	－	
SK003－1	不明	壮年	－	－	銭貨(SK032の副葬品の可能性)	
SK003－2	不明	壮年	－	－		
SK004	男性？	壮年前半	西	屈葬(火葬？)	下肢骨付近に礫	骨表面に黒いもや状の黒ずみあり
SK005A	不明	老年	東	立膝座葬	左胸部に銭貨	
SK006	不明	成人	－	－		
SK007A	女性？	壮年	－	座棺葬？	銭貨・キセル	
SK007B－1	不明	壮年～熟年	－	－		
SK007B－2	不明	乳児(5カ月±)	－	－		
SK008	不明	壮年前半	北西	屈葬？		
SK009	男性？	成人	－	－		
SK010	女性？	壮年	－	－	銭貨	骨表面に黒いもや状の黒ずみあり
SK011	不明	成人	北西	屈葬	胸部に銭貨	
SK012	不明	壮年前半	北	－		
SK013	不明	成年～壮年	－	－		
SK015－1	不明	壮年	北	座葬	胸・下腹部周辺に銭貨	
SK015－2	不明	幼児(3才)	－	攪乱	土坑内に銭貨が散乱しかがわらけ小皿が土坑縁に配置されている。	被熱して白色硬質化した骨片あり（どの個体に帰属するかは不明）
SK015－3	不明	成年～壮年	－	攪乱		
SK015－4	不明	小児(6才前後)	－	攪乱		
SK015－5	不明	幼児(2才)	－	攪乱		
SK015－6	不明	幼児(2才)	－	攪乱		
SK015－7	不明	幼児(2才)	－	攪乱		
SK018	不明	壮年前半	－	－	銭貨	
SK019－1	不明	成人	－	－		
SK019－2	不明	成人	－	－		
SK020	不明	熟年～老年	北	屈葬	下腹部に銭貨	
SK021－1	不明	小児（6才前後）	－	－		
SK021－2	男性	壮年後半～熟年前半	北	屈葬	下腹部に銭貨	
SK022	女性？	壮年前半	北西	仰臥屈葬	下腹部に銭貨	
SK023A－1	不明	幼児（4～5才）	－	攪乱	銭貨・鉄製品(1号2号人骨のどちらのものか不明)	
SK023A－2	不明	壮年	－	攪乱		
SK023B	不明	成人	－	－		
SK024	不明	壮年前半	北	－	胸部に銭貨	
SK025A	不明	成人	－	屈葬	板碑	
SK025B	女性？	熟年	北西	伏臥屈葬	胸部に銭貨	
SK026	不明	不明	－	－		
SK027	不明	壮年後半～熟年	北	横臥屈葬	下腹部に銭貨	
SK028A	不明	壮年	北西	屈葬(火葬？)	銭貨	
SK028B－1	男性	老年	北西	屈葬(火葬)	下腹部に銭貨	頸椎前縁に骨増殖
SK028B－2	男性？	壮年	－	－		

人骨番号	性別	年　齢	頭位方向	埋葬姿勢	副葬品	備　考
SK028B－3	不明	壮年前半	西	座葬		
SK028C	不明	壮年前半	南東	－	銭貨	
SK029	不明	壮年	北西	屈葬	胸部に銭貨　左肩に土器(副葬？)	
SK030	不明	壮年前半	－	－	銭貨	
SK031－1	女性	壮年後半	西	座棺葬	胸部から下腹部に銭貨・金属製品小破片、下顎右関節窩に緑青が付着	
SK031－2	不明	成人	－	－		
SK032	男性？	熟年	北西	－		
SK033－1	女性？	壮年	－	－	銭貨(どちらの個体に伴うか不明)	
SK033－2	不明	成人	北	－		
SK034－1	女性？	壮年前半	北西	屈葬	胸部に銭貨・金属製品小破片	
SK034－2	不明	壮年	－	－		
SK035－1	女性	熟年	北西	横臥屈葬	左手部分に銭貨　手と腰周辺に土器	
SK035－2	不明	成年～壮年	－	－		
SK036	不明	幼児(4～5才)	－	－	下肢骨付近に銭貨	
SK037－1	女性？	熟年	西	横臥屈葬	胸部に銭貨	
SK037－2	不明	幼児(1才)	－	－		
SK038	不明	熟年	北西	－	礫が下腹部周辺	
SK039	不明	成人	－	－	銭貨	
SK040－1	女性	壮年前半	北	横臥屈葬	胸部から下腹部で銭貨	
SK040－2	不明	成年(16才前後)	－	－		
SK042	女性？	壮年後半～熟年	北	仰臥立膝葬	胸部に銭貨	
SK044－1	不明	幼児(3～4才)	－	－		
SK044－2	不明	不明	－	－		
SK045	不明	成人	－	－		
SK047B	不明	老年	北	屈葬	胸部周辺に銭貨	
SK048	不明	壮年	北	屈葬	胸部の西方に銭貨(手の位置か)	
SK049	不明	壮年	－	座棺葬	銭貨	
SK050－1	不明	壮年後半	－	攪乱	上顎骨に緑青	
SK050－2	不明	不明	－	－		
SK053	不明	成人	－	－		
SK054	男性？	成人	南東	横臥屈葬		
SK055－1	男性	熟年	北	横臥屈葬	右手部分に銭貨	推定身長152.5cm
SK055－2	男性	熟年	北	座棺葬	下腹部に銭貨か	
SK056	不明	壮年	－	－		
SK057	不明	幼児～小児(2～6才)	－	－		
SK059A	不明	壮年	攪乱	攪乱		
SK059B	不明	不明	－	－		
SK060	不明	不明	－	－		
SK061	不明	成人	攪乱	攪乱		
SK063	不明	壮年前半	北西？	－	銭貨	
SK064－1	男性	熟年	北西	横臥屈葬	胸部に銭貨	
SK064－2	女性？	壮年前半	－	－(火葬？)		
SK065	不明	不明	攪乱	攪乱		

第11表　頭蓋計測値一覧表

単位 ： (mm)

計測項目(Martin)	資料名	SK007B-1	SK022	SK027	SK028B-1	SK031-1	SK032	SK037-1	SK040-1	SK042	SK050-1	SK055-1	SK056	SK064-1
	性別	不明	女性？	不明	男性	女性	男性？	女性？	女性	女性？	男性？	男性	不明	男性
	年齢	壮年～熟年	壮年前半	壮年～熟年	老年	壮年後半	熟年	熟年	壮年前半	熟年	壮年後半	熟年	壮年	熟年
M9	最小前頭幅								86.8					
M11	両耳幅				135.0									
M12	最大後頭幅				114.0	108.9			99.3					
M17	バジオン-ブレグマ長					138.0								
M26	正中矢状弧長前頭								122.6					
M27	正中矢状頭長弧長					133.7								
M29(1)	正中矢状上鱗弦長					74.6								
M29	正中矢状前頭弦長								109.6					
M30	正中矢状頭長弦長					116.2								
M31(1)	正中矢状上鱗弦長					74.4								
M43	上顔幅								94.9					
M47	顔高								116.4					
M48	上顔高								65.5					
M50	眶窩間幅								20.1					
M51	眶窩幅(左)								39.2					
M52	眶窩高(左)								32.2					
M54	鼻幅								25.5		23.4			
M55	鼻高								50.1					
M57	鼻骨最小幅											9.0		
M52/51	眶窩示数(左)(%)								84.3					
M54/55	鼻示数(%)								50.9					
M61	上顎歯槽突起幅								58.5					
M63	口蓋幅								38.9					
M66	下顎角幅				(89.9)									
M67	前下顎幅		48.5	45.8	51.9		45.0		43.9	41.6		46.2		
M68	下顎長				(96.2)									
M69	オトガイ高		(31.3)	(30.5)	29.8		(30.3)		32.3					
M69(1)	下顎体高(右)	21.5	30.2	26.6	30.2		29.1	29.0	27.8	31.7			28.0	
	(左)				32.1				29.2	31.8				
M70	下顎枝高(右)		63.2		14.6	54.7								
	(左)				(59.2)									
M71	下顎枝幅(右)		35.1			36.2								
	(左)				37.6									
M70(3)	下顎切痕深(右)		36.1			13.3								
	(左)				17.5									
M71(1)	下顎切痕幅(右)		12.4			36.1								
	(左)				33.3									
M69(3)	下顎体厚(右)	13.5	12.9	11.8	14.6		12.7	12.3	11.8	11.7			14.6	
	(左)				13.7				12.5	11.8				
M70a	下顎頭高(右)		56.9											
	(左)				65.3									
M71a	最少下顎枝幅(右)		35.5			36.1								38.4
	(左)				37.7									
M79	下顎枝角(右)		67度											
	(左)				64度									
M71/70	下顎枝示数(右)(%)		55.6			66.2								
	(左)(%)				(83.9)									

第12表　四肢骨計測値一覧表

単位 ： (mm) 示数(%)

計測項目(Martin)	資料名	SK010	SK022				SK028B-1		SK028B-2		SK028B-3		SK031-1		SK034-1		SK034-2		SK035-1		SK040-1		SK054		SK055-1		SK055-2		SK064-1	
	性別	女性？	女性？		男性		男性？		不明				女性		女性？		不明		女性		女性		男性？		男性		男性		男性	
	年齢	壮年	壮年前半		老年		壮年		壮年前半				壮年後半		壮年前半		壮年後半		熟年		壮年前半		成人		熟年		熟年		熟年	
		R	R	L	R	L	R		R	L	R	L	R	L	R	L	L		R	L	R		R		R	L	R	L	R	L
上肢骨																														
M2	最小周	45.0																								62.2				
尺骨																														
M3	最小周												35.9												13.5		14.0			
M11	尺骨矢状径												11.1												15.4		18.1			
M12	尺骨横径												17.0												87.8		77.5			
M11/12	骨体断面示数												65.3																	
橈骨																														
M3	最小周												35.7												39.1					
M4	骨体横径												14.8												15.3	19.5				
M5	骨体矢状径												10.0												11.8	13.0				
M5/4	骨体断面示数												67.4												76.7	66.7				
大腿骨																														
M1	最大長																			396										
M6	骨体中央前矢状径		24.3	24.8	30.5	32.2	28.1				(21.3)		27.1	21.4	20.6	25.4	27.4	27.5			27.8	27.5	27.0		27.6	28.3				
M7	骨体中央部横径		26.4	27.7		30.0	27.6						27.2	26.0	22.7	26.1	27.5	28.1			23.4	23.8	25.5		32.3	30.5				
M8	骨体中央周		79.4	83.5		96.7	88.2						85.0	73.5	68.4	82.4	84.7	87.4			84.4	78.3	80.2		94.0	90.8				
M9	骨体上横径		33.2	32.5		33.2	32.7						32.6				31.9	31.9	29.2			31.1	31.3			35.4				
M10	骨体上矢状径		22.3	23.5		28.8	23.4						22.4				22.3	23.9	22.0			23.1	22.7			23.5				
M17	大腿骨頭頭												129.3					138.4	122.7											
M20	大腿骨頭周												91.6																	
M6/7	骨体中央断面示数		92.1	89.4		107.5	101.8						99.7	82.4	90.9	97.4	99.6	97.9			118.1	115.5	106		85.6	92.8				
M10/9	上骨体断面示数		67.3	72.4		86.6	71.6						68.8				69.9	74.9	75.4			74.3	72.5			66.4				
距骨																														
M8a	栄養孔位最大長			31.4	29.4				36.5				30.4				33.4													
M9a	栄養孔位横径			22.3	22.3				21.2				20.0				21.6	21.3												
M10a	栄養孔位周			83.0	90.4				91.3				80.0				83.3													
M10b	最小周			67.9							65.4		67.1				66.6													
M9a/8a	栄養孔位断面示数			70.9	75.8				58.0				65.8				64.6													

第13表　歯冠計測値一覧表

資料名		SK003-1		SK003-2		SK004		SK005		SK007		SK008		SK010		SK011		SK012		SK015-1	
性別		不明		不明		男性？				女性？		不明		女性？				不明		不明	
歯種		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I1		8.36	8.52			8.80											8.39		8.26	8.38
	I2		6.65	7.08								6.34		6.71				6.07	6.25	7.01	
	C	7.83	7.70	7.68	8.03	8.28	8.31					7.50		6.92	7.33			7.11		7.65	7.47
	P1	7.30	6.86			7.59	7.52			6.65		6.57	6.56	6.77	8.70			6.74		7.09	6.99
	P2			7.19	6.91	6.90	7.10			6.29	5.80	6.51	6.45	6.44	6.83			6.37		7.46	7.39
	M1	9.75				10.46	9.53				9.45	9.30	9.34	9.56				10.64			
	M2	9.39	8.93		9.24	9.99	10.63		8.98			8.83	8.79	8.62	10.51			9.05			9.40
MD	M3	8.15		8.40	7.72		8.69	8.00				7.17	7.29					8.55			
下顎	I1	5.92	5.98			5.57	5.63					5.05						5.22	5.22		5.17
	I2	6.91	6.81			7.06	7.13					5.64						5.43	5.45	5.79	5.74
	C	6.67	6.99			7.34	7.20							6.12	6.26			6.25		6.70	6.78
	P1	6.73				7.40	7.53					6.46	6.85			7.46		6.54	6.39	6.79	6.61
	P2		10.93	11.02	11.03	11.77	11.91					6.64	9.20					8.94	6.78	7.36	7.15
	M1	10.69			10.56	11.46	11.42					10.53	10.42					12.14	11.63	10.95	11.27
	M2		10.37									10.12	11.15	9.88				10.78		11.60	11.37
	M3		10.02									10.02	10.17								
上顎	I1		6.94	7.20			7.70													7.83	7.41
	I2		6.20	5.83								6.25	5.76	6.02				6.27	6.28	6.91	7.22
	C	8.25	7.93	7.87	8.41	8.89	8.88					7.73	6.08	7.47	7.33			7.75		8.45	7.87
	P1	9.20				9.75	10.02			8.63		8.83	6.55	8.86	8.70			9.16		9.07	9.14
	P2			9.21	8.93	9.30	9.20			8.34	7.96	9.15	6.64	8.52	8.83			9.43		9.32	9.72
	M1	10.64				11.75	11.50				10.53	10.35	10.50	10.58				12.09			12.09
	M2	10.91	10.25		10.91	11.84	12.22		11.26			11.00	10.20		10.51			11.96			11.46
BL	M3	10.73		10.02	10.20		10.55	10.60				10.30	10.30					10.35			
下顎	I1					5.97	5.96					5.16						5.81	5.91		6.14
	I2	6.35	6.46			6.59	6.78					5.71	5.93					6.11	6.08	6.40	6.33
	C	7.73	7.48			7.58	7.84						7.46	7.04	7.03			7.42		7.95	8.13
	P1	7.78	8.04			8.24	8.31					7.60	7.89			8.36		7.63	7.70	8.31	7.83
	P2	7.98				8.33	8.53					8.24	8.47					8.46	8.73	8.38	8.03
	M1		10.97	10.43	10.47	10.99	11.09					9.90	9.83					11.52	11.52	11.66	11.79
	M2	9.45			9.76	10.66	10.51					9.59	9.74	9.27				10.73	10.82	10.70	10.72
	M3		10.09									8.94	9.64								

資料番号		SK015-3	SK015-4		SK015-7		SK015※		SK015※		SK018		SK020		SK021-1		SK021-2		SK022		SK023A-1		SK023A-2
性別		不明	不明		不明		不明		不明		不明		不明		不明		男性？	女性？	不明		不明		不明
歯種		右	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
上顎	I1		8.22	7.99		8.00										7.90			9.04	8.96			8.09
	I2			7.12											6.48	6.16			6.80	6.92			6.46
	C		7.89											8.15	7.60	7.51			6.48	8.58			7.94
	P1		7.14	6.70								7.36	7.57		7.17	7.17			7.65	7.59			7.00
	P2		7.00	7.27							6.72		7.42			6.85			7.14	7.42	6.76	6.78	
	M1		10.78	10.81	10.25	10.24					9.99	10.16			10.02	9.95			10.75	10.84	10.15	9.96	
	M2		10.25	9.71	(10.94)						8.53	8.96			8.65	8.67			8.90	9.40			
MD	M3											8.17	8.06	7.87					8.38	7.92			
下顎	I1		5.49				5.59	5.17	5.11						5.65	5.64			5.65	5.78			
	I2		6.58	5.96			5.49	5.62							5.18	5.33			5.71	5.82			
	C		6.64	6.82									7.18	7.09	6.46	6.52			6.78	6.88			
	P1	7.07	7.06	6.95							6.93	6.80		7.24	6.74	6.91	7.08		7.13	7.10			
	P2	6.76		7.71								6.97		7.55	7.01	6.93	6.11		7.63	7.49			
	M1	10.90		11.69	11.14	11.47					11.54	11.42			10.58	10.47	11.71		11.40	11.52	11.03	11.15	11.46
	M2	10.53		12.88							10.65	10.52			10.06	9.76			11.30	11.38			10.27
	M3											9.36							10.29	10.46			11.53
上顎	I1		7.49	7.38									7.38	7.46		7.36			7.72	7.67			
	I2												6.33		6.22	6.58			6.60	6.73			
	C													8.26		8.60			8.80	8.89			
	P1		8.70									9.52	9.67		9.68	9.55			9.88	9.64		8.73	
	P2		9.10								9.20		9.29			9.49			9.30	9.19	8.76		
	M1		11.89		11.25	11.44					11.42	11.62			10.33	10.52			11.52	11.51	11.00	11.08	
	M2		12.34		10.73						11.06	11.77			9.82	10.35			11.38	11.97			
BL	M3											10.82	9.78	11.34					10.74	10.33			
下顎	I1		5.60											6.50	6.31	6.11			6.26	6.13			
	I2		6.02											6.43	5.55	5.90			6.71	6.50			
	C		7.75										7.55	7.87	7.66	7.52			8.17	7.80			
	P1	8.18	8.06								8.83	7.62		7.66	8.02	7.91	8.73		7.77	8.21			
	P2	8.22										8.15		8.53	8.47	8.43	8.15		8.38	8.21			
	M1	10.56			10.13	9.97					10.60	10.36			9.75	9.98	11.76		10.78	10.91	10.15	9.97	10.84
	M2	9.78									10.15	10.10			8.99	9.13			10.39	10.32			10.60
	M3											9.40							9.71	9.83			10.52

※SK-015-1～7のいずれの個体もかん、または別個体ものか不明。

資料番号		SK024		SK025A	SK025B		SK027		SK028A		SK028B-1		SK028B-2		SK028B-3		SK028C		SK029	
性別		不明		不明	女性？		不明		不明		男性		男性？		不明		不明		不明	
歯種		右	左	右	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I1				8.60	8.79	7.94	7.90			8.20	8.24							9.54	
	I2						6.42	6.41				6.49							6.94	7.19
	C						7.05				7.17	7.12			7.31				7.48	
	P1		7.63			6.34		6.76			6.70	6.94	7.24						6.76	
	P2					6.22		6.26		6.40	6.26	6.21	7.13							6.23
	M1		10.86		10.34						9.51									
	M2	9.33	9.34								8.75				9.73					
MD	M3							7.64					8.71	9.04						
下顎	I1	5.59					5.46	5.50					4.56	4.79						
	I2	5.67					6.16	5.92			5.48	5.86	5.65	5.63						
	C	7.89					6.17	7.36			6.34	6.47	6.83	6.88		7.04				
	P1	7.76	7.98				6.38	8.02	6.62		6.72		7.07	6.28		6.64			6.11	
	P2	7.57	7.38					6.58			6.71		7.39	7.02		7.00				
	M1	11.81	11.94					9.74	10.94	10.94	10.43	10.78		11.31			11.37			
	M2	11.12		11.36	10.40				10.26	10.36	10.62	10.64		10.90	10.73	10.44				9.98
	M3	11.09							8.81	8.58	9.74	10.09								
上顎	I1				7.36	7.25	7.10	7.15			6.91	6.87							7.15	
	I2						6.18	6.19				6.30	6.55						6.34	
	C						7.84	8.01			8.07	7.94	8.74	9.16			7.64		7.46	
	P1		9.78			9.12		9.50			9.31	8.90	9.54				9.54			
	P2					8.90				9.27	9.12	9.01	9.70				9.22		8.83	
	M1		12.02		11.11						11.12									
	M2	11.92	12.19								11.39				12.05					
BL	M3							9.23					10.97	11.40						
下顎	I1	6.17											5.82	5.75						
	I2	7.41									6.14	6.35	6.47	6.42						
	C	7.50					7.30				7.36	7.46	8.20	8.31		8.87				
	P1	8.74	8.22				8.10		7.57		7.88		8.54	8.39		8.09			7.78	
	P2	8.80	8.73					8.46			7.83		8.56	8.66		8.35				
	M1	11.10	11.62					10.13	9.87	10.06	10.19	10.10	12.25	12.23	10.93		11.30			
	M2	10.13		10.57	9.31				9.31	9.55	9.52	9.37		11.60	10.21	9.89		10.39		9.79
	M3	10.08					8.18		9.19	9.56										

MD：近遠心径(mm)，L：頬舌径(mm)，I：切歯，C：犬歯，P：小臼歯，M：大臼歯

	資料番号	SK030		SK031-1		SK031-2	SK032		SK033-1		SK034-1		SK034-2	SK035-1		SK035-2	SK036		SK037-1		SK037-2
	性別	不明		女性		不明	不明		女性？		女性？		不明	女性		不明	不明		女性？		不明
	歯種	右	左	右	左	左	右	左	右	左	右	左	右	右	左	左	右	左	右	左	右
MD 上顎	I1	8.25	8.05						8.82	8.82	8.17	8.05		7.32	7.57				7.84	7.81	
	I2								7.53	7.51	7.59			6.12	6.24				6.52		
	C	7.50		7.47					7.96	8.05		7.83		7.44			7.50	7.51	7.17	7.02	6.47
	P1	6.47		7.18	7.17		7.05		7.63	7.32		7.18		6.69	7.00				7.09	7.03	
	P2	6.16		6.35	6.53			6.77	6.87	6.77	7.06	7.26		5.96					5.86		
	M1	9.49		10.34	10.57						8.80	8.80					10.54	10.86	9.24		
	M2	9.03		9.45	9.40						8.81	9.14							9.05	9.23	
	M3										8.44	9.19		6.97	8.07						
MD 下顎	I1			5.36	5.57				5.68		5.01				4.98				4.87	4.87	
	I2	5.73	5.52	5.81					6.10	6.28	6.13			5.24	5.28				5.46	5.42	
	C	6.53		6.63	6.44	6.79			6.96	6.78	6.77	6.95		6.67	6.94		6.08		6.23	6.21	
	P1			7.03	6.85			6.62	7.45	7.24	6.77		7.08	6.60	6.77	7.39	7.04		7.01		
	P2			7.00	7.51			6.65	7.63	7.22	6.72	7.24	7.38	6.74	6.66		7.18		7.18		
	M1			11.58				10.42	10.85	11.05	10.29			9.95	10.39	10.90	11.86	11.83	10.54	10.93	10.87
	M2			10.95	10.60			9.97	10.66	10.60	9.98	9.96		10.09	9.88				10.31	10.52	
	M3													8.13							
BL 上顎	I1	7.09	6.99				6.63	6.97	7.62	7.66	6.54	6.76		6.56	6.66				6.46	6.48	
	I2			6.71				6.11	7.01	6.78	6.27			6.25	6.28				6.20	5.93	
	C	8.11		7.82			8.03		8.89	8.63		8.38		8.31					7.80	7.49	
	P1	9.39		8.95	8.88		8.86		9.90	9.79		9.10		8.72	8.98				9.05	9.20	
	P2	9.35		8.87	8.66		8.57	8.78	9.76	9.78	8.91	8.87		8.11					8.66		
	M1	10.92		11.53	12.03						11.15	10.86	11.28				12.54	12.32	10.58		
	M2	10.80		11.06	11.31							10.55	10.37						10.42	10.30	
	M3											10.51	11.01		9.00	10.64					
BL 下顎	I1			5.90	6.03				5.92		5.71								5.35	5.23	
	I2	5.88	5.65	6.54					6.30	6.42	6.28			6.06	6.38				5.78	5.87	
	C	7.46		7.79	7.76	7.56			7.97	7.80	7.40			7.63	7.72		6.83		7.04	6.94	
	P1			7.81	8.28			7.17	8.38	8.29	7.15		8.49	7.49	7.53	8.11			7.75		
	P2			7.63	7.55			7.40	8.76	8.34	7.71	8.14	8.69	7.71	7.68				7.75		
	M1			10.41				9.96	10.86	10.77	9.63			10.02	10.19	10.33	11.56	11.46	9.87	9.84	9.62
	M2			9.78				9.83	10.31	9.92	9.29	9.14		10.02	9.75				9.15	9.28	
	M3			9.50	9.41									8.63							

	資料番号	SK038		SK040-1		SK040-2	SK042		SK044		SK047B		SK048		SK049		SK050-1		SK050-2
	性別	不明		女性		不明	女性？		不明		不明		不明		不明		男性？		不明
	歯種	右	左	右	左	右	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
MD 上顎	I1			8.87	8.76	9.47	9.62		7.55	7.49	8.94	8.94	9.23	9.52	6.63	7.75	8.65	8.61	
	I2			5.96	6.64	8.12	8.24	6.91			7.62	7.79	7.85	7.81	7.59		7.06	7.39	
	C	7.22		7.19	7.04	8.96	8.87		6.69	6.59	8.10	8.31	8.05	8.09			7.56	7.89	
	P1	6.28		6.08	6.47	8.23	8.45	6.63	6.76		7.78	7.64	7.49	7.47	7.18		7.25	7.31	
	P2	6.10		5.89	6.01	8.25	7.71	6.18	6.13				7.38	7.38			6.53	6.61	
	M1			10.18	10.32	11.17	11.73			9.95					10.31		10.47	10.95	
	M2			8.45	8.31	11.81		9.13	9.24			9.43			9.61		9.96	9.92	
	M3				7.08		11.31					9.42			10.49				
MD 下顎	I1	5.39	4.87	5.97	5.81	6.75	6.80			5.48	4.99	5.77	5.89			5.58	5.23	5.23	
	I2	6.31		6.04	6.02	6.08	6.05					6.44	6.49		5.66	4.99	6.14	6.10	
	C		6.31	6.30	6.37	7.95	8.10	5.85	5.97			7.27	7.37	6.86	7.07	6.89	6.78	6.69	
	P1	6.28	6.50	6.47	6.72	8.15	8.14	5.97	6.19			7.19	7.28	7.55	7.78	7.30	7.00	6.85	6.93
	P2	6.75	6.79	6.76	6.33	8.33	8.40	6.04	6.17			7.13	7.15	7.75	7.94	7.22	7.35	6.76	6.54	7.04
	M1	10.59	10.58	10.86	11.16	12.96	12.98	9.58	9.27	11.05			11.16			11.36	11.80	11.90	11.49	
	M2	10.73	10.67	10.29	10.01	13.02	12.62	10.00	10.03				10.84	11.31				10.74	11.06	
	M3							(8.78)				10.44		11.44	11.96			9.90	
BL 上顎	I1			7.16	6.97	8.71	8.16					7.25	7.20	7.26	7.33	7.04	6.71	6.87	
	I2			5.98	5.34	7.52	7.52	6.47				6.85	6.78	7.11	6.92		6.39	5.59	6.14
	C	7.32		8.02	8.14	10.25	10.00		7.57			8.46	8.64	8.41	8.59	8.21		8.24	8.01
	P1	8.54		8.52	8.95	10.95	10.95	8.43	8.70			9.99	9.95	9.81	9.50			8.93	9.10
	P2	8.41		8.75	8.78	11.30	10.95	8.40	8.29					9.87			8.85	8.67	8.44
	M1			11.22	11.42	12.55	12.54			10.97					11.44			11.13	11.24
	M2			10.85	10.63	12.48		10.65	10.48			11.58	11.36		12.05			11.43	11.37
	M3				10.22		13.04					11.25			11.99				
BL 下顎	I1	5.90	5.21	5.71	5.80	6.81	6.97					6.44	6.18			6.04	5.88	5.81	
	I2	7.05		5.97	6.11	6.32	6.53					6.43	6.49			6.33	5.83	5.98	5.78
	C		6.63	7.40	7.27	8.89	8.54	7.05	7.04			7.49	7.50	7.60	7.74	6.23	7.66	7.57	
	P1	7.50	7.70	7.85	7.03	9.33	9.12	7.13	6.72			8.34	8.34	8.41	7.98	8.54	8.36	8.34	7.94	7.81	
	P2	8.12	7.93	7.80	7.77	9.40	9.25	7.50	7.47			8.37	8.58	8.88	9.03	8.36	8.00	7.67	7.61	8.40	
	M1	10.32	10.38	10.49	10.78	11.76	11.71	9.48	9.36	10.20			10.62			10.45	10.38	10.74	10.72		
	M2	9.97	10.15	9.82	9.90	11.45	11.52	9.30	9.49				9.73	10.71				9.87	10.13		
	M3							(8.52)				9.42		10.68	10.56			8.80			

	資料番号	SK055-1		SK055-2		SK056		SK059-1	SK063		SK064-1		SK064-2		Q15-09ほか-1	Q15-09ほか-2
	性別	男性		男性		不明		不明	不明		男性		女性？		男性？	不明
	歯種	右	左	右	左	右	左	右	右	左	右	左	右	左	左	右
MD 上顎	I1			8.48					8.90	9.26	9.01	8.73				9.20 9.04
	I2	7.57					6.61		7.44		7.20	7.47				
	C	6.56					7.71			8.16	8.32	8.15	8.15			
	P1	6.39	6.57			6.93	6.77		7.17	7.25	7.66	(7.75)	7.75			
	P2	6.39				5.93	6.45	7.43			7.65	7.67				7.64
	M1	10.44	9.66				9.87	9.68	10.18	10.38		10.52				11.02
	M2		9.13			8.77	8.60		9.57	9.61	9.95					
	M3			7.97					7.37							
MD 下顎	I1					5.02	5.14		5.61		5.13	5.32				5.85
	I2					5.56	5.85		6.17		5.82					5.60
	C					6.82	6.90		6.88	7.07	6.77	6.97				7.48 7.39
	P1	6.39				7.00	6.92		7.24	7.03	7.28	7.67	7.24		7.53	7.71
	P2	6.55	6.86			6.97	6.89		7.21	7.40		7.97			8.07	7.04
	M1		11.15			11.49	11.12		11.51	11.25					12.28	11.97
	M2	11.14				10.55			11.37	11.26					12.06	
	M3				7.24				9.95	9.60					10.61	
BL 上顎	I1								6.91	6.99	6.33	6.05				6.50 6.21
	I2	7.09							6.48		7.59	7.55				
	C				8.38					8.20	9.40	9.52	8.64			7.73
	P1	8.84			8.88	8.81			9.32	9.44	9.64	(10.17)	10.20			
	P2	8.83	8.66		8.59			9.88			9.96					9.64
	M1	(11.24)	11.17				11.76	11.17	11.64	11.66		12.30				12.11
	M2		11.02			11.86	12.51		11.55	11.64	12.37					
	M3			11.41					8.98							
BL 下顎	I1					5.67	5.57		5.24		5.98					5.60
	I2					6.05	5.98		6.44		6.65	6.65				5.36
	C					7.50	7.62		8.01	8.39	8.44	8.57				7.59
	P1	7.98				7.79	7.61		8.04	7.78	8.53	8.66	7.24		8.64	7.66
	P2	8.40	8.24			8.25	8.52		8.09	8.03		8.85			8.93	7.95
	M1		10.79			10.37	10.72		10.57	10.45					11.23	11.67
	M2	10.23				9.98			9.91	9.94					11.07	
	M3								9.00	8.84					10.00	

MD：近遠心径(mm)、BL：頬舌径(mm)、I：切歯、C：犬歯、P：小臼歯、M：大臼歯

第14表　歯式一覧表

資料名	歯式
Q15-09 ほか-1	／ P1 P2 M1 M2 M3
Q15-09 ほか-2	／ ／ ／ ／ ／ C ／ I1 I1 ／ ／ ／ P2 M1 ／ ／ ／ ／ ／ P2 P1 C I2 I1 ／ ／ C ／ ／ M1 ／ ／
SK003-1	※ M3 M2 M1 ／ P1 C ／ ／ I1 I2 C P1 ／ ／ M2 ／ M3 M2 ／ P2 P1 C I2 ／ ／ I2 C P1 ／ M1 M2 M3 ※カラベリー結節
SK003-2	M3 ／ ／ P2 ／ C I2 I1 ／ ／ C ／ P2 M1 M2 M3 ／ ／ M1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M1 M2 ／
SK004	(M3) M2 M1 P2 P1 C ／ ／ I1 ／ C P1 P2 M1 M2 M3 ／ M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／ △
SK005	M3 ／ ／ ／ ／ ○ ○ ○ ○ ○ ○ P1 × ／ M2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ○ ○ P1 ○ × ○ 未
SK007A	／ ／ ／ P2 P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ P2 M1 ／ ／ × × × × × ○ × × ／ ／ ／ ／ ／ × × ×
SK007B-1	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ 未 ○ × P2 ○ ○ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK007B-2	／ m1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK008	M3 M2 M1 P2 P1 C I2 ／ ／ ／ ／ P1 P2 M1 M2 M3 M3 M2 M1 P2 P1 ○ I2 I1 ／ I2 C P1 P2 M1 M2 M3
SK010	／ M2 M3 P2 P1 C I2 ／ ／ ／ C P1 P2 ／ M2 ／ ／ M2 ／ ／ ／ C ／ ／ ／ ／ C ／ ／ ／ ／ ／ ／

資料名	歯式
SK011	／ P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK012	M3 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 ／ I2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 未 △
SK015-1	△ ／ ／ ／ P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 未 ／ M2 M1 P2 P1 C I2 ／ I1 I2 C P1 P2 M1 M2 未
SK015-2	m2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ m1 m2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ (M1)
SK015-3	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M1 ／ ／ ／ M2 M1 P2 P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK015-4	m2 m1 m1 m2 ／ M2 M1 P2 ／ C ／ I1 I1 I2 ／ P1 P2 M1 M2 ／ ／ ／ ／ ／ P1 C I2 I1 ／ I2 C P1 P2 M1 M2 ／ m2 m1 c c m1
SK015-5	m2 ／ c ／ ／ ／ ／ ／ ／ m2 m2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ m2
SK015-6	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ m2 m1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK015-7	(M2)(M1) m2 ／ ／ ／ ／ (I1) ／ ／ m1 m2 (M1) (M1) m2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ m2 (M1)
SK018	／ M2 M1 P2 P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ P1 ／ M1 M2 M3 ／ M2 M1 ／ P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ P1 P2 M1 M2 M3
SK020	(M3) ／ ／ P2 P1 ／ I2 I1 I1 ／ C ／ ／ M1 ／ (M3) ／ ／ ／ P2 ／ C ／ ／ I1 I2 C P1 P2 ／ ／ ／

表記：遊離歯：-、死後脱落：○、歯槽閉鎖：×、歯槽破損：／、齲蝕：△、未萌出：( )

資料名	歯式
SK021−1	m2 c i2 / c m1 m2 ／ (M2) M1 (P2 P1 C I2) ／ ⅠI1 I2 C P1 P2) M1 (M2) ／ ／ (M2) M1 (P2 P1 C I2 II) ⅠI1 I2 C P1 P2) M1 (M2) ／ m2 m1 c / c m1 m2
SK021−2	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ○ ○ M1 P2 P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ P2 M1 ／ ／
SK021−3	△ △ ／ ／ ／ P2 P1 C I2 II ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M2 M1 P2 P1 C I2 II ／ I2 C P1 P2 M1 ／ 未 △ △
SK022	M3 M2 M1 P2 P1 C I2 II ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 M3 M3 M2 M1 P2 P1 C I2 II ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 M3
SK023A−1	／ ／ M1 P2 ／ ／ ／ ／ ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 ／ ／ ／ ／ M1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M1 ／ ／ m2
SK023A−2	／ M1 M2 M3
SK024	／ M2 M1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ P1 ／ M1 M2 ／ M3 M2 M1 P2 P1 C I2 II ○ ○ ○ P1 P2 M1 ／ ／
SK025	／ M1 ／ ／
SK025B	／ ／ M1 P2 P1 C ／ II ⅠI1 ／ ○ P1 P2 ／ ／ ／ 未 M2 ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ／ ／ ／ ／ ／
SK027	／ ／ ／ ／ ／ C I2 II ⅠI1 I2 C P1 P2 × × M3 M3 × × ○ P1 C I2 II ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 × M3
SK028A	△ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ P2 ／ ／ ／ M3 M2 M1 ／ P1 C I2 II ／ ／ ／ ／ ／ M1 M2 M3

資料名	歯式
SK028B−1	△ M3 × ○ P2 P1 C I2 ○ ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 M3 M3 M2 M1 P2 P1 C I2 II ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 未
SK028B−1	△ M3 × ○ P2 P1 C I2 ○ ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 M3 M3 M2 M1 P2 P1 C I2 II ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 未
SK028B−2	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M2 M1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ C P1 P2 ／ M2 ／ △
SK028B−3	M3 M2 M1 P2 P1 C ／ II ⅠI1 I2 C P1 P2 ／ ／ ／ ／ M2 M1 P2 P1 C I2 ／ ／ I2 C ／ ／ M1 M2 ／
SK028C	／ ／ M1 P2 P1 C ／ II ⅠI1 I2 C ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M2 ／
SK029	／ ／ ／ P2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ P2 P1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M1 M2 ／ △
SK030	△ △ 未 M2 M1 P2 P1 C ／ II ⅠI1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ C I2 ／ ／ I2 ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK031−1	△ △ △ 未 M2 M1 P2 P1 C I2 ／ ／ ／ ／ P1 P2 M1 M2 M3 M3 M2 M1 P2 P1 C I2 II ⅠI1 ○ C P1 P2 ○ × M3 △ △
SK031−2	／ C ／ ／ ／ ／ ／
SK032	／ ／ ／ P2 P1 C × II ⅠI1 I2 ○ × P2 × ／ ／ 未 M2 × P2 P1 C I2 × ⅠI1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／
SK034−1	M3 M2 M1 P2 ／ ／ I2 II ⅠI1 ／ C P1 P2 M1 M2 M3 ／ M2 M1 P2 P1 C I2 II ／ ／ ／ ／ P2 ／ M2 ／

表記：遊離歯：・、死後脱落：○、歯槽閉鎖：×、歯槽破損：／、齲蝕：△、未萌出：( )

資料名	歯式
SK034 −2	／ ／ ／ ／ ／ ／ I2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ 未 × × P2 P1 C ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ／ ／ △
SK035 −1	M3 ／ M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 ／ P1 ／ ／ ／ M3 M3 M2 M1 P2 P1 C I2 ○ I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／
SK035 −2	／ P1 ／ M1 ／ ／ △
SK036	m2 (M1) ／ ／ (C) ／ ／ ／ ／ (C) ／ ／ (M1) (M1) (P1) (C) ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ (M1) m2 m1
SK037 −1	未 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 ／ M1 M2 ／ 未 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C ○ ○ M1 M2 ／
SK037 −2	(m2) ／ ／ ／ ／ ／ ／ (C) ／ (m2) (m2) ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ (m1 m2 M1)
SK038	／ ／ ／ P2 P1 C ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M2 M1 P2 P1 ／ I2 I1 I1 ／ C P1 P2 M1 M2 ○
SK040 −1	未 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 M3 未 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 未
SK040 −2	／ M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 ／ (M3) ／ M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／
SK042	未 M2 M1 ○ P1 ○ I2 ○ ／ × C P1 P2 × M2 未 M3 M2 M1 P2 P1 C × × × × C P1 P2 M1 M2 未
SK044	(M1) ／ ／ (C) ／ (I1) (I1) ／ ／ ／ ／ (M1) m2 m1 (C) ／ (I1) (I1) ／ (C) ／ m2
SK047B	△ △ △ M3 M2 ／ ／ P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／ M3 ／ ／ P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ○ △ △ △ △ △ △

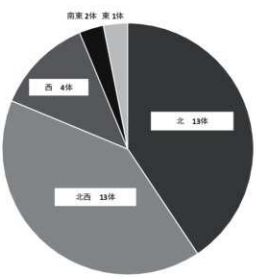
資料名	歯式
SK048	△ ／ ／ ／ P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 ／ M1 M2 M3 M3 M2 ○ P2 P1 C ／ ／ ／ ／ C P1 P2 ／ ／ M3 △
SK049	／ ／ ／ P2 ／ C I2 ／ I1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ M1 P2 P1 C I2 ／ I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／
SK050−1	／ M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 ／ M3 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 ○ P1 P2 M1 M2 ／
SK050−2	／ P2 ／ ／ ／
SK055−1	／ ／ M1 P2 P1 × I2 × I1 × × ○ P2 M1 M2 ／ M3 × × P2 P1 × × × × × × × P2 M1 ○ ×
SK055−2	M3 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ I1 ／ △
SK056	／ M2 M1 P2 P1 ／ ／ ／ ／ I2 C P1 P2 M1 M2 ／ 未 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 ／ ／
SK057	m2 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK059A	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ P2 M1 ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
SK059B	／ ／ ／ ／ ／ C ／ I1 I1 ／ ／ ／ P2 M1 ／ ／ ／ ／ ／ P2 P1 C I2 I1 ／ ／ C ／ ／ M1 ／ ／
SK063	M3 M2 M1 ／ P1 ／ I2 I1 I1 ／ C P1 ／ M1 M2 ／ M3 M2 M1 P2 P1 C I2 I1 I1 ／ C P1 P2 M1 M2 M3
SK064−1	／ M2 × P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 ○ ／ × M2 × P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 ／ ／ 未
SK064−2	／ ／ ／ ／ P1 C ／ P1 P2 ／ ○ 未

表記:遊離歯:・、死後脱落:○、歯槽開放:×、歯槽破損:／、齲蝕:△、未萌出:( )

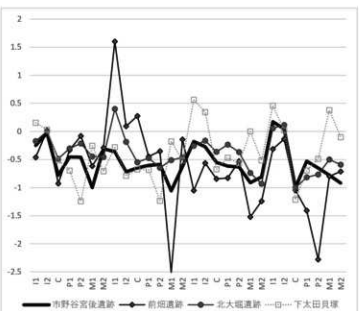
第15表　各集団の歯冠計測値基礎統計表

		歯種	市野谷宮後遺跡 N	M	SD	前畑遺跡(中世)※1 N	M	SD	北大堀遺跡(中・近世)※2 N	M	SD	下太田貝塚(縄文)※3 N	M	SD	現代日本人男性※4 N	M	SD
MD	上顎	I1	29	8.46	0.57	35	8.35	0.59	24	8.50	0.43	17	8.67	0.73	25	8.59	0.52
		I2	29	7.01	0.56	24	7.04	0.61	22	7.03	0.58	16	7.05	0.52	26	7.03	0.66
		C	36	7.62	0.55	36	7.56	0.64	36	7.74	0.43	28	7.73	0.50	30	7.94	0.41
		P1	40	7.15	0.52	41	7.19	0.59	34	7.20	0.35	32	7.07	0.45	31	7.30	0.33
		P2	38	6.75	0.63	39	6.89	0.56	37	6.84	0.29	27	6.46	0.44	31	6.92	0.37
		M1	31	10.12	0.61	45	10.30	0.84	29	10.38	0.61	33	10.47	0.59	31	10.59	0.47
		M2	29	9.45	0.73	37	9.46	0.83	41	9.37	0.61	28	9.23	0.70	31	9.62	0.55
	下顎	I1	29	5.38	0.42	22	5.87	0.68	12	5.57	0.10	13	5.40	0.32	26	5.47	0.25
		I2	29	5.82	0.33	25	6.17	0.40	17	6.05	0.27	17	5.79	0.36	28	6.13	0.43
		C	34	6.80	0.46	33	7.17	0.46	36	6.84	0.36	26	6.79	0.36	30	7.06	0.40
		P1	43	7.03	0.53	36	7.09	0.38	32	7.06	0.43	29	7.00	0.32	31	7.26	0.38
		P2	38	7.14	0.60	32	7.22	0.59	40	7.12	0.43	26	6.92	0.37	31	7.34	0.34
		M1	41	11.14	0.63	43	10.40	0.62	27	11.42	0.64	27	11.59	0.47	31	11.68	0.51
		M2	36	10.73	0.69	33	11.00	0.60	30	10.82	0.59	30	10.79	0.67	31	11.08	0.56
BL	上顎	I1	27	7.21	0.40	31	6.87	0.42	28	7.18	0.44	19	7.50	0.38	25	7.28	0.39
		I2	30	6.45	0.49	23	6.29	0.64	23	6.51	0.53	24	6.79	0.45	26	6.80	0.55
		C	33	8.20	0.70	36	8.03	0.65	35	8.31	0.58	37	8.13	0.47	30	8.52	0.58
		P1	39	9.24	0.68	42	9.14	0.59	34	9.42	0.48	44	9.31	0.56	31	9.53	0.47
		P2	38	9.01	0.70	36	9.06	0.65	41	9.14	0.49	40	9.04	0.61	31	9.32	0.49
		M1	33	11.38	0.57	40	11.10	0.97	41	11.46	0.52	47	11.80	0.56	31	11.80	0.46
		M2	29	11.35	0.76	37	11.10	0.62	45	11.28	0.61	41	11.52	0.61	31	11.62	0.58
	下顎	I1	25	5.88	0.42	24	5.71	0.38	17	5.84	0.32	23	5.98	0.36	26	5.82	0.35
		I2	28	6.32	0.39	25	6.24	0.51	22	6.35	0.40	24	6.31	0.53	28	6.30	0.44
		C	35	7.65	0.48	35	7.63	0.53	37	7.65	0.49	37	7.56	0.48	30	8.07	0.42
		P1	42	7.95	0.48	33	7.52	0.52	37	7.81	0.52	41	7.87	0.47	31	8.21	0.49
		P2	37	8.21	0.50	33	7.51	0.63	40	8.16	0.43	40	8.28	0.47	31	8.49	0.43
		M1	41	10.61	0.67	42	10.60	0.66	39	10.75	0.56	41	11.19	0.43	31	11.00	0.50
		M2	36	10.00	0.59	34	10.10	0.57	37	10.16	0.55	47	10.40	0.58	31	10.45	0.49

※1 梶ヶ山・馬場(2002) ※2 清口(1996) ※3 加藤・松村(2003) ※4 Matsumura(1995)
現代日本人以外は男女混合



第95図　土坑墓頭位方向分布



第96図　歯冠計測値遺跡間比較
(現代日本人男性を基準として)

shape／size	市野谷宮後遺跡	前畑遺跡	北大堀遺跡	下太田貝塚
市野谷宮後遺跡		0.0048	0.0254	0.0316
前畑遺跡	0.4924		0.0521	0.0609
北大堀遺跡	0.0603	0.3829		0.0003
下太田貝塚	0.2243	0.9205	0.2193	

第97図　歯冠計測値遺跡間比較(ペンローズ)

3　溝状遺構・柵列

本遺跡（南側）からは17条の溝状遺構と、２条の柵列が確認されている。

溝状遺構については、調査地点が新たになった段階で、前回（周辺）の調査地点から連続する同一の遺構であることが判明した場合、同一の遺構番号を付す例と、新たに遺構番号を施す例があった。また同一の調査地点で同一の溝状遺構であっても、調査当初に離れた地点で確認した場合、それぞれ異なる遺構番号を付したまま調査を終えている例があった。また二本一対の溝に対しひとつの遺構名を付す場合と、ふたつの遺構名を付す場合があり、さらに遺構名称を付さないもの（おそらく出土遺物が認められないことから遺構名称を付さなかったと考えられる）もあり、遺構名称は混乱をきたしているのが正直なところである。よってここでは、最大公約数的に状況をとりまとめて報告することとしたい。17条という遺構数は、あくまで報告に際し用いている遺構名称の数にすぎない。なお、遺物の注記は調査段階でのラベル記載内容を注記しており、整理段階では一切の変更を加えていない。

遺物の詳細は観察表（第16表～第22表）にゆずる。

（１）溝状遺構

（７）SD003・SD006・SD007・SD008・SD009、(11) SD2002・SD2005（第98・99図　図版26・29）

（７）SD003は西北西から東北東方向の溝と、南西から北西方向の溝からなる。全体としてL形のプランを呈し、（７）SD007・SD008・SD009 と合わせると、「コ」字状の区画効果を有するような配置となる。西北西から東北東方向の溝は（11）SD2002と連続する溝で、両者併わせて東西の長さ約35mである。幅は約150cm前後である。南西から北西部分は二股に分かれ、うち北側の溝は途中で掘り込みが確認できない部分があるものの長さは約20m、幅は約200cm前後、南側の溝は（７）SD006に連続し、両者合わせた長さは約25mである。幅は約100cm前後である。

（７）SD006東端からは（７）SD008・（７）SD009が南東方向に伸び、その長さは約25mである。二本一対を呈する溝である。それぞれの幅は約100cm程度である。

このほか、調査段階で未命名の溝がある。平面図東端の南北方向の溝は二本一対で、北端で東方向に直角に曲がる。幅はそれぞれ100cmに満たない。（７）SD006南側に併行する溝は長さ９m程度で幅は50cmに満たない。東端には調査段階で未明名の土坑２基が接する。

溝の断面形は底面がボウル状を呈するものがほとんどである。

溝で区画された内部のみにピットが認められる。４か所程度のグループを認めることができることから、区画内での建物の存在を想起することができよう。

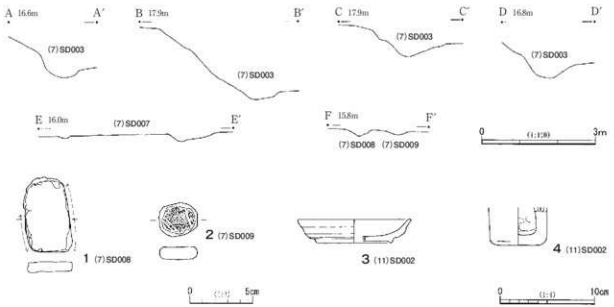
出土遺物としては（７）SD008からは転用砥石（第99図１）、（７）SD009からは転用円盤（第99図２）、(11) SD2002からは志野丸皿（第99図３）・焼塩壺の可能性のある個体（第99図４）がある。

（７）SD010、(11) SD2003･2004（第100図　図版26・29・47）

（７）SD010と命名した溝状遺構は南北方向に走る長さ約18mの溝状遺構で、北側では幅50cm程度の溝で、南側に向かうにつれて幅が広がり、さらに土坑が重複するようにも捉えうる形状を呈する。南端で東西方向に走る長さ約９mの（11）SD2003に接する。（７）2004は北西から南東に走る長さ約９mの溝で、南東端には未命名の土坑に接する。

出土遺物としては、（７）SD010からは皇宋通寶（第100図１）、瀬戸・美濃の天目茶碗（第100図２）・摺鉢（第100図３）・志野鉄絵皿（第100図４）、在地産内耳土器（第100図５・６）がある。(11) SD0003からは、天

第98図　（7）SD003･SD006･SD007･SD008･SD009、(11) SD2002･SD2005（1）



第99図　（７）SD003･SD006･SD007･SD008･SD009、(11) SD2002･SD2005（２）

目茶碗（第100図７）・志野丸皿（第100図８）・在地産土器擂鉢（第100図９）・丸瓦（第100図10）・砥石（第100図11）がある。

(11) SD2001（第101図　図版29・40）

２本の溝状遺構であり、調査段階ではひとつの遺構名称を付していることから、二本一対のものとして報告する。東西方向に走り、長さは共に約25mである。幅は50cm満たない部分から２mにいたる部分がある。深さは50cmから１m程度で、断面形はボウル状を呈する。

遺物の出土量は比較的多く、瀬戸･美濃の鉄絵皿（第101図１・２）･志野丸皿（第101図３）･擂鉢（第101図７）、古瀬戸水注の注口部分（第101図４）、カワラケ（第101図５・６）、巴文瓦（第101図８）、キセル（第101図９）がある。

(12) SD001（第102図　図版26）

長さ約10mの溝状遺構で、幅は約100cm、深さは約50cm前後である。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(14) SD001（第102図　図版26）

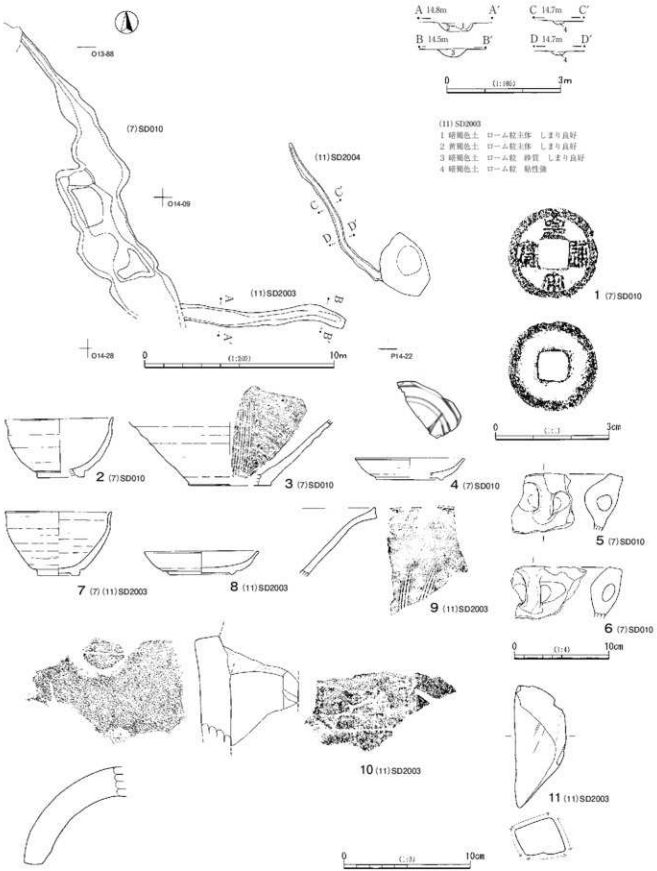
長さ約10mの溝状遺構で、幅は約100cm、深さは約50cm前後である。出土遺物は小片のものばかりで、図示できるものはない。

(14) SD002（第102図）

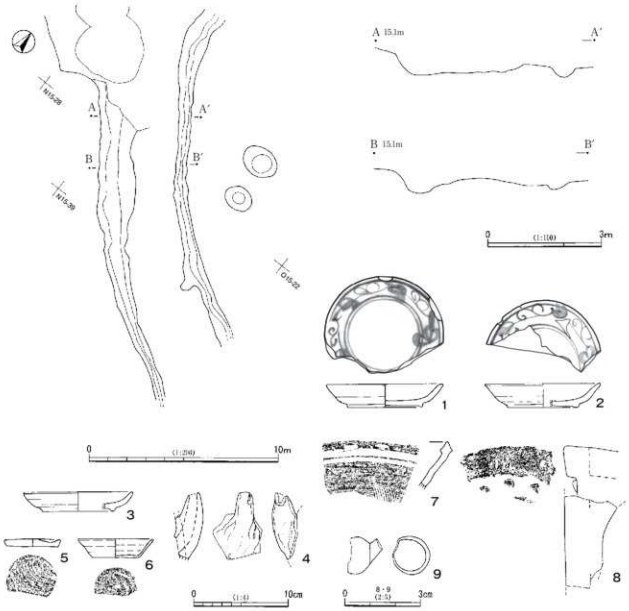
長さ約10mの溝状遺構で、幅は約50 ～ 100cm、深さは約50cmである。出土遺物はない。

(15) SD001（第103 ～ 105図　図版26・30・31・39・47）

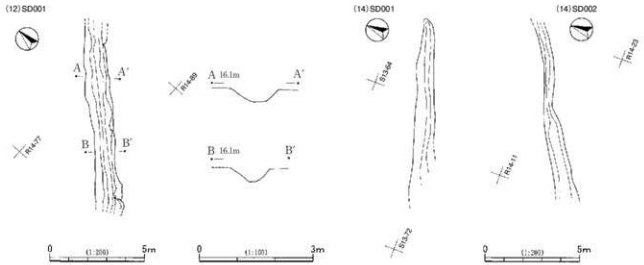
長さ約50m強の溝で、幅は大きく変わることなく概ね70cm前後である。断面形は北半では底面が平坦なV字形である。深さは北半では100cm足らず、南端では30cm足らずとなる。



第100図 (7) SD010、(11) SD2003・SD2004



第101図　(11) SD2001



第102図　(12) SD001、(14) SD001・SD002

出土遺物は非常に多い。第103図１～９は磁器で、１は肥前系の染付、２は広東碗の蓋、３・４は染付、５は皿（くらわんか）、６は染付皿、７は備前系の皿、８は肥前系、９は湯呑茶碗である。10・11は瀬戸・美濃の灯明皿、12・13は陶器（京・信楽系）の灯明皿、14も灯明皿であるが、瀬戸・美濃であろうか。第104図１～５は瀬戸・美濃で、１は馬の目皿、２～４は徳利、５は灰釉香炉である。６は益子の窓絵土瓶、７は益子の蓋である。６・７は一対のものであろう。８は瓦質の火鉢（手焙）、９は瓦質の焜炉である。10、第105図１・２は内耳土器焙烙である。３は硯、４～６は寛永通宝である。

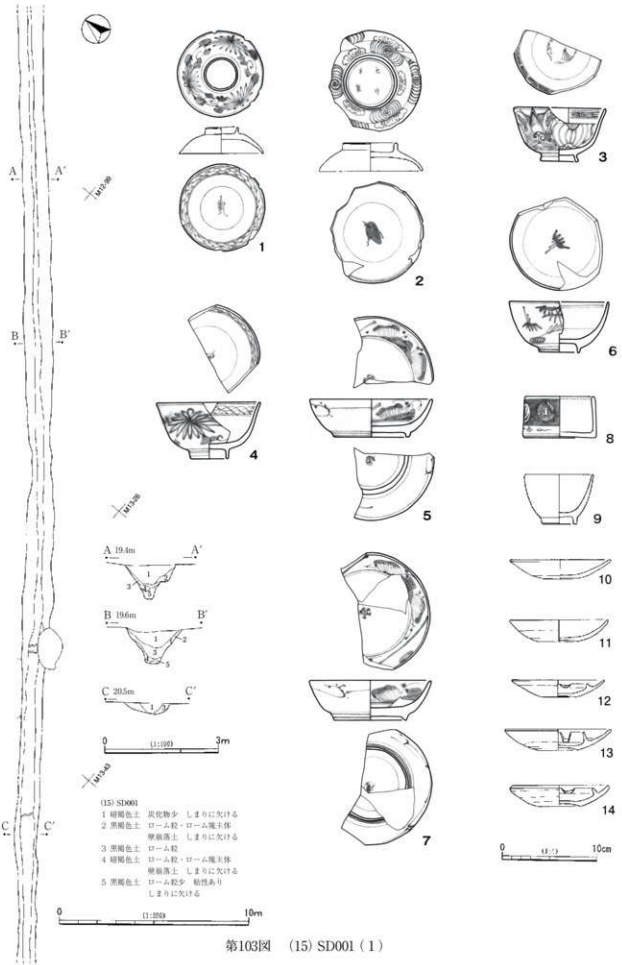
(15) SD002（第106図　図版31）

「コ」字状を呈する区画効果を有する溝状遺構で、南北の長さは約22m、東西の長さは北辺で約14m、南辺では約15mで掘込みは収束する。溝の幅は概ね100cm程度で、深さは50cm程度、断面形はボウル状を呈する。この区画効果内には（７）SD003・SD006・SD007・SD008・SD009、(11) SD2002・SD2005（第98図）に顕著なピット群はほぼ認められない。

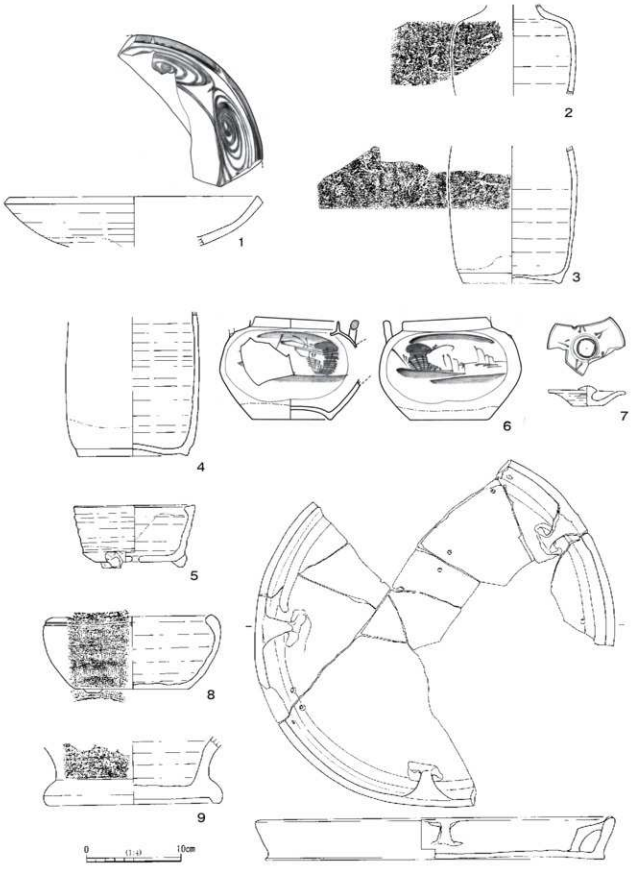
出土遺物としては、１の瀬戸・美濃の灰釉大皿、２の志野小皿がある。

(16) SD001（第107図　図版32・47）

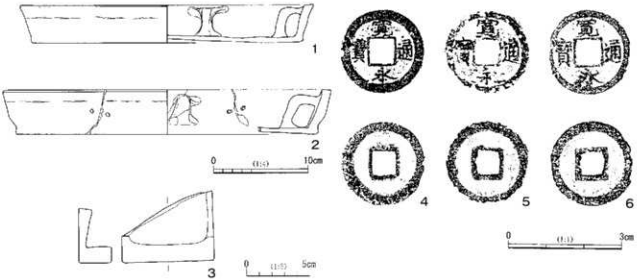
長さ約15m程度が残存する溝状遺構で、幅は最大で2m弱、深さは約40～70cm、断面形は底面形が比較的平坦で壁の傾きはV字形である。出土遺物としては、１のカワラケ、２・３の転用円盤、４の寛永通宝がある。人骨が一括として取り上げられており、出土位置等は不明である。なお、本跡と重複する土坑墓には、(16) SK010・SK011・SK020・SK062がある。



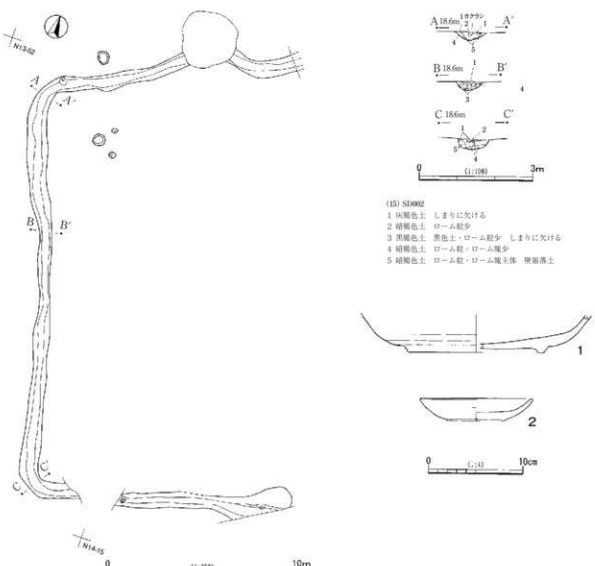
第103図　(15) SD001 (1)



第104図　(15) SD001 (2)



第105図　(15) SD001（3）



第106図　(15) SD002

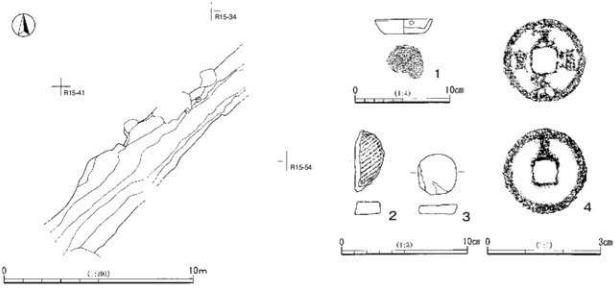
（２）柵列

(15) SA001（N13-12）（第108図　図版26）

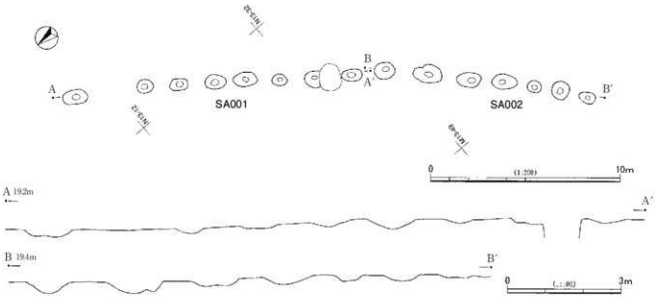
調査区北東側から南西側に向かって列状を為す8基のピット群で、列状の総延長は約16mである。各ピットは列状方向に主軸を有する楕円形で、深度は約10cm ～ 20cmである。遺物の出土は認められない。柵列の可能性があるが、深度に欠けることから疑問が残る。出土遺物はない。

(15) SA002（M13-39）（第108図）

調査区北東側から南西側に向かって列状を為す７基のピット群で、列状の総延長は約12mである。各ピットは列状方向に主軸を有する楕円形で、深度は約10cm ～ 30cmである。遺物の出土は認められない。柵列の可能性があるが、深度に欠けることから疑問が残る。出土遺物はない。



107図　(16) SD001



第108図　(15) SA001･SA002

4　鉄器生産関連

ここでは、鉄器生産に関連する遺構と遺物を取りあげることとする。

本遺跡からは鍛冶の痕跡が認められる遺構は確認されていない。よってここで取りあげる鉄器生産関連の遺構とは、鉄器生産に関連する遺物（炉内滓･含鉄炉内滓･黒ガラス質滓･炉壁･羽口など）が出土している土坑であり、おそらくその凹みに関連遺物を廃棄したものと思われる。

遺構外からも鉄器生産関連遺物が出土している。これらは本来、遺構外出土遺物としてとりあげるべきであろうが、鉄器生産関連の遺構･遺物として、ここで一括して取りあげることとする。

遺物の掲載順序については、炉内滓・含鉄炉内滓→鉄塊→羽口→炉壁とした。各種のなかでの掲載順序は、遺構ごと、大グリッドごととし、そのなかで長軸長の長い方から配列した。

遺構から出土した鉄器生産関連遺物は、ほぼ（11）SK2012･（11）SK2013からの出土である。これ以外に鉄器生産関連遺物が出土した遺構としては、（11）SD2001･（16）SK018･（11）SK2003があるが、その量は少量で、混入と判断できることから、第109・110図においては、所属するグリットにおいて処理した。その対照は、（11）SD2001（N15-29）・（16）SK018（R15-20）・（11）SK2003（O14-65）である。

（１）遺構（第109～111図　図版27）

（11）SK2012・（11）SK2013（O14-65）

本跡が位置する地点は、地山が粘質土層であることから水はけが悪く、常にぬかるんでいる状態であった。遺構検出面の精査の段階では、土器等に比べて重量のある泥にまみれた遺物が多く認められたことから、鉄滓等の可能性があると判断し、出土状況図を作成しながら遺構を掘り進めた。この段階では、不整形に広がる単独の遺物出土範囲という予測から、（11）SK2012という単独の遺構番号で調査を進めた。

最終的な掘上りの状況から、南半の東西方向に楕円形を呈する落込み（長軸長約450cm・短軸長約200cm・最大深度約10cm）と、この落込みの西に接する概円形の落込み（径約150cm・最大深度約35cm）を（11）SK2012とした。これとは別に北側に認められた楕円形の落込み（長軸長約250cm・短軸長約200cm・最大深度約50cm）を（11）SK2013とした。（11）SK2013から南東方向へ伸びる溝状遺構は出土遺物がなく、調査段階での遺構名は未命名であった。（11）SK2012･2013共に覆土は粘質を帯びた暗褐色土で、坑底面や壁面の検出は極めて困難であり、平面形･断面形、深度には不明確である。

（11）SK2012から東側に延びる溝状遺構は（11）SD2005、SK2013から西北西に延びる溝状遺構は（11）SD2005とした。なお、これら（11）SK2012・（11）SK2013・（11）SD2005・（11）SD2005の新旧関係については、土層断面との観察からは判別できなかった。

鉄器生産関連遺物出土状況

本調査範囲では、鉄滓等鉄器製作に関わる滓･羽口片が214点約18.8kg出土しており、その大部分が（11）SK2012のほかO14-55･65、N15-29グリッドに集中している。ただし、（11）SK2012とO14-55･65は重複しており、同一の一群と考えられる。よって、本調査範囲では２か所の鉄滓等集中出土地点が確認されている（第109・112図）。

（11）SK2012からは、炉内滓80点8,953g･含鉄炉内滓２点386g･黒色ガラス質滓８点80g・炉壁片５点129g・羽口片8点536gが出土した。これと重複するO14-55では炉内滓53点3,773g・含鉄炉内滓2点565g・黒色ガラス質滓３点25g・炉壁片１点172g・羽口片２点25g、O14-65では炉内滓26点2,697g・含鉄炉内滓１点172g・羽口片２点165gが出土した。これらを同一のものとした場合、炉内滓159点15,423ｇ・含鉄炉

内滓５点1,123ｇ・黒色ガラス質滓11点105ｇ・炉壁片６点301ｇ・羽口片12点726ｇとなり、本調査区出土鉄滓等の約90％を占める。

N15-19からは炉壁片１点22g、N15-29からは炉内滓８点308g・含鉄炉内滓１点363g・鉄塊系遺物１点28ｇ・黒色ガラス質滓２点５ｇ・羽口片２点45gが出土する。これは（11）SK2012とその周辺から出土した鉄滓等に比べて少ないが、当該グリッドでは基盤層の粘土層が遺構検出面であるなど、本来鉄滓等を包含していた層・遺構が流出・削平された可能性がある（第22表）。

出土鉄滓等の特徴

（11）SK2012及びO14-55・65の出土鉄滓の主体は炉内滓であり、外観の特徴はいずれも共通する。炉内滓のサイズは長軸長約12㎝を最大とし、6㎝をこえるものが半数を占める（第22表）。これらは上面の中央がやや窪み、下面がゆるやかに弧を描くいわゆる椀形滓である。全体が灰～暗灰色の溶解粘土質で、上面は気孔が散る流動状面をなすが、所々に木炭圧痕による窪みがあり、下面は大小木炭圧痕による窪みの間から気孔と滴下する粒状の滓による細かい凸が見える（第110図１～10）。下面には細かい木炭圧痕が認められるが、炉床に接触したとみられる滓は極めて少ない。また、炉床に接触した可能性のあるとしたものも炉床粘土ではなく、その上に堆積した灰層に接触していたとみられ、炉床を侵食した形跡は観察できなかった。炉内滓の厚さは３～４㎝を中心とし、それより厚いものは下面から木炭間をツララ状に流れ落ちる滓部によるものであるが、その流下した滓の先端もまた炉床に到達した痕跡は認められなかった。

長軸長６㎝以下の炉内滓は主に三角形・舌状で、長軸長1.5㎝の最小のものを含めて大きな破口のない完形品である。表面は流動状面に覆われ、発泡ガラス質の軽量のものを主体とする（第110図11～16）。破砕した炉内滓の破片と認められるものは11点と少なく、多くが炉内で生成した形を損なうことなく出土しており、1.5㎝大から12㎝大まで各サイズの炉内滓が生成、排出されていたことを示している（第22表）。

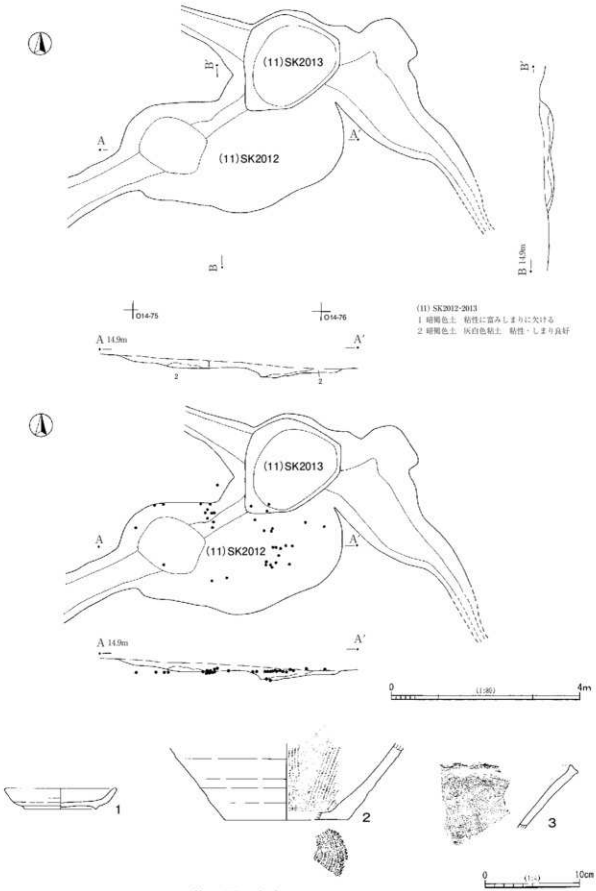
なお、炉内滓の中に４点ほど羽口側の端部に半円形の溝状の窪みが認められた（第110図１・６・10・14）。燃焼していない大きな木炭の圧痕にも見えるが、同じ位置に上面から下面にかけて斜めに貫通すること、大きさ（直径）が共通することから、炉内滓を炉外に排出する際に丸棒状の工具を差し込んだ痕跡の可能性がある。

炉内滓に鉄塊を内包する含鉄炉内滓は、内部の鉄が酸化して膨らむことで生じる放射状割れや酸化鉄の付着によって分別したが、いずれもごく小さな鉄片が炉内滓に取り残されたものである（第111図18・19）。磁石への磁着の強弱による判別方法については、鉄滓の埋没環境により付着する酸化土砂が多いことから実施していないが、炉内滓の外観的特徴からはその数量が大きく変わることはないと考える。

黒色ガラス質滓は羽口や炉壁などの鉱物が溶解した初期に生成する滓であり、炉内滓上面の一部に付着するものや、ガラス化面の裏に溶解粘土質滓が付着するもの、木炭間を流れた小さな流動状滓がある。

厚さ１～1.5㎝程度の緻密な板状粘土質塊の一面が溶解し黒色ガラス化したものを炉壁とした。粘土板は平らであるが（第111図28～29）、やや湾曲するものがあり、鍛冶炉の隅付近の炉壁の可能性がある。また、黒色ガラス化面に一部に羽口先端と同じ白色ガラス・酸化物が付着するものが認められ、羽口周囲の炉壁片と考えられる。

羽口片はすべて溶解した先端部であり、外径の1/4以下の破片である。いずれも黄白色の緻密な粘土による外径約12㎝以上、孔径2.5～３㎝の羽口だったとみられる。先端は平坦に溶解し、その平坦部のみ暗灰色・黒色ガラス化しており、一部に白色ガラス・鉄錆状酸化物が付着する。側面は灰色に還元するが、そ



第109図　(11) SK2012･SK2013

の幅は２㎝程度で、その変色は器肉の表層のみにとどまり、その下は暗赤褐色の酸化色となる（第108図23）。なお、ガラス化していない炉壁・羽口片は確認されていない。

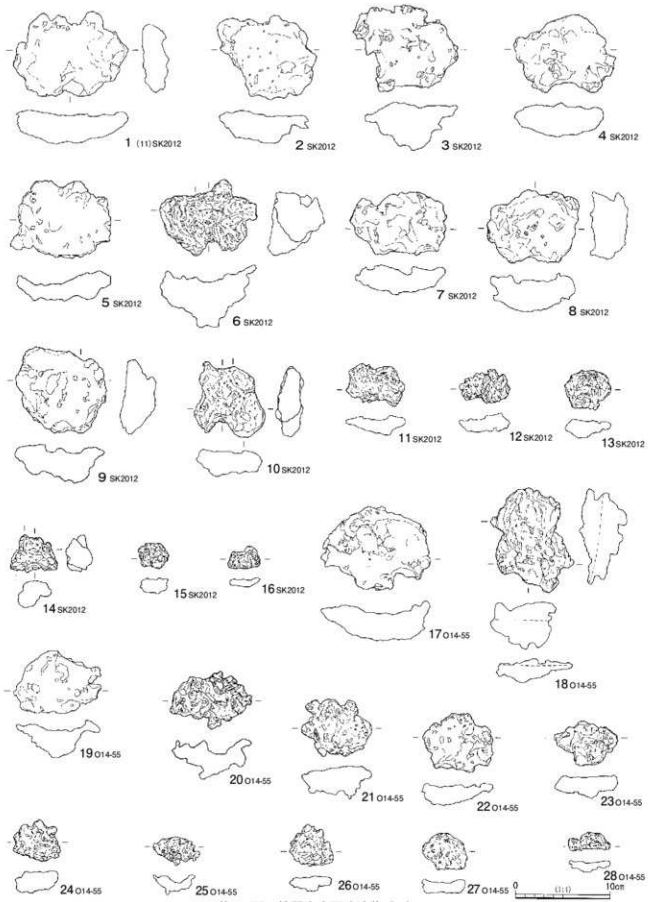
N15-29出土の炉内滓等は（11）SK2012とその周辺出土品とその様相は類似する（第111図13～17）。最大の長軸長は約8㎝で、その中心は（11）SK2012でも出土している三角形・舌状の４～５㎝の小形滓であり（第22表）、その外観的特徴も共通している。

なお、鉄滓等集中出土地点とは別地点のN14-19からは、（11）SK2012等で出土する羽口と異なる特徴の羽口先端部片が出土している（第111図26）。これは炉内に約40°で挿入された羽口の先端下半が炉内に3.3㎝突出した破片で、その下端に炉内滓の基部が付着する。羽口は外径６㎝前後、口径2.7～３㎝と復元され、胎土は明黄白色で緻密である。先端表面は黒色ガラス化し、その直下に厚さ2.9㎝の多孔質炉内滓基部が付く。炉内滓の下面は一旦2.5～３㎝垂直に垂れた後、炉内に向けて屈曲するが、炉壁に直接接触した痕跡は認められず、屈曲面の表面には木炭圧痕等がなく、その先にのびていたであろう炉内滓本体は折り取られている。

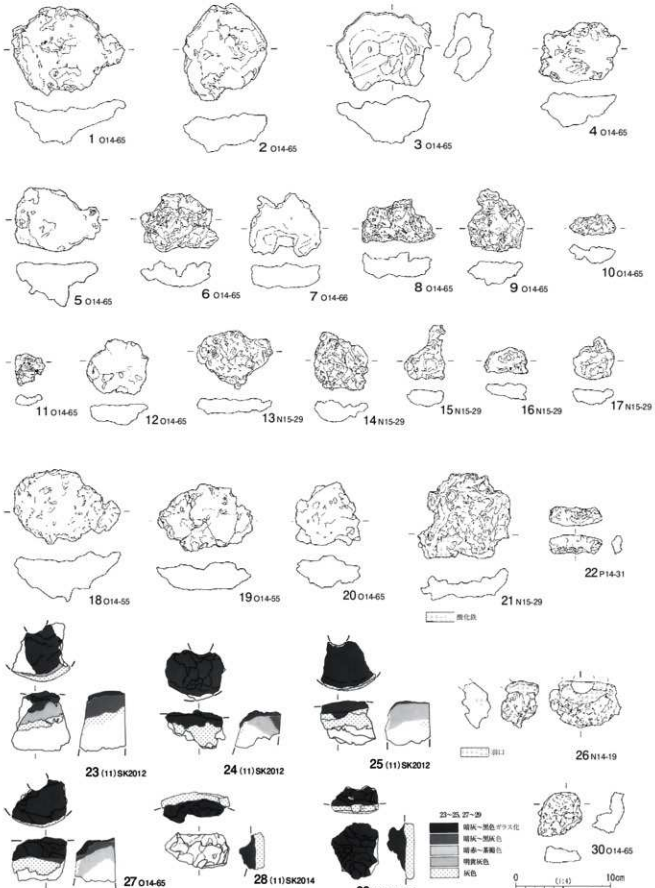
（２）遺物（第106・107図　図版31）

土器類

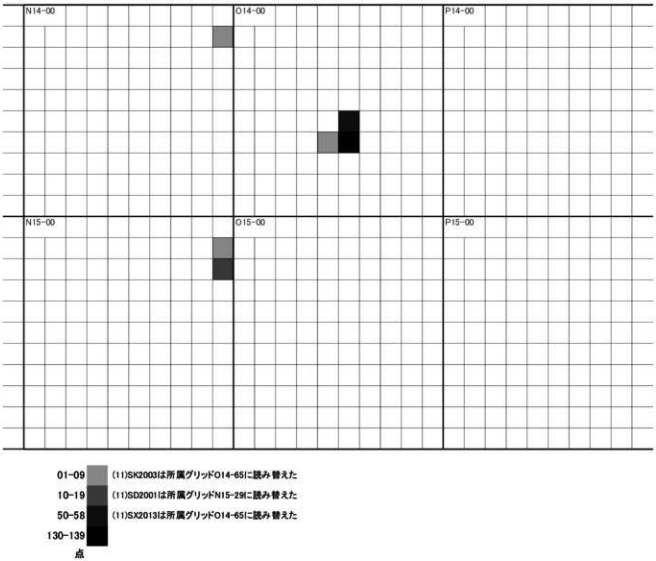
出土遺物としては、第106図１は志野丸皿で16世紀終わりか。２は常滑摺鉢で口縁部が欠損していることから時期は不明であるが、近世に降りることはない。３は在地産摺鉢で15世紀か。トータルとしては中世末、16世紀末であろうか。



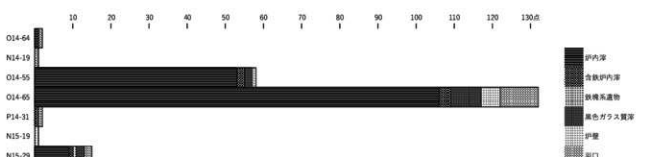
第110図　鉄器生産関連遺物（1）



第111図　鉄器生産関連遺物（2）



第112図　鉄器生産関連遺物点数分布



第113図　鉄器生産関連遺物点数内訳

5　遺構外出土遺物

ここでは遺構外から出土した遺物を掲載する。掲載順序は、陶磁器・土器等・土製品・石器・石製品・金属製品・銭貨とする。それぞれの種別における掲載順序は、大グリッド（40m×40m）ごととした。銭貨の掲載順序は、初鋳年を古い方から配列した。

なお、遺物の詳細は観察表（第16表～第22表）にゆずる。

（1）陶磁器・土器等

N13（第114図　図版32）

1は志野丸皿である。

O13（第114図　図版32）

2は志野鉄絵皿、3～5は在地産で、3は碗であろうか。4は摺鉢、5は内耳土器焙烙である。

P13（第114図　図版32）

6は瀬戸・美濃鉄釉鉢である。

L14（第114図）

7は古瀬戸摺鉢である。

M14（第114図　図版32）

8はカワラケである。

N14（第114図　図版32）

9は古瀬戸摺鉢、10は古瀬戸緑釉小皿、11・12は天目茶碗、13は瀬戸・美濃緑釉小皿、14は瀬戸・美濃灰釉小皿、15は志野丸皿、16は瀬戸・美濃摺鉢、17は瀬戸・美濃の灯火器であろうか。18・19は瀬戸・美濃の甕、20は瓦質の火鉢、21～24在地産で、21・22・24は摺鉢、23は内耳鍋である。

O14（第115図　図版32）

1は磁器で鉄絵皿、2は磁器で染付絵皿、3は瀬戸・美濃香炉、4は瀬戸・美濃灰釉小皿、5は瀬戸・美濃灰釉丸皿、6・7は瀬戸・美濃摺鉢、8～10は在地産の内耳鍋、11～14はカワラケである。

L15（第115図）

15は在地産の内耳鍋である。

N15（第115～119図　図版32・33・34・35）

第115図16～18は貿易陶磁で、16・17は染付皿、18は白磁皿である。19は古瀬戸緑釉皿である。20～26は瀬戸・美濃で、20・21・23は灰釉皿、22は緑釉皿、24・25は灰釉折縁皿、26は折縁小皿である。

第116図1～8は志野丸皿、9～11は天目茶碗である。12～16は瀬戸・美濃の摺鉢、17は甕である。18・19は在地産土器摺鉢である。

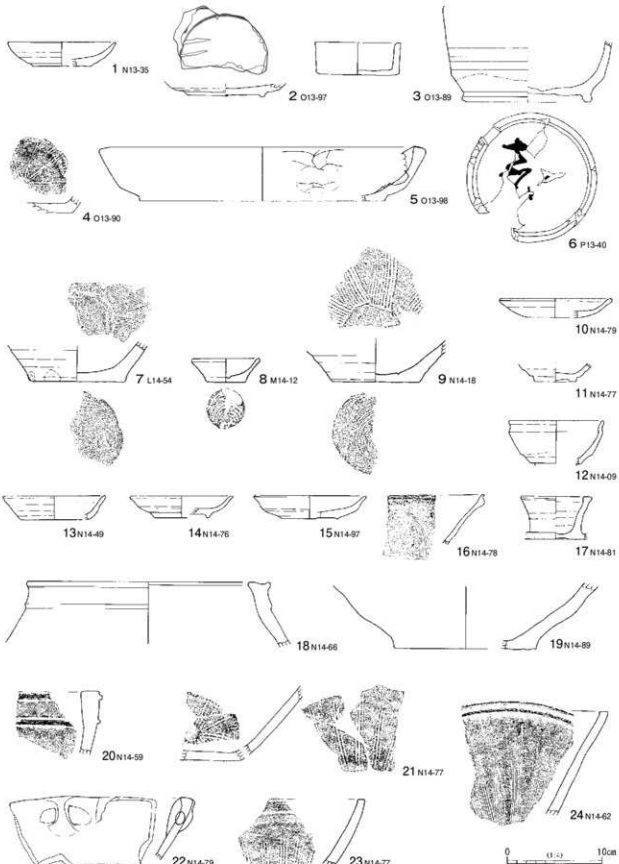
第117図1～7は在地産土器摺鉢、8～10は在地産内耳土器焙烙である。

第118図1～6は在地産内耳土器焙烙である。

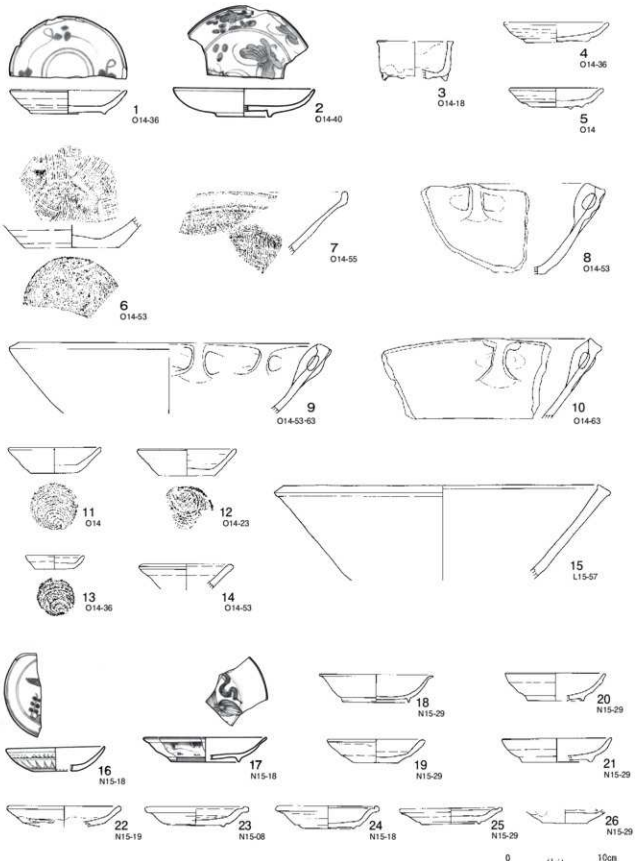
第119図1～4は在地産内耳土器焙烙、5～27はカワラケである。

O15（第119図　図版35）

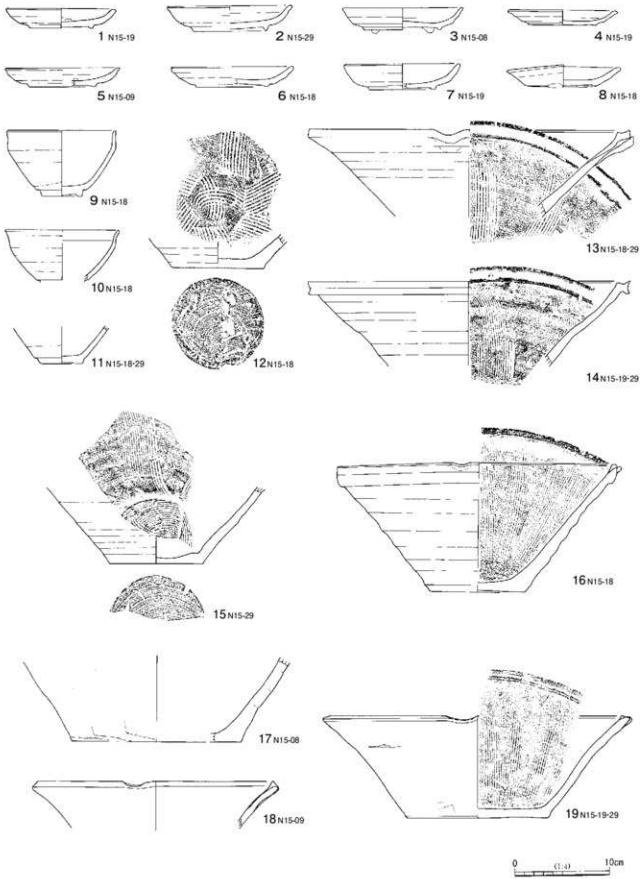
28は志野丸皿、29は瀬戸・美濃摺鉢、30～32はカワラケである。



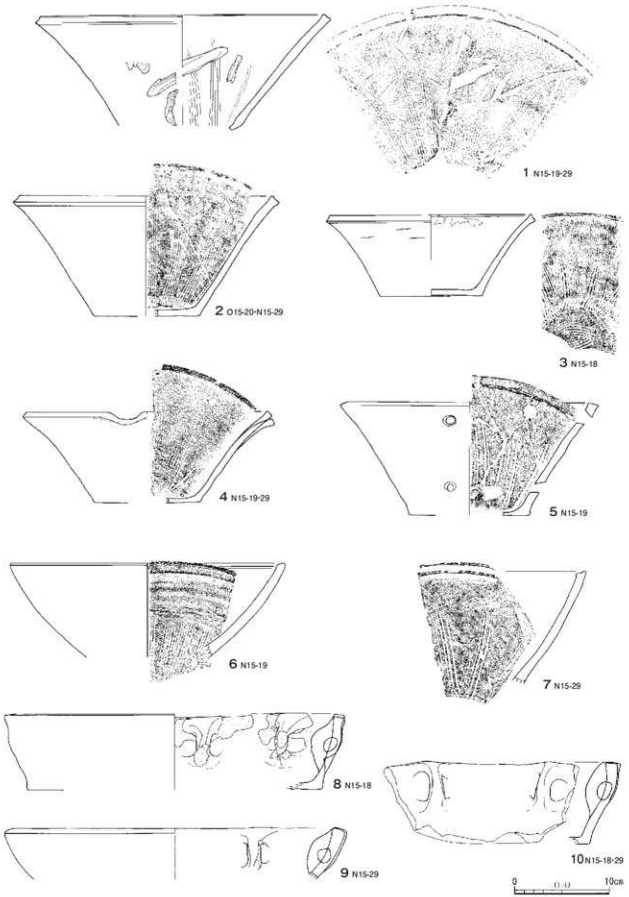
第114図　遺構外出土陶磁器・土器等　N13·O13·P13·L14·M14·N14



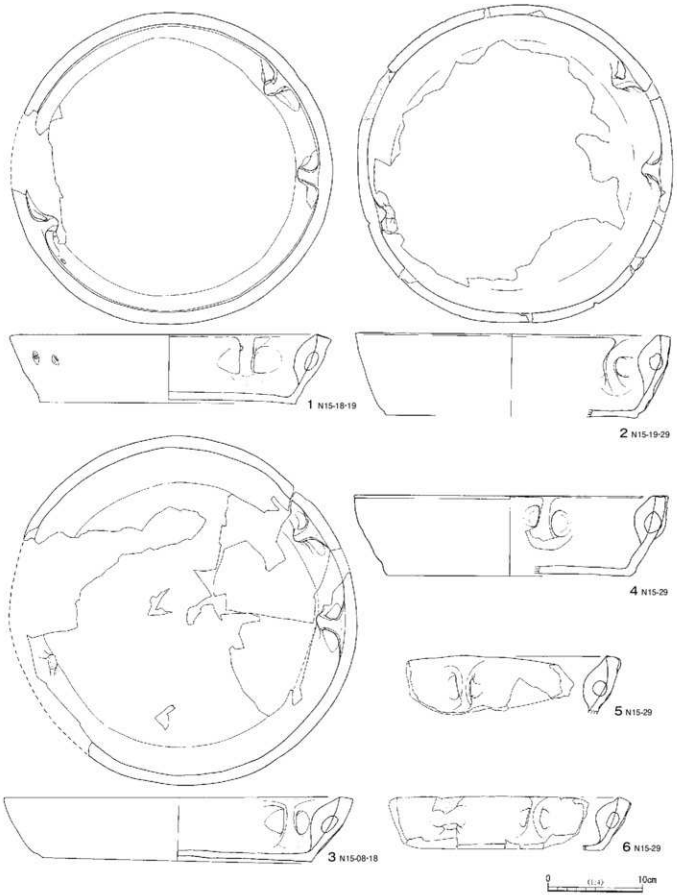
第115図　遺構外出土陶磁器・土器等O14･L15･N15（1）



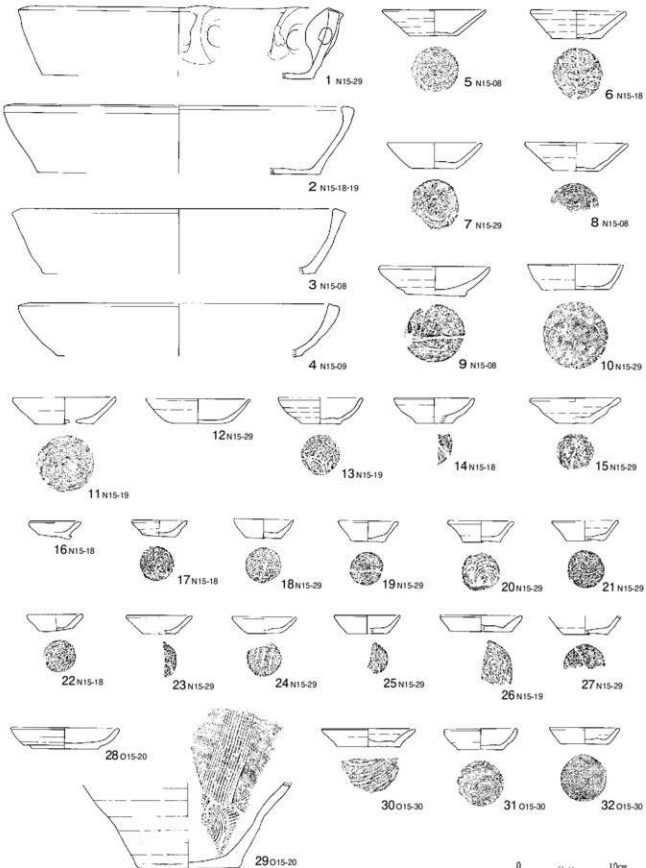
第116図　遺構外出土陶磁器・土器等　N15（2）



第117図　遺構外出土陶磁器・土器等　N15（3）



第118図　遺構外出土陶磁器・土器等　N15（4）



第119図　遺構外出土陶磁器・土器等　N15（5）・O15

（2）土製品等

O14（第120図）

1は転用の可能性のある巴文瓦片、2は転用円盤、3は有孔円盤、4～6は転用砥石である。

R14（第120図）

7は転用円盤である。

N15（第120図）

8は巴文瓦片、9は転用円盤である。

O15（第120図）

10は常滑甕の転用硯であろうか。11は転用砥石である。

（3）石器・石製品等

O13（第120図）

12は転用砥石、13は石臼、14は砥石である。

M14（第120図）

15～18は砥石である。

N14（第120図　図版38・39）

19は硯、20は石臼である。22は硯、21・23～30は砥石である。

O14（第121図　図版37・39）

1・3・5は転用砥石、2は石臼、4・6～10、11～13は砥石である。

L15（第121図）

14は砥石である。

N15（第121・122図　図版38・39）

15は石塔、16・第122図5・6は転用砥石、1は石臼、4は板碑、7～12は砥石である。

O15（第123図　図版39）

1は石臼である。

（4）金属製品等

N14（第123図　図版40）

2は棒状鉄製品、3は板状鉄製品である。

O14（第123図　図版40）

4はカスガイ、5は火縄銃の玉である。

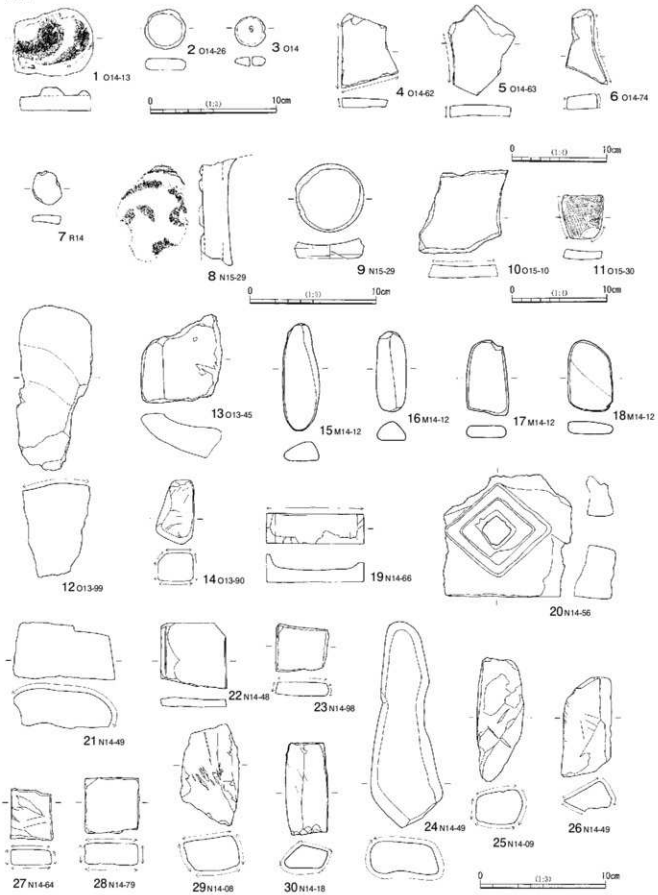
R15（第123図　図版40）

6はキセル、7は板状鉄製品である。

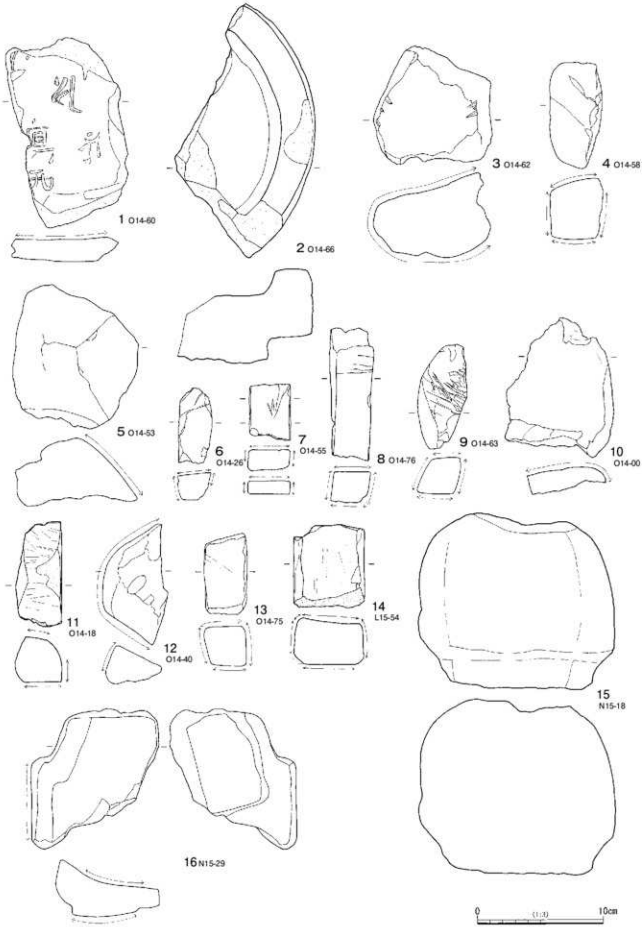
（5）銭貨（第123・124図　図版47・48）

遺構外から出土した銭貨は、主に永楽通宝・寛永通宝であるが、（治）平元寶（第123図15）・（至和）通寶（第123図17）・嘉祐元寶（第124図5）などの北宋銭も出土している。

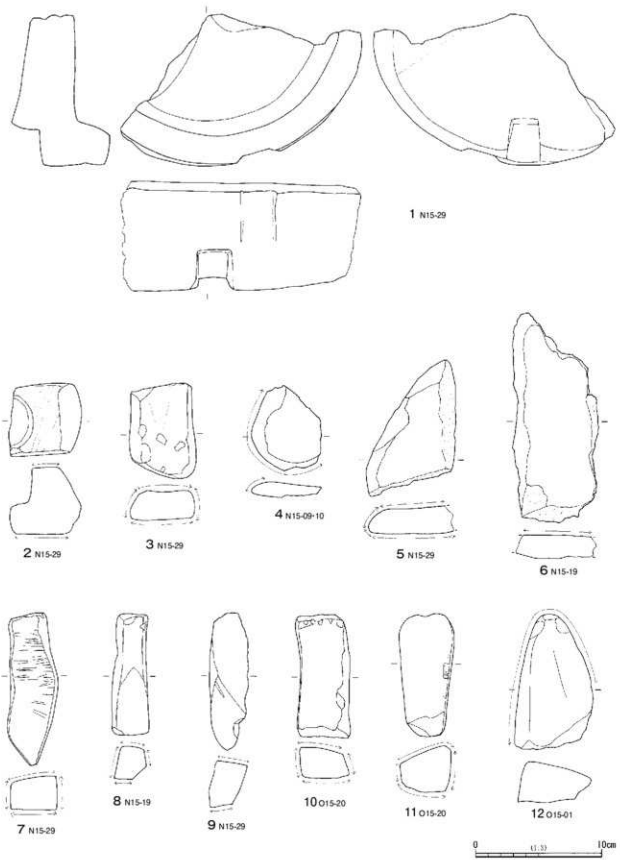
土製品



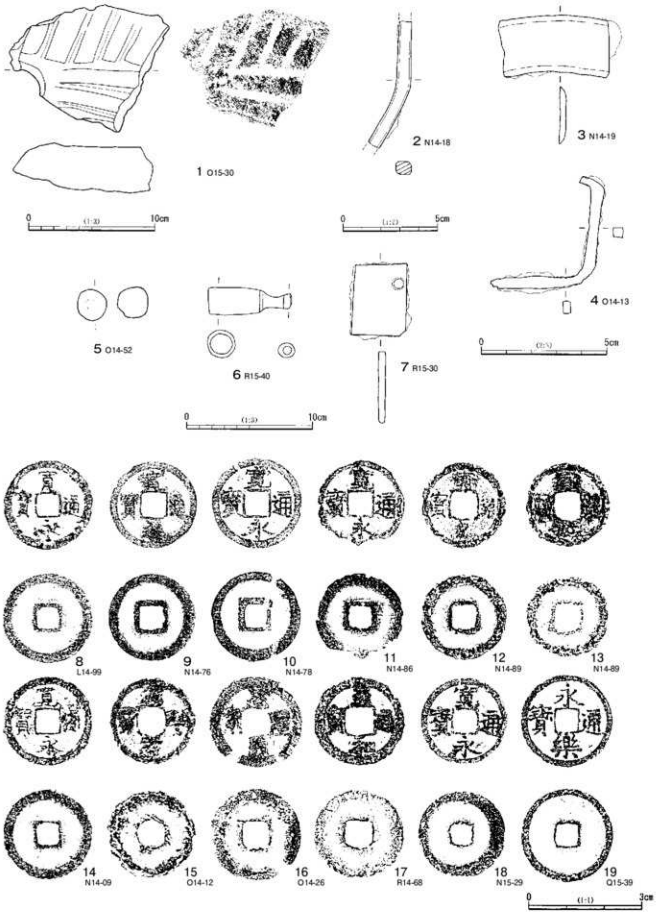
第120図　遺構外出土土製品O14・R14・N15・O15遺構外出土石器・石製品等O13・M14・N14



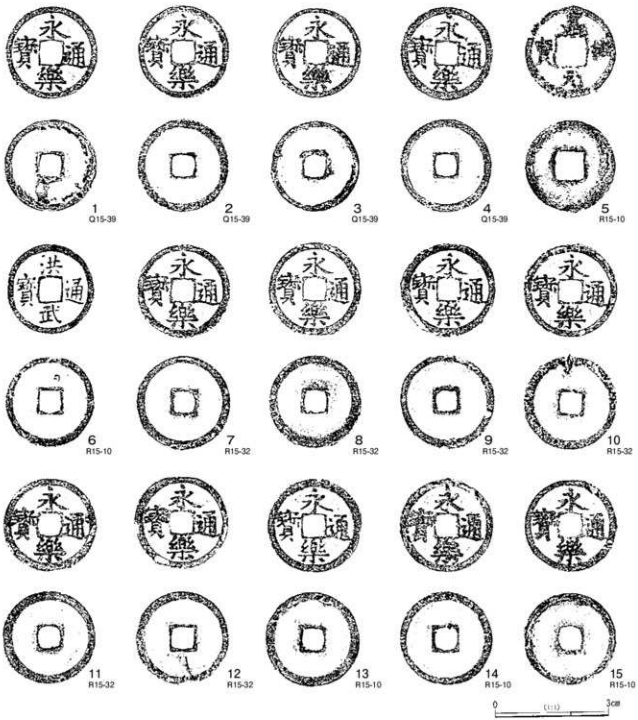
第121図　遺構外出土石器・石製品等O14・L15・N15（1）



第122図　遺構外出土石器・石製品等N15（2）・O15（1）



第123図　遺構外出土石器・石製品等O15（2）遺構外出土金属製品N14・O14・R15
遺構外出土銭貨L14・N14・O14・R14・N15・Q15（1）



第124図　遺構外出土銭貨Q15（2）・R15

第16表　中・近世陶磁器・土器等観察表

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地 器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉薬	胎土	焼成	色調	調整・技法	備考	時期
第32図1	(7)SK005	1	古瀬戸 天目茶碗	4.5%	(10.2) (5.4) (6.0)	鉄釉 内外面黒色	精緻 砂粒	良好	地灰白色			16C
第32図3	(7)SK006	1	瀬戸・美濃 天目茶碗	2.5%	(12.2) (4.7) 6.6	鉄釉 赤黒色	精緻 砂粒	良好	地にぶい黄橙色			15C
第34図1	(7)SK010	48.76	瀬戸・美濃 志野 鉄絵皿	2.5%	(12.0) (7.0) (2.7)	灰白色	精緻密	良好	内面浅黄色	ケズリ出し高台	重ね焼きの痕跡	16C末
第34図2	(7)SK010	24	瀬戸・美濃 志野 皿		(11.6) (6.7) 2.4	灰白色	精緻密 砂粒	良好	内面黄褐色			16C末
第34図3	(7)SK010	39	古瀬戸 緑釉小皿	口縁部 20%	(10.7) — —	灰釉 内外面灰オリーブ色	精緻密	良好	内面黒褐色 外面にぶい黄色			15C
第34図4	(7)SK010	39.89	在地産 内耳土器 焙烙		(33.8) — (5.8)		雲母 砂粒		内面橙色 外面黒褐色			16C
第34図5	(7)SK010	39.89	在地産 内耳土器 焙烙		—		白色粒		内面にぶい黄褐色 外面黒色			16C
第34図6	(7)SK010	32.59	在地産 内耳土器 焙烙		—		雲母 砂粒		内面明赤褐色 外面黒褐色			16C
第34図7	(7)SK010	47	在地産 内耳土器 焙烙		—		雲母 砂粒		内面明赤褐色 外面にぶい赤褐色			16C
第34図8	(7)SK010	54	在地産 内耳土器 焙烙		—		雲母 砂粒		内面褐色 外面明褐色			16C
第34図9	(7)SK010	18	在地産 内耳土器 焙烙		—		雲母 砂粒		内面赤褐色 外面暗赤褐色			16C
第34図10	(7)SK010	12	瀬戸・美濃 擂鉢	口縁部 10%	—	鉄釉 赤黒色	精緻密	良好				16C
第34図11	(7)SK010	58.62	瀬戸・美濃 擂鉢	底部 10%	—	黒褐色	精緻密	良好	内面橙色		底面ミガキ転用	16C
第36図2	(7)SX003	1	瀬戸・美濃 碗	口縁部 30%	(12.0) —	浅黄色	密 砂粒	良好	地にぶい黄橙色			近世
第36図3	(7)SX003	1	青磁 龍泉窯系 碗	破片		オリーブ灰色	精緻灰白色	良好				13C
第37図1	(7)SX003	1	瀬戸・美濃 擂鉢	50%	(26.8) (10.0) 10.5	錆釉 赤黒色	密 砂粒	良好	地灰白色	底部回転糸切り	1条15本の擂目	16C
第37図2	(7)SX003	1	瀬戸・美濃 擂鉢	口縁部 20%	(28.0) — —	錆釉 赤黒色	密 砂粒	良好	地灰白色		1条14本の擂目	16C
第37図3	(7)SX003	1	常滑 甕	底部 30%	— (14.0) —		密 砂粒	良好	内面灰色 外面灰黄色	ヘラケズリ		中世
第37図4	(7)SX003	1	在地産 内耳土器 鍋	口縁部 20%	(32.0) — —		密 砂粒	良好	内外面にぶい褐色			15C
第37図5	(7)SX003	1	在地産 内耳土器 鍋	口縁部 20%	(30.4) — —		密 砂粒 雲母(多)	良好	内面明赤褐色 外面黒褐色			15C
第37図6	(7)SX003	1	在地産 カワラケ	2.5%	(11.6) (6.0) 3.9		密 砂粒	良好	内面橙色 外面にぶい黄橙色			中世
第37図7	(7)SX003	1	在地産 カワラケ	底部 90%	— (4.4) —		密 砂粒	良好	内外面橙色			中世
第38図1	(7)SX005	3	瀬戸・美濃 志野丸皿	1.5%	(13.0) (8.0) 2.7	灰白色	密 砂粒	良好	地浅黄橙色			16C

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地器種	遺存度	口径(cm)底径(cm)器高(cm)	釉 薬	胎 土	焼成	色 調	調整・技法	備 考	時期
第38図2	(7)SX005	1	瀬戸・美濃 天目茶碗		(10.0) (6.0) (6.0)	鉄釉 黒褐色	精緻 砂粒	良好	地浅黄橙色			16C
第38図3	(7)SX005	3	瀬戸・美濃 灰碗	破片		灰釉	精緻 砂粒	良好	内外面浅黄色			中世
第38図4	(7)SX005	1	瀬戸・美濃 擂鉢	破片		錆釉 黒褐色	密 砂粒	良好	地灰白色			16C
第38図5	(7)SX005	1	瀬戸・美濃 擂鉢	底部 40%	— (9.0) —	錆釉 黄灰色	密 砂粒	良好	地浅黄色			16C
第38図6	(7)SX005	1 1	瀬戸・美濃 擂鉢	底部 30%	— (9.2) —	錆釉 黒色	密 砂粒	良好	地浅黄橙			16C
第38図7	(7)SX005	1	在地産 土器擂鉢	破片			密 砂粒	良好	内面橙色 外面黒色			15C
第38図8	(7)SX005	1	在地産 内耳鍋	破片			密 砂粒 雲母(多)	良好	内面赤褐色 外面黒褐色			15C
第39図1	(11)SK2002	3	在地産 内耳土器 鍋				雲母(少)		内面褐灰色 外面黒褐色 黒色		口縁部破片	15C
第39図2	(11)SK2003	2	瀬戸・美濃 鉄絵皿		11.8 7.4 2.3	灰釉全面施釉 灰釉から灰白色 鉄釉から黒褐色	灰白色			ケズリ出し高台	三又等枕 内外面に重ね焼きの痕跡3か所	17C初頃
第40図1	(11)SK2005	4	瀬戸・美濃 灰釉皿	底部 100%	(15.6) 9.0 4.0	オリーブ黄色	灰白色			ケズリ出し高台		16C
第41図1	(11)SK2007	3	瀬戸・美濃 灰釉段皿	30% 底部50%	(11.6) 5.0 2.0	浅黄色	にぶい黄橙色			回転ヘラケズリ ケズリ出し高台	高台とその外周部分を砥石に転用	17C
第41図2	(11)SK2007	4	瀬戸・美濃 皿	25% 底部50%	— 4.2 —			良好	内外面灰黄色			近世
第41図3	(11)SK2009	15	古瀬戸 花瓶		—	外面に灰釉 浅黄色	精緻密 砂粒	良好	内外面灰白色			15C
第41図4	(11)SK2009	14	在地産 坏	口縁部 15%	(13.0) (9.6) 4.0		精緻密 砂粒	良好	内面灰色 外面暗灰色	内外面ナデ		15C
第41図9	(11)SK2010	6	在地産 内耳土器 焙烙		—		雲母(多)2mm 小石(少)		内面明赤褐色 外面黒褐色			16C
第42図2	(11)SK2014	2	青白磁 大皿か	—	— (12.4) —	内外面明緑灰色 釉のかき取りあり	砂粒	良好	内面灰白色	ミコミナデ	露胎のみ	14C
第42図3	(11)SK2014	2	瀬戸・美濃 折縁皿	20%	(11.0) (6.3) (2.0)	灰白色	精緻密 砂粒	良好	内面灰色	ケズリ出し高台	重ね焼きの痕跡	17C
第42図4	(11)SK2014	2	瀬戸・美濃 擂鉢		— (12.4) —	錆釉	にぶい橙色		内面暗赤褐色 外面暗赤褐色			16C
第42図5	(11)SK2014	6	在地産 カワラケ	98%	10.9 5.2 2.8		精緻密 砂粒	良好	内外面浅黄橙色	回転糸切り ミコミナデ		16C
第42図6	(11)SK2014	8	在地産 カワラケ	90%	9.6 7.0 1.9		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り ミコミナデ		16C
第42図7	(11)SK2014	1	在地産 カワラケ	30%	9.4 7.1 1.7		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り ミコミナデ		近世
第42図8	(11)SK2014	1	在地産 カワラケ	20%	(10.0) (7.2) (1.8)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			近世
第42図9	(11)SK2014	5	在地産 カワラケ	100%	7.1 3.9 2.0		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい橙色	内面ナデ 回転糸切り		16C
第42図10	(11)SK2014	1	在地産 カワラケ	80%	5.5 3.0 1.4		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			近世
第42図11	(11)SK2014	1	在地産 カワラケ	60%	(6.0) (4.2) (1.4)		精緻密 砂粒	良好	内面褐灰色 外面灰褐色	回転糸切り 内面ナデ		近世

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地器種	遺存度	口径(cm)底径(cm)器高(cm)	釉 薬	胎 土	焼成	色 調	調整・技法	備 考	時期
第42図12	(11)SK2014	7	在地産カワラケ	100%	6.0 5.3 0.9		精緻密 砂粒		内外面橙色	回転糸切り ミコミナデ		近世
第42図13	(11)SK2014	1	在地産カワラケ	95%	4.9 4.4 1.1		精緻密	良好	内外面橙色	回転糸切り		近世
第42図14	(11)SK2014	1	在地産カワラケ	35%	5.8 4.7 0.9		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り ミコミナデ		近世
第42図15	(11)SK2014	1	在地産カワラケ	25%	(4.9) (3.9) (0.9)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	ミコミナデ		近世
第42図16	(11)SK2014	1	在地産カワラケ	25%	(5.9) (4.4) (1.3)		精緻密 砂粒	良好	内外面明赤褐色	ミコミナデ		近世
第42図17	(11)SK2014	1	在地産土器擂鉢	底部30%	— (12.0) (3.4)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色に赤い黄褐色	内外面ナデ		15C
第43図1	(11)SX2002	1	瀬戸・美濃擂鉢	20%	— (9.0) —	内外面錆釉(全面施釉)赤灰色	灰白色			底部回転糸切り 未調整	内面擂目残る 1条あたり10本の溝が入っている 擂目が外面についている 工具があたったか	16C
第43図2	(11)SX2002	1	在地産内耳土器 焙烙	20%	(35.0) (32.0) 4.9		砂粒 雲母(多)		内面底部灰黄褐色 外面黒褐色 底部に赤い赤褐色	回転ナデ調整	内耳部分は残っていない 底部大きく歪んでいる	近世
第43図3	(11)SX2002	1	在地産内耳土器 焙烙	15%	(32.0) (27.0) 9.1		2~3mm石英・雲母(多)		内面に赤い赤褐色 外面黒褐色	内外面丁寧なナデ		16C
第44図1	(11)SX2003	5	瀬戸・美濃擂鉢		(29.6) — [12.5]	内外面錆釉黒褐色	灰白色				擂目残る 1条あたり14本の溝が入る 内外面錆釉がかかる 口部分残る	16C
第44図2	(11)SX2003	21	常滑片口鉢	底部破損			長石 砂粒		内面褐灰色外面に赤い赤褐色			15C
第44図3	(11)SX2003	20	在地産土器擂鉢	底部50%	— (12.0) [6.5]					輪積成形 ナデ調整	擂目8条 1条あたり6本の溝が入る 見込み部分は別の工具 1条あたりもある 溝	中世
第50図1	(15)SK005	1	青磁梅花皿	40%	(12.0) (6.0) 2.8	全面施釉オリーブ灰色	灰白色				内面縁部分に線刻文様が入っているが 釉が厚いのと貫入(釉のひびではなく冷却していくうちに入ったもの)が入っているためにはっきりとはわからない 窯道具の一部が残っている	13C
第50図2	(15)SK005	1	青磁端反椀	10%以下	(12.4) — [6.0]	明オリーブ灰色	にぶい黄橙色				小破片のため口径などは参考値	14C
第50図3	(15)SK005	1	在地産土器擂鉢								底部破片 硬質	15C
第50図4	(15)SK006	3	在地産カワラケ	100%	11.0 5.0 2.7		精緻密 砂粒	良好	内面にぶい黄橙色 外面にぶい黄橙色			16C
第50図5	(15)SK006	5	在地産カワラケ	98%	8.2 3.8 1.9		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			16C
第50図6	(15)SK006	1.4	在地産カワラケ	40%	(11.0) (5.0) (2.7)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			16C
第50図7	(15)SK006	1.2	在地産カワラケ	40%	(7.6) 3.8 (2.0)		精緻密 砂粒	良好	内外面黒色			16C
第51図1	(15)SK008	1	瀬戸・美濃擂鉢		—	錆釉赤黒色	密 砂粒		内面赤黒色 外面暗赤灰色			16C

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地器種	遺存度	口径(cm)底径(cm)器高(cm)	釉薬	胎土	焼成	色調	調整・技法	備考	時期
第51図2	(15)SK008	1	在地産土器擂鉢	50%	(30.4) (12.0) 11.7		精緻密 雲母砂粒	良好	内外面黒褐色	内外面ナデ		15C
第51図3	(15)SK008	1	在地産土器擂鉢	底部40%	— (8.9) (11.6)		精緻密 雲母(少) 砂粒	良好	内面に赤い橙色 外面に赤い黄橙色	内外面ナデ		15C
第51図4	(15)SK008	1	在地産内耳土器	口縁部50%	(35.0) (18.2) 10.0		精緻密 雲母砂粒	良好	内面に赤い赤褐色 外面黒褐色	内外面ナデ		16C
第51図5	(15)SK008	1	在地産内耳土器 焙烙	70%	(34.2) (26.6) 7.3		精緻密 雲母砂粒	良好	内面褐灰色 外面黒色	内外面ナデ		17C
第51図6	(15)SK008	1	在地産内耳土器 鍋		— — —		精緻密 雲母砂粒		内面に赤い褐色 外面黒色			15C
第51図7	(15)SK008	1	在地産カワラケ	60%	10.8 5.0 2.8				内外面灰白色	底部穿孔されている		16C
第51図8	(15)SK008	1	在地産カワラケ	20%	10.7 5.2 2.6				内外面に赤い黄橙色	回転糸切り		16C
第51図9	(15)SK008	1	在地産カワラケ	口縁部25%	(10.8) 3.0 (5.0)		精緻密 雲母砂粒	良好	内面灰黄色 外面浅黄色	回転糸切り		16C
第51図10	(15)SK008	1	在地産カワラケ	底部20%	(8.2) (4.0) 2.4		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			16C
第51図11	(15)SK008	1	在地産カワラケ	底部90%	— 5.4 1.3		精緻密 雲母砂粒	良好	内外面に赤い橙色	回転糸切り		16C
第53図1	(15)SK015	1	古瀬戸 緑釉小皿	3%	(11.0) (5.6) (1.8)	内外面浅黄色	精緻密	良好	内外面浅黄色	回転糸切り		15C
第54図1	(16)SK014	1	磁器(肥前系)皿	98%	13.3 7.2 2.0	透明釉	精緻密	良好	淡灰白色		高台 砂 付着	18C
第61図3	(16)SK025B	5	在地産カワラケ	底部20%	— 5.8 —		精緻密 砂粒		内外面橙色			16C
第61図7	(16)SK031	3	在地産カワラケ	98%	9.4 6.6 2.0		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			16C
第73図1	(16)SK055	5	在地産カワラケ	100%	8.6 5.2 1.7		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			中・近世
第84図1	(16)SK015	40	在地産カワラケ	100%	9.6 5.9 2.5		精緻密 砂粒	良好	内面に赤い黄褐色 外面橙色	回転糸切り		16C
第84図2	(16)SK015	6	在地産カワラケ	底部80%	— 5.0 —		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り		16C
第84図3	(16)SK018	3, 4, 5, 12	在地産カワラケ	95%	10.9 3.1 5.4		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			16C
第84図4	(16)SK021	1, 11, 12, 13, 18	在地産カワラケ	80%	11.6 6.3 2.6		精緻密 砂粒	良好	内外面明赤褐色			16C
第84図6	(16)SK029	1, 2, 3	在地産カワラケ	100%	10.6 3.0 4.8		精緻密 砂粒	良好	内外面に赤い橙色			中・近世
第84図7	(16)SK035	4	在地産カワラケ	100%	9.6 6.1 2.7		精緻密 砂粒 赤色粒	良好			外面 黒色付着物	16C
第84図8	(16)SK035	5	在地産カワラケ	100%	9.0 4.8 2.8		精緻密 砂粒 赤色粒	良好	内外面橙色			16C
第99図3	(11)SD2002	3	瀬戸・美濃志野丸皿	10%	(12.0) (8.0) 2.5	全面施釉 灰白色	に赤い黄褐色			ヘラケズリ ケズリ出し高台 ナデ	内外面に重ね焼きの痕跡	16C
第99図4	(11)SD2002	4	土器 焼塩壺か		— 6.0 —		砂粒		内面に赤い赤橙色 外面に赤い橙色	ナデか 外面摩滅		近世
第100図2	(7)SD010	7	瀬戸・美濃 天目茶碗	45%	(11.2) (5.0) 6.3	鉄釉 黒色	精緻 砂粒	良好	灰白色			16C

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地 器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉 薬	胎 土	焼成	色 調	調整・技法	備 考	時期
第100図3	(7)SD010	20	瀬戸・美濃 種鉢	20%	— (8.9) —	錆釉 赤黒色	精緻 砂粒	良好	地黄橙色			16C
第100図4	(7)SD010	9	瀬戸・美濃 志野 鉄絵皿	20%	(11.5) (7.0) 2.3	錆釉 赤黒色	精緻 砂粒	良好	地黄橙色			17C初
第100図5	(7)SD010	22	在地産 内耳土器	破片			砂粒 雲母	良好	内面赤褐色 外面黒褐色			中世
第100図6	(7)SD010	30	在地産 内耳土器	破片			砂粒 雲母	良好	内面赤褐色 外面黒褐色			中世
第100図7	(11)SD2003	4	瀬戸・美濃 天目茶碗	40%	(11.4) 4.4 6.8	内面は全面施釉 鉄釉 灰黄褐色	淡黄色			ケズリ出し高台 ヘラケズリ		16C
第100図8	(11)SD2003	13	瀬戸・美濃 志野 丸皿	40% 底部50%	(12.0) 7.0 2.5	全面施釉 灰白色	灰白色			回転ヘラケズリ ケズリ出し高台	高台裏は釉がかかっていない部分も見られる	16C
第100図9	(11)SD2003	7	在地産 土器種鉢				砂粒 雲母		内外面にぶい黄橙色	輪積成形 ナデ調整	口縁部破片 内面擬目2条残る 1条あたり3本の溝が入る	16C
第101図1	(11)SD2001	15	瀬戸・美濃 鉄絵皿	70%	12.4 8.0 2.5	灰釉をかけた後鉄釉で唐草を描いている 全面施釉 灰白色〈灰釉〉灰黄褐色〈鉄釉〉	灰白色			回転ヘラケズリ ケズリ出し高台	底部に灰褐色の土が付着か	17C
第101図2	(11)SD2001	3, 6, 11	瀬戸・美濃 鉄絵皿	40%	(12.2) (7.6) 2.5	灰白色〈灰釉〉黒褐色〈鉄釉〉	灰白色			回転ヘラケズリ ケズリ出し高台		17C
第101図3	(11)SD2001	3	瀬戸・美濃 志野 丸皿	15%	(11.6) (7.6) 2.0	全面施釉 灰白色	にぶい黄橙色			回転ヘラケズリ ケズリ出し高台		16C
第101図4	(11)SD2001	19	古瀬戸 水注 (注口部分のみ)		長さ 7.2 厚さ 3.0 幅 5.2	全体に灰釉 灰白色 淡緑色	灰白色					14C
第101図5	(11)SD2001	5	在地産 カワラケ	70%	6.0 5.4 0.9		砂粒(多)		内外面橙色	底部回転糸切り 未調整		近世
第101図6	(11)SD2001	1	在地産 カワラケ	25%	(6.0) (5.0) 2.0		雲母(やや多)		内外面橙色	底部回転糸切り 未調整		近世
第101図7	(11)SD2001	21	瀬戸・美濃 種鉢			暗赤灰色	にぶい黄橙色				折り返し口縁 内外面鉄釉がかかる 擬目1条残る 10本の溝が入る	17C
第103図1	(15)SD001	1	磁器 (肥前系か) 染付		上 3.6 下 9.1	透明釉	淡灰白色					近世
第103図2	(15)SD001	1	磁器 広東碗蓋		上 5.9 下 11.0 — 3.0	透明釉	淡灰白色					近世
第103図3	(15)SD001	1	磁器 染付	40%	(9.8) 4.0 5.7	呉須で文様を描き透明釉						近世
第103図4	(15)SD001	1	磁器 染付		(11.0) (4.0) 6.0	透明釉	淡灰白色				第101図1の蓋とセットか	近世
第103図5	(15)SD001	1	磁器 皿 くらわんか		(13.0) (8.0) 4.0	透明釉	淡灰色				見込み五弁花文コンニャク判、「福」の造化した文字 鳥と梨等になっている 高台の内と外側に1本ずつ圏線が入る 造化した草草文あり	近世
第103図6	(15)SD001	1	磁器 染付皿		(10.6) 4.2 5.4	透明釉	淡灰白色				松竹梅文	近世

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉 薬	胎 土	焼成	色 調	調整・技法	備 考	時期
第103図7	(15)SD001	1	磁器 (肥前系か) 皿	60%	(13.0) 7.6 4.3	透明釉	淡灰色				高台の外側に3本の圏線が入る 外面に唐草文	近世
第103図8	(15)SD001	1	磁器 (肥前系) 湯呑み	完形	7.4 7.4 4.4	呉須で文様を描き透明釉						近世
第103図9	(15)SD001	1	磁器 湯呑茶碗	完形	7.2 3.4 5.3	口縁部鉄釉				ミニミスタンプ文		明治
第103図10	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 灯明皿	完形	10.6 3.4 2.0	内面～口縁部にかけて灰釉 灰黄色	にぶい黄褐色				口縁外側 油煙 付着	18C
第103図11	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 灯明皿	60%	10.4 3.8 2.3	灰白色	灰白色				口縁外側 油煙 付着	18C
第103図12	(15)SD001	1	陶器 (京・信楽系) 灯明皿	70%	外(10.0) 内 6.4 3.6 1.8	内面～口縁部にかけて灰釉 灰白色	浅黄色				内面ススが軸に吸着している 灰色になっている	18C
第103図13	(15)SD001	1	陶器 (京・信楽系) 灯明皿		外 11.4 内 5.6 4.0 2.3	内面～体部中ほどまで灰釉 淡黄色	灰白色					18C
第103図14	(15)SD001	1	瀬戸・美濃か 灯明皿	ほぼ完形	外 10.6 内 7.4 4.5 2.2	内面～外面口縁部にかけて鉄釉 にぶい赤褐色	にぶい黄橙色				底部回ムでいる	18C
第104図1	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 馬の目皿		(13.2) 8寸皿 — —	内面～外面胴下部まで灰釉 高台部分は灰釉がかからない 鉄釉黒褐色 灰釉灰白色	灰白色				鉄釉で描かれている	近世
第104図2	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 徳利		—	灰釉 オリーブ黄色	精緻密 砂粒	良好	内外面浅黄色	ロクロ痕ケズリ調整	線刻	近世
第104図3	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 徳利	底部100%	— 10.4 —	オリーブ黄色 灰釉	精緻密 砂粒	良好	内外面灰黄色	ロクロ痕ケズリ調整	線刻	18C
第104図4	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 徳利	60% 底部100%	— 11.6 —	外面オリーブ黄色	精緻密	良好	内面にぶい黄橙色			近世
第104図5	(15)SD001	1	瀬戸・美濃 灰釉香炉	完形	12.8 8.6 6.6 (足の部分を含む)	灰オリーブ色	灰白色			底部を穿口して植木鉢にしようとしたが破損してしまい ウルシで破面を補修している 付け足3か所 底部回転糸切り		18C
第104図6	(15)SD001	1	益子 悲絵土瓶		(9.3) 8.4 6.9	蓋の上面のみ				底火にかけるために底部は無釉 表裏ともに呉須で山水画が描かれている	幕末～明治期の土瓶 内器 蓋が付く 蓋・口の部分欠損 第104図7とセットか	近世
第104図7	(15)SD001	1	益子 蓋		上径 2 下3.2 — (高さ) 2.1					上面 呉須で描かれている	第104図6とセットか	近世
第104図8	(15)SD001	1	瓦質土器 火鉢手焙		16.5 12.0 8.2 (足の部分を含む)				外面黒褐色 内面褐灰色	外面 ローラーによるタテの模様が4段入る 回転ヘラケズリ	足は3か所あるが1か所残存	近世
第104図9	(15)SD001	1	瓦質土器 焜炉		— (18.4) —				内面褐灰色 外面灰黄褐色		底部破片	近世
第104図10	(15)SD001	1	在地産 内耳土器 焙烙	60%	(38.1) (35.9) 4.4		精緻密 砂粒	良好		内外面ナデ		近世

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地 器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉薬	胎土	焼成	色調	調整・技法	備考	時期
第105図1	(15)SD001	1	在地産 内耳土器 焙烙	23%	(31.0) (28.8) 4.0		精緻密 砂粒	良好		内外面ナデ		近世
第105図2	(15)SD001	1	在地産 内耳土器 焙烙	23%	(33.7) (30.8) 4.7		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい黄橙色	内外面ナデ		近世
第106図1	(15)SD002	1	瀬戸・美濃 灰釉大皿	底部 25%	— (14.4) —	内外面浅黄色	精緻密 砂粒	良好	内面にぶい黄橙色		内面重ね焼き痕	16C
第106図2	(15)SD002	1	瀬戸・美濃 志野小皿	20%	(12.0) (2.4) (6.0)	内外面灰白色	精緻密 砂粒	良好	内面にぶい黄橙色	糸切り		近世
第107図1	(16)SD001	1	在地産 カワラケ	30%	(6.0) (4.0) (1.6)		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい黄橙色	回転糸切り		近世
第109図1	(11)SK2012	6	瀬戸・美濃 志野丸皿	底部 50%	(11.8) (7.6) 2.2	底部以外灰釉 内外面灰白色	精緻密 砂粒	良好	内面灰白色 外面灰白色	ケズリ出し高台	重ね焼きの痕跡(2か所)	16C
第109図2	(11)SK2012	17	瀬戸・美濃 擂鉢	底部 20%	— (13.0) —	内外面錆釉 内面灰褐色 外面灰赤色	精緻密 砂粒 2mm小石	良好	内外面にぶい黄橙色	回転糸切り		13C
第109図3	(11)SK2012	12	在地産 土器擂鉢		—				内外面橙色			16Cか
第114図1	N13-35	1	瀬戸・美濃 志野丸皿	口縁部 23%	(11.4) (6.0) 2.6	内外面灰白色		良好	内外面にぶい黄橙色	ケズリ出し高台	砂粒を含む 前面に釉がかかっている	17C初
第114図2	013-97	1	瀬戸・美濃 志野鉄絵皿	底部 50%	12.8 8.3 —	淡黄色	精緻密	良好	内面灰白色	ケズリ出し高台		17C
第114図3	013-80	1	在地産 碗か	50%	9.0 8.8 3.4		精緻密	良好	内外面暗褐灰色			近世
第114図4	013-90	1	在地産 土器擂鉢		—		砂粒		内外面褐灰色			中世
第114図5	013-98	1	在地産 内耳土器 焙烙		(34.5) (26.0) 5.6		雲母(多) 砂粒		内面明赤褐色 外面黒褐色	内外面ナデ	内耳欠	近世
第114図6	P13-40	1	瀬戸・美濃 鉄釉碗	底部 80%	— (13.7) —	鉄釉 内面にぶい赤褐色	精緻密	良好	内外面にぶい黄橙色	ケズリ出し高台	底部墨書	近世
第114図7	L14-54	1	古瀬戸 擂鉢		— (10.0) —	内外面錆釉 外面黒褐色	にぶい橙色		内面褐灰色	底部外周に指頭痕残る(2か所) 底部回転糸切り 未調整	ミコミ擂目が「+」字なので大、間1かにあたる 内面擂目1単位21本 ミコミ擂目1単位16本	15C
第114図8	M14-12	1	在地産 カワラケ		7.2 4.0 2.5				内外面にぶい橙色	内面中央部分剥み 荒れ 底部回転糸切り 未調整		16C
第114図9	N14-18	1	古瀬戸 擂鉢		— (9.0) —	内外面錆釉 灰白色	灰白色		内外面淡茶褐色	底部回転糸切り	底面を底石に転用 内面に擂目4条残る 1条当たり9本の櫛 ミコミに1条擂目がわずかに残る 1条のみなら(後世釣)	15C
第114図10	N14-79	1	古瀬戸 錆釉小皿		(12.0) — 2.0	灰オリーブ色	灰白色				内面使用痕	15C
第114図11	N14-77	1	瀬戸・美濃 天目茶碗	底部 100%	— 4.4 —	内面鉄釉 外面酸化鉄(錆釉)鉄釉 暗赤灰色	にぶい黄橙色		内外面鉄黒褐色	ケズリ出し高台		16C
第114図12	N14-09	1	瀬戸・美濃 天目茶碗	20% 口縁～体部破片	(10.0) — 4.5	鉄釉 黒褐色	灰白色					16C
第114図13	N14-49	1	瀬戸・美濃 錆釉小皿		(10.8) (7.0) 2.5	にぶい黄色	灰白色			回転糸切り	底部わずか	15C

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地 器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉薬	胎土	焼成	色調	調整・技法	備考	時期
第114図14	N14-76	1	瀬戸・美濃 灰釉小皿	25%	10.9 5.7 2.3	オリーブ灰色	精緻密	良好	内面灰白色	ケズリ出し高台		17C
第114図15	N14-97	1	瀬戸・美濃 志野小皿	25%	11.9 6.0 2.4	内外面灰白色	精緻密	良好	内面灰白色	ケズリ出し高台		17C
第114図16	N14-78	1	瀬戸・美濃 擂鉢	口縁～ 10%	—	錆釉 内面黒色	精緻密	良好	内面に赤い黄橙色 外面褐色			17C
第114図18	N14-66	1	常滑 甕	口縁部 10%	(25.8) — —		精緻密 砂粒	良好	内面灰褐色 外面に赤い赤褐色	内外面ナデ		16C
第114図19	N14-89	1	常滑 甕	底部 25%	— (15.0) —		精緻密 砂粒	良好	内面に赤い赤褐色 外面橙色	内外面ナデ		中世
第114図20	N14-59	1	瓦質 火鉢		—		雲母 砂粒		内外面黒色			近世
第114図21	N14-76 N14-77	1 1	在地産 土器擂鉢		—		雲母 砂粒		内外面に赤い橙色 内面褐灰色 外面に赤い橙色			中世
第114図22	N14-79 N14-89	1 1	在地産 内耳鍋		—				内面褐色 外面褐灰色			15C
第114図23	N14-77	1	在地産 土器擂鉢		—		雲母 砂粒		内面黄灰色 外面に赤い黄橙色			中世
第114図24	N14-62	1	在地産 土器擂鉢						内面褐色 外面黒褐色			中世 15Cか
第115図1	014-36	1	陶器 鉄絵皿	50%	(12.3) (8.0) 2.5	内面灰黄褐色	精緻密	良好	内面褐灰色 外面に赤い橙色	ケズリ出し高台		18C
第115図2	014-40	1	磁器 染付絵皿	40%	(15.0) (5.8) (3.0)	内外面明緑灰色	精緻密	良好	内面灰白色	ケズリ出し高台	砂付着	18C
第115図3	014-18	1	瀬戸・美濃 香炉	口縁部 20%	(8.2) (6.8) 4.2	内外面鉄釉 暗褐色	精緻密 砂粒	良好	内外面灰黄褐色	回転糸切り 回転ヘラケズリ	内面 鉄分 付着 足 貼付け	18C
第115図4	014-36	1	瀬戸・美濃 灰釉小皿	80%	11.7 6.6 2.1	内外面淡黄色	精緻密	良好	内面灰白色	ケズリ出し高台	重ね焼きの痕跡	17C
第115図5	014	1	瀬戸・美濃 灰釉丸皿	45%	(9.6) (5.4) 2.0	灰釉 オリーブ黄色	精緻 砂粒	良好	地に赤い黄橙色			16C
第115図6	014-53	1	瀬戸・美濃 擂鉢	底部 40%	— (10.0) —	錆釉 黒褐色	精緻密	良好	内面橙色	回転糸切り		16C
第115図7	014-55	1.63	瀬戸・美濃 擂鉢	口縁～ 15%	—	内外面暗赤褐色	精緻密	良好	内面に赤い赤褐色			16C
第115図8	014-53	1	在地産 内耳鍋		—		雲母 砂粒		内面に赤い黄褐色 外面褐色 黒褐色			15C
第115図9	014-53 014-63	1 1	在地産 内耳鍋		(31.8) — (7.4)		雲母 砂粒		内面に赤い黄褐色 外面黒色	内外面ナデ		15C
第115図10	014-63	1	在地産 内耳鍋		—				内面に赤い褐色 外面灰褐色 黒色			15C

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地器種	遺存度	口径(cm)底径(cm)器高(cm)	釉 薬	胎 土	焼成	色 調	調整・技法	備 考	時期
第115図11	014	1	在地産カワラケ	55%	(9.6) (5.2) 2.7		精緻 砂粒	良好	内外面にぶい橙色			15C
第115図12	014-23	1	在地産カワラケ	口縁部20%	(10.4) (6.0) 2.8		精緻密 雲母砂粒	良好	内外面橙色	底部回転糸切り 内面ミコミナデ		16C
第115図13	014-36	1	在地産カワラケ	底部100%	6.1 4.0 1.5		精緻密 雲母砂粒 赤色スコリア	良好	内外面にぶい橙色	底部回転糸切り 内面ミコミナデ		近世
第115図14	014-53	1	在地産カワラケ	口縁部23%	(10.0) — 2.7		精緻密 雲母砂粒	良好	内外面橙色			16C
第115図15	L15-57	1	在地産内耳鍋		(33.4) — —		雲母砂粒(多)		外面黒褐色 内面にぶい赤褐色	内面ヘラナデ 外面ヘラケズリの後ヘラナデ		15C
第115図16	N15-18	29	貿易陶磁 染付皿	40%	(10.4) (3.0) 2.5					蕎麦猪口(ケズリ出し高台)	釉ふきとり	16C中頃
第115図17	N15-18	29	貿易陶磁 染付皿	20%	(13.0) (7.2) 2.6	釉ふきとり					ミコミ部分に描かれている	16C中頃
第115図18	N15-29	73	貿易陶磁 白磁皿	23%	(12.0) (7.0) 3.0	灰白色	灰白色				口縁端反り	16C中頃
第115図19	N15-29	27	古瀬戸 緑釉皿	口縁部40%	(10.3) (4.8) 2.5	灰釉 内外面オリーブ黄色	精緻密2mm程の小石・砂粒	良好	内外面浅黄橙色	底部回転糸切り		15C
第115図20	N15-29 015-30	8, 39 2	瀬戸・美濃 灰釉皿	口縁部50%	(10.6) (6.0) 3.0	全面に灰釉 灰白色	精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい黄橙色	回転ヘラケズリ	重ね焼きの痕跡	17C
第115図21	N15-29	8, 16	瀬戸・美濃 灰釉皿	口縁部40%	(11.6) (7.4) 2.5	全面に灰釉 浅黄色	精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい橙色	ケズリ出し高台 回転ヘラケズリ	重ね焼きの痕跡	17C
第115図22	N15-19	27, 28	瀬戸・美濃 緑釉皿	口縁部40%	(11.6) — (2.2)	内外面灰白色	精緻密 砂粒	良好	内外面灰白色	底部回転糸切り	重ね焼きの痕跡	16C
第115図23	N15-08 N15-18	10 31, 32	瀬戸・美濃 灰釉皿	底部100%	11.0 6.0 2.0	内外面浅黄色	精緻密 砂粒	良好	内外面灰白色	ケズリ出し高台	内面ミコミ部分釉ふきとり	17C
第115図24	N15-18	34, 36	瀬戸・美濃 灰釉 折縁皿	50% 底部100%	(11.0) 5.4 2.4	オリーブ黄色 ミコミ部 底部の釉ふきとり	浅黄橙色			ケズリ出し高台 回転ヘラケズリ	重ね焼きの痕跡 ミコミ部 底部の釉ふきとり	17C初
第115図25	N15-29 015-30	8 11	瀬戸・美濃 灰釉 折縁皿	60%	10.8 6.2 1.6	にぶい黄色 ミコミ部底部の釉ふきとり	にぶい黄橙色				重ね焼きの痕跡	17C初
第115図26	N15-29	75	瀬戸・美濃 緑釉小皿	底部100%	— 4.8 —	オリーブ灰色 外面釉だれ	灰白色			回転糸切り 未調整	内面転用(ミガキ)の痕跡	中・近世
第116図1	N15-19	8	瀬戸・美濃 志野丸皿	底部100%	(11.6) (6.6) 2.1	全面に釉あり(底部はふきとっている) 内外面浅黄色	精緻密 砂粒	良好	内外面黄橙色	ケズリ出し高台 回転ヘラケズリ	重ね焼きの痕跡	17C初
第116図2	N15-29	37	瀬戸・美濃 志野丸皿	底部100%	(13.2) 7.8 2.7	内外面灰白色	精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい黄橙色	ケズリ出し高台 回転ヘラケズリ	重ね焼きの痕跡	17C
第116図3	N15-08	7	瀬戸・美濃 志野丸皿	口縁部50%	(12.6) (8.1) 2.7	全面に釉 灰白色	精緻密 砂粒	良好	内外面浅黄橙色	ケズリ出し高台 回転ヘラケズリ	重ね焼きの痕跡	17C
第116図4	N15-19	11	瀬戸・美濃 志野丸皿	口縁部50%	(11.6) (7.0) 1.6	全面に釉 内外面灰白色	精緻密 砂粒	良好	内面浅黄橙色 外面にぶい黄橙色	ケズリ出し高台 回転ヘラケズリ		17C

挿図番号	遺構番号	遺物番号	産地 器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉 薬	胎 土	焼成	色 調	調整・技法	備 考	時期
第116図5	N15-09	2	瀬戸・美濃 志野丸皿	口縁部 50%	(12.0) (7.0) (2.0)	全面に釉 内外面淡黄色	精緻密 砂粒	良好	内外面浅黄橙色	ケズリ出し高台 回転ヘラケズリか	重ね焼きの痕跡	17C
第116図6	N15-18	5	瀬戸・美濃 志野丸皿	底部 50%	(13.0) (7.6) 2.1	内外面 灰白色		良好	内外面浅黄橙色	回転ヘラケズリ ケズリ出し高台	全面に釉がかかる 底部一部ふきとりか	17C
第116図7	N15-19 N15-18	2 10	瀬戸・美濃 志野丸皿	底部 25%	(12.3) 7.0 2.7	全面に白釉 灰白色	精緻密 砂粒	良好	内外面浅黄橙色	回転ヘラケズリ ケズリ出し高台	底部ふきとりか	17C
第116図8	N15-18	11	瀬戸・美濃 志野丸皿	ほぼ完形	12.0 6.6 2.3	わずかに底部は施釉されていない 灰白色			内外面灰白色	回転ヘラケズリ	内外面に重ね焼き痕跡 口縁部歪んでいる	17C
第116図9	N15-18	6, 9	瀬戸・美濃 天目茶碗	70% 底部100%	11.4 4.2 7.0	にぶい赤褐色 一部黒褐色	灰白色			ケズリ出し高台	畳付部分は釉はかけられていない	17C
第116図10	N15-18	45	瀬戸・美濃 天目茶碗	口縁部 25%	(11.8) — —	飲釉 黒褐色 一部灰褐色	口縁付近灰白色 体部浅黄橙色				破断面にウルシの様な物質が付着 補修か 鉄化粧	17C
第116図11	N15-18 N15-29	46 1	瀬戸・美濃 天目茶碗	底部 100%	— 4.4 —	飲釉 鉄化粧	素地灰白色 鉄化粧橙色		内外面黒褐色	ケズリ出し高台 底部中央にわずかな凹みが作り出されている	鉄化粧	17C
第116図12	N15-18	39	瀬戸・美濃 織鉢	底部 100%	— 9.6 —	全面施釉 褐灰色	灰白色			外面ナデ 内外面錆釉 底部回転糸切り 未調整	内面全体 1条あたり10本の溝 ミコミ部分「+」	17C
第116図13	N15-18 N15-29	1 6, 10	瀬戸・美濃 織鉢	胴部 20%	(34.0) — —		精緻密 砂粒 石英 にぶい黄橙色	良好	内面赤黒色 外面極暗赤褐色		内外面錆	17C後半
第116図14	N15-19 N15-29	13 1	瀬戸・美濃 織鉢	胴部 25%	(35.0) — —	錆釉	精緻密 砂粒 明黄褐色	良好	内面極暗赤褐色 黒色 外面極暗赤褐色			近世 17C
第116図15	N15-29	11	瀬戸・美濃 織鉢		— (10.0) —	内外面錆釉(全面施釉)暗赤灰色	にぶい黄橙色		内外面暗赤灰色	ナデ 回転ヘラケズリ 底部回転糸切り 未調整	櫛目3条残る 1条あたり16本の溝	18C
第116図16	N15-18	20	瀬戸・美濃 織鉢	99%	29.2 10.1 13.75	全面錆釉	精緻密 砂粒 石英(3～5mm条)	良好	内面浅黄色 黒褐色 外面浅黄色 黒褐色	ヨコナデ回転ヘラケズリ	18条 1条あたり12本 回転糸切りか	17C後半
第116図17	N15-08	9	常滑 甕	5%	— (18.0) —				内面にぶい褐色 黒褐色 外面にぶい赤褐色	内面ナデ	外面輪積痕 外面ヘラの当りが残る	中世
第116図18	N15-06	1, 3, 29	在地産 土器擂鉢	口縁部 20%	(26.6) — (5.0)		精緻密 砂粒		内外面にぶい橙色			16Cか
第116図19	N15-19 N15-29	1 46, 48, 49	在地産 土器擂鉢	80%	32.6 15.0 10.9	精緻密 砂粒 雲母	良好	内面にぶい褐色 黒褐色 外面にぶい褐色 黒色	内面擂目 外面ヘラケズリ 後ナデ	内外面クルシか 浪か 26条 1条あたり7本か 輪積痕あり	内外面クルシか 浪か 26条 1条あたり7本か 輪積痕あり	16Cか
第117図1	N15-19 N15-29	1, 10, 1 2, 14, 1 5 1, 2, 4	在地産 土器擂鉢	80%	30.0 — —	精緻密 砂粒 雲母(少)			内外面橙色		1条あたり5本	16Cか
第117図2	N15-29 O15-20	32 15	在地産 土器擂鉢	40%	(26.6) (11.4) 12.8	精緻密 砂粒 雲母	良好	内面明褐色 褐灰色 外面黒褐色 褐色	内面ヨコナデ 外面ヨナ ヨコナデ	内面ヨコナデ 外面ヨナ ヨコナデ	1条あたり6本[10条] 底面 土器が柔らかい時に置いた痕と思われる	16Cか
第117図3	N15-18	41	在地産 土器擂鉢	30%	(21.4) (10.8) 8.6	精緻密 砂粒 雲母(少)	良好	内面黒褐色 明褐色 外面明褐色	内面ヨコナデ 外面ナデ	内面軸付着か 輪積痕あり 1条あたり7条[7条] 底面は焼成前にすのこ状の上に置いた痕と思われる	内面軸付着か 輪積痕あり 1条あたり7条[7条] 底面は焼成前にすのこ状の上に置いた痕と思われる	16Cか

番号	遺構番号	遺物番号	産地 器種	遺存度	口径(cm) 底径(cm) 器高(cm)	釉薬	胎土	焼成	色調	調整・技法	備考	時期
第117図4	N15-19 N15-29	18 8	在地産 土器擂鉢	30%	(25.6) (11.4) 9.7		精緻密 砂粒 雲母(多)		内面にぶい黄色 外面黒色 にぶい黄褐色	内面ヨコナデ 外面ナデ		16Cか
第117図5	N15-19	12.13	在地産 土器擂鉢	30%	(27.3) (12.8) 12.0		精緻密 砂粒 雲母(多) (和)大 石英	良好	内面黒褐色 にぶい赤褐色 外面黒褐色 赤褐色	1条あたり6本ナデ	上の第礼は他成前下の第礼は他成後にあけたとみられる	中世
第117図6	N15-29	24	在地産 土器擂鉢	25%	(28.9) — —		精緻密 砂粒 雲母	良好	内面黒褐色 にぶい黄橙色 外面黒褐色 にぶい黄褐色			中世
第117図7	N15-29	1.8.63	在地産 土器擂鉢						内面にぶい黄褐色 外面灰黄褐色		破片 1条あたり5本か	中世 16C
第117図8	N15-18	1.49	在地産 内耳土器 焙烙	20%	(35.9) (30.3) 8.5		精緻密 雲母 砂粒	良好	内面褐色 外面黒色	内外面ナデ		16C
第117図9	N15-29	1.28.34 .63	胴部 内耳土器 焙烙	胴部 33%	(35.9) — —		精緻密 砂粒 雲母(多) 石英(少)		内面にぶい赤褐色 外面黒褐色	内外面ナデ		16C
第117図10	N15-18 N15-29	49 1	在地産 内耳土器 焙烙		8.7 — —		砂粒 雲母 (多)石英(4mm)		内面明赤褐色 外面黒褐色 黒褐色			16C
第118図1	N15-18 N15-19	1.2 1	在地産 内耳土器 焙烙	98%	34.0 (27.0) 7.3		精緻密 砂粒 雲母	良好	内面赤褐色 外面赤黒色	内外面ナデ	外面 炭 付着	16C
第118図2	N15-19 N15-29	1.2 52	在地産 内耳土器 焙烙		33.5 25.7 8.7		砂粒 雲母 (多)石英 (多)		内面にぶい赤褐色 外面褐色 黒褐色	内外面ナデ	内耳が壊れた後に穴を開けたと思われる	16C
第118図3	N15-08 N15-18	8 1.4	在地産 内耳土器 焙烙	80%	(35.6) (28.6) 6.7		精緻密 雲母 (多) 2mm程の小石	良好	内面明赤褐色 外面黒褐色	内外面ナデ		16C
第118図4	N15-29	57	在地産 内耳土器 焙烙	40%	(33.3) (27.0) 8.5		精緻密 雲母 砂粒 石英	良好	内面赤褐色 外面暗赤灰色		内外面 ススト 付着 内耳 3つあり	16C
第118図5	N15-29	1.14	在地産 内耳土器 焙烙		— — 6.2		砂粒 雲母 (多)石英 (少)		内面赤褐色 外面黒褐色			近世
第118図6	N15-29	1.47	在地産 内耳土器 焙烙		— — 5.65		砂粒 雲母 (多)石英 (少)		内面赤褐色 外面暗褐色 黒褐色			近世
第119図1	N15-29	1.37.40	在地産 内耳土器 焙烙	胴部 30%	(34.0) (28.8) (7.3)		精緻密 雲母 (多)砂粒 石英含む		内面黒褐色暗褐色 外面黒褐色	内外面ナデ	外面 ススト 付着	16C
第119図2	N15-19 N15-18	11 1.4	在地産 内耳土器 焙烙	20%	(34.8) (30.0) 7.2		精緻密 雲母 (多)砂粒 石英(少)	良好	内面橙色 外面暗褐色	内外面ナデ		16C
第119図3	N15-08	4	在地産 内耳土器 焙烙	20%	(33.2) (29.0) 6.9		精緻密 砂粒 雲母(多) 石英(多)		内面褐色 外面灰褐色 黒色	内外面ナデ	外面 ススト 付着	16C
第119図4	N15-09	1	在地産 内耳土器 焙烙	20%	(31.9) (26.0) 5.6		精緻密 砂粒 雲母(多) 石英(少)	良好	内面褐色 外面暗褐色	内外面ナデ		16C
第119図5	N15-08	1	在地産 カワラケ	70%	11.0 5.2 2.8				内外面にぶい褐色	回転糸切り ミコミナデ		16C
第119図6	N15-18	28	在地産 カワラケ	95%	10.4 5.4 3.0		精緻密 砂粒 雲母	良好	内外面明赤褐色	回転糸切り	炭 付着	16C
第119図7	N15-29	42	在地産 カワラケ	40%	(10.0) (4.5) (2.8)		精緻密 砂粒		内外面にぶい橙色			16C
第119図8	N15-08	1	在地産 カワラケ	30%	(11.0) (5.0) (3.0)		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい橙色			16C
第119図9	N15-08 N15-29	6 41	在地産 カワラケ	70%	11.8 6.3 3.1		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り	器面同化激しい(特に内面)	16C

番号	遺構番号	遺物番号	産地器種	遺存度	口径(cm)底径(cm)器高(cm)	釉薬	胎土	焼成	色調	調整・技法	備考	時期
第119図10	N15-29	1	在地産カワラケ	85%	10.3 7.2 2.2		精緻密	良好	内外面にぶい褐色	回転糸切り ミコミナデ		16C
第119図11	N15-19	22	在地産カワラケ	60%	(11.0) 6.0 (2.8)		精緻密 砂粒雲母	良好		回転糸切り	底部焼成後穿孔	16C
第119図12	N15-29	1.33	在地産カワラケ	30%	(11.0) (6.1) (2.6)		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい橙色			16C
第119図13	N15-19	23	在地産カワラケ	50%	(8.9) 4.2 2.3		精緻密 砂粒雲母	良好	内外面にぶい黄橙色	回転糸切り ミコミナデ		16C
第119図14	N15-18	14	在地産カワラケ	20%	(8.5) (4.0) (2.7)		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい橙色	回転ヘラケズリ	底部に棒状圧痕	近世
第119図15	N15-29	35	在地産カワラケ	95%	9.7 2.6 4.0		精緻密 砂粒雲母	良好	内外面にぶい黄橙色	内面ナデ 切り離し後ナデ		16C
第119図16	N15-18	40	在地産カワラケ	100%	5.5 3.5 1.7		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り		近世
第119図17	N15-18	33	在地産カワラケ	95%	5.9 3.5 1.7		精緻密 砂粒雲母	良好	内外面橙色	回転糸切りか摩耗している		近世
第119図18	N15-29	30	在地産カワラケ	80%	6.4 3.8 2.0		精緻密	良好	内面橙色 外面明赤褐色	回転糸切り		近世
第119図19	N15-29	1	在地産カワラケ	60%	(6.4) 3.5 (2.2)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			近世
第119図20	N15-29	29	在地産カワラケ	100%	7.0 4.1 2.2		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り		近世
第119図21	N15-29	21	在地産カワラケ	98%	7.2 4.0 2.2		精緻密 砂粒赤色粒	良好	内外面橙色	回転糸切り		近世
第119図22	N15-18	39	在地産カワラケ	100%	5.9 3.5 1.7		精緻密 砂粒		内外面橙色	回転糸切り		近世
第119図23	N15-29	1	在地産カワラケ	30%	(6.9) (3.5) (2.0)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り		近世
第119図24	N15-29	58	在地産カワラケ	70%	6.8 3.6 1.8		精緻密 砂粒	良好	内面橙色 外面にぶい褐色	回転糸切り 中央部指で押さえる		近世
第119図25	N15-29	1	在地産カワラケ	40%	(7.0) (4.2) (2.0)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色			近世
第119図26	N15-19	1	在地産カワラケ	20%	(8.7) (6.6) (1.7)		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切り		近世
第119図27	N15-29	1	在地産カワラケ	底部20%	— (4.7) —		精緻密 砂粒	良好	内外面橙色	回転糸切りか		近世
第119図28	015-20	10	瀬戸・美濃志野丸皿	50%	(11.4) 7.0 2.2	灰白色	灰白色			底部は無釉		17C初
第119図29	015-20 015-30 015-30	6 2 12	瀬戸・美濃擂鉢	30%	— (10.6) —	赤灰色	灰白色			外面ナデ 内外面錆釉(全面施釉) 底部糸切り後ナデ	櫛目3条残る 1条あたり13本の溝	近世
第119図30	015-30	13	在地産カワラケ	20%	(10.0) (6.8) (2.8)		精緻密 砂粒	良好	内外面にぶい橙色	回転糸切り		16C
第119図31	015-30	8	在地産カワラケ	100%	7.8 4.8 2.2		精緻密 砂粒	良好	内外面褐灰色	回転糸切り		16C
第119図32	015-30	16	在地産カワラケ	95%	7.3 5.0 1.7		精緻密 砂粒	良好	内外面灰白色	回転糸切り		16C

第17表　中・近世土製品等観察表

挿図番号	遺構番号	遺物番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	調整・技法	色調	備考
第34図12	(7)SK010	3	転用砥石	9.5	7.9	1.5	135.00			雲滑を転用
第34図13	(7)SK010	2, 4, 28, 61	瓦	(23.2)	15.5	6.8	1008.50	内面布目痕ヘラケズリ 凸面ナデ 側面調整一部還元している	凸面にぶい橙色、灰白色 凹面にぶい黄橙色	
第38図9	(7)SX005	**1**	**転用砥石**	9.0	8.1	1.5	78.80			**須恵器を転用**
第38図10	(7)SX005	**1**	**転用砥石**	5.7	7.7	1.3	145.73			**須恵器を転用**
第40図2	(11)SK2005	2	転用円盤	3.3	3.1	0.7	7.20	釉		瀬戸・美濃志野丸皿底部を転用
第41図7	(11)SK2009	18	転用土製	4.0	2.9	0.9	13.40		内面黄灰色 外面にぶい黄橙色	土器片を方形に調整
第41図8	(11)SK2009	9	転用円盤	4.5	4.2	1.2	21.80	内面黒色の釉釉	内面明褐灰色 外面明褐灰色	天目茶碗底部を利用
第42図19	(11)SK2014	1	転用円盤	5.6	6.3	0.9	30.40			土器を転用
第44図4	(11)SX2003	10	丸瓦	12.6	14.6	7.6	428.50	外面ヘラナデ 側面調整 端面調整	内外面灰色	断面布目痕
第51図13	(15)SK008	1	転用砥石	9.4	8.1	2.0	103.60			須恵器壺を転用
第51図14	(15)SK008	1	転用砥石	7.5	5.4	1.3	46.50			雲滑を転用
第52図11	(15)SK009	1	転用砥石	6.7	4.3	0.7	35.90	灰釉		陶器を転用
第99図1	(7)SD008	**4**	**転用砥石**	6.0	3.9	0.9	26.81			擂鉢を転用
第99図2	(7)SD009	**2**	**転用円盤**	2.8	3.0	1.0	11.92			擂鉢を転用
第100図10	(11)SD2003	5	丸瓦	8.7	8.2	7.7	261.50	玉縁式	内外面灰色	還元焼成 接端面一部(イキ)が見られる 布目摩滅玉縁接合部分で破損 丸瓦部分のみ残る。指から外すためのヒモ痕が側面に残る。破断面を見ると中心部に濃い灰のサンド状態。
第101図8	(11)SD2001	14	巴文瓦	11.3	4.7	4.3	111.42		褐灰色 黒褐色	還元。3点と巴文の一部が残る。裏面と側面に油煙のようなものが付着。
第107図2	(16)SD001	1	転用円盤	4.8	2.3	1.0	13.70			擂鉢を転用
第107図3	(16)SD001	1	転用円盤	3.2	3.0	0.8	9.90			土器を転用
第120図1	014-13	1	巴文軒丸瓦	(6.4)	(5.4)	(1.8)	43.10			破片転用の可能性あり、摩滅が進行し詳細不明。
第120図2	014-26	1	転用円盤	3.2	3.2	0.9	12.20			雲滑を転用
第120図3	**014**	**1**	**有孔円盤**	2.3	2.4	0.7	**4.45**			
第120図4	014-62	1	転用砥石	7.9	6.0	1.0	68.50			須恵器を転用
第120図5	014-63	1	転用砥石	9.5	7.0	1.4	91.00			雲滑を転用
第120図6	014-74	1	雲滑・彫 転用砥石	7.9	4.4	1.6	53.20			雲滑彫を転用
第120図7	R14	3	転用円盤	2.7	2.4	0.7	5.37			陶器を転用
第120図8	N15-29	44	巴文瓦	(9.1)	(8.3)	(2.9)	129.33	丸瓦部分接合粘土		内側油煙のような黒褐色の物質が付着
第120図9	N15-29	17	転用円盤	5.3	5.4	1.6	46.02	釉釉		瀬戸・美濃天目茶碗高台部分を転用
第120図10	015-10	1	転用砥か	8.8	9.4	1.3	129.96			雲滑彫体部内面全体を転用
第120図11	015-30	1	転用砥石	4.7	4.4	1.1	25.10	内外面鉄釉かふる		瀬戸・美濃擂鉢底面を転用

第18表　中・近世石器・石製品等観察表

挿図番号	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
第32図2	(7)SK005	2	砥石	凝灰岩	14.3	3.1	3.0	159.52	
第32図4	(7)SK006	1	砥石	凝灰岩	5.2	4.9	12.0	41.34	
第33図1	(7)SK009	1.2	石臼(上臼)	安山岩	(24.2)	(20.9)	(12.5)	635.50	
第35図1	(7)SK010	88	板碑 転用砥石	緑泥片岩	(20.8)	(18.8)	(2.8)	1784.45	裏面 ノミ痕残る。
第35図2	(7)SK010	94	板碑 転用砥石	緑泥片岩	(21.4)	(16.5)	(2.5)	1415.41	裏面 ノミ痕残る。
第35図3	(7)SK010	40	砥石	凝灰岩	7.9	4.0	2.2	91.17	
第35図4	(7)SK010	31	砥石	凝灰岩	7.0	3.7	2.8	93.47	
第35図5	(7)SK010	27	砥石	凝灰岩	11.7	11.0	9.1	1314.13	
第35図6	(7)SK010	34	砥石	凝灰岩	8.7	6.9	4.0	346.16	
第35図7	(7)SK010	23	板碑 転用砥石	緑泥片岩	13.7	8.8	0.9	221.98	
第35図8	(7)SK010	14	砥石	安山岩	11.5	4.3	3.1	158.85	
第35図9	(7)SK010	7	砥石	凝灰岩	10.1	13.1	9.8	1492.79	
第37図8	(7)SX003	1	石臼（下臼）	安山岩	(20.2)	(8.9)	(6.6)	660.85	
第37図9	(7)SX003	1	板碑 転用砥石	緑泥片岩	(17.7)	(13.9)	(2.2)	745.95	
第37図10	(7)SX003	1	板碑 転用砥石	緑泥片岩	9.9	6.6	1.9	151.40	

挿図番号	遺構番号	遺物番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
第37図11	(7)SX003	1	礎	凝灰岩	5.0	4.6	1.6	31.38	
第38図11	(7)SX010	2	砥石	流紋岩	13.6	13.5	10.7	2280.00	実測図裏面に線状の砥ぎ痕(2条)と溝状の砥ぎ痕(1条)か。
第40図3	(11)SK2005	5	砥石	花崗岩	14.8	23.4	7.1	3600.00	
第41図5	(11)SK2009	16	礎	凝灰岩	(11.7)	(5.1)	(1.5)	77.39	
第41図6	(11)SK2009	4	砥石	凝灰岩	8.4	3.7	2.8	125.92	
第42図18	(11)SK2014	3	砥石	凝灰岩	9.3	3.3	2.1	86.74	
第43図4	(11)SX2002	5	石臼	安山岩	(19.8)	(27.0)	(8.5)	4830.00	断面 付着物
第43図5	(11)SX2002	3	砥石	凝灰岩	10.1	9.4	1.7	196.47	
第45図1	(11)SX2003	7	板碑(表・裏) 転用砥石	緑泥片岩	39.1	22.7	2.3	3750.00	左上から右下方向に溝。銀何なものを研いだか。文字、ノミ痕。
第46図1	(11)SX2003	4	板碑 転用砥石	緑泥片岩	29.3	15.3	2.8	2145.00	左半分欠損が残る 表面は砥石に転用か。焼けた痕跡が見られる。
第46図2	(11)SX2003	6	板碑 転用砥石	緑泥片岩	25.3	23.0	3.0	2880.00	文字 摩滅
第47図1	(11)SX2003	8	板碑(表・裏) 転用砥石	緑泥片岩	31.9	20.0	2.2	2300.00	表 文字 裏 ノミ痕
第51図12	(15)SK008	1	砥石	緑泥片岩	12.5	5.8	1.4	162.92	
第54図2	(16)SK014	2	砥石	凝灰岩	3.2	4.1	3.7	79.40	
第56図1	(16)SK004	1	板碑	緑泥片岩	(22.8)	(17.5)	(2.1)	1921.98	三尊種子の板碑 下部残る。裏面横方向にノミ痕が入る。側面イキ。
第70図1	(16)SK048	3	石臼	安山岩	(14.0)	(12.8)	(6.8)	1421.45	
第84図5	(16)SK023A	2	砥石	凝灰岩	9.9	3.9	3.1	128.54	
第100図11	(11)SB2003	3	砥石	凝灰岩	9.6	4.0	3.0	131.42	
第105図3	(15)SD001	1	礎	凝灰岩	(5.5)	(7.3)	(2.5)	78.66	
第120図12	013-99	1	石塔か 転用砥石	凝灰岩	13.1	6.0	7.5	761.40	
第120図13	013-45	1	石臼	安山岩	6.5	6.2	2.4	132.10	
第120図14	013-90	1	砥石	凝灰岩	5.1	3.0	22.5	48.53	
第120図15	M14-20	2	砥石	凝灰岩	8.6	2.8	1.5	45.80	
第120図16	M14-20	2	砥石	凝灰岩	6.4	2.5	1.5	33.78	
第120図17	M14-20	2	砥石	凝灰岩	6.0	3.4	0.9	32.55	
第120図18	M14-20	2	砥石	凝灰岩	5.6	3.6	1.0	25.50	
第120図19	N14-66	1	礎	凝灰岩	2.4	7.7	2.3	37.39	
第120図20	N14-56	1	石臼(上臼)	安山岩	(9.7)	(10.2)	(3.3)	269.13	底面全面に7～10mm間隔のタテ方向の線状痕か。
第120図21	N14-49	1	砥石	凝灰岩	4.5	8.0	3.1	161.27	
第120図22	N14-48	1	礎	凝灰岩	5.2	5.2	0.8	33.64	
第120図23	N14-98	1	砥石	凝灰岩	3.8	4.2	1.1	30.50	
第120図24	N14-49	1	砥石	凝灰岩	16.2	5.6	2.7	343.06	
第120図25	N14-09	1	砥石	凝灰岩	9.8	3.7	2.7	118.61	
第120図26	N14-49	1	砥石	凝灰岩	7.9	4.0	2.3	79.87	
第120図27	N14-64	1	砥石	凝灰岩	4.2	3.4	1.2	31.73	
第120図28	N14-99	1	砥石	凝灰岩	4.5	4.3	1.7	62.64	
第120図29	N14-08	1	砥石	凝灰岩	8.0	4.6	2.7	115.07	
第120図30	N14-18	1	砥石	凝灰岩	7.3	3.4	1.8	60.58	
第121図1	140-60	1	板碑 転用砥石	緑泥片岩	(15.0)	(9.7)	(1.9)	459.97	文字
第121図2	014-66	4	石臼	安山岩	(20.1)	(11.2)	(7.5)	1259.11	
第121図3	014-62	1	石塔 転用砥石	安山岩	9.3	9.4	6.7	465.14	
第121図4	014-58	1	砥石	凝灰岩	8.5	4.1	4.8	221.39	
第121図5	014-53	1	石塔 転用砥石	安山岩	11.5	9.7	5.3	638.84	
第121図6	014-26	1	砥石	凝灰岩	6.0	2.6	2.1	46.54	
第121図7	014-55	1	砥石	凝灰岩	4.6	3.3	1.7	34.54	
第121図8	014-76	3	砥石	凝灰岩	10.5	3.5	2.4	115.30	
第121図9	014-63	1	砥石	凝灰岩	8.3	3.9	2.9	104.07	
第121図10	014-00	1	砥石	安山岩	11.1	8.6	2.1	321.19	
第121図11	014-18	1	砥石	凝灰岩	(8.3)	3.5	3.7	124.75	

挿図番号	遺構番号	遺物番号	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　考
第121図12	014-40	1	砥石	凝灰岩	9.6	5.2	3.1	126.43	
第121図13	014-75	2	砥石	凝灰岩	6.4	3.4	3.2	127.94	
第121図14	L15-37	1	砥石	凝灰岩	(6.4)	5.6	3.7	271.74	
第121図15	N15-18	28	石塔	安山岩	14.0	15.5	14.0	4280.00	
第121図16	N15-29	61	転用砥石	安山岩	11.1	10.1	4.5	356.77	縄文時代石皿の転用と思われる。
第122図1	N15-29	5	石臼	安山岩	(19.2)	(11.9)	(8.8)	1237.06	
第122図2	N15-29	68	砥石	凝灰岩	5.8	5.8	5.3	275.77	
第122図3	N15-29	38	砥石	凝灰岩	8.6	5.3	2.4	167.95	
第122図4	N15-09	5	板碑	緑泥片岩	6.8	5.6	1.2	58.79	
第122図5	N15-29	12	板碑 転用砥石	緑泥片岩	10.8	7.0	2.3	227.83	
第122図6	N15-19	5	板碑 転用砥石	緑泥片岩	16.6	6.7	1.9	353.67	
第122図7	N15-29	13	砥石	凝灰岩	12.1	4.1	2.7	184.75	
第122図8	N15-19	6	砥石	凝灰岩	9.7	2.9	2.6	98.49	
第122図9	N15-29	31	砥石	凝灰岩	10.9	3.1	3.7	117.12	
第122図10	O15-20	12	砥石	凝灰岩	9.8	4.4	2.4	193.31	
第122図11	O15-20	7	砥石	凝灰岩	9.7	4.4	3.7	181.34	
第122図12	O15-01	2	砥石	凝灰岩	10.7	6.1	3.2	316.99	
第123図1	O15-30	9	石臼	安山岩	(10.1)	(12.6)	(3.9)	578.42	棒状工具による溝。

第19表　中・近世金属製品等観察表

挿図番号	遺構番号	遺物番号	器　種	長さ(cm)	巾(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
第56図1	(7)SX001	3	鎌	(24.8)	(4.7)	(0.5)	114.77	
第61図1	(16)SK007A	7−2	キセル	8.0	3.1	径 1.5	10.12	銅製
第61図2	(16)SK007A	7−1	キセル柄	(9.4)	(1.0)	(0.9)	6.98	銅製
第61図4	(16)SK025B	5	隅金具	(4.8)	(3.3)	—	6.09	銅25%残る。
第61図5	(16)SK025B	7	カギ状鉄製品	(4.9)	(1.4)	(0.4)	2.80	
第61図6	(16)SK026	5	丸掛金	5.5	1.5	1.4	5.75	
第61図8	(16)SK040	3	丸掛金	3.6	1.9	1.3	4.26	木質付着
第61図9	(16)SK040	4	丸掛金	3.4	2.0	1.2	5.26	木質付着
第67図1	(16)SK027	3	カギ状鉄製品 (フック)	(7.6)	1.5	0.5	11.65	錆金
第68図1	(16)SK039	6	棒状鉄製品	6.0	1.0	0.4	6.07	
第71図1	(16)SK049	8	刀子	刀身長 11.3 全長 22.0 茎長 10.7	刀身 2.1 茎 0.9	刀身 0.4 茎 0.3	38.62	刀身部分に布付着。
第84図9	(16)SK059A	7	キセル	(2.3)	1.2	径 1.3	4.45	銅製
第101図9	(11)SD2001	10	キセル	(1.4)	(1.5)	径 1.5	1.55	銅製 内面はサビで薬がついている。
第123図2	N14−18	1	棒状鉄製品	現存長(68.60)mm		7.37mm×7.85mm	21.76	上・下破損
第123図3	N14−19	1	板状鉄製品	(8.8)	(4.9)	(0.6)	97.92	両刃か
第123図4	O14−13	1	カスガイ	(9.0)	(9.0)	(1.0)	54.73	
第123図5	O14−52	1	火縄銃の玉	1.2	1.2	1.2	和 10.03	
第123図6	R15−40	4	キセル	3.3	1.1	径 1.1	5.91	銅製
第123図7	R15−30	5	板状鉄製品	3.0	2.2	0.3	6.53	表面右上に変色した1mm未満の銅部 裏面にはなし。

第20表　中・近世木製品等観察表

番号	遺構番号	遺物番号	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
第47図2	(11)SX2003	19	ゲタ	22.3	9.4	3.5	
第47図3	(11)SX2003	13	板状木製品	25.2	4.2	1.0	
第47図4	(11)SX2003	15	両端部に加工痕のある棒状木製品	59.7	5.5	4.2	汚れ・摩耗の為 木目不明

掲図番号	遺構名	遺物番号	銭種名（）内は推定	書体	背文	時代	初鋳年	外縁外径(mm)		外縁内径(mm)		内郭外径(mm)		内郭内径(mm)		厚(mm)		重量(g)	備考
								縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	外縁	内郭		
第42図1	(11)SK2011	1	寛永通寶	-		江戸	1636	-	23.05	-	19.80	6.83	6.92	5.29	5.55	(1.42)	(0.88)	1.63	初鋳年示唆(621年)・遺(8455年)あり
第46図1	(12)SB001	2-5	開元通寶	-		南宋	960	24.10	24.18	20.67	20.32	8.48	8.50	7.28	7.26	1.16	0.64	2.53	
第46図2	(12)SB001	2-2	皇宋通寶	篆書		北宋	1038	24.31	24.37	20.78	20.55	9.22	8.58	7.62	7.55	0.95	0.78	2.82	
第46図3	(12)SB001	2-3	皇宋通寶	篆書		北宋	1038	24.57	24.52	19.92	20.42	8.40	8.21	6.82	6.32	1.25	0.72	3.42	
第46図4	(12)SB001	2-4	熙寧元寶	真書		北宋	1068	23.90	24.00	21.00	20.38	8.52	8.53	7.78	7.22	1.10	0.85	3.02	
第46図5	(12)SB001	2-1	永樂通寶	-	「三」	南宋	1228	24.30	24.40	20.27	20.68	8.29	8.28	6.38	6.40	1.35	0.75	3.44	
第46図6	(12)SB001	2-6	朝鮮通寶	真書		朝鮮	1423	24.21	24.05	19.79	20.05	7.17	7.15	6.14	5.88	1.53	0.55	3.52	
第55図1	(16)SK003	10-1	天(福)通寶	-		北宋	1017	24.28	24.28	19.58	19.81	7.99	8.06	6.37	6.50	1.21	0.72	3.07	
第55図2	(16)SK003	10-2	天聖元寶	篆書		北宋	1023	24.24	24.11	20.28	20.63	8.54	8.32	6.54	6.64	1.06	0.62	2.90	
第55図3	(16)SK003	10-5	**至和元寶**	篆書		北宋	1054	23.32	23.52	19.61	19.90	7.90	7.56	6.13	6.17	1.20	0.89	3.51	
第55図4	(16)SK003	10-3	**(治)平元寶**	真書		**北宋**	**1064**	24.50	24.64	18.95	19.18	8.25	7.94	6.46	6.45	1.16	0.52	2.74	
第55図5	(16)SK003	10-6	**(紹)定通寶**	-	「四」	南宋	1228	24.20	23.72	20.71	21.05	8.38	8.37	6.38	6.92	0.90	0.50	2.14	
第55図6	(16)SK003	10-4	洪武通寶	-	「一銭」	明	1368	22.58	22.90	18.12	18.21	6.80	6.50	5.13	5.40	1.36	0.90	3.40	
第55図7	(16)SK003	2-5	天聖元寶	真書		北宋	1023	25.27	25.14	20.43	20.63	9.06	8.91	7.47	7.20	1.14	0.68	3.50	
第55図8	(16)SK003	2-4	元豊通寶	篆書		北宋	1078	25.03	25.17	18.26	18.64	8.66	8.60	7.08	6.91	1.13	0.70	3.28	
第55図9	(16)SK003	2-2	元祐通寶	篆書		北宋	1086	23.91	23.79	19.12	19.71	8.60	8.54	7.25	7.25	1.14	0.90	3.21	
第55図10	(16)SK003	1	紹聖元寶	篆書		北宋	1094	23.91	23.86	18.77	19.40	8.24	8.12	6.79	6.89	1.23	0.88	2.35	
第55図11	(16)SK003	2-3	淳熙元寶	真書	「熙」	南宋	1174	24.25	23.96	18.67	18.87	8.73	8.79	7.19	6.55	1.13	0.79	3.47	
第55図12	(16)SK003	2-1	永樂通寶	-		明	1408	24.93	24.83	21.10	21.11	7.30	7.50	5.82	5.94	1.20	0.48	2.62	
第55図13	(16)SK003	7-1	永樂通寶	-		明	1408	24.79	24.66	21.40	21.38	7.52	7.48	6.15	6.11	1.32	0.70	3.90	
第55図14	(16)SK003	7-2	永樂通寶	-		明	1408	25.41	25.26	21.37	21.38	8.08	7.96	6.30	6.32	1.23	0.70	2.68	
第55図15	(16)SK003	7-3	永樂通寶	-		明	1408	24.38	24.44	20.41	20.57	7.15	7.14	6.47	6.29	1.60	1.20	4.65	
第55図16	(16)SK003	7-4	永樂通寶	-		明	1408	24.58	24.44	20.77	21.00	7.42	7.40	6.06	5.88	1.21	1.18	3.46	
第55図17	(16)SK003	7-5	永樂通寶	-		明	1408	24.64	24.85	21.50	21.49	7.11	7.23	6.06	5.98	1.43	0.80	3.50	
第55図18	(16)SK003	7-6	永樂通寶	-		明	1408	24.43	24.56	20.82	20.77	7.59	7.23	6.53	6.23	1.05	0.66	2.58	
第57図1	(16)SK005A	4-5	開元通寶	不明		南宋	960	23.80	23.50	20.02	20.00	9.02	9.08	6.82	7.32	0.85	0.72	2.65	
第57図2	(16)SK005A	4-2	開元通寶	不明		南宋	960	23.72	23.94	20.29	20.40	9.12	8.25	7.58	7.20	1.14	0.78	2.80	模銭銭
第57図3	(16)SK005A	4-4	(皇)宋(通)寶	(篆書)		北宋	1038	23.58	23.70	19.82	19.53	9.45	9.62	8.02	8.33	0.60	0.47	1.91	
第57図4	(16)SK005A	4-3	熙寧元寶	真書		北宋	1068	22.85	23.16	19.40	19.39	8.68	8.73	7.28	7.32	0.93	0.50	1.85	
第57図5	(16)SK005A	4-6	淳(熙)元寶	真書	**(月星)**	南宋	1174	23.37	23.10	18.52	17.81	8.08	7.87	6.73	6.40	0.80	0.72	2.43	
第57図6	(16)SK005A	4-1	永樂通寶	-		明	1408	24.30	24.63	20.38	20.30	6.50	6.87	5.90	5.70	1.20	0.70	3.65	
第58図1	(16)SK005B	3-1	永樂通寶	-		明	1408	24.64	25.18	21.10	20.24	7.05	7.00	5.97	5.97	0.80	0.62	2.99	
第58図2	(16)SK005B	3-2	永樂通寶	-		明	1408	24.80	24.81	21.42	20.65	6.95	7.08	6.00	5.80	1.62	0.70	4.41	
第58図3	(16)SK005B	3-3	永樂通寶	-		明	1408	24.40	24.30	20.68	20.62	6.85	6.60	5.22	5.28	1.12	0.76	3.43	
第58図4	(16)SK005B	3-4	永樂通寶	-		明	1408	24.72	24.50	21.20	20.78	6.82	6.50	5.90	5.42	0.90	0.65	2.57	
第58図5	(16)SK005B	3-5	永樂通寶	-		明	1408	24.55	24.42	20.90	20.67	7.60	6.88	5.70	5.88	0.92	0.80	3.40	
第58図6	(16)SK005B	3-6	永樂通寶	-		明	1408	24.75	24.92	21.10	21.08	7.05	7.05	5.60	5.70	1.20	0.88	3.25	
第58図7	(16)SK006	3-7	元豊通寶	篆書		北宋	1078	23.90	24.04	20.90	20.60	8.79	8.27	7.53	6.91	1.02	0.52	2.09	
第58図8	(16)SK006	3-1	寛永通寶	-		江戸	1636	24.97	25.00	20.00	19.45	6.90	6.75	5.70	5.79	1.12	0.58	3.68	
第58図9	(16)SK006	3-2	寛永通寶	-		江戸	1636	24.15	24.15	19.68	19.55	7.38	7.38	5.67	5.79	1.05	0.72	3.03	
第58図10	(16)SK006	3-3	寛永通寶	-		江戸	1636	23.67	23.72	18.72	19.28	6.81	6.95	5.48	5.43	1.25	0.72	3.33	
第58図11	(16)SK006	3-4	寛永通寶	-		江戸	1636	24.42	24.47	20.25	20.33	7.00	6.43	5.98	5.50	1.30	0.72	3.27	
第58図12	(16)SK006	3-5	寛永通寶	-		江戸	1636	23.90	24.10	20.00	19.82	7.12	7.60	5.53	5.57	1.30	0.79	3.80	
第58図13	(16)SK006	3-6	寛永通寶	-		江戸	1636	23.75	23.75	19.50	19.32	7.67	7.37	5.40	5.48	1.02	0.60	2.49	
第62図1	(16)SK007A	8-5	景德元寶	-		北宋	1004	24.70	24.55	18.28	17.93	6.88	7.12	6.27	6.32	1.30	0.72	3.37	
第62図2	(16)SK007A	8-3	皇宋通寶	篆書		北宋	1038	24.30	23.91	20.28	19.80	9.72	8.90	7.98	7.40	1.00	0.77	2.68	
第62図3	(16)SK007A	8-1	熙寧元寶	真書		北宋	1068	23.13	23.50	17.80	18.78	8.05	7.55	6.88	6.47	1.10	0.70	2.83	
第62図4	(16)SK007A	8-2	熙寧元寶	篆書		北宋	1068	23.60	23.60	18.91	18.72	7.85	8.10	6.50	6.63	1.32	0.70	3.81	
第62図5	(16)SK007A	8-4	元豊通寶	行書		北宋	1078	23.95	23.98	18.50	18.40	7.80	8.18	6.50	6.55	1.22	0.83	3.65	
第62図6	(16)SK007A	8-6	紹聖元寶	行書		北宋	1094	24.20	23.65	18.50	18.53	7.72	7.70	6.20	6.54	1.36	0.90	4.05	
第62図7	(16)SK007A	6	永樂通寶	-		明	1408	24.50	24.50	22.00	22.30	7.50	6.20	5.50	6.20	1.43	0.50	1.73	
第62図8	(16)SK012	2-6	至道元寶	行書か		北宋	995	24.03	23.83	18.33	18.58	8.03	7.65	6.30	5.97	1.03	0.52	2.42	
第62図9	(16)SK012	2-5	(皇)宋通寶	篆書		北宋	1038	23.95	24.30	19.63	19.12	9.10	8.88	8.25	7.95	0.95	0.80	2.76	
第62図10	(16)SK012	2-3	熙寧元寶	真書		北宋	1068	23.05	23.11	19.12	19.20	7.80	7.88	6.30	6.18	1.07	0.73	2.89	
第62図11	(16)SK012	2-4	元豊通寶	篆書		北宋	1078	24.05	24.00	18.69	19.18	8.45	8.50	7.03	7.07	1.20	0.88	3.58	
第62図12	(16)SK012	2-2	元祐通寶	行書		北宋	1086	24.23	24.15	20.61	20.10	8.62	8.71	7.10	7.40	1.20	0.78	3.48	
第62図13	(16)SK012	2-1	政和通寶	分楷		北宋	1111	24.30	24.35	20.75	20.90	7.85	7.75	6.64	6.69	1.10	0.98	3.69	
第62図14	(16)SK024	4-6	景(德)元寶	-		北宋	1004	24.26	24.49	20.02	19.79	7.68	7.94	6.63	6.96	1.24	0.70	3.20	
第62図15	(16)SK024	4-4	政和通寶	分楷		北宋	1111	24.75	24.59	21.60	21.92	8.40	8.49	7.18	7.05	1.25	0.67	3.05	
第62図16	(16)SK024	4-1	永樂通寶	-		明	1408	24.81	24.77	21.40	21.52	7.18	7.26	6.29	6.44	1.26	0.71	2.58	
第62図17	(16)SK024	4-2	永樂通寶	-		明	1408	24.54	24.92	21.25	21.34	7.32	7.73	6.22	6.28	1.67	0.90	4.14	
第62図18	(16)SK024	4-3	永樂通寶	-		明	1408	25.16	25.15	21.41	21.33	7.45	7.15	6.09	5.78	1.58	0.77	4.09	
第62図19	(16)SK024	5-1	永樂通寶	-		明	1408	24.63	25.20	21.31	21.06	7.70	7.47	6.00	5.79	1.35	0.72	3.28	
第62図20	(16)SK024	5-2	永樂通寶	-		明	1408	25.27	25.05	21.33	21.34	6.95	7.45	5.96	5.84	1.44	0.48	3.27	
第62図21	(16)SK024	5-3	永樂通寶	-		明	1408	25.16	25.55	21.32	21.10	7.13	7.29	5.86	6.12	1.35	0.51	2.91	
第62図22	(16)SK024	5-4	永樂通寶	-		明	1408	25.04	25.06	21.28	21.27	7.31	7.18	6.30	6.22	1.22	0.72	3.86	
第62図23	(16)SK024	5-5	永樂通寶	-		明	1408	24.77	24.89	21.34	20.98	7.41	7.36	6.31	6.13	1.23	0.60	3.47	
第62図24	(16)SK024	5-6	永樂通寶	-		明	1408	24.90	24.91	21.44	21.26	7.07	7.19	6.58	6.37	1.22	0.50	2.27	
第63図1	(16)SK024	4-5	官錢通寶	-		明	1433	25.40	25.32	21.23	21.30	6.64	7.03	6.01	6.10	1.29	0.68	3.42	
第63図2	(16)SK0258	3-1	寛永通寶	-		江戸	1636	24.29	24.34	19.92	20.39	7.43	7.48	6.17	6.61	1.25	0.68	3.01	

挿図番号	遺構名	遺物番号	銘種名（）内は推定	書体	背文	時代王朝	初鋳年	外縁外径(mm)		外縁内径(mm)		内郭外径(mm)		内郭内径(mm)		厚(mm)		重量(g)	備考
								縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	外縁	内郭		
第63583	(16)SK0258	3-2	寛永通寶	〃		江戸	1636	24.08	24.17	20.71	20.81	7.26	7.08	6.33	6.15	1.25	0.76	3.67	
第63584	(16)SK0258	3-3	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.66	24.88	19.78	20.08	7.54	7.73	6.10	6.23	1.31	0.82	3.26	
第63585	(16)SK0258	3-4	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.43	24.46	19.48	20.17	7.26	7.58	6.18	6.06	1.13	0.66	2.38	
第63586	(16)SK0258	3-5	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.61	24.68	20.07	20.09	7.11	7.14	7.26	6.22	1.26	0.67	3.40	
第63587	(16)SK0258	3-6	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.62	24.55	20.40	19.85	7.27	7.09	5.99	5.67	1.20	0.68	3.40	
第63588	(16)SK0226	9	熙寧(元)寶	篆書		北宋	1068	23.87	24.03	(18.90)	18.90	8.65	8.20	6.65	6.77	1.00	0.70	3.09	
第63589	(16)SK0226	7-1	熙寧元寶	篆書		北宋	1068	24.05	24.20	18.90	18.65	7.37	7.18	6.28	6.50	1.20	0.70	3.41	
第63610	(16)SK0226	8	元豐通寶	行書		北宋	1078	24.45	24.30	18.10	19.11	7.78	8.20	6.65	6.81	1.18	0.70	2.90	
第63611	(16)SK0226	7-2	**(銘)聖元寶**	**篆書**		**北宋**	**1094**	23.67	23.78	18.81	18.89	7.60	7.95	6.45	6.18	1.40	0.72	3.58	
第63612	(16)SK0226	6	永楽通寶	〃		明	1408	24.45	24.30	21.02	20.92	7.13	6.93	5.90	6.10	1.10	0.48	2.17	
第63613	(16)SK0311	16-1	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.36	24.37	20.42	20.22	6.99	7.17	6.20	6.24	1.24	0.47	2.64	頒曾下賜
第63614	(16)SK0311	16-2	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	23.39	23.58	19.45	19.56	7.44	7.73	6.44	6.35	1.12	0.68	2.66	頒曾下賜
第63615	(16)SK0311	16-3	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	23.75	23.61	20.09	20.35	7.54	7.74	5.94	5.78	1.31	0.78	2.97	頒曾下賜
第63616	(16)SK0311	16-4	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.55	24.56	20.06	19.97	7.28	7.72	6.14	6.10	1.26	0.70	3.52	頒曾下賜
第63617	(16)SK0311	16-5	寛永通寶(新)	〃		江戸	1636	24.17	24.24	19.72	19.71	7.66	7.38	5.61	5.38	1.13	0.77	3.20	頒曾下賜
第63618	(16)SK0311	17	開元通寶	〃		江戸	1636	24.42	24.55	19.64	19.47	7.44	7.18	6.05	5.95	1.63	0.60	3.15	
第63619	(16)SK0040	12-1	開元通寶	〃		南唐	960	24.83	24.72	21.46	21.21	8.64	8.65	7.22	7.32	1.38	0.60	2.88	初鋳年が唐(621年)・唐(845年)あり
第63620	(16)SK0040	12-2	開元通寶	〃		南唐	960	24.19	23.95	20.87	20.33	8.63	8.33	7.51	6.94	1.22	0.88	3.18	初鋳年が唐(621年)・唐(845年)あり
第63621	(16)SK0040	12-6	(天)聖元寶	篆書		北宋	1023	23.71	24.10	20.29	20.45	8.67	8.69	7.53	7.31	1.27	0.65	2.55	
第63622	(16)SK0040	12-4	(天禧通)寶	篆書		北宋	1078	23.63	23.52	20.42	19.70	8.72	8.63	7.76	7.49	1.18	0.76	2.69	
第63623	(16)SK0040	12-5	聖宋元寶	行書		北宋	1101	23.98	23.68	20.54	20.45	8.54	8.43	7.01	7.21	1.34	0.77	2.34	
第63624	(16)SK0040	12-3	洪武通寶	〃		明	1368	23.08	23.76	20.21	19.84	7.82	7.25	6.06	6.45	1.38	0.70	3.16	
第64581	(16)SK0040	5	永楽通寶	〃		明	1408	25.41	25.32	21.73	21.30	7.02	7.63	6.53	6.16	1.38	0.62	(2.15)	
第64582	(16)SK0050	6-2	至和元寶	西書		北宋	1054	23.92	23.79	17.96	18.37	8.00	8.13	6.74	6.68	1.30	0.90	3.28	頒曾と出土
第64583	(16)SK0050	6-4	至和元寶	西書		北宋	1054	24.81	24.76	19.42	19.17	8.22	8.47	7.14	7.19	1.30	0.76	3.80	頒曾と出土
第64584	(16)SK0050	6-1	元(豐)通寶	篆書		北宋	1078	25.59	24.44	20.63	20.60	9.03	9.05	7.32	7.37	1.34	0.91	4.03	頒曾と出土
第64585	(16)SK0050	6-3	元豐通寶	篆書		北宋	1078	23.55	23.44	19.70	18.53	8.26	7.56	6.51	6.25	1.23	0.90	3.10	頒曾と出土
第64586	(16)SK0050	6-16	元祐通寶	行書		北宋	1086	24.26	24.16	20.32	20.21	8.77	8.56	7.21	7.55	1.24	0.82	3.35	頒曾と出土
第64587	(16)SK0050	6-5	聖宋元寶	篆書		北宋	1101	23.71	23.53	20.24	19.73	8.43	8.31	7.11	6.72	1.27	0.98	3.21	頒曾と出土
第64588	(16)SK0051	3	永楽通寶	〃		明	1408	25.23	24.82	21.58	21.31	7.57	7.43	6.03	6.17	1.20	0.48	1.79	
第64589	(16)SK0051	4	永楽通寶	〃		明	1408	24.34	24.69	21.39	21.27	7.13	6.92	6.29	6.19	1.37	0.68	1.81	
第64610	(16)SK0051	6	永楽通寶	〃		明	1408	24.80	24.83	21.46	21.66	7.16	7.36	6.03	6.08	1.30	0.70	1.67	
第64611	(16)SK0051	7	永楽通寶	〃		明	1408	25.16	25.28	21.24	20.99	7.34	6.99	6.18	6.02	1.36	0.92	3.13	
第64612	(16)SK0051	5-1	永楽通寶	〃		明	1408	25.03	24.86	21.46	21.39	7.21	7.36	5.99	5.87	1.46	0.56	2.43	
第64613	(16)SK0051	5-2	永楽通寶	〃		明	1408	(24.71)	25.07	20.88	21.32	7.30	7.45	6.41	5.99	1.30	0.61	2.85	
第64614	(16)SK0051	5-3	永楽通寶	〃		明	1408	25.07	25.25	21.17	21.11	7.12	6.91	6.36	5.95	1.41	0.69	2.85	
第65581	(16)SK0010	2-1	永楽通寶	〃		明	1408	24.52	24.58	21.08	21.00	7.15	6.59	5.85	5.48	1.08	0.66	3.23	
第65582	(16)SK0010	2-2	永楽通寶	〃		明	1408	24.64	24.62	21.06	21.32	7.00	6.94	5.90	5.88	1.50	0.70	3.52	
第65583	(16)SK0010	2-3	永楽通寶	〃		明	1408	24.90	24.92	21.20	21.08	6.95	6.88	6.39	6.20	1.41	0.60	3.01	
第65584	(16)SK0010	2-4	永楽通寶	〃		明	1408	25.10	25.00	21.00	21.10	7.00	6.73	6.02	5.98	1.33	0.70	3.93	
第65585	(16)SK0010	2-5	永楽通寶	〃		明	1408	24.90	24.92	21.63	20.92	6.74	6.90	5.95	6.10	1.18	0.66	3.70	
第65586	(16)SK0010	2-6	永楽通寶	〃		明	1408	25.20	25.29	21.00	21.21	6.78	6.72	6.20	5.82	1.33	0.70	3.60	
第66581	(16)SK0010	1-1	永楽通寶	〃		明	1408	25.42	25.49	21.42	21.08	7.13	6.92	5.55	6.02	1.30	0.48	2.65	
第66582	(16)SK0010	1-2	永楽通寶	〃		明	1408	25.35	25.28	21.67	21.18	6.98	7.00	5.98	5.62	1.32	0.60	3.08	
第66583	(16)SK0010	1-3	永楽通寶	〃		明	1408	25.32	25.40	20.83	20.68	7.05	6.93	6.08	5.85	1.26	0.45	2.44	
第66584	(16)SK0010	1-4	永楽通寶	〃		明	1408	24.35	25.00	21.27	20.90	7.00	7.21	6.30	6.20	1.22	0.62	3.38	
第66585	(16)SK0010	1-5	永楽通寶	〃		明	1408	25.17	24.99	21.10	21.32	7.05	6.93	5.47	5.71	1.10	0.60	2.60	
第66586	(16)SK0010	1-6	永楽通寶	〃		明	1408	24.96	24.91	21.21	21.05	6.62	6.80	5.80	6.05	1.25	0.62	3.22	
第66587	(16)SK0011	1	永楽通寶	〃		明	1408	24.71	24.70	20.90	21.25	7.23	6.97	6.09	5.52	1.22	0.62	2.88	
第66588	(16)SK0011	2	永楽通寶	〃		明	1408	24.82	24.82	20.70	20.80	6.92	6.80	5.79	5.73	1.40	0.50	2.78	
第66589	(16)SK0011	3-1	永楽通寶	〃		明	1408	24.81	24.81	21.28	21.52	7.43	7.28	5.89	6.05	1.09	0.74	3.19	
第66610	(16)SK0011	3-2	永楽通寶	〃		明	1408	24.50	24.70	21.25	20.85	6.92	6.75	5.75	5.69	1.12	0.52	2.76	
第66611	(16)SK0011	4	永楽通寶	〃		明	1408	24.77	24.61	20.90	20.80	7.00	7.00	6.00	6.06	1.25	0.72	3.32	
第66612	(16)SK0011	5	永楽通寶	〃		明	1408	25.00	25.05	20.42	20.20	6.98	7.15	5.90	5.80	1.30	0.58	3.10	
第66613	(16)SK0020	2-1	永楽通寶	〃		明	1408	24.82	24.90	20.80	21.25	6.98	7.05	5.73	5.50	1.41	0.59	3.31	
第66614	(16)SK0020	2-2	永楽通寶	〃		明	1408	24.70	24.85	20.80	20.60	7.31	7.22	5.93	6.40	1.22	0.48	2.72	
第66615	(16)SK0020	2-3	永楽通寶	〃		明	1408	25.10	25.10	21.41	21.41	7.15	7.64	6.00	6.20	1.13	0.56	2.74	
第66616	(16)SK0020	2-4	永楽通寶	〃		明	1408	24.87	24.91	20.90	20.98	7.30	7.30	6.50	6.10	1.62	0.72	3.59	
第66617	(16)SK0020	2-5	永楽通寶	〃		明	1408	24.78	25.10	21.61	21.26	6.98	6.70	5.80	5.62	1.20	0.60	2.84	
第66618	(16)SK0020	2-6	永楽通寶	〃		明	1408	24.80	24.75	21.30	21.09	6.97	7.13	5.68	5.70	1.11	0.57	2.63	
第67562	(16)SK0027	5-7	熙寧元寶	篆書		北宋	1068	(22.80)	23.30	—	—	8.42	8.55	7.52	7.50	1.10	0.80	3.00	
第67563	(16)SK0027	5-1	永楽通寶	〃		明	1408	24.92	25.00	21.00	20.80	7.33	7.18	6.14	6.05	1.15	0.47	2.81	
第67564	(16)SK0027	5-2	永楽通寶	〃		明	1408	24.93	24.83	21.20	21.00	7.23	7.23	6.06	5.90	1.20	0.40	3.33	
第67565	(16)SK0027	5-3	永楽通寶	〃		明	1408	24.85	24.65	21.20	20.90	7.10	7.05	6.20	5.90	1.45	0.62	3.58	
第67566	(16)SK0027	5-4	永楽通寶	〃		明	1408	25.18	25.07	20.72	20.60	6.95	6.95	6.07	5.83	1.03	0.40	3.08	
第67567	(16)SK0027	5-5	永楽通寶	〃		明	1408	24.56	24.37	21.39	21.45	7.00	6.95	6.18	6.29	1.00	0.38	2.20	
第67568	(16)SK0027	5-6	永楽通寶	〃		明	1408	25.00	24.70	21.30	21.10	7.50	7.10	6.41	6.15	0.92	0.38	2.37	
第69581	(16)SK0478	3-1	永楽通寶	〃		明	1408	24.83	24.80	21.04	21.38	7.06	7.22	6.21	6.09	1.24	0.57	3.54	
第69582	(16)SK0478	3-2	永楽通寶	〃		明	1408	25.81	25.24	20.89	21.36	7.41	7.33	6.08	6.13	1.29	0.56	2.71	
第69583	(16)SK0478	3-3	永楽通寶	〃		明	1408	24.78	24.86	21.30	21.29	7.27	7.35	6.29	6.32	1.00	0.41	1.62	
第69584	(16)SK0478	3-4	永楽通寶	〃		明	1408	24.90	24.85	21.13	21.05	7.26	7.15	5.67	5.59	1.40	0.56	2.92	

挿図番号	遺構名	遺物番号	銘題名（）内は推定	書体	背文	時代王朝	初鋳年	外縁外径（mm）		外縁内径（mm）		内郭外径（mm）		内郭内径（mm）		厚（mm）		重量（g）	備考
								縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	外縁	内郭		
第60585	(16)SK0478	3-5	永楽通寶	－		明	1408	25.00	25.16	21.02	21.17	7.45	7.45	5.90	6.21	1.42	0.69	3.49	
第60586	(16)SK0478	3-6	永楽通寶	－		明	1408	25.58	25.17	20.93	21.10	7.21	7.37	6.05	5.97	1.25	0.43	3.46	
第70582	(16)SK048	4-1	永楽通寶	－		明	1408	24.93	25.05	21.31	21.08	7.60	7.29	6.25	6.33	1.48	0.70	3.61	
第70583	(16)SK048	4-2	永楽通寶	－		明	1408	25.10	25.10	21.30	20.94	7.35	7.32	6.13	6.33	1.49	0.62	2.73	
第70584	(16)SK048	4-3	永楽通寶	－		明	1408	25.08	25.13	20.85	20.97	7.20	7.14	6.08	5.68	1.35	0.45	2.45	
第70585	(16)SK048	4-4	永楽通寶	－		明	1408	24.92	24.88	21.05	20.98	7.23	7.37	6.42	6.19	0.97	0.53	2.80	
第70586	(16)SK048	4-5	永楽通寶	－		明	1408	25.73	25.26	21.32	21.26	7.29	7.35	6.67	5.96	1.14	0.58	3.12	
第70587	(16)SK048	4-6	永楽通寶	－		明	1408	24.58	24.78	21.05	21.12	7.03	7.08	6.55	6.44	1.21	0.39	2.50	
第71582	(16)SK049	3	永楽通寶	－		明	1408	24.82	25.10	21.58	21.43	7.05	7.33	6.17	6.18	1.28	0.70	1.87	
第71583	(16)SK049	4	永楽通寶	－		明	1408	25.10	24.99	21.32	21.30	7.07	7.05	5.54	5.88	1.28	0.55	2.57	
第71584	(16)SK049	6	永楽通寶	－		明	1408	25.14	25.41	20.88	21.08	6.95	7.24	6.03	6.02	1.17	0.62	3.06	
第71585	(16)SK049	7-1	永楽通寶	－		明	1408	24.69	24.82	20.95	20.96	7.17	7.10	6.09	6.10	1.34	0.69	3.22	
第71586	(16)SK049	7-2	永楽通寶	－		明	1408	25.02	24.88	21.20	21.32	7.01	7.31	6.03	6.19	1.39	0.57	3.02	
第71587	(16)SK049	7-3	永楽通寶	－		明	1408	25.01	25.03	21.32	21.36	7.42	7.24	6.23	6.38	1.30	0.51	3.65	
第73582	(16)SK055	31	永楽通寶	－		明	1408	25.14	25.04	20.98	21.05	6.78	6.89	5.79	5.75	1.14	0.37	2.69	
第73583	(16)SK055	32-1	永楽通寶	－		明	1408	24.95	25.13	20.57	21.27	7.38	8.02	6.16	6.50	1.35	0.75	3.24	
第73584	(16)SK055	32-2	永楽通寶	－		明	1408	24.95	25.03	20.97	21.21	7.05	7.66	5.94	5.86	1.32	0.40	3.31	
第73585	(16)SK055	35-1	永楽通寶	－		明	1408	25.10	25.06	21.28	21.26	7.06	6.95	6.23	6.41	1.28	0.63	3.18	
第73586	(16)SK055	35-2	永楽通寶	－		明	1408	24.88	24.89	21.10	21.19	6.87	7.24	6.14	6.08	1.20	0.58	3.17	
第73587	(16)SK055	36	永楽通寶	－		明	1408	25.04	24.97	21.20	21.26	7.36	7.29	6.45	6.22	1.25	0.80	2.72	
第73588	(16)SK055	15-1	寛永通寶	－		江戸	1636	24.86	24.71	20.08	20.17	7.40	7.60	5.72	5.87	1.34	0.43	2.59	
第73589	(16)SK055	15-2	寛永通寶	－		江戸	1636	24.21	24.12	18.87	19.72	7.61	7.53	6.07	6.18	1.41	0.80	3.38	
第73510	(16)SK055	15-3	寛永通寶	－		江戸	1636	24.46	24.44	19.33	19.42	7.56	7.71	6.30	6.00	1.33	0.72	3.79	
第73511	(16)SK055	16	寛永通寶	－		江戸	1636	23.63	23.59	18.66	18.94	7.32	7.28	5.93	6.11	1.34	0.70	3.11	
第73512	(16)SK055	17	寛永通寶	－		江戸	1636	23.72	23.55	19.43	19.28	7.75	7.66	6.37	6.80	1.16	0.48	2.26	
第73513	(16)SK055	18	寛永通寶	－		江戸	1636	24.97	24.82	20.27	19.68	7.05	7.07	5.88	5.82	1.48	0.75	3.85	
第75581	(16)SK062	3	寛永通寶	－		江戸	1636	23.41	23.41	19.52	19.50	7.24	7.28	6.04	5.86	1.74	0.72	2.15	
第76581	(16)SK065	3-1	永楽通寶	－		明	1408	24.99	25.11	21.38	21.12	7.40	7.40	6.67	6.21	1.28	0.73	3.68	
第76582	(16)SK065	3-2	永楽通寶	－		明	1408	25.05	25.03	20.40	20.28	7.38	7.36	6.03	5.95	1.34	0.60	3.12	
第76583	(16)SK065	3-3	永楽通寶	－		明	1408	24.82	24.96	20.95	20.97	7.19	7.18	6.23	5.89	1.48	0.70	3.14	
第76584	(16)SK065	3-4	永楽通寶	－		明	1408	24.96	25.06	21.48	21.30	7.20	7.19	5.90	5.90	1.18	0.48	3.26	
第76585	(16)SK065	3-5	永楽通寶	－		明	1408	24.62	24.86	20.07	21.20	7.29	7.41	6.75	6.28	1.31	0.82	3.24	
第76586	(16)SK065	3-6	永楽通寶	－		明	1408	24.82	25.33	21.15	21.40	7.11	7.08	6.18	6.28	1.30	0.70	3.69	
第85581	(16)SK008	4-1	永楽通寶	－		明	1408	24.43	24.40	20.65	20.39	7.02	7.02	5.88	5.92	1.25	0.58	3.45	
第85582	(16)SK008	4-2	永楽通寶	－		明	1408	25.10	25.05	20.80	20.95	7.21	6.90	5.50	5.78	1.10	0.60	2.66	
第85583	(16)SK008	4-3	永楽通寶	－		明	1408	24.80	24.78	20.00	20.18	6.68	7.10	5.52	5.48	1.60	0.85	4.35	
第85584	(16)SK008	4-4	永楽通寶	－		明	1408	25.30	25.37	20.52	20.90	6.80	6.93	5.75	5.58	1.40	0.68	4.09	
第85585	(16)SK008	4-5	永楽通寶	－		明	1408	25.00	24.85	21.25	21.08	7.40	7.18	5.93	5.90	1.40	0.67	3.55	
第85586	(16)SK008	4-6	永楽通寶	－		明	1408	24.57	24.60	21.29	21.10	7.33	7.32	6.17	6.05	1.30	0.80	3.84	
第85587	(16)SK015	46	聖宋元寶	行書		北宋	1101	24.12	24.37	20.17	20.20	8.18	8.30	6.98	6.85	1.30	0.80	2.79	
第85588	(16)SK015	45	嘉定通寶			南宋	1208	24.44	23.60	21.10	20.80	8.12	7.90	7.23	7.10	1.19	0.58	2.21	模鋳銭
第85589	(16)SK015	41	永楽通寶	－		明	1408	24.85	24.80	21.00	21.02	7.15	7.02	5.50	5.60	1.23	0.45	2.95	
第85510	(16)SK015	43	永楽通寶	－		明	1408	24.90	25.07	21.00	21.02	6.83	6.50	5.30	5.62	1.23	0.49	2.32	
第85511	(16)SK015	44	永楽通寶	－		明	1408	25.00	25.13	20.33	20.32	6.70	6.60	5.64	5.56	1.20	0.68	2.97	
第85512	(16)SK015	42-1	永楽通寶	－		明	1408	25.10	24.98	20.92	21.00	7.12	6.89	5.94	5.77	1.14	0.48	2.54	
第85513	(16)SK015	42-2	永楽通寶	－		明	1408	24.92	25.00	21.33	20.98	6.87	6.98	5.93	5.30	1.30	0.38	2.77	
第85514	(16)SK015	47-1	永楽通寶	－		明	1408	24.62	24.52	21.33	21.20	7.20	6.85	5.73	5.87	1.08	0.68	3.02	
第85515	(16)SK015	47-2	永楽通寶	－		明	1408	25.00	24.93	21.65	21.30	7.91	7.00	6.50	6.00	1.15	0.48	2.90	
第85516	(16)SK015	55	永楽通寶	－		明	1408	25.00	25.00	21.25	21.30	7.30	7.50	5.67	5.53	1.17	0.66	3.31	
第85517	(16)SK017	3-3	開元通寶	－		南宋	960	24.00	24.10	20.22	20.20	7.89	7.95	6.67	6.30	1.10	0.70	2.96	初鋳年示唆(621年)+唐(845年)あり
第85518	(16)SK017	3-6	淳化元寶	行書		北宋	990	22.23	22.40	17.20	17.00	6.88	7.04	6.02	5.88	0.90	0.38	1.83	
第85519	(16)SK017	3-5	景祐元寶	篆書		北宋	1034	24.10	24.20	21.38	21.32	9.02	8.93	6.70	6.80	1.15	0.75	2.90	
第85520	(16)SK017	3-1	元豐通寶	篆書		北宋	1078	24.43	24.35	19.13	19.37	8.41	8.58	6.90	7.20	1.27	0.81	3.91	
第85521	(16)SK017	3-4	景定元寶	－	「二」	南宋	1260	23.90	24.00	20.18	21.00	8.60	8.77	6.72	6.80	1.45	1.07	4.57	
第85522	(16)SK017	3-2	永楽通寶	－		明	1408	24.55	24.84	21.22	21.05	7.30	6.98	5.90	6.10	1.50	0.62	3.53	
第85523	(16)SK018	11-1	開元通寶	－		南宋	960	24.60	24.50	20.90	21.00	8.12	8.20	6.80	7.05	1.48	0.87	3.69	初鋳年示唆(621年)+唐(845年)あり
第85524	(16)SK018	11-6	(皇宋)通寶	篆書		北宋	1038	23.50	23.42	18.32	19.55	8.35	8.27	6.70	6.75	1.23	0.73	2.80	
第85581	(16)SK018	11-4	熙寧元寶	篆書		北宋	1068	23.90	24.30	20.25	20.22	9.00	8.80	7.20	7.18	1.22	0.67	3.50	
第85582	(16)SK018	11-2	元豐通寶	篆書		北宋	1078	23.83	23.68	19.40	19.20	8.20	7.98	7.60	6.82	1.18	0.63	3.00	
第85583	(16)SK018	11-3	元豐通寶	篆書		北宋	1078	24.15	23.93	18.72	18.32	8.22	8.68	7.13	7.00	1.30	0.82	3.54	
第85584	(16)SK018	11-5	(政和通寶)	篆書		北宋	1111	24.20	24.10	20.65	20.72	7.72	7.73	6.77	6.73	1.10	0.70	2.83	
第85585	(16)SK021	17-1	元(豐)通寶	篆書		北宋	1078	23.50	23.50	19.60	19.50	8.80	8.65	6.92	6.99	1.05	0.68	2.51	
第85586	(16)SK021	16-1	永楽通寶	－		明	1408	24.78	24.90	20.90	21.50	7.32	7.23	5.80	5.72	1.08	0.58	3.40	
第86587	(16)SK021	16-2	永楽通寶	－		明	1408	24.94	24.83	21.13	21.12	7.40	7.00	6.10	5.90	1.40	0.71	2.86	
第86588	(16)SK021	16-3	永楽通寶	－		明	1408	25.00	25.12	20.80	20.80	6.79	6.97	5.90	6.35	1.52	0.60	4.16	
第86589	(16)SK021	16-4	永楽通寶	－		明	1408	24.65	24.75	21.12	20.92	6.97	7.03	5.90	6.18	1.40	0.66	3.29	
第86510	(16)SK021	16-5	永楽通寶	－		明	1408	24.72	24.79	21.02	20.43	6.70	6.68	5.70	5.73	1.05	0.52	2.50	
第86511	(16)SK021	16-6	永楽通寶	－		明	1408	25.26	25.13	20.80	20.78	7.23	7.40	6.15	6.24	1.20	0.48	3.11	
第86512	(16)SK021	10-1	永楽通寶	－		明	1408	24.90	24.90	21.43	20.90	7.18	6.95	5.85	5.72	1.27	0.48	3.06	
第86513	(16)SK021	10-2	永楽通寶	－		明	1408	25.00	25.00	21.53	21.30	6.80	7.00	5.52	5.73	1.50	0.56	3.08	
第86514	(16)SK021	10-3	永楽通寶	－		明	1408	24.74	24.92	20.95	21.40	7.30	7.02	6.30	6.12	1.20	0.75	3.42	

挿図番号	遺構名	遺物番号	銘題名（）内は推定	書体	背文	時代	王朝	初鋳年	外縁外径(mm) 縦	外縁外径(mm) 横	外縁内径(mm) 縦	外縁内径(mm) 横	内郭内径(mm) 縦	内郭内径(mm) 横	厚(mm) 外縁	厚(mm) 内面	重量(g)	備考
第86図15	(16)SK021	10-4	永楽通寶	－		明		1408	24.67	24.60	20.61	20.62	7.23	7.02	5.88	5.95	1.110	0.66	3.49	
第86図16	(16)SK021	10-5	永楽通寶	－		明		1408	24.53	24.59	21.25	21.17	7.00	7.10	6.02	6.00	1.22	0.67	2.61	
第86図17	(16)SK021	10-6	永楽通寶	－		明		1408	25.10	24.98	20.60	21.07	6.67	6.95	6.12	5.92	1.30	0.63	3.22	
第86図18	(16)SK022	2-6	仟符元寶	行書か		北宋		1009	23.99	23.76	19.02	19.48	7.94	7.89	6.39	6.44	1.10	0.72	2.76	
第86図19	(16)SK022	2-2	仟符通寶	－		北宋		1009	24.98	24.98	19.11	19.24	8.41	8.26	6.63	6.70	1.25	0.88	3.75	
第86図20	(16)SK022	2-3	元豐通寶	篆書		北宋		1078	23.79	23.80	19.49	19.15	8.53	7.92	7.00	7.04	1.21	0.63	3.22	
第86図21	(16)SK022	2-5	（元）豐通寶	篆書		北宋		1078	23.33	23.35	18.33	18.08	8.87	9.06	7.39	7.34	1.25	0.68	2.41	
第86図22	(16)SK022	2-4	元符通寶	篆書		北宋		1098	23.67	23.66	18.91	19.42	8.08	8.46	6.38	6.72	1.26	0.81	3.60	
第86図23	(16)SK022	2-1	政和通寶	分楷		北宋		1111	24.50	24.52	21.87	22.13	8.40	8.53	7.02	6.83	1.16	0.73	3.13	
第86図24	(16)SK023A	11-1	寛永通寶	－		江戸	寛永	1636	24.61	24.50	20.14	20.25	7.21	7.42	6.21	6.25	1.35	0.80	3.12	
第87図1	(16)SK023A	11-2	寛永通寶	－		江戸	寛永	1636	24.61	24.55	20.25	20.37	6.98	6.97	6.11	5.81	1.45	0.76	3.69	
第87図2	(16)SK023A	11-3	寛永通寶	－		江戸	寛永	1636	24.87	24.92	19.55	19.53	7.55	6.80	6.01	5.84	1.24	0.63	3.89	
第87図3	(16)SK023A	11-4	寛永通寶	－		江戸	寛永	1636	24.19	24.42	20.03	20.02	7.32	7.50	5.54	5.71	1.46	0.77	3.36	
第87図4	(16)SK023A	11-5	寛永通寶	－		江戸	寛永	1636	24.06	23.89	20.10	19.73	7.31	7.05	5.77	5.65	1.31	0.59	2.21	
第87図5	(16)SK023A	11-6	寛永通寶	－		江戸	寛永	1636	24.72	24.60	20.72	19.95	7.09	6.91	6.11	6.39	1.27	0.60	3.03	
第87図6	(16)SK023C	5	永楽通寶	－		明		1408	24.70	24.74	21.24	20.89	7.63	7.86	6.06	5.90	1.08	0.59	1.90	
第87図7	(16)SK023C	3-1	永楽通寶	－		明		1408	24.93	24.97	21.38	21.35	7.50	7.66	6.40	6.43	1.26	0.60	2.50	
第87図8	(16)SK028A	25-1	永楽通寶	－		明		1408	24.89	24.90	21.00	21.05	7.41	7.27	6.43	6.31	1.44	0.75	3.41	
第87図9	(16)SK028A	25-2	永楽通寶	－		明		1408	24.97	25.00	20.72	21.09	7.66	7.94	6.19	6.14	1.35	0.66	3.16	
第87図10	(16)SK028A	24	不明	不明					23.57	23.54	(18.63)	(19.70)	8.91	9.23	6.62	6.47	1.21	0.80	2.70	
第87図11	(16)SK028B	41	永楽通寶	－		明		1408	－	25.41	－	21.23	7.25	7.21	6.22	6.37	1.50	0.72	3.31	
第87図12	(16)SK028B	27-1	永楽通寶	－		明		1408	25.18	25.34	20.92	21.36	7.14	6.91	6.46	6.25	1.40	0.86	3.89	
第87図13	(16)SK028B	27-2	永楽通寶	－		明		1408	24.79	24.75	21.37	21.21	7.27	6.93	6.07	6.30	1.25	0.66	3.23	
第87図14	(16)SK028B	27-3	永楽通寶	－		明		1408	24.66	24.60	21.41	21.41	7.23	7.33	6.34	5.99	1.32	0.68	3.33	
第87図15	(16)SK028B	27-4	永楽通寶	－		明		1408	25.18	25.18	20.91	21.37	7.10	7.12	6.22	6.31	1.28	0.68	3.64	
第87図16	(16)SK028B	27-5	永楽通寶	－		明		1408	25.31	25.00	21.38	21.32	7.12	7.32	6.13	6.33	1.44	0.80	3.12	
第87図17	(16)SK028B	27-6	永楽通寶	－		明		1408	25.43	25.31	21.45	21.31	7.41	7.54	6.06	6.14	1.24	0.37	3.31	
第87図18	(16)SK028C	14-1	元豐通寶	行書		北宋		1078	23.92	23.94	18.48	18.46	8.23	8.25	6.87	7.02	1.27	0.86	2.76	
第87図19	(16)SK028C	14-2	大観通寶	－		北宋		1107	23.79	23.83	21.20	20.79	8.83	8.48	7.17	7.06	1.15	0.72	2.69	
第87図20	(16)SK029	4-1	永楽通寶	－		明		1408	25.45	(24.61)	21.53	21.21	7.17	7.48	5.85	6.10	1.34	0.81	3.18	
第87図21	(16)SK029	4-2	永楽通寶	－		明		1408	25.19	25.79	21.67	21.53	6.92	7.48	5.91	5.84	1.34	0.60	3.28	
第87図22	(16)SK029	4-3	永楽通寶	－		明		1408	25.24	25.22	21.25	21.43	7.41	7.44	6.03	5.97	1.19	0.76	3.61	
第87図23	(16)SK029	4-4	永楽通寶	－		明		1408	25.41	25.19	21.42	21.69	7.52	7.44	6.21	6.16	1.30	0.62	3.92	
第87図24	(16)SK029	4-5	永楽通寶	－		明		1408	25.31	24.80	20.80	20.96	7.25	7.18	6.23	6.31	1.31	0.63	2.89	
第88図1	(16)SK029	4-6	永楽通寶	－		明		1408	25.55	25.33	21.47	21.20	7.25	7.36	5.71	5.88	1.50	0.86	3.41	
第88図2	(16)SK030	8-3	天聖元寶	篆書		北宋		1023	24.94	24.77	20.86	20.79	9.00	8.81	7.41	7.31	1.17	0.59	3.02	
第88図3	(16)SK030	7-3	天聖元寶	篆書		北宋		1023	24.89	24.79	21.32	21.24	9.02	9.02	7.27	7.21	1.20	0.61	3.10	
第88図4	(16)SK030	8-2	元豐通寶	行書		北宋		1078	25.16	25.29	18.46	19.12	8.36	8.59	6.71	6.91	1.25	0.73	3.66	
第88図5	(16)SK030	8-1	永楽通寶	－		明		1408	25.34	24.94	20.96	21.14	7.43	7.37	6.15	6.28	1.14	0.48	2.65	
第88図6	(16)SK030	7-1	永楽通寶	－		明		1408	25.06	24.85	21.13	21.15	7.35	7.07	5.94	5.92	1.35	0.60	3.06	
第88図7	(16)SK030	7-2	永楽通寶	－		明		1408	25.25	25.05	21.04	21.26	7.15	7.01	6.11	5.86	1.19	0.61	3.58	
第88図8	(16)SK033	5-4	永楽通寶	－		北宋		976	24.19	24.11	19.30	18.71	7.79	8.05	6.23	6.48	1.04	0.57	2.52	
第88図9	(16)SK033	5-5	（符）符（元）寶	－		北宋		1009	(22.56)	(23.67)	19.25	19.34	8.07	8.25	6.48	6.76	(0.80)	0.56	2.06	
第88図10	(16)SK033	5-1	元豐通寶	行書		北宋		1078	23.85	23.69	19.11	19.35	8.94	8.68	7.41	7.25	1.12	0.72	3.00	
第88図11	(16)SK033	5-2	元豐通寶	篆書		北宋		1078	23.52	23.44	19.46	19.73	8.60	8.67	6.86	7.04	1.27	0.73	3.09	
第88図12	(16)SK033	5-6	（紹聖）元寶	篆書		北宋		1094	23.65	23.89	18.70	18.62	7.88	8.01	6.80	6.67	1.04	0.60	2.58	
第88図13	(16)SK033	5-3	聖宋元寶	行書		北宋		1101	23.69	23.73	18.93	19.32	7.97	7.82	5.95	6.20	1.23	0.67	3.07	
第88図14	(16)SK034	26	仟符通寶	－		北宋		1009	24.85	24.96	19.24	19.52	8.01	8.02	6.54	6.98	1.25	0.77	3.48	
第88図15	(16)SK034	24-2	皇宋通寶	篆書		北宋		1038	24.66	24.87	20.31	19.57	9.14	9.16	8.16	7.95	1.07	0.87	2.94	
第88図16	(16)SK034	25-1	元豐通寶	行書		北宋		1078	24.70	24.57	18.86	19.46	8.44	8.30	7.43	7.06	1.01	0.57	3.08	
第88図17	(16)SK034	24-1	聖宋元寶	篆書		北宋		1101	24.45	24.53	20.42	20.25	8.06	8.11	6.93	6.74	1.25	0.80	2.89	
第88図18	(16)SK034	25-2	聖宋元寶	篆書		北宋		1101	23.85	23.75	19.83	19.80	8.38	8.65	7.29	7.09	1.41	0.98	2.56	
第88図19	(16)SK034	25-3	政和通寶	篆書		北宋		1111	25.52	23.66	20.62	21.06	8.57	8.25	7.02	6.73	1.15	0.66	3.23	
第88図20	(16)SK034	3-1	永楽通寶	－		明		1408	25.55	24.83	20.94	20.98	7.11	7.29	6.10	6.09	1.39	0.56	3.16	
第88図21	(16)SK034	3-2	永楽通寶	－		明		1408	25.70	26.31	21.13	21.12	7.25	7.62	5.80	6.10	1.57	0.76	4.23	
第88図22	(16)SK034	3-3	永楽通寶	－		明		1408	25.52	25.36	21.19	20.98	7.22	7.35	6.10	5.96	1.65	0.67	3.73	
第88図23	(16)SK034	18-2	永楽通寶	－		明		1408	24.68	24.56	21.33	21.49	7.21	7.26	6.68	5.95	1.48	0.90	4.00	
第88図24	(16)SK034	18-1	永楽通寶	－		明		1408	25.09	24.77	21.00	21.07	7.32	7.38	6.42	6.41	1.38	0.80	3.80	
第89図1	(16)SK035	17-1	永楽通寶	－		明		1408	24.93	24.82	20.85	21.10	7.26	6.98	6.40	6.30	1.29	0.72	3.94	
第89図2	(16)SK035	17-2	永楽通寶	－		明		1408	24.81	25.04	21.59	21.85	7.34	7.09	6.01	6.22	1.21	0.61	3.54	
第89図3	(16)SK035	17-3	永楽通寶	－		明		1408	24.82	24.79	21.18	21.36	7.26	7.39	6.28	6.17	1.32	0.61	3.54	
第89図4	(16)SK035	17-4	永楽通寶	－		明		1408	25.32	25.35	21.17	21.34	7.48	7.35	6.44	6.59	1.28	0.60	3.66	
第89図5	(16)SK035	17-5	永楽通寶	－		明		1408	24.98	25.05	21.10	21.41	7.49	7.38	6.50	6.25	1.20	0.63	3.11	
第89図6	(16)SK035	17-6	永楽通寶	－		明		1408	24.87	24.85	21.62	21.87	7.23	7.11	6.29	6.20	1.23	0.50	3.21	
第89図7	(16)SK036	3-3	皇宋通寶	篆書		北宋		1038	24.54	24.54	19.95	20.28	8.21	8.48	7.06	7.29	1.20	0.66	2.99	
第89図8	(16)SK036	4	元豐通寶	行書		北宋		1078	24.83	25.12	18.49	19.11	8.48	8.71	6.66	6.85	1.25	0.85	2.92	
第89図9	(16)SK036	5-5	元豐通寶	行書		北宋		1078	25.18	25.33	18.51	19.22	8.23	8.37	7.01	7.09	1.20	0.82	2.96	
第89図10	(16)SK036	3-1	（大）観通寶	－		北宋		1107	24.16	24.50	21.98	21.87	8.43	8.07	6.80	6.68	1.34	0.78	3.07	
第89図11	(16)SK036	3-2	大中通寶	－		唐		1361	23.41	23.52	19.95	20.10	7.60	7.75	6.32	6.39	1.61	0.80	2.78	
第89図12	(16)SK036	3-4	洪武通寶	－		明		1368	23.77	23.47	19.95	19.62	7.45	7.67	5.96	6.02	1.54	0.61	3.28	
第89図13	(16)SK037	13-5	天禧通寶	－		北宋		1017	24.18	24.44	19.31	19.74	7.54	7.90	6.53	6.20	1.37	0.87	3.85	
第89図14	(16)SK037	13-6	元（符）通寶	篆書		北宋		1098	24.35	24.33	17.53	18.43	8.36	8.25	6.77	6.76	1.53	1.02	3.96	

挿図番号	遺構名	遺物番号	銘題名（）内は推定	書体	背文	時代王朝	初鋳年	外縁外径（mm）		外縁内径（mm）		内郭外径（mm）		内郭内径（mm）		厚（mm）		重量（g）	備考
								縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	外縁	内郭		
第89図15	(16)SB037	13-1	永楽通寶	－		明	1408	24.96	24.98	21.32	21.33	7.27	7.32	6.45	6.22	1.44	0.73	3.41	
第89図16	(16)SB037	13-2	永楽通寶	－		明	1408	25.10	25.19	21.30	21.66	7.33	7.29	5.87	6.08	1.71	0.77	3.97	
第89図17	(16)SB037	13-3	永楽通寶	－		明	1408	24.94	24.86	21.00	20.47	7.50	7.16	6.09	6.13	1.18	0.66	3.23	
第89図18	(16)SB037	13-4	永楽通寶	－		明	1408	25.27	25.26	20.73	21.05	7.19	7.18	5.84	6.09	1.71	0.93	3.98	
第89図19	(16)SB042	4-1	寛永通寶	－		江戸	1636	24.01	24.10	19.69	19.73	7.57	7.35	5.95	5.68	1.53	0.97	4.23	
第89図20	(16)SB042	4-2	寛永通寶	－		江戸	1636	24.33	24.35	19.85	20.30	7.31	7.34	5.97	5.98	1.32	0.76	4.11	
第89図21	(16)SB042	4-3	寛永通寶	－		江戸	1636	24.58	24.54	20.31	20.55	7.56	7.77	6.03	6.12	1.41	0.57	3.86	
第89図22	(16)SB042	4-4	寛永通寶	－		江戸	1636	24.26	24.09	19.76	19.95	7.48	7.49	6.07	6.04	1.22	0.58	3.43	
第89図23	(16)SB042	4-5	寛永通寶	－		江戸	1636	24.36	24.23	19.99	20.27	7.41	7.42	5.73	5.54	1.32	0.89	3.94	
第89図24	(16)SB042	4-6	寛永通寶	－		江戸	1636	23.20	23.24	19.07	19.30	7.41	7.58	5.99	5.88	1.00	0.58	2.78	
第90図1	(16)SB059A	3-1	永楽通寶	－		明	1408	24.54	24.46	21.04	21.05	6.98	7.12	6.32	6.21	1.55	0.85	4.34	
第90図2	(16)SB059A	3-2	永楽通寶	－		明	1408	24.78	24.96	20.86	21.21	7.46	7.33	6.40	6.05	1.28	0.68	3.42	
第90図3	(16)SB059A	3-3	永楽通寶	－		明	1408	24.65	24.82	20.95	21.33	7.42	7.22	6.46	6.50	1.33	0.57	2.60	
第90図4	(16)SB059A	3-4	永楽通寶	－		明	1408	24.64	24.48	21.36	21.27	7.25	7.33	6.43	6.14	0.99	0.36	1.68	
第90図5	(16)SB059A	3-5	永楽通寶	－		明	1408	25.06	24.96	21.33	20.77	7.24	7.39	6.29	6.19	1.56	0.63	2.78	
第90図6	(16)SB059A	3-6	永楽通寶	－		明	1408	24.68	24.86	20.67	20.92	6.97	6.86	6.14	6.19	1.30	0.61	3.36	
第90図7	(16)SK061	3-1	永楽通寶	－		明	1408	24.77	24.79	21.19	21.28	7.01	7.32	5.92	5.98	1.41	0.65	3.67	
第90図8	(16)SK061	3-2	永楽通寶	－		明	1408	25.37	25.23	21.19	21.06	7.10	7.07	6.09	6.23	1.50	0.73	4.42	
第90図9	(16)SK061	3-3	永楽通寶	－		明	1408	24.98	25.00	21.45	21.20	7.16	6.96	6.33	6.12	1.30	0.57	3.16	
第90図10	(16)SK061	3-4	永楽通寶	－		明	1408	25.52	25.61	21.30	21.45	7.10	7.12	6.22	6.04	1.37	0.67	3.44	
第90図11	(16)SK061	3-5	永楽通寶	－		明	1408	24.85	24.99	21.19	21.05	7.36	7.15	5.91	6.09	1.27	0.52	3.40	
第90図12	(16)SK061	3-6	永楽通寶	－		明	1408	24.86	24.95	20.85	20.89	7.49	7.43	6.20	6.04	1.33	0.58	3.65	
第90図13	(16)SK063	6-1	永楽通寶	－		明	1408	25.01	25.11	20.99	20.98	7.04	7.29	6.46	6.20	1.44	0.67	3.70	
第90図14	(16)SK063	6-2	永楽通寶	－		明	1408	25.27	25.01	21.23	20.98	7.46	7.05	6.25	6.27	1.39	0.42	3.38	
第90図15	(16)SK063	6-3	永楽通寶	－		明	1408	24.67	24.56	21.21	21.26	－	－	－	－	1.21	0.58	2.53	
第90図16	(16)SK063	6-4	永楽通寶	－		明	1408	25.14	24.87	20.75	20.96	7.68	7.27	5.81	5.99	1.43	0.80	3.80	
第90図17	(16)SK063	6-5	永楽通寶	－		明	1408	25.28	25.28	21.13	21.37	7.28	7.33	6.27	5.97	1.23	0.58	3.52	
第90図18	(16)SK063	6-6	永楽通寶	－		明	1408	24.98	24.94	20.91	21.08	7.41	7.28	6.20	5.98	1.08	0.42	2.63	
第90図19	(16)SK064	3-5	洪武元寶	－		北宋	1009	24.71	24.72	18.27	18.62	7.19	7.27	6.67	6.52	1.20	0.78	3.51	
第90図20	(16)SK064	3-6	元祐通寶	篆書		北宋	1086	23.83	23.83	19.02	19.11	8.34	8.31	6.89	6.90	1.33	0.80	3.62	
第90図21	(16)SK064	3-1	永楽通寶	－		明	1408	25.10	25.07	21.07	21.20	7.13	7.11	5.98	5.97	1.30	0.57	2.97	
第90図22	(16)SK064	3-2	永楽通寶	－		明	1408	24.77	24.77	21.54	21.52	7.38	7.44	6.13	6.03	1.21	0.56	3.24	
第90図23	(16)SK064	3-3	永楽通寶	－		明	1408	24.76	24.62	21.39	21.14	7.18	7.06	6.80	6.24	1.15	0.56	2.43	
第90図24	(16)SK064	2-1	永楽通寶	－		明	1408	25.12	25.11	21.07	21.19	7.58	7.54	6.11	6.02	1.16	0.52	2.93	
第91図1	(16)SK064	2-2	永楽通寶	－		明	1408	25.14	25.19	20.97	20.82	7.43	7.19	6.03	6.08	1.56	0.68	3.88	
第91図2	(16)SK064	2-3	永楽通寶	－		明	1408	24.95	24.90	20.93	21.16	7.15	7.46	5.89	5.94	1.21	0.80	3.83	
第91図3	(16)SK064	2-4	永楽通寶	－		明	1408	24.93	25.01	21.01	21.12	7.18	7.23	6.03	6.11	1.21	0.57	2.93	
第91図4	(16)SK064	2-5	永楽通寶	－		明	1408	24.92	24.83	20.75	21.11	7.22	7.12	6.04	6.16	1.07	0.50	2.29	
第91図5	(16)SK064	2-6	永楽通寶	－		明	1408	25.10	25.03	21.24	20.90	7.20	7.19	6.22	6.09	1.34	0.77	3.37	
第91図6	(16)SK064	3-4	宣德通寶	－		明	1433	25.29	25.23	21.11	21.05	6.71	7.10	5.74	5.90	1.23	0.57	3.17	
第10図61	(7)SD010	32	皇元通寶	篆書		北宋	1038	24.88	24.71	19.79	19.40	9.15	8.97	7.46	7.82	1.08	0.75	2.22	
第10図64	(15)SD001	1-1	寛永通寶	－		江戸	1636	22.67	22.65	17.97	17.63	8.16	8.20	6.92	6.83	0.92	0.75	1.70	
第10図65	(15)SD001	1-2	寛永通寶	－		江戸	1636	22.12	22.66	18.71	18.04	7.90	7.87	6.50	6.46	1.19	0.75	2.01	
第10図66	(15)SD001	1-3	寛永通寶	－		江戸	1636	22.83	(21.96)	19.03	18.61	8.35	8.34	6.53	6.43	1.16	0.77	2.23	
第107図4	(16)SD001	4	寛永通寶	－		江戸	1636	23.10	23.22	18.65	17.67	7.72	7.73	6.22	6.22	1.02	0.70	2.40	
第123図8	1-4-99	1	寛永通寶	－		江戸	1636	24.52	24.55	20.50	19.55	7.50	7.37	6.01	6.02	1.21	0.65	2.63	
第123図9	8-4-76	1	寛永通寶	－		江戸	1636	23.53	23.51	19.83	19.78	7.81	7.81	6.79	6.80	1.15	0.95	2.64	
第123図10	8-4-78	1	寛永通寶	－		江戸	1636	24.44	24.41	20.24	20.35	8.07	7.68	6.39	6.28	1.27	0.77	2.76	
第123図11	8-4-86	1	寛永通寶	－		江戸	1636	(23.25)	23.67	19.76	20.18	7.94	7.63	6.17	6.48	1.21	0.95	1.82	
第123図12	8-4-89	1	寛永通寶	－		江戸	1636	23.07	23.03	19.44	19.25	8.58	8.47	7.27	7.11	1.12	0.88	2.08	
第123図13	8-4-89	1	寛永通寶	－		江戸	1636	22.44	22.71	19.30	18.76	9.09	7.89	7.76	7.10	1.04	0.65	1.77	
第123図14	8-4-99	1	寛永通寶	－		江戸	1636	24.32	24.16	19.57	19.51	7.63	7.45	6.97	6.97	1.05	0.85	3.04	
第123図15	0-4-12	1	(治)平元寶	篆書		北宋	1064	23.34	23.18	19.77	19.06	9.64	9.10	7.79	7.08	1.02	0.95	2.06	
第123図16	0-4-26	4	寛永通寶	－		江戸	1636	24.32	24.00	19.20	19.30	9.50	8.80	6.70	6.40	1.31	0.97	2.10	
第123図17	8-4-68	2	(至和)通寶	篆書		北宋	1054	23.94	24.25	19.86	19.73	9.60	8.90	7.20	7.50	1.02	0.90	2.42	
第123図18	8-5-29	55	寛永通寶	－		江戸	1636	23.27	23.39	20.02	19.80	7.64	7.84	6.06	5.67	1.23	0.83	2.18	
第123図19	0-5-39	3	永楽通寶	－		明	1408	24.80	24.75	21.38	21.73	7.36	7.69	6.18	6.35	1.31	0.63	2.31	
第124図1	0-5-39	3	永楽通寶	－		明	1408	24.68	24.95	21.16	21.33	7.55	6.83	6.74	5.94	1.22	0.75	3.14	
第124図2	0-5-39	3	永楽通寶	－		明	1408	24.90	24.69	21.54	21.31	7.51	7.52	5.95	6.13	1.48	0.84	3.46	
第124図3	0-5-39	3	永楽通寶	－		明	1408	24.42	24.20	21.41	21.18	7.44	7.55	6.19	5.81	1.50	1.00	3.32	
第124図4	0-5-39	3	永楽通寶	－		明	1408	25.00	24.90	21.14	21.54	7.44	7.56	6.05	6.09	1.20	0.70	3.62	
第124図5	8-5-10	3	嘉祐元寶	篆書		北宋	1056	24.76	24.42	20.94	21.07	10.39	10.02	7.93	8.45	1.07	0.90	2.32	
第124図6	8-5-10	3	洪武通寶	－		明	1368	24.36	23.82	20.38	20.12	8.15	7.83	6.34	5.75	1.35	0.77	3.50	
第124図7	8-5-32	5	永楽通寶	－		明	1408	25.30	25.25	21.82	21.22	7.18	7.30	6.20	6.15	1.10	0.37	2.72	
第124図8	8-5-32	5	永楽通寶	－		明	1408	25.00	24.91	21.14	21.68	6.93	7.19	6.46	6.07	1.34	0.85	3.58	
第124図9	8-5-32	5	永楽通寶	－		明	1408	25.30	25.38	21.06	21.35	7.72	7.23	6.01	5.81	1.49	0.82	3.78	
第124図10	8-5-32	5	永楽通寶	－		明	1408	25.18	25.28	21.49	21.37	7.20	7.41	6.17	6.24	1.14	0.62	3.06	
第124図11	8-5-32	5	永楽通寶	－		明	1408	25.16	25.12	21.16	21.34	7.52	8.07	6.45	6.36	1.38	0.82	3.94	
第124図12	8-5-32	5	永楽通寶	－		明	1408	25.02	25.34	21.21	21.25	6.89	7.39	6.20	6.27	1.29	0.68	3.19	
第124図13	8-5-10	3	永楽通寶	－		明	1408	25.45	25.60	21.32	21.30	7.33	7.09	6.33	6.27	1.25	0.60	3.35	
第124図14	8-5-10	3	永楽通寶	－		明	1408	25.07	25.13	21.53	21.35	7.34	7.47	5.89	5.59	1.20	0.75	3.61	
第124図15	8-5-10	3	永楽通寶	－		明	1408	24.70	25.06	21.26	21.55	6.38	6.34	6.37	6.03	1.11	0.64	3.00	

第22表　中・近世鉄器生産関連遺物観察表

挿図番号	遺構番号	遺物番号	種　類	点数	重量(g)	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	備　考
	(11)SD2001		炉内滓	1	80	7.5	7.3	2.4	溶解粘土質、下面に木炭圧痕
		SD2001 総計		1	80				
	(16)SK018		炉内滓	1	1	0.6	0.5	0.5	粒状発泡ガラス質、3点に分離
		SK018 総計		1	1				
第110図1	(11)SK2012		炉内滓	1	375	12.2	9.6	3.6	上下面に木炭圧痕付着、基部に棒状工具差し込み痕
	(11)SK2012	24	炉内滓	1	345	11.6	8.3	4.1	下面に小木炭圧痕多数付着
第110図2	(11)SK2012		炉内滓	1	311	11.5	9.1	4.0	土砂多く付着、木炭圧痕多く付着
第110図3	(11)SK2012		炉内滓	1	32.5	11.4	10.0	5.3	上面は流動状面、下面に木炭圧痕付着
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	196	11.3	6.6	3.5	上面一部が黒ガラス質、下面に小木炭圧痕多く付着
第110図4	(11)SK2012		炉内滓	1	267	10.9	8.2	3.6	上面に黒ガラス質、下面に大木炭圧痕付着
第110図5	(11)SK2012		炉内滓	1	204	10.6	8.2	3.3	下面に小木炭痕多く付着
第110図6	(11)SK2012	0033①	炉内滓	1	272	10.4	7.8	5.4	下面の木炭圧痕間から浮が流下、木炭痕による空洞、基部に棒状工具差し込み痕あり
	(11)SK2012	18	炉内滓	1	229	10.4	8.5	3.5	上下面に木炭圧痕多く付着
第110図7	(11)SK2012		炉内滓	1	257	10.2	6.8	3.5	上下面に大木炭圧痕付着
	(11)SK2012	26	炉内滓	1	244	10.0	8.6	3.5	発泡ガラス質
第110図8	(11)SK2012		炉内滓	1	382	9.8	7.8	4.1	2段生成滓、下面の一部は炉底灰層に接触
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	215	9.8	6.7	3.7	上面に黒ガラス滓付着
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	245	9.6	6.0	5.0	下面に流下する凸
	(11)SK2012	22	炉内滓	1	268	9.5	8.4	4.0	基部に棒状工具差し込み痕、下面に木炭圧痕多数付着
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	124	9.5	5.2	2.8	側面に大木炭圧痕付着
	(11)SK2012	42	炉内滓	1	276	9.3	7.6	4.6	上面に白色粒状滓付着
	(11)SK2012	31	炉内滓	1	136	9.2	6.6	5.0	2段生成滓
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	81	9.1	4.3	3.1	円弧形（炉内滓破片ではない）
	(11)SK2012	0033①	炉内滓	1	231	9.0	6.7	4.0	先端1/3欠損
第110図9	(11)SK2012		炉内滓	1	359	8.9	8.9	4.6	2段生成滓、下面の一部は炉底灰層に接触
	(11)SK2012	27	炉内滓	1	110	8.9	5.7	2.9	2段生成滓、下面に大木炭圧痕付着
	(11)SK2012	0033①	炉内滓	1	324	8.8	7.3	5.6	土砂が多く付着
	(11)SK2012	29	炉内滓	1	144	8.6	5.8	3.9	下面の小木炭圧痕の間から浮が流下
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	63	8.6	4.3	2.9	円弧形（炉内滓破片ではない）
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	107	8.5	4.2	4.0	下面に木炭圧痕による大きな空洞
	(11)SK2012	0033①	炉内滓	1	141	8.3	6.3	3.6	上面に流風と木炭圧痕による波状の凹凸
	(11)SK2012	38	炉内滓	1	143	8.2	6.4	2.9	上面に粒状凸、下面に木炭圧痕多く付着
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	187	8.1	6.4	4.3	下面に小木炭圧痕が付着し、その間から流下する凸あり
	(11)SK2012	5	炉内滓	1	170	7.9	8.1	2.9	下面に小木炭圧痕多く付着
第110図10	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	161	7.9	7.4	2.9	基部に棒状工差し込み痕、側縁部1/3欠損
	(11)SK2012	0033①	炉内滓	1	117	7.9	5.9	3.9	下面に流下する凸
	(11)SK2012	35	炉内滓	1	83	7.7	4.3	2.9	土砂多く付着（完形か不明）
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	80	7.7	5.2	2.5	下面に大木炭圧痕付着
	(11)SK2012	0033①	炉内滓	1	311	7.6	8.3	5.4	上面は黒色流動状、下面に長く流下する凸
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	90	7.5	5.0	3.0	上面に多孔、下面に小木炭圧痕多く付着
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	136	7.2	6.1	3.8	下面の大木炭圧痕の間から流下する凸あり
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	95	7.2	4.6	3.3	下面に大木炭圧痕付着
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	132	7.0	5.6	4.9	下面の流下する凸に木炭圧痕による空洞
	(11)SK2012	34	炉内滓	1	112	6.9	5.6	3.4	上面に黒ガラス質付着、下面に流下状凸が重なる
	(11)SK2012	35	炉内滓	1	93	6.9	5.6	3.5	下面に大木炭圧痕の間から流下状凸が重なる
	(11)SK2012	37	炉内滓	1	113	6.7	6.0	3.7	2段生成滓、上下面に木炭圧痕
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	77	6.6	4.5	2.0	下面に小木炭圧痕多く付着
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	38	6.6	3.2	2.0	土砂多く付着、小三角滓？
	(11)SK2012	37	炉内滓	1	80	6.5	4.7	3.0	下面に炉壁あるいは灰層接触痕
	(11)SK2012	28	炉内滓	1	45	6.3	4.7	2.1	小三角滓？、ガラス質、木炭圧痕付着
第110図11	(11)SK2012	4	炉内滓	1	51	6.2	4.1	2.4	小三角滓
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	54	6.1	5.3	2.9	小三角滓？（成長した？）

挿図番号	遺構番号	遺物番号	種　類	点数	重量(g)	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	備　考
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	85	5.8	5.1	3.4	下面に小木炭圧痕多く付着
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	21	5.6	3.4	2.4	小三角滓，多孔質
	(11)SK2012	32	炉内滓	1	58	5.3	4.8	2.4	下面は炉床況層に接触か?
第116図12	(11)SK2012		炉内滓	1	29	5.3	3.6	2.4	小三角滓，上面に大木炭圧痕付着，粘土質滓
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	51	5.2	4.7	2.2	上面は多孔ガラス質，下面に木炭圧痕付着
第116図13	(11)SK2012	4	炉内滓	1	34	4.9	4.2	1.9	小三角滓，下面端部が黒ガラス化
第116図14	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	36	4.8	4.2	2.7	小三角滓，基部に棒状工具差し込み痕
	(11)SK2012	4	炉内滓	1	39	4.7	3.6	3.1	上下面とも流動状面，木炭関生成か?
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	33	4.6	4.5	1.8	小三角滓?，木炭関を流動して生成
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	16	4.3	3.1	2.0	小三角滓
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	13	4.2	2.3	1.8	木炭関生成の流動状滓
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	13	4.0	2.5	2.2	木炭関生成の流動状滓
	(11)SK2012		炉内滓	1	25	3.9	3.5	2.9	灰色ガラス質，ブドウ房状
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	17	3.8	2.3	1.6	土砂多く付着，小三角滓?
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	6	3.5	2.8	1.3	板状の小三角滓
	(11)SK2012	0040	炉内滓	1	32	3.4	5.1	2.7	炉内滓先端部破片か
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	21	3.4	3.1	2.3	小三角滓?
第116図15	(11)SK2012		炉内滓	1	16	3.4	2.8	2.5	多孔質，下面に歯下状凸，木炭関生成か?
第116図16	(11)SK2012	0001	炉内滓	1	4	3.4	2.4	0.9	小三角滓，灰色滓の表面が黒ガラス化
	(11)SK2012		炉内滓	1	3	3.3	1.4	1.0	小三角滓?
	(11)SK2012		炉内滓	1	12	3.2	2.5	2.8	流動状面に覆われ，下面に大木炭圧痕付着
	(11)SK2012		炉内滓	1	9	3.2	2.9	2.0	ブドウ房状，木炭関生成
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	10	3.1	2.5	1.4	木炭関生成の流動状滓
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	23	2.9	2.6	4.4	小三角滓?，上部が黒ガラス質で縦長の柱状滓
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	6	2.9	2.1	1.2	木炭関生成の流動状滓
	(11)SK2012		炉内滓	1	7	2.7	3.0	2.1	小三角滓，上面は白色，多孔流動状面に覆われる
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	7	2.5	2.0	1.7	木炭関生成の流動状滓
	(11)SK2012		炉内滓	1	3	2.5	1.1	2.0	大豆形，発泡ガラス質
	(11)SK2012		炉内滓	1	5	2.4	1.5	1.5	黒ガラス質，木炭関生成
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	7	2.3	2.2	1.3	木炭関生成の流動状滓
	(11)SK2012		炉内滓	1	3	2.1	1.8	1.1	流動状面に覆われる，木炭関生成か?
	(11)SK2012	0033②	炉内滓	1	2	1.6	1.5	1.4	木炭関生成の流動状滓
		炉内滓 合計		80	8952.5				
	(11)SK2012		含鉄炉内滓	1	360	7.5		3.2	11点に磁砂，小さな鉄塊が酸化して割れたか?
	(11)SK2012	0040	含鉄炉内滓	1	26	4.6	3.0	2.5	薄板状小鉄塊をはさむ
		含鉄滓 合計		2	386				
	(11)SK2012		黒ガラス質滓	1	44	5.4	4.0	2.8	下面に灰色粘土質部あり，羽口又は炉壁が溶解か?
	(11)SK2012	0040	黒ガラス質滓	1	7	3.0	3.0	1.5	多孔発泡，木炭関生成
	(11)SK2012	0033②	黒ガラス質滓	1	11	2.9	2.7	2.1	表面が黒ガラス，裏面に角礫状粘土質塊凝集
	(11)SK2012	0040	黒ガラス質滓	1	4	2.8	2.0	1.5	多孔発泡，木炭関生成
	(11)SK2012	0033②	黒ガラス質滓	1	4	2.5	1.9	1.2	粘土質表面がガラス化
	(11)SK2012	0001	黒ガラス質滓	1	5	2.2	1.9	1.1	溶解初期のガラス質滓
	(11)SK2012	0002	黒ガラス質滓	1	2	2.1	1.6	1.1	黒ガラス面の裏面が灰色粘土の発泡面，炉壁の可能性あり
	(11)SK2012	0033②	黒ガラス質滓	1	3	2.1	1.6	1.5	炉内滓の破片か?
		黒ガラス質滓 合計		8	80				
第111図28	(11)SK2014	0002	炉壁	1	41	6.7	37.0	2.7	緩く湾曲する厚さ1.2cmの灰色粘土板の一面が黒色ガラス化，上部に白色ガラス，酸化物付着
第111図29	(11)SK2014	0002	炉壁	1	44	5.9	4.9	2.9	厚さ1.5cmの灰色粘土板の一面が黒色ガラス化 上部に白色ガラス，酸化物付着
	(11)SK2012		炉壁	1	28	4.0	2.4	3.4	灰色粘土質の上面が黒ガラス流動状面
	(11)SK2012	0002	炉壁	1	9	4.0	2.9	1.5	灰色粘土板の一面が黒色ガラス化
	(11)SK2012	0002	炉壁	1	7	2.7	2.5	2.0	炉壁と同じ灰色粘土面を持つ黒色ガラス塊 羽口片の可能性もあり
		炉壁 合計		5	129				

挿図番号	遺構番号	遺物番号	種　類	点数	重量(g)	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	備　考
第111図23	(11)SK2012	0023	羽口	1	180	7.0	6.2	4.4	先端のみ平坦に溶解、溶解面に酸化物付着。径1～2mm角礫やや含む。孔径約3ｃｍかう
第111図24	(11)SK2012	0020	羽口	1	85	6.6	4.0	4.2	炉内で溶解した先端部　平坦に溶解
第111図25	(11)SK2012	0036	羽口	1	88	5.2	4.5	4.0	先端部のみ平坦に溶解　径1～2mm角礫やや含む。
	(11)SK2012		羽口	1	29	4.9	3.0	2.1	ガラス化した円弧状灰色粘土
	(11)SK2012	0030	羽口	1	37	4.9	3.0	3.1	先端部が平坦に溶解、溶解面に酸化物付着　非溶解部は明灰色還元
	(11)SK2012	0008	羽口	1	55	4.3	3.5	3.9	先端部が平坦に溶解、溶解面に酸化物付着　一部黄褐色粘土残存
	(11)SK2012	0041	羽口	1	46	4.9	4.2	4.6	先端部が平坦に溶解　一部黄褐色粘土残存
	(11)SK2012	0036	羽口	1	16	3.6	3.0	2.1	溶解部と非溶解部の境界破片
		羽口 合計		8	536				
		SK2012 総計		103	10084				
第111図26	N14-19	実測忍	羽口	1	89	7.5	3.9	4.9	羽口先端底下に炉内滓基部付着。羽口挿入角度約40°
		N14-19 総計		1	89				
第116図17	014-55		炉内滓	1	389	11.7	9.0	4.2	上面は流動状面、下面に木炭圧痕付着
第116図18	014-55	0001	炉内滓	1	309	11.3	8.1	4.8	2段生成滓
	014-55	0001	炉内滓	1	122	10.4	5.1	3.1	
第116図19	014-55		炉内滓	1	174	9.5	6.9	3.6	上面はガラス質、下面に木炭圧痕付着
第116図20	014-55	0001	炉内滓	1	117	8.9	6.3	4.3	発泡ガラス質、上下面に木炭圧痕付着
	014-55	0001	炉内滓	1	169	8.4	5.9	3.5	下面に木炭圧痕付着
	014-55	0001	炉内滓	1	76	8.3	5.8	4.3	下面に木炭圧痕付着
	014-55	0001	炉内滓	1	203	8.1	5.6	5.2	2段生成滓
	014-55	0001	炉内滓	1	74	8.0	4.3	3.6	
	014-55	0001	炉内滓	1	102	7.9	4.8	4.8	下面に滴下粒状凸多く付着
	014-55	0001	炉内滓	1	173	7.8	7.8	3.8	下面に木炭圧痕付着
	014-55	0001	炉内滓	1	195	7.7	7.3	4.3	下面に小木炭圧痕付着
第116図21	014-55	0001	炉内滓	1	150	7.5	6.3	4.6	
	014-55	0001	炉内滓	1	127	7.5	6.3	4.3	方形板状滓、棒状工具痕が付くか?
第116図22	014-55		炉内滓	1	110	7.5	6.2	2.5	
	014-55	0001	炉内滓	1	135	7.4	6.8	3.2	
	014-55	0001	炉内滓	1	117	7.0	5.8	3.2	2段生成滓
第116図23	014-55	0001	炉内滓	1	72	6.7	4.4	2.1	小三角滓
	014-55	0001	炉内滓	1	95	6.6	5.3	2.6	
	014-55	0001	炉内滓	1	70	6.2	4.9	2.5	小三角滓
	014-55	0001	炉内滓	1	86	6.1	5.8	2.9	小三角滓
	014-55	0001	炉内滓	1	45	6.1	3.8	3.0	多孔ガラス質
	014-55	0001	炉内滓	1	60	6.0	5.3	2.2	小三角滓
	014-55	0001	炉内滓	1	93	5.8	5.1	3.0	下面に小木炭圧痕多く付着
	014-55	0001	炉内滓	1	35	5.8	3.8	2.7	小三角、浮多孔質
	014-55	0001	炉内滓	1	26	5.5	3.9	1.7	小三角滓
第116図24	014-55	0001	炉内滓	1	49	5.0	4.2	2.2	小三角滓
第116図25	014-55	0001	炉内滓	1	19	5.0	2.7	1.9	小三角滓
第116図26	014-55	0001	炉内滓	1	31	4.9	4.6	1.6	小三角滓
	014-55	0001	炉内滓	1	28	4.7	3.1	2.4	小三角滓
第116図27	014-55	0001	炉内滓	1	13	4.7	4.0	1.6	小三角滓、多孔ガラス質
	014-55	0001	炉内滓	1	85	4.6	4.4	3.2	羽口先端の黒ガラス滓が端部に付く炉内滓片
	014-55	0001	炉内滓	1	60	4.6	4.5	3.4	一部多孔ガラス質、下面白色
第116図28	014-55	0001	炉内滓	1	7	4.4	2.1	1.3	小三角滓、白色多孔ガラス質
	014-55	0001	炉内滓	1	46	4.3	4.1	3.6	多孔質ブドウ房状
	014-55	0001	炉内滓	1	32	3.8	3.3	2.8	小三角滓
	014-55	0001	炉内滓	1	6	3.7	2.1	2.0	小三角滓、多孔ガラス質
	014-55	0001	炉内滓	1	22	3.4	3.7	2.1	土砂多く付着
	014-55	0001	炉内滓	1	7	3.3	2.7	2.0	上面に木炭圧痕付着

挿図番号	遺構番号	遺物番号	種　類	点数	重量 (g)	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	備　考
	014-55	0001	炉内滓	1	7	3.0	2.3	1.2	炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	7	2.9	2.1	1.3	小三角滓、多孔質
	014-55	0001	炉内滓	1	2	2.4	1.8	1.5	木炭間生成ブドウ房状
	014-55	0001	炉内滓	1	9	2.4	2.4	1.7	木炭間生成ブドウ房状
	014-55	0001	炉内滓	1	2	2.1	1.4	1.1	炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	5	2.0	1.7	1.3	多孔質、炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	2	2.0	1.1	0.9	ガラス質、木炭間生成ブドウ房状
	014-55	0001	炉内滓	1	1	2.0	1.1	0.9	炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	3	2.3	1.3	1.2	多孔ガラス質、木炭間生成ブドウ房状
	014-55	0001	炉内滓	1	2	1.8	1.2	0.9	炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	1	1.8	1.1	1.0	一部白色、炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	1	1.7	1.1	0.9	多孔ガラス質、炉内滓破片
	014-55	0001	炉内滓	1	1	1.6	1.5	0.9	木炭間生成ブドウ房状
	014-55	0001	炉内滓	1	1	1.5	1.3	1.1	木炭間生成ブドウ房状
	炉内滓 合計			53	3773				
第111図18	014-55		含鉄炉内滓	1	349	12.0	8.5	5.1	上面に小サビ
第111図19	014-55		含鉄炉内滓	1	216	10.1	7.2	3.0	放射状割れ、上面に小サビ
	含鉄滓 合計			2	565				
	014-55	0001	黒ガラス質滓	1	10	3.0	2.5	1.9	炉内滓の破片か？
	014-55	0001	黒ガラス質滓	1	15	2.9	2.1	2.6	多孔質、一部白色粘土質、炉内滓破片
	黒ガラス質滓 合計			2	25				
第111図30	014-55	0001	炉壁片	1	46	5.0	5.1	4.5	羽口直下の炉壁が溶解しながら滓化する過程
	炉壁 合計			1	46				
	014-55 総計			58	4409				
	014-64	1	炉内滓	1	2.52	7.2	7.1	4.7	楕円形の炉底縁辺を反映
	炉内滓 合計			1	252				
	014-64	0001	羽口	1	25	3.8	3.7	2.1	溶解先端部破片、先端が平坦に溶解か？
	羽口 合計			1	25				
	014-64 総計			2	277				
第111図1	014-65		炉内滓	1	421	12.0	9.5	4.7	上面は一部黒ガラス化、下面は木炭圧痕と発泡による凹
第111図2	014-65		炉内滓	1	353	10.7	8.8	3.9	下面に木炭圧痕多く付着
第111図3	014-65		炉内滓	1	355	10.0	8.3	5.0	上面に大木炭圧痕付着、下面がブドウ房状に流下
第111図4	014-65		炉内滓	1	185	9.3	6.6	3.8	下面に大木炭圧痕付着、基部に棒状工具差し込み痕か？
第111図5	014-65		炉内滓	1	263	9.1	6.8	4.7	下面がブドウ房状に流下
第111図6	014-65	0002	炉内滓	1	119	8.0	5.7	3.3	
第111図7	014-66		炉内滓	1	155	7.6	6.7	2.7	基部に棒状工具差し込み痕
第111図8	014-65	0002	炉内滓	1	77	7.6	4.7	2.7	
	014-65	0002	炉内滓	1	129	7.5	6.5	3.2	
	014-65	0002	炉内滓	1	111	7.3	6.2	4.0	
	014-65	0002	炉内滓	1	74	7.0	3.8	2.4	
第111図9	014-65	0002	炉内滓	1	89	6.7	6.0	2.7	
第111図12	014-65		炉内滓	1	121	6.3	6.1	2.6	基部に棒状工具差し込み痕か？
	014-65	0002	炉内滓	1	105	5.8	5.6	3.3	
	014-65	0002	炉内滓	1	50	5.5	3.9	2.8	
	014-65	0002	炉内滓	1	34	5.1	4.5	3.1	発泡多孔質
第111図10	014-65	0002	炉内滓	1	20	4.8	2.4	2.3	小三角滓
第111図11	014-65	0002	炉内滓	1	9	3.2	3.1	1.2	小三角滓、多孔ガラス質
	014-65	0002	炉内滓	1	8	3.2	2.6	1.4	小三角滓、木炭間生成ブドウ房状
	014-65	0002	炉内滓	1	5	2.5	1.8	1.5	小三角滓、下面に輝石状晶付着
	014-65	0002	炉内滓	1	5	2.3	1.6	1.3	大豆形ガラス質
	014-65	0002	炉内滓	1	3	2.1	1.7	1.1	多孔ガラス質
	014-65	0002	炉内滓	1	3	1.9	1.4	1.3	

挿図番号	遺構番号	遺物番号	種　類	点数	重量(g)	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	備　考
	014-65	0002	炉内滓	1	1	1.7	1.6	1.1	多孔ガラス質、木炭間生成
	014-65	0002	炉内滓	1	1	1.4	1.2	0.6	多孔ガラス質
	014-65	0002	炉内滓	1	1	1.5	1.1	0.7	破片
	炉内滓 合計			26	2697				
第111図20	014-65		含鉄炉内滓	1	172	7.8	7.5	3.7	上面に小サビ付着、下面に木炭圧痕付着
	含鉄滓 合計			1	172				
第111図27	014-65	0001	羽口	1	113	6.2	4.4	3.7	先端部が平坦に溶解、溶解部に酸化物付着、孔径約3cmか？
	014-65	000	羽口	1	52	4.2	3.7	3.6	溶解先端部、溶解部に酸化物付着、一部黄褐色粘土残存。
	羽口 合計			2	165				
	014-65 総計			29	3034				
	P14-31		含鉄炉内滓か	1	17	3.5	2.3	2.4	小さな鉄塊が締びて破裂した破片か？
	含鉄滓 合計			1	17				
第111図22	P14-31		鉄塊系遺物	1	24	5.4	2.1	1.1	厚板状鉄、高炭素系か？
	鉄塊系遺物 合計			1	24				
	14P-31 総計			2	41				
	N15-19	0029	炉壁	1	22	5.0	2.3	2.3	径1mm角含む厚さ1.1cmの灰色板状粘土の一面が黒色ガラス化し、ソラマメ形黒色ガラス塊が付着
	炉壁 合計			1	22				
	N15-29 総計			1	22				
第111図13	N15-29	71	炉内滓	1	94	8.1	6.1	3.0	
第111図14	N15-29	65	炉内滓	1	80	6.1	5.9	2.5	
第111図15	N15-29	60	炉内滓	1	41	5.8	4.3	1.9	小三角滓
第111図16	N15-29	65	炉内滓	1	23	4.6	2.9	2.0	小三角滓
第111図17	N15-29	64	炉内滓	1	33	4.4	4.3	1.9	小三角滓
	N15-29	22	炉内滓	1	20	4.3	3.3	2.5	木炭間で生成
	N15-29	62	炉内滓	1	12	3.4	2.9	1.3	小三角滓
	N15-29	62	炉内滓	1	5	2.4	1.5	1.2	小三角滓
	炉内滓 合計			8	308				
第111図21	N15-29	25	含鉄炉内滓	1	363	9.7	9.1	3.8	
	含鉄滓 合計			1	363				
	N15-29	9	鉄塊系遺物	1	28	4.6	2.7	2.8	崩壊しかけた厚板状鉄の端に浮付着
	鉄塊系遺物 合計			1	28				
	N15-29	9	黒色ガラス質滓	1	2	2.8	1.7	1.2	木炭間で生成した多孔質滓
	N15-29	9	黒色ガラス質滓	1	3	2.1	2.1	1.3	一部粘土質が残る
	黒色ガラス質滓 合計			2	5				
	N15-29	9	羽口先端	1	22	4.3	3.4	2.0	羽口先端の表面がガラス化して滴下
	N15-29	9	羽口先端	1	23	4.1	2.6	2.7	黒色ガラス化した先端部
	羽口 合計			2	45				
	N15-29 総計			14	749				
	N15	小グリッドなし	炉内滓	1	9	3.3	1.8	1.2	小三角滓？
	N15	小グリッドなし	炉内滓	1	4	3.3	2.2	0.9	小三角滓？
	N15 総計			2	13				
調査区全体			**炉内滓 総計**	**172**	**16076.5**				
			含鉄滓 総計	**7**	**1503**				
			鉄塊系総計	**2**	**52**				
			黒ガラス質滓総計	**12**	**110**				
			炉壁 総計	**7**	**197**				
			羽口 総計	**14**	**860**				
			総　　計	**214**	**18776.5**				

第５章　総括

第１節　旧石器時代

本遺跡からは、４ブロックの石器集中地点を検出し、単体出土の石器６点も含めて合計305点の遺物が出土した。４つのブロックは、出土層位や石器群の内容から、２枚の文化層として捉えた。以下に各文化層の石器群の様相をまとめる。

第１文化層

出土層位は、立川ロームⅧ～Ⅸ層に相当し、第１ブロックが該当する。出土層位および台形様石器の可能性のある石器が出土していることから、北側の第１文化層より古いと考えられる。石刃の作出を技術基盤とし、信州産黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器を主要器種としている北側第１文化層と異なり、不定形な剥片の作出が主体で、ナイフ形石器も同剥片を素材としている。

第２文化層

出土層位は、立川ロームⅣ～Ⅴ層に相当し、第２～４ブロックが該当する。礫群を主体とし、Ⅳ層下部の石器群と考えられる。

第２・３ブロックは、横長あるいは不定形な剥片の作出が主体で、定形的な石器は出土していない。一方、第４ブロックは、石刃あるいは縦長剥片を素材とした良質な黒曜石による二側縁加工ナイフ形石器や角錐状石器が出土している。前者のナイフ形石器については、別時期の可能性もある。出土層位について、投影図では、Ⅲ層より下部に遺物が分布しているため、正確な出土層位は不明である。調査時の所見によれば、「ソフトローム層中からの出土。層位的にはⅣ層下部～Ⅴ層にかけての遺物」と記録されているが、ソフトローム下部のハードロームがどの層に相当するのか土層の変質化もあり不明である。ナイフ形石器を除けば、角錐状石器の出土や礫群を伴うことなどから、Ⅵ層下部～Ⅶ層に生活面を持つ石器群というよりは、AT降灰後のⅤ層～Ⅳ層下部の石器群と考えられ、第２・３ブロックとは多少時間差があるかもしれない。

既報告の北側と今回報告の南側の両地点の石器群について簡単にまとめると、①南側第１文化層は、Ⅶ～Ⅸ層の石器群で、不定形な剥片の作出を主体としており、台形様石器の可能性のあるナイフ形石器も同剥片を素材としている。②北側第１文化層は、Ⅵ層下部～Ⅶ層の石器群で、石刃の作出を技術基盤とし、信州産黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器を主要器種としている。③南側第２文化層は、概ね、礫群を主体とするⅣ層下部の石器群である。④北側第２文化層は、典型的な二側縁加工ナイフ形石器は出土していないが、石刃の作出を技術基盤としていることや出土層位などから、終末期の小型ナイフ形石器群というより砂川期と思われる。

このことから、市野谷宮後遺跡における下層の時間的な推移は、①南側第１文化層→②北側第１文化層→③南側第２文化層→④北側第２文化層と考えられる。

第２節　縄文時代

本遺跡（南側）からは縄文時代に属する可能性のある遺構としては、陥穴１基のみが検出されているにすぎない。市野谷宮後遺跡全体において縄文時代における土地利用が積極的ではなかったことがうかがえ

る。このことは遺構外出土の縄文土器片や縄文時代に属すると考えられる石器類が少量のみであることからもうかがえよう。

第3節　中・近世

本遺跡（南側）での調査成果の中心は中・近世に属するものである。ここでまとめとして、土坑墓群から出土した人骨、鉄器生産関連遺物について示しておきたい。

1　人骨

今回の調査によって確認調査のトレンチ内から5体、中・近世の溝（16）SD001から1体、土坑墓から82体が出土した。土坑墓に副葬されていた銭貨は、主に宋銭・永楽通宝・寛永通宝で、人骨は15世紀～17世紀以降の中・近世に帰属すると考えられる。

出土数に性別差はなく、年齢は壮年が主体で、中世～近世の全国的な平均寿命と同様である。未成人では乳児は少なく1才～5才の幼児が多い傾向にあった。顔面形態の観察や歯冠計測値の集団間比較の結果、市野谷宮後遺跡に埋葬された人々は、中・近世に一般的にみられる形質をもった集団であった。

埋葬状況が確認できた墓坑では、主に横臥または仰臥で屈葬し、一部は早桶を使用した座葬がみられ、伸展葬はみられなかった。頭位方向は北と北西が全体の9割を占め、中世から近世をとおして北枕の風習に従っている。中世から近世にかけて連綿と使用されていたと考えられる集団墓地であるが、埋葬姿勢や副葬品に時期的な変化は認められなかった。土坑から2体以上の個体が出土している例がみられるが、これらは後世にもともとあった墓坑を削平して重なる位置に埋葬がおこなわれており、同時期に合葬した例は殆どみられず単体埋葬が基本と考えられる。基本的には屈葬による土葬が行われているが、一部の個体で、埋葬時の解剖学的位置を保ちながらも被熱して炭様のススが骨に付着している場合や、部分的に高温で被熱し骨が白色硬化している個体がみられた。これは、中・近世に一般的な荼毘に付した後に蔵骨器に納骨するような火葬とは異なり、土葬の過程で軟部組織が焼ける程度に火葬した可能性がある。

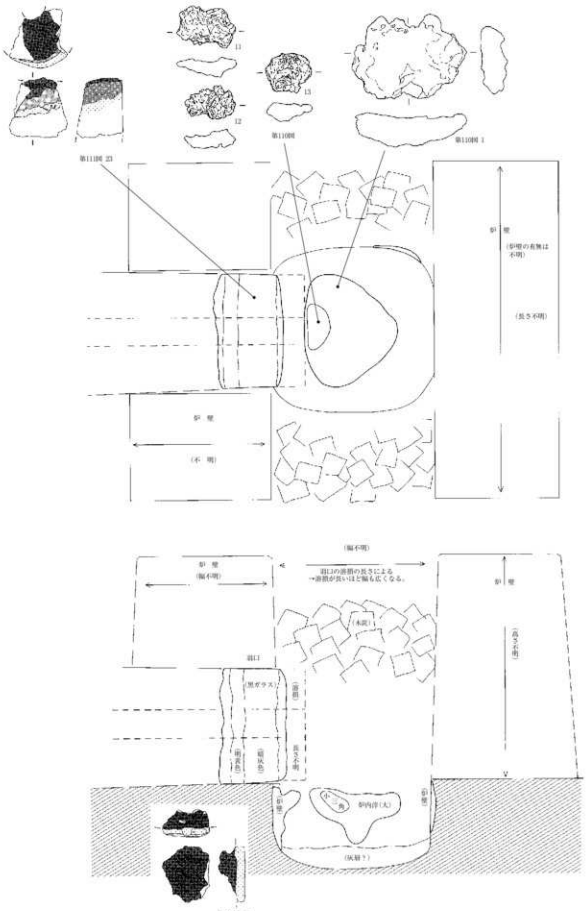
副葬品には銭貨、キセル、土器がみられた。銭貨は、被葬者の胸部、下腹部に置かれる場合が多く一部では手の位置に副葬されていた。

これまでに流山市では、三輪野山遺跡群、上貝塚第Ⅰ遺跡などで集団墓地から中・近世人骨が出土しているが、今回新たにまとまった数の資料を追加することの意義は大きい。

2　鉄器生産

本調査区からは2か所の鉄滓等鉄器生産関連遺物の集中出土地点が確認された。（11）SK2012及びその周辺出土資料群については、類似したサイズ・外観の炉内滓を大量に生成・排出している。また、一旦作業を休止して炉内滓が冷却した後、再開して生成された滓が最初の炉内滓に上乗せされる2段生成滓が含まれることは、同じ製作行為が繰り返されていたことを窺わせており、炉床にたまったのではなく燃焼木炭層中で生成された溶解粘土質の外観上の特徴からは、鍛錬鍛冶に伴う滓であると考えられる。含鉄炉内滓が少なく、かつ内包する鉄塊もごく小さいことは、多様な鉄材の利用や製品生産を行っていたのではなく、等質的な鉄材による定形的な鉄器の製作を行っていたことを示唆する。

その一方で三角形・舌状の小形滓（「小三角滓」と仮称）が一定量含まれる。このタイプの炉内滓は、鍛冶炉内の羽口前の高温域で生成される炉内滓であり、時間の経過に伴って炉内全体が高温化するにつれてそれが大形化していくものと推測される。ここで主体となるサイズの炉内滓が生成されるような作業工程



第125図　炉構造想定復元（(11) SK2014出土資料による）

と共に、そのサイズまでに成長する前に排出してしまう、あるいはそのサイズに留まるような局所的な高温域をつくる作業工程が行われていたことを示している。

もうひとつの集中出土地点・N15-29では、(11) SK2012に比べて出土点数が少なく、大形化した炉内滓よりも小形滓が主体を占めているが、これは「鉄滓包含層」の遺存度によるものの可能性があり、単純に両者の操業規模・内容の違いを反映していると断定はできない（もし包含層の遺存状態の違いによるものでなければ、(11) SK2012の集中地点とは違う作業が行われていた、小形滓生成に集中する一工程がメインの作業空間だったことになる）。

両集中出土地点では、鍛冶炉跡など鍛冶関連遺構は確認されていない。しかし、いずれにおいても少数ではあるが炉壁・羽口片及びそれらに由来するとみられる黒色ガラス質滓が出土していることは、その近傍に鍛冶炉が存在していたことをうかがわせる。本調査範囲内において鉄滓等集中出土地点の周辺に鍛冶操業空間が存在し、特に (11) SK2012の廃棄物量の多さは一時的ではない鉄器生産が行われていたと考えられる。

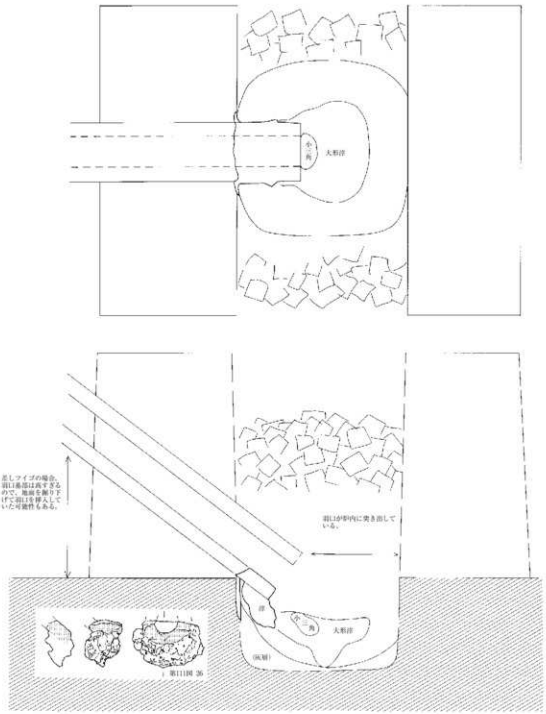
鍛冶炉跡は確認されていないが、ここで出土炉内滓と炉壁片・羽口片からその構造を復元してみたい。

本報告で鍛冶滓のサイズを長軸･短軸長の値で提示したのは、羽口側の位置を特定できない資料が混じっているためである。その中で羽口側が特定・推定できる炉内滓の多くは、羽口の前方よりも左右にのびる傾向がみられる、つまり炉内滓の長軸長が幅、短軸長が長さとなる例が多い。炉内滓は羽口前方の燃焼木炭層中で生成したものであり、その縁辺部に炉壁に接触した明確な痕跡が認められないことから炉の正確なサイズはわからないが、羽口先端部から反対側の炉壁まで９cm、幅は13cmを超えると思われる。また、炉の深さは炉内滓の最大の厚さから羽口先端部下より６cm以上はあったとみられる。次に (11) SK2012等の羽口先端部は、平坦に溶解し、その平坦部のみがガラス化していること、ガラス化部分の直下の被熱帯が溶解部の境界と平行していることから、これらの羽口が炉壁内にほぼ水平に装入されていたことを示す。さらに先端が平坦なガラス化面は、黒色ガラス化した平坦な炉壁片とあわせて、炉床から立ち上がる炉壁がほぼ垂直に立ちあがっていたことをうかがわせている。このことは羽口直下に位置するとみられる白色ガラス・酸化物が付着する平らな板状炉壁片からも追認できよう（第125図）。

なお、羽口の先端が平坦に溶損する使い方は、香取市阿玉台北遺跡A地点004号址や千葉市観音塚遺跡219住居跡、鋳銅関連遺物と伴う千葉市鷺谷津遺跡SI-082等に類例が認められる。阿玉台北遺跡例の時期は明らかではないが、観音塚遺跡例は9世紀後半以降、鷺谷津遺跡例は10世紀代であり、10世紀以降の羽口でよく見られるようになる溶損の仕方である。

他方、N14-19出土の羽口片に付着した炉壁と炉内滓の一部からは、ほぼ垂直の炉壁が羽口下まで伸び、約３cm下で炉床に凹レンズ状に堆積した灰層上面で炉内滓基部下面が接触していたと推測され、(11) SK2012等で復元される炉の形態と通じる。炉内滓を排出する際にその衝撃で炉内滓に溶着した羽口先端部が共に脱落したとみられるが、この羽口片は (11) SK2012等出土羽口片と異なり、外径が1/2の細身で角度をもって炉内に挿入されていた（第126図）。羽口の違いが時期によるものか、操業内容によるものか、技術系譜によるものか、評価できる状況ではない。炉壁・羽口粘土の質、そこから復元される炉の形態が共通するほか、生成したであろう炉内滓の質・サイズなどに大きな違いは想定できず、両者の差異を単に時期差・機能差とすることはできない。

前述のように鉄滓等集中出土地点の炉内滓の多くは、羽口につながって生成した痕跡（破口）が明確で



第126図　炉構造想定復元（N14-19出土資料による）

はない。このことも鍛冶炉の炉床が垂直に深く落ち込む構造であったことを想像させる。それにもかかわらず、棒状工具を羽口先端と炉内滓の間を切り離すかのように差し込んだ痕跡がある。N14-19出土羽口片は炉内滓排出時に溶着した羽口先端と炉壁の一部が剥がれたものと思われるが、そのようなリスクを回避する方法がとられていた可能性がある。

これらの鉄滓等鉄器生産関連資料の時期については直接遺構に伴わないことから特定できないが、一部が（11）SK2012に流入していることから16世紀以降の所産と考えられ、これらと特徴が類似するN15-29等の資料も時期を同じくすると考えておきたい。

3　その他

最後に報告書において示すことができなかった課題について示しておきたい。

第一に、第98図に示した区画効果を有する溝状遺構群と、区画内のピット群である。溝状遺構は二本一対のものや、同一方向に走る複数の溝があり、同時に機能していた溝ではなく、一定程度の期間において複数回の設営が為されたものと推測することができよう。この状況に呼応するかたちで、溝状遺構で区画された範囲内のピット群には４か所程度のグループを認めることができ、ピットの基数からは各グループ内で複数の掘立柱建物跡の存在を推し量ることができよう。

第二に、第114図から第124図に示した遺構外出土遺物の量である。とりわけ第115図から第119図に示したN15（40m×40m大グリッド）における完形に近い擂鉢や内耳土器（焙烙）の類の出土量に疑問が残る。これらの生活関連遺物は一般的には遺構外から大量に出土することは希であることから、当該グリッドにおいては、発掘調査では認識することができなかった遺構の存在を想定しておかなければならないであろう。

参考文献

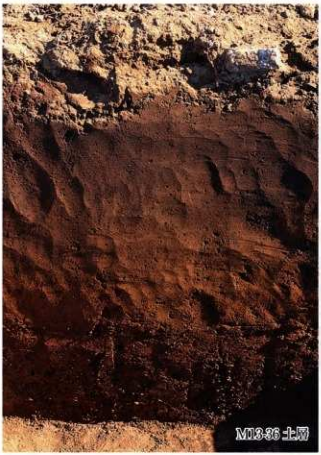
財団法人千葉県文化財センター　1975『阿玉台北遺跡』
財団法人千葉県文化財センター　2004『千葉市観音塚遺跡・地蔵山遺跡（3）』千葉県文化財センター調査報告第472集
千葉県教育委員会　2022『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財報告書７―流山市市野谷宮後（北側）・市野谷芋久保遺跡（14）（旧石器時代編）―』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第41集
千葉県教育委員会　2023『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書８－流山市市野谷宮後遺跡（北側）・三輪野山野馬土手・市野谷芋久保遺跡（14）（縄文時代以降編）－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第44集

写　真　図　版

遺跡周辺航空写真

図版2

市野谷宮後遺跡（南側）土層・旧石器時代遺物出土状況


M13-38 土層

S1401 土層

第1ブロック遺物出土状況（北東から）

第2ブロック遺物出土状況（北東から）

第3ブロック遺物出土状況（西から）

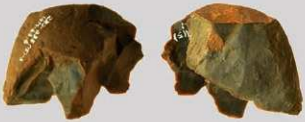
第4ブロック遺物出土状況（北東から）

第１文化層　第１ブロック出土石器

1 M13-64-2
ナイフ形石器 頁岩

2 M13-64-5
剥片 頁岩

3 頁岩 接合資料



3 a M13-64-1 剥片
3 b M13-63-6 剥片

3 a M13-64-1 剥片

3 b M13-63-6 剥片

4 頁岩 接合資料

4 d M13-63-7 剥片

4 a M13-64-3 石核
4 b M13-63-12 石核
4 c M13-63-5 石核
4 d M13-63-7 剥片

図版4

第２文化層　第２ブロック出土石器

1 R13-65-6
剥片 黒曜石

2 R13-66-18
剥片 頁岩

3 R13-65-27
剥片 珪質頁岩

4 R13-66-16
石核 黒曜石

第２文化層　第３ブロック出土石器

1 S12-98-22
剥片 ホルンフェルス

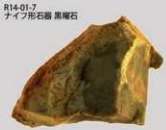
2 S15-98-19
原石 ガラス質黒色安山岩

第２文化層　第４ブロック出土石器

1 R14-01-7
ナイフ形石器 黒曜石

2 R14-01-10
角錐状石器 黒曜石

3 R14-01-5
剥片 頁岩



4 R14-11-9
石核 頁岩（ノジュール）

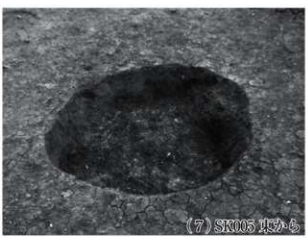
単独ブロック出土石器

1 O14-53-1
石核 頁岩

(15) SK001 西から

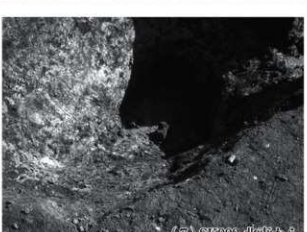
(7) SK002 南から

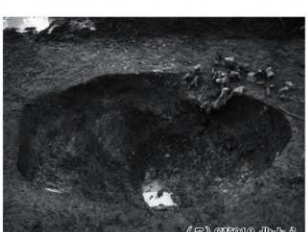
(7) SK003・SK004 南から


(7) SK005 東から

(7) SK006 東から

(7) SK007 北から


(7) SK008 北東から


(7) SK010 北から

図版6

(7) SK010 出土状況 北東から

(7) SX001 東から

(7) SX002 北東から

(7) SX003 南西から

(7) SX004 東から

(7) SX005 東から

(7) SX006 東から

(7) SX011 北から

(11) SK2001 東から

(11) SK2002 西から

(11) SK2003 西から

(11) SK2005 南東から

(11) SK2007 南から

(11) SK2008 南東から

(11) SK2009 南東から

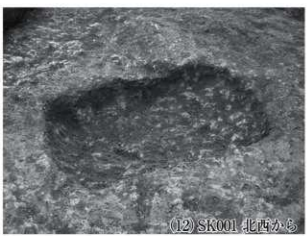
(11) SK2009 掘上状況 東から

図版8

(10) SK2014 北から

(11) SX2002 北から

(11) SX2002 南東から


(12) SK001 北西から

(13) SK003 西から

(13) SK003 北から

(13) SK004 東北東から

(13) SK005 西から

(15) SK006 東から

(15) SK006 断面 東から

(15) SK007 南西から

(15) SK007 断面 東から

(15) SK008 北から

(15) SK008 出土状況 西から

(15) SK009 北東から

(15) SK009 断面 南東から

図版10

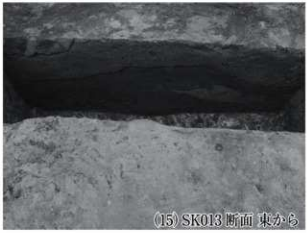
(15) SK010 北から

(15) SK010 断面 東から

(15) SK011 東から

(15) SK012 北から

(15) SK013 東から

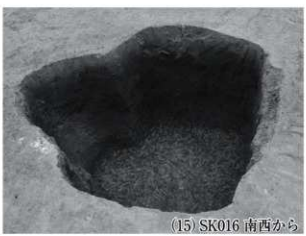

(15) SK013 断面 東から

(15) SK014 南から

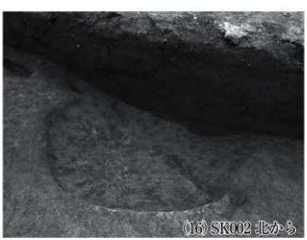
(15) SK014 断面 東から

(15) SK015 北西から

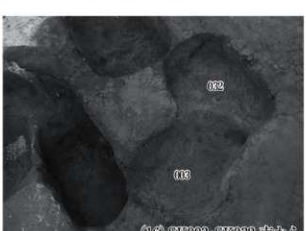
(15) SK015 断面 西から


(15) SK016 南西から

(16) SK001 北東から


(16) SK002 北から

(16) SK014 西から



(16) SK003・SK032 南から

(16) SK003 南半出土状況 南東から

図版12

(16) SK003 北半出土状況 南から

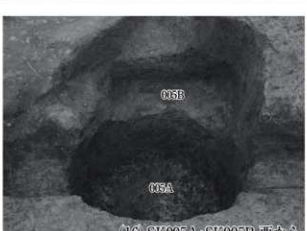
(16) SK003 北半中央部出土状況拡大

(16) SK004 南から

(16) SK004 土層断面 北東から

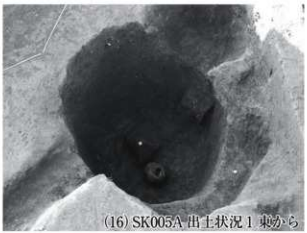
(16) SK004 出土状況 北東から

(16) SK004 出土状況 南東から

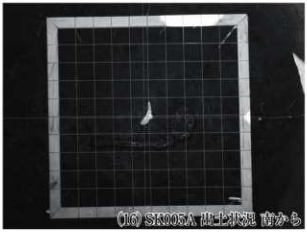


(16) SK005A・SK005B 西から

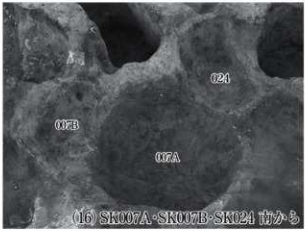
(16) SK005A 南東から


(16) SK005A 出土状況 1 東から

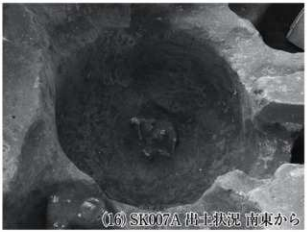
(16) SK005A 出土状況 2 東から


(16) SK005A 出土状況 南から

(16) SK006 出土状況 南から



(16) SK007A・SK007B・SK024 南から


(16) SK007A 出土状況 南東から

(16) SK007A 出土状況 1

(16) SK007A 出土状況 2

図版14

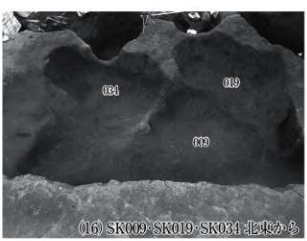
(16) SK007B 出土状況 南から

(16) SK007B 出土状況 西から

(16) SK008 南から

(16) SK008 出土状況 南から

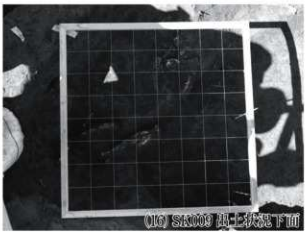
(16) SK008 出土状況接写 南から



(16) SK009・SK019・SK034 北東から

(16) SK009・SK019 出土状況 北から

(16) SK009 出土状況 上面

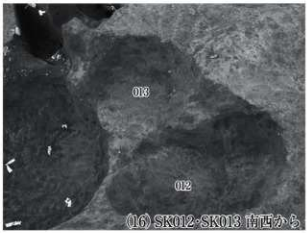

(16) SK009 粗土抜き穴 下面

(16) SK010 南西から

(16) SK011 南東から

(16) SK011 粗土抜き穴 1 南東から

(16) SK011 粗土抜き穴 2 南東から



(16) SK012・SK013 南西から

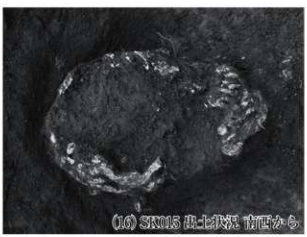
(16) SK013 粗土抜き穴 南東から

(16) SK015・SK043・SK042 北西から

図版16

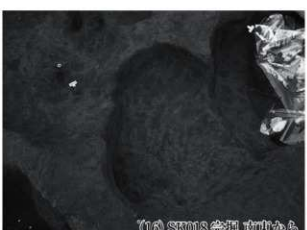
(16) SK013 出土状況 南東から

(16) SK013 出土状況 北から


(16) SK015 出土状況 南西から

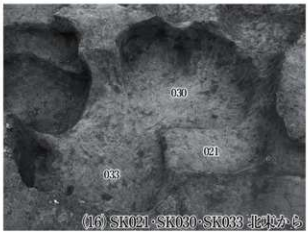
(16) SK015 出土状況 南東から

(16) SK017 出土状況 南東から

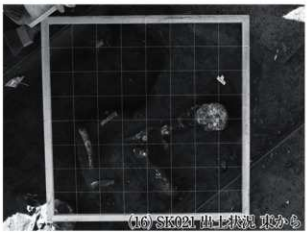

(16) SK018 完掘 南東から

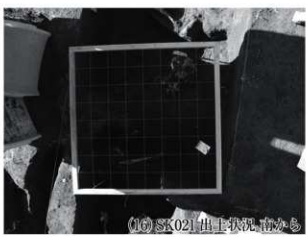
(16) SK020 北から

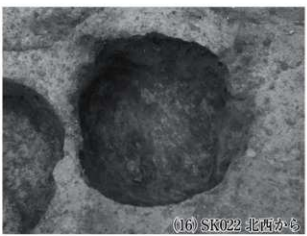
(16) SK020 出土状況 南から



(16) SK021・SK030・SK033 北東から


(16) SK021 出土状況 東から


(16) SK021 出土状況 南から


(16) SK022 北西から

(16) SK022 上端断面 北から

(16) SK023A・SK023C・SK042 北東から

(16) SK023A・SK023C 出土状況 東から

(16) SK024 出土状況 南から

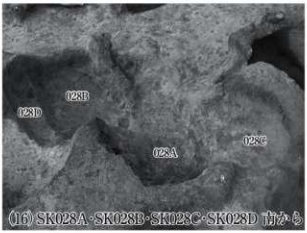
図版18

(16) SK025A・SK025B・SK026・SK031・SK040・SK050・SK051 南から

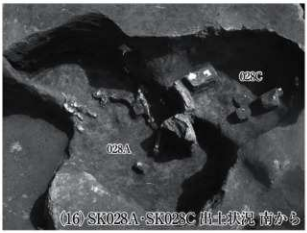
(16) SK025B・SK040 出土状況 南西から

(16) SK027 南西から

(16) SK027 出土状況 南西から

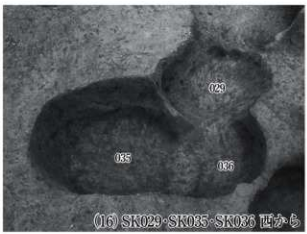


(16) SK028A・SK028B・SK028C・SK028D 南から



(16) SK028A・SK028C 出土状況 南から

(16) SK028B 出土状況 東から



(16) SK029・SK035・SK036 西から

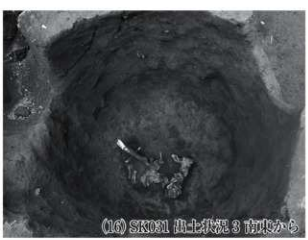
(16) SK029 出土状況 北東から

(16) SK031 北西から

(16) SK031 出土状況 1 東から

(16) SK031 出土状況 2 北東から

(16) SK031 出土状況 2 接写 北東から


(16) SK031 出土状況 3 南東から

(16) SK031 出土状況 3 接写 南西から

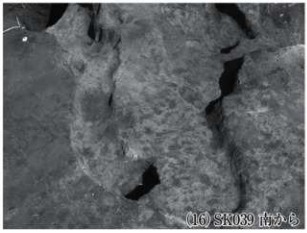
(16) SK032 出土状況 南東から

図版20

(16) SK033 出土状況 北東から

(16) SK037 北東から

(16) SK038 出土状況 南西から


(16) SK039 南から

(16) SK040 出土状況 1 南東から

(16) SK040 出土状況 2 南東から

(16) SK040 出土状況 3 西から

(16) SK042 出土状況 南東から

(16) SK042 出土状況 南西から

(16) SK042 出土状況 北東から

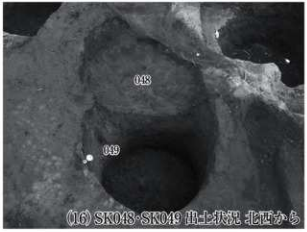
(16) SK043・SK044 北東から

(16) SK043・SK044 出土状況 南東から

(16) SK045 出土状況 北東から

(16) SK047A・SK047B 南から

(16) SK047B 出土状況 南から



(16) SK048・SK049 出土状況 北西から

図版22

(16) SK049 北西から

(16) SK048・SK049 出土状況 北東から

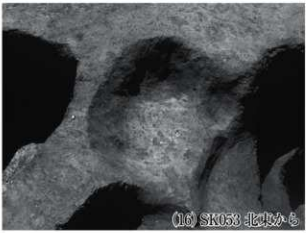
(16) SK048 出土状況 北東から

(16) SK048 出土状況 北東から

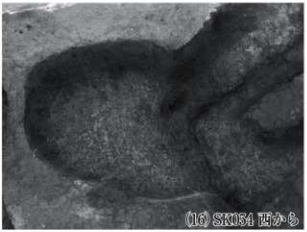
(16) SK049 出土状況 東から

(16) SK050 出土状況 北から

(16) SK050 出土状況 南西から


(16) SK053 北東から

(16) SK053 出土状況 南西から

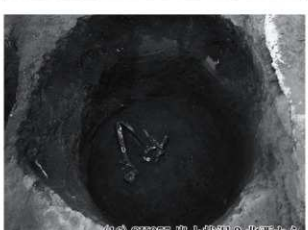

(16) SK054 西から

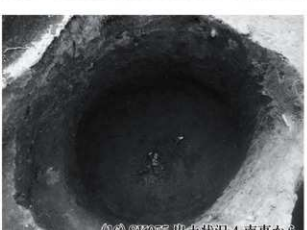
(16) SK053 南東から

(16) SK053 出土状況 1 南東から

(16) SK053 出土状況 1 拡大 南東から

(16) SK053 出土状況 2 北西から


(16) SK053 出土状況 3 北西から


(16) SK053 出土状況 4 南東から

図版24

(16) SK055 出土状況 4 接写 南東から

(16) SK056 南から

(16) SK056 出土状況 北西から

(16) SK058 北西から

(16) SK059A 完掘 東から

(16) SK059A 出土状況 東から

(16) SK059B 北から

(16) SK061 東から

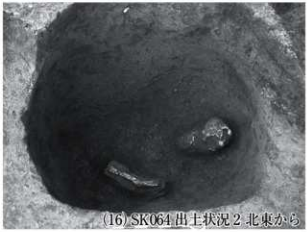
(16) SK061 出土状況 南東から

(16) SK062 出土状況 北東から

(16) SK063 出土状況 北東から

(16) SK064 出土状況 1 北東から

(16) SK064 出土状況 1 接写 北東から


(16) SK064 出土状況 2 北東から

(16) 土坑群全景 北西から

(16) 土坑群北西部人骨検出 南東から

図版26

(7) SD008-SD003 北西から

(7) SD010 北西から

(11) SD2003 南東から

(11) SD2004 南東から

(12) SD001 南西から

(14) SD001 北東から

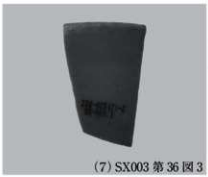
(15) SD001 南西から

(15) SA001 南東から

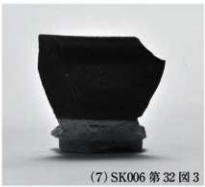
(15) SK001 第 28 図 1

(11) SK2003 第 39 図 2

(7) SK005 第 32 図 1


(7) SX003 第 36 図 3

(11) SK2007 第 41 図 1


(7) SK006 第 32 図 3

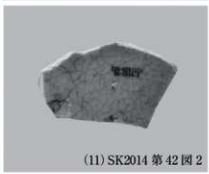
(7) SX003 第 37 図 1

(11) SK2009 第 41 図 3

(11) SK2012 第 109 図 1

(7) SK010 第 34 図 1

(7) SX005 第 38 図 1


(11) SK2014 第 42 図 2

(7) SK010 第 34 図 2

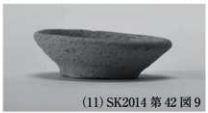
(11) SK2005 第 40 図 1

(11) SK2014 第 42 図 5

図版28

(11) SK2014 第 42 図 6

(11) SK2014 第 42 図 8


(11) SK2014 第 42 図 9

(11) SK2014 第 42 図 10

(11) SK2014 第 42 図 11

(11) SK2014 第 42 図 12

(11) SK2014 第 42 図 13

(11) SK2014 第 42 図 14

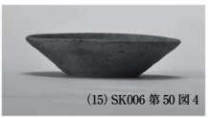
(11) SK2014 第 42 図 15

(11) SK2014 第 42 図 16

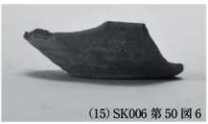
(11) SX2002 第 43 図 2

(15) SK005 第 50 図 1

(15) SK005 第 50 図 2


(15) SK006 第 50 図 4

(15) SK006 第 50 図 5


(15) SK006 第 50 図 6

(15) SK006 第 50 図 7

(15) SK008 第 51 図 2

(15) SK008 第 51 図 4

(15) SK008 第 51 図 5

(15) SK015 第 53 図 1

(16) SK014 第 54 図 1

(16) SK015 第 84 図 1

(16) SK018 第 84 図 3

(16) SK021 第 84 図 4

(16) SK029 第 84 図 6

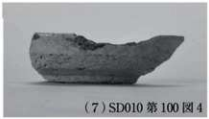
(16) SK031 第 61 図 7

(16) SK035 第 84 図 7

(16) SK035 第 84 図 8

(16) SK055 第 73 図 1

(7) SD010 第 100 図 2


(7) SD010 第 100 図 4

(11) SD2001 第 101 図 1

(11) SD2001 第 101 図 2

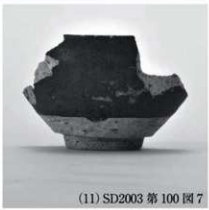
(11) SD2001 第 101 図 4

(11) SD2001 第 101 図 5

(11) SD2001 第 101 図 6

(11) SD2002 第 99 図 3

(11) SD2002 第 99 図 4


(11) SD2003 第 100 図 7

(11) SD2003 第 100 図 8

(15) SD001 第 103 図 1

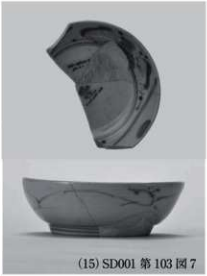
(15) SD001 第 103 図 2

(15) SD001 第 103 図 3

(15) SD001 第 103 図 4

(15) SD001 第 103 図 5

(15) SD001 第 103 図 6


(15) SD001 第 103 図 7

(15) SD001 第 103 図 8

(15) SD001 第 103 図 9

(15) SD001 第 103 図 10

(15) SD001 第 103 図 11

(15) SD001 第 103 図 12

(15) SD001 第 103 図 13

(15) SD001 第 103 図 14

(15) SD001 第 104 図 1

(15) SD001 第 104 図 2

(15) SD001 第 103 図 3

(15) SD001 第 104 図 6

(15) SD001 第 104 図 4

(15) SD001 第 104 図 5

(15) SD001 第 104 図 7

(15) SD001 第 104 図 8

(15) SD001 第 104 図 9

(15) SD001 第 104 図 10

(15) SD001 第 105 図 1

(15) SD002 第 106 図 2

図版32

(16) SD001 第 107 図 1

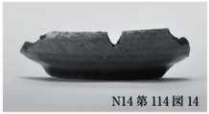
N13 第 114 図 1

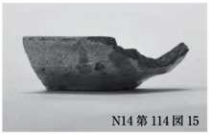
O13 第 114 図 3

O13 第 114 図 5

P13 第 114 図 6

M14 第 114 図 8


N14 第 114 図 14


N14 第 114 図 15

N14 第 114 図 17

O14 第 115 図 1

O14 第 115 図 2

O14 第 115 図 3

O14 第 115 図 4

O14 第 115 図 5

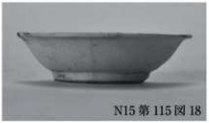
O14 第 115 図 11

O14 第 115 図 12

O14 第 115 図 13

N15 第 115 図 16

N15 第 115 図 17


N15 第 115 図 18

N15 第 115 図 19

N15 第 115 図 20

N15 第 115 図 21

N15 第 115 図 22

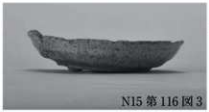
N15 第 115 図 23

N15 第 115 図 24

N15 第 115 図 25

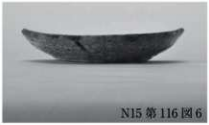
N15 第 116 図 1

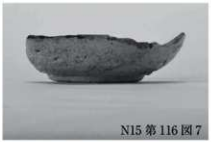
N15 第 116 図 2


N15 第 116 図 3

N15 第 116 図 4

N15 第 116 図 5

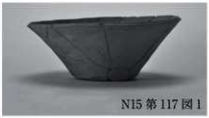

N15 第 116 図 6


N15 第 116 図 7

N15 第 116 図 8

N15 第 116 図 9

N15 第 116 図 16


N15 第 117 図 1

N15・O15 第 117 図 2

N15 第 117 図 3

図版34

N15 第 117 図 4

N15 第 117 図 5

N15 第 117 図 8

N15 第 117 図 10

N15 第 118 図 1

N15 第 118 図 2

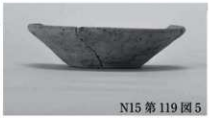
N15 第 118 図 3

N15 第 118 図 4

N15 第 118 図 6

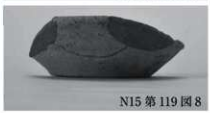
N15 第 119 図 2

N15 第 119 図 3


N15 第 119 図 5

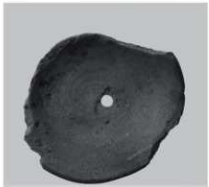
N15 第 119 図 6

N15 第 119 図 7


N15 第 119 図 8

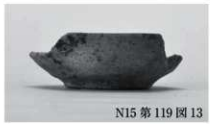
N15 第 119 図 9

N15 第 119 図 10



N15 第 119 図 11

N15 第 119 図 12

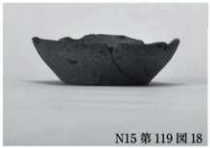

N15 第 119 図 13

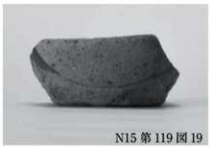
N15 第 119 図 14

N15 第 119 図 15

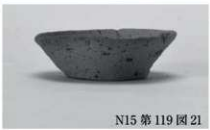
N15 第 119 図 16

N15 第 119 図 17


N15 第 119 図 18


N15 第 119 図 19

N15 第 119 図 20


N15 第 119 図 21

N15 第 119 図 22

N15 第 119 図 24

N15 第 119 図 25

N15 第 119 図 26

N15 第 119 図 27

O15 第 119 図 28

O15 第 119 図 30

O15 第 119 図 31

O15 第 119 図 32

(7) SK010 第35図

1

2

(11) SX2003 第45図1

(11) SX2003 第46図1

(11) SX2003 第 46 図 2

(11) SX2003 第 47 図 1

(16) SK004 第 56 図 1

O14 第 121 図 1

(7) SK009 第 33 図 1

(7) SX003 第 37 図 8

(11) SX2002 第 43 図 4

(16) SK048 第 70 図 1

N14 第 120 図 20

N15 第 121 図 15

N15 第 122 図 1

O14 第 121 図 2

O15 第 123 図 1

(11) SK2009 第 41 図 5

(7) SX003 第 37 図 11

(15) SD001 第 105 図 3

N14 第 120 図 22

N14 第 120 図 19

N15 第 122 図 2

(7) SX001 第 36 図 1

(16) SK007A 第 61 図

(16) SK025B 第 61 図

(16) SK026 第 61 図

(16) SK040 第 61 図

(16) SK027 第 67 図 1

(16) SK039 第 68 図 1

(16)SK049 第 71 図 1

(16) SK059A 第 84 図 9

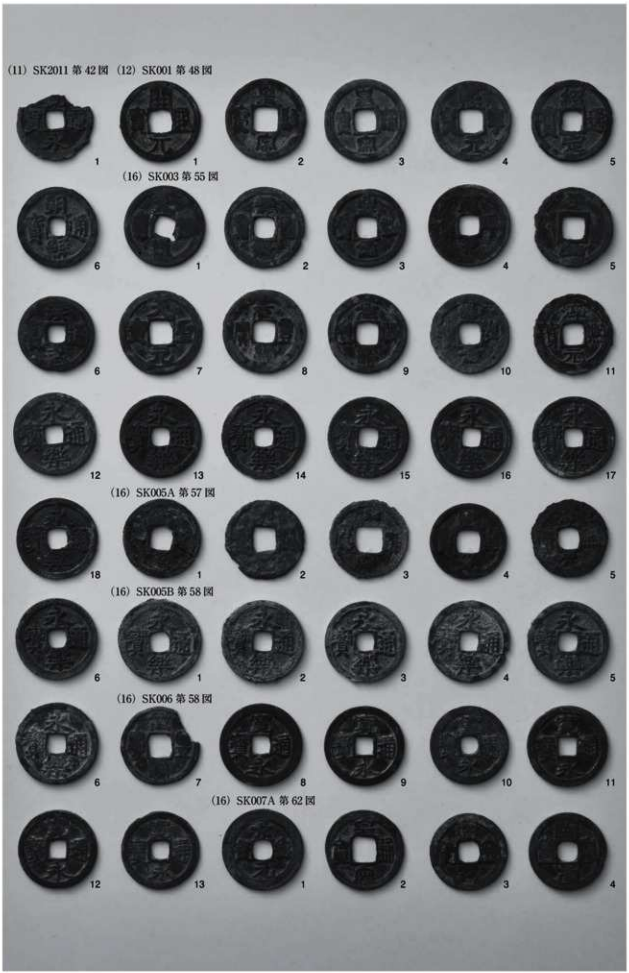
(11) SD2001 第 101 図 9

N14 第 123 図

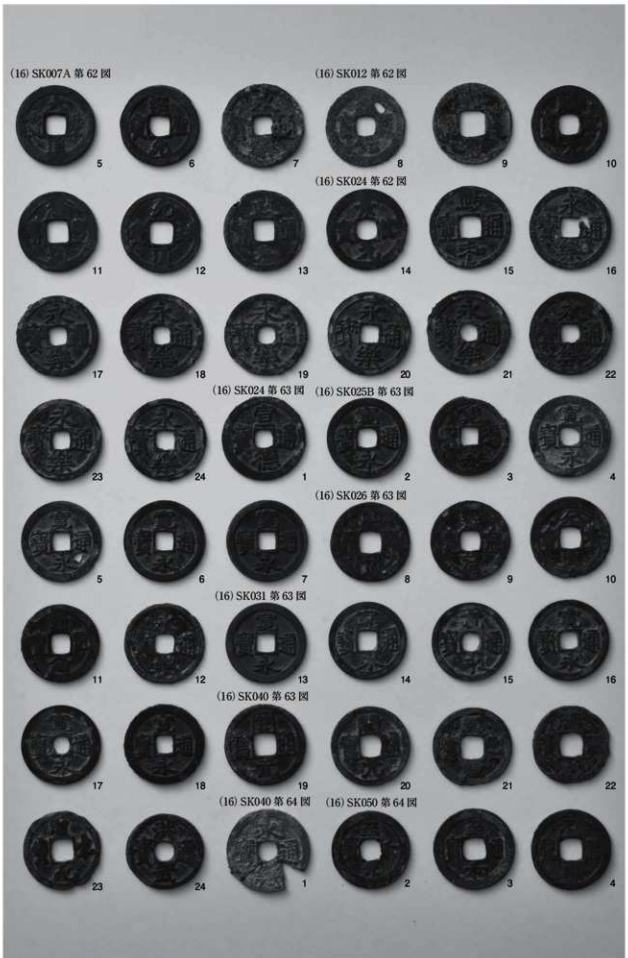
O14 第 123 図

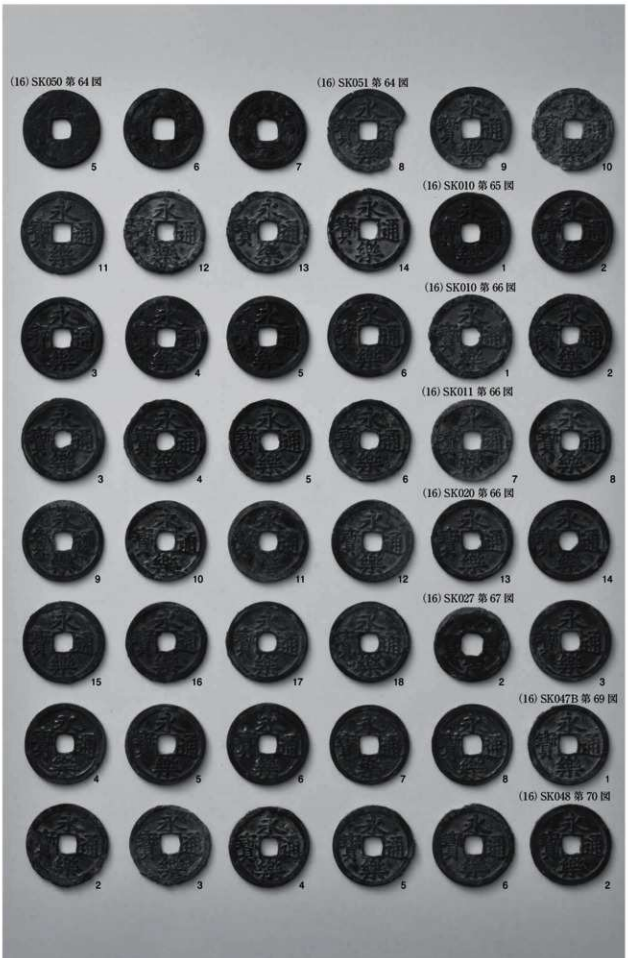
R15 第 123 図

(11) SX003 第 47 図

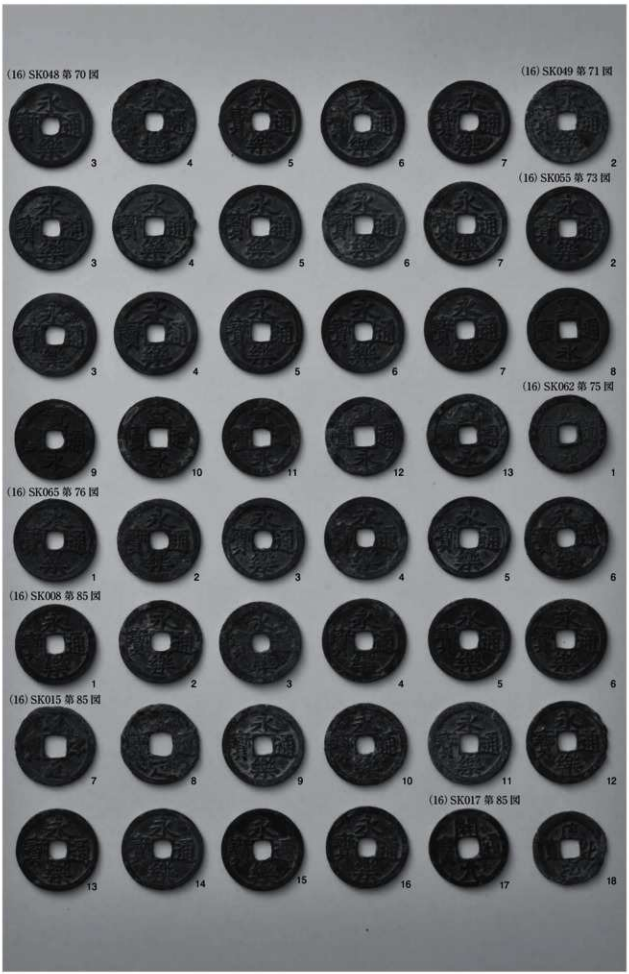

(11) SK2011 第42図 (12) SK001 第48図
1
1
2
3
4
5
(16) SK003 第55図
6
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
(16) SK005A 第57図
18
1
2
3
4
5
(16) SK005B 第58図
6
1
2
3
4
5
(16) SK006 第58図
6
7
8
9
10
11
(16) SK007A 第62図
12
13
1
2
3
4

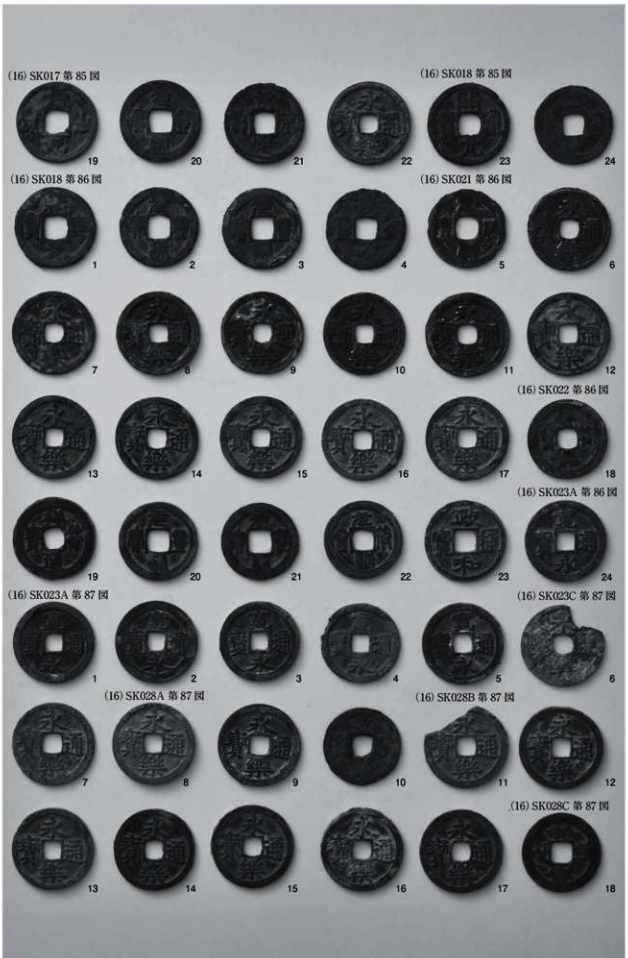
図版42

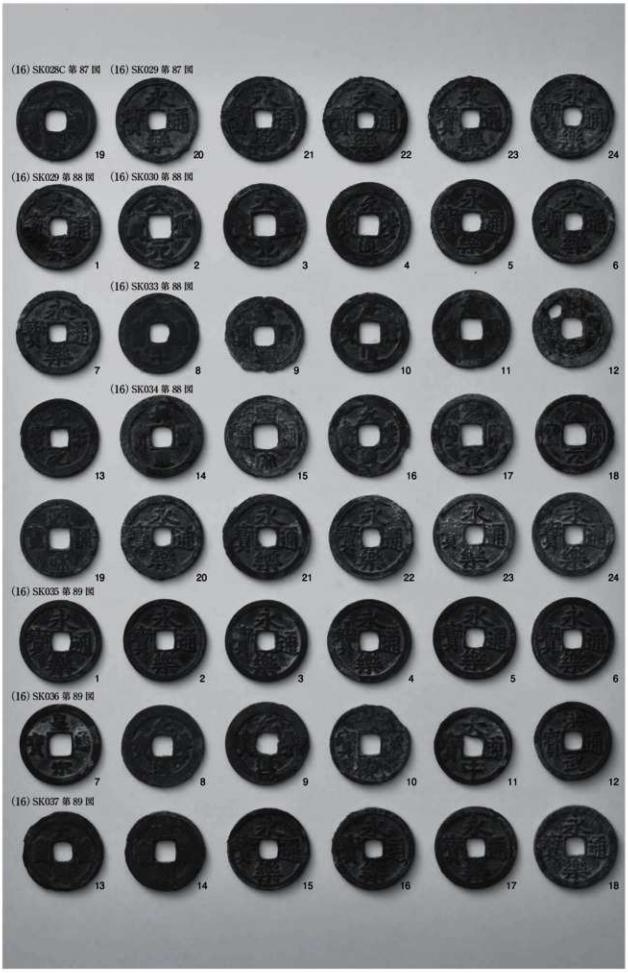

(16) SK007A 第 62 図
5
6
7
(16) SK012 第 62 図
8
9
10
(16) SK024 第 62 図
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
(16) SK024 第 63 図
23
24
1
(16) SK025B 第 63 図
2
3
4
(16) SK026 第 63 図
5
6
7
8
9
10
(16) SK031 第 63 図
11
12
13
14
15
16
(16) SK040 第 63 図
17
18
19
20
21
22
(16) SK040 第 64 図
23
24
1
(16) SK050 第 64 図
2
3
4


(16) SK050 第 64 図
5
6
7
(16) SK051 第 64 図
8
9
10
11
12
13
14
(16) SK010 第 65 図
1
2
(16) SK010 第 66 図
3
4
5
6
1
2
(16) SK011 第 66 図
3
4
5
6
7
8
(16) SK020 第 66 図
9
10
11
12
13
14
(16) SK027 第 67 図
15
16
17
18
2
3
(16) SK047B 第 69 図
4
5
6
7
8
1
(16) SK048 第 70 図
2
3
4
5
6
2

図版44


(16) SK048 第 70 図
3
4
5
6
7
(16) SK049 第 71 図
2
(16) SK055 第 73 図
3
4
5
6
7
2
3
4
5
6
7
8
(16) SK062 第 75 図
9
10
11
12
13
1
(16) SK065 第 76 図
1
2
3
4
5
6
(16) SK008 第 85 図
1
2
3
4
5
6
(16) SK015 第 85 図
7
8
9
10
11
12
(16) SK017 第 85 図
13
14
15
16
17
18


(16) SK017 第 85 図
19
20
21
22
(16) SK018 第 85 図
23
24
(16) SK018 第 86 図
1
2
3
4
(16) SK021 第 86 図
5
6
7
8
9
10
11
12
(16) SK022 第 86 図
13
14
15
16
17
18
(16) SK023A 第 86 図
19
20
21
22
23
24
(16) SK023A 第 87 図
1
2
3
4
(16) SK023C 第 87 図
5
6
(16) SK028A 第 87 図
7
8
9
10
(16) SK028B 第 87 図
11
12
(16) SK028C 第 87 図
13
14
15
16
17
18


(16) SK028C 第87図
(16) SK029 第87図
19
20
21
22
23
24
(16) SK029 第88図
(16) SK030 第88図
1
2
3
4
5
6
(16) SK033 第88図
7
8
9
10
11
12
(16) SK034 第88図
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
(16) SK035 第89図
1
2
3
4
5
6
(16) SK036 第89図
7
8
9
10
11
12
(16) SK037 第89図
13
14
15
16
17
18

(16) SK042 第 89 図

(16) SK059A 第 90 図

(16) SK061 第 90 図

(16) SK063 第 90 図

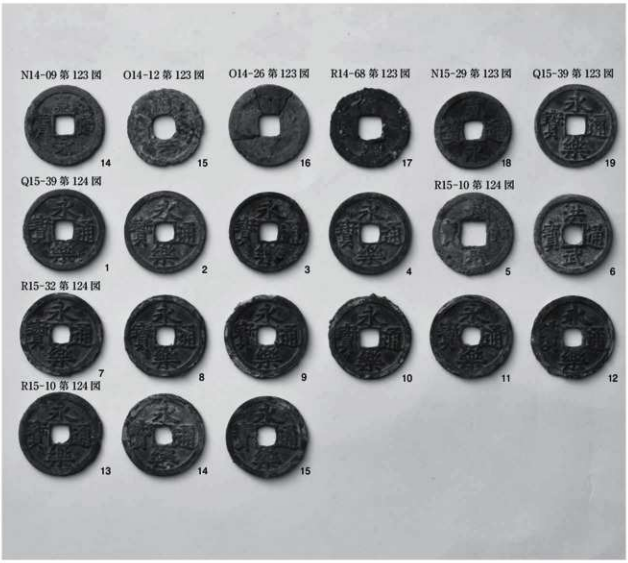
(16) SK064 第 90 図

(16) SK064 第 91 図

(7) SD010 第 100 図　(15) SD001 第 105 図　(16) SD001 第 107 図

遺構外

L14-99 第 123 図　N14-76 第 123 図　N14-78 第 123 図　N14-86 第 123 図　N14-89 第 123 図　N14-89 第 123 図



(12) SK001 第 48 図 6 表

(16) SK005B 第 58 図 1 ～ 6 表・裏

(16) SK007A 第 62 図 1 ～ 6 表・裏

(16) SK010 第 66 図 1 ～ 6 表・裏

(16) SK029 第 87 図 20 ～ 24
第 88 図 1 表・裏

(16) SK031 第 63 図 13 ～ 17 表・裏

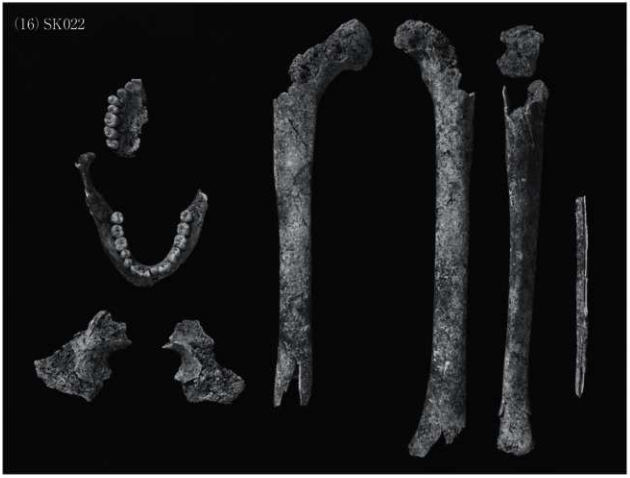
(16) SK047B 第 69 図 1 ～ 6 表・裏

(16) SK059A 第 90 図 1 ～ 6 表・裏

(16) SK021 第 86 図 12 ～ 17 表

(16) SK064 第 90 図 24
第 91 図 1 ～ 5 表

(16) SK005A

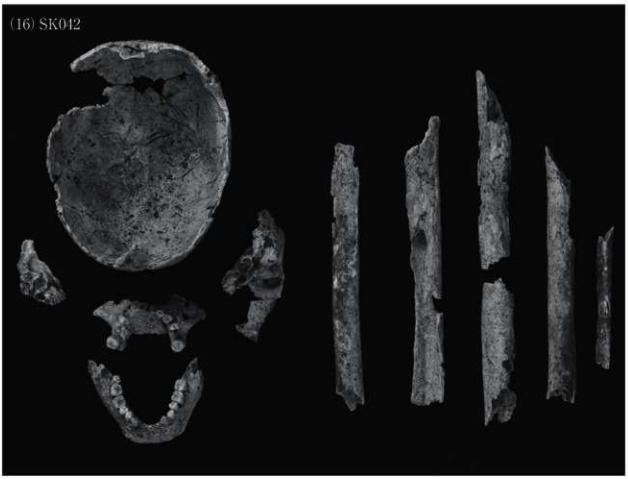

(16) SK022

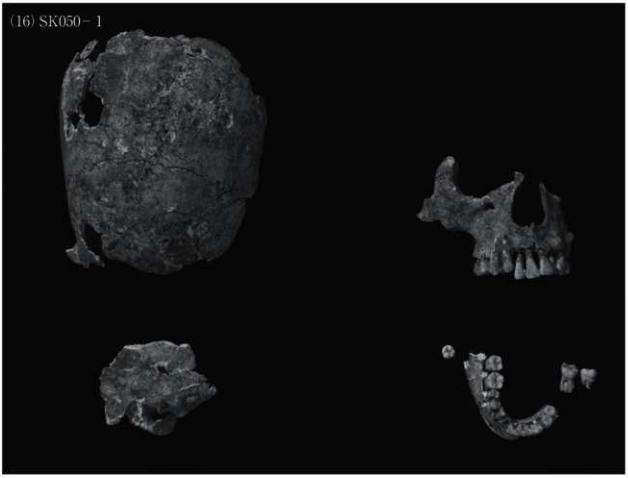
(16) SK028B－1

(16) SK031－1

(16) SK031－1

(16) SK040－1


(16) SK042

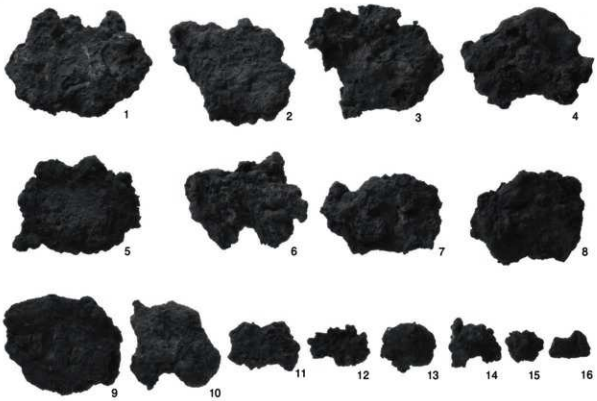

(16) SK050－1

(16) SK055－1

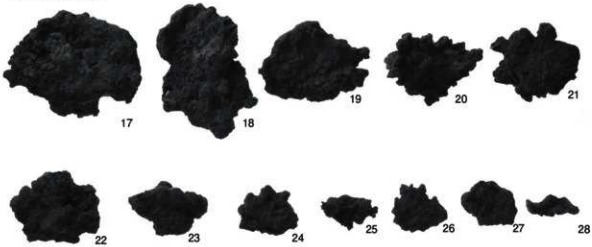
(16) SK055－1

(16) SK055－2

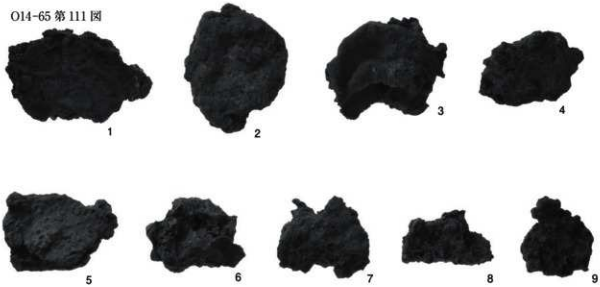
(11) SK2012 第 110 図



O14-55 第 110 図

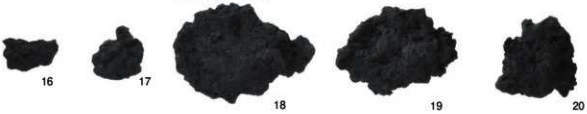


O14-65 第 111 図



N15-29 第 111 図

O14-55 第 111 図



N15-29 第 111 図

21

P14-31 第 111 図

22

(11) SK2012 第 111 図

23

24

25

N14-19 第 111 図

26

O14-65 第 111 図

27

(11) SK2014 第 111 図

28

29

30

接写

(11) SK2012 第 110 図 1

(11) SK2012 第 110 図 6

(11) SK2012 第 110 図 8

(11) SK2012 第 110 図 10

(11) SK2012 第 110 図 14

O14-55 第 111 図 18

O14-65 第 111 図 3

報告書抄録

ふりがな	ながれやまうんどうこうえんしゅうへんちくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ９
書名	流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書９
副書名	流山市市野谷宮後遺跡（南側）
席次	９
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第50集
編著者名	加納　実　　田島　新　　村松裕南
編集機関	千葉県教育委員会
所在地	〒260－8662　千葉県千葉市中央区市場町１－１　　TEL043－223－4129
発行年月日	西暦2024年３月19日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市野谷宮後（いちのやみやうしろ）（南側）	流山市市野谷（ながれやましいちのや）字宮後（あざみやうしろ）	12220	025	35度51分45秒（日本測地系）	139度55分05秒（日本測地系）	19980907～20190530	40,818㎡	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市野谷宮後（南側）	包蔵地	旧石器	石器集中地点４か所	台形様石器、二側縁加工ナイフ形石器、角錐状石器	
	包蔵地	縄文	陥穴１基	縄文土器（中期～後期）、縄文時代石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧）	
	墓域	中・近世	土坑墓68基	陶磁器、カワラケ、石製品、金属製品、板碑、銭貨	人骨 82 体
	生産遺跡	中・近世	土坑50基（土坑、井戸状遺構、地下式坑）、溝状遺構17条、柵列２条	陶磁器、カワラケ、鉄滓等鉄器生産関連遺物	

要約	中・近世に設営された土坑墓群と土坑・井戸状遺構・地下式坑・溝状遺構からなる包蔵地・墓域・生産遺跡である。土坑墓群は 68 基からなり、82 体の人骨が出土した。また、出土した鉄滓等の鉄器生産関連遺物から炉構造を復元することができた。

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第50集

流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書９

－ 流山市市野谷宮後遺跡（南側）－

令和６年３月19日発行

編集・発行　千葉県教育委員会
千葉市中央区市場町１－１
印　　刷　株式会社　弘文社
市川市市川南２－７－２